# 義務教育基本調査報告書

## （令和元年度）

## 【概要版】

令和２年３月

堺市教育委員会

# 目　　次

1　調査概要 ..... 1
（1）調査目的 ..... 1
（2）調査対象 ..... 1
（3）調査方法 ..... 1
（4）回収状況 ..... 2
（5）報告書内指標化について ..... 2
（6）報告書を見る際の注意事項 ..... 2

2　小中学生本人調査の結果 ..... 3
（1）回答者の属性 ..... 3
（2）日常生活について ..... 4
（3）学校での授業や学習について ..... 25
（4）学校生活について ..... 48
（5）生活の中で感じていることや将来のことについて ..... 54

3　小中学生保護者調査の結果 ..... 65
（1）回答者の属性 ..... 65
（2）学校との関わりについて ..... 66
（3）学校教育について ..... 71
（4）家庭教育や学校外での子どもの様子について ..... 91

4　教員調査の結果 ..... 101
（1）回答者の属性 ..... 101
（2）学習指導などの状況について ..... 103
（3）学校教育について ..... 111
（4）子ども・家庭・地域について ..... 122

# 1　調査概要

## （１）調査目的

本市における児童生徒の生活実態・意識・満足度及び、義務教育に関する保護者や教員の意識やニーズを把握するとともに、平成 26 年度調査結果との経年比較を行うことによって、義務教育の現状や課題、状況の変化等を的確に捉え、分析することを目的として実施したものである。

また、「第２期未来をつくる堺教育プラン（平成 28 年策定）」の評価・分析を行い、総括及び次期教育振興基本計画の策定にいかすための基礎資料とするものである。

## （２）調査対象

本調査では、６種類の調査を実施した。各調査の対象・配布数は以下の通りである。

| 調査種類 | 調査対象 | 配布数 |
|---|---|---|
| 小学生本人調査（３・４年生） | 堺市立小学校に通学する３・４年生の児童 | 1,830 票 |
| 小学生本人調査（５・６年生） | 堺市立小学校に通学する５・６年生の児童 | 1,824 票 |
| 中学生本人調査 | 堺市立中学校に通学する１～３年生の生徒 | 3,088 票 |
| 小学生保護者調査 | 堺市立小学校に通学する３～６年生の児童保護者 | 3,654 票 |
| 中学生保護者調査 | 堺市立中学校に通学する１～３年生の生徒保護者 | 3,088 票 |
| 教員調査 | 堺市立小中学校に勤務する教員 | 945 票 |

## （３）調査方法

### ■小学生・中学生本人調査

・学校を通じて自記式調査票の配布・回収

（堺市立小中学校全校から各校１～２クラスを抽出し、対象クラス全員に配布）

### ■小学生・中学生保護者調査

・児童生徒を通じて自記式調査票の配布・回収

（上記の小学生・中学生本人調査の対象児童生徒の保護者全員に配布）

### ■教員調査

・自記式調査票の郵送配布・回収

（堺市立全小中学校の校長・教頭及び上記調査対象クラスの担任を含む教員各校７名に配布）

### ■調査時期

・令和元年（2019 年）10 月 ～ 11 月

## （４）回収状況

各調査の有効回収数・回収率は以下の通りである。

| 調査種類 | 有効回収票数 | 有効回収率 |
|---|---|---|
| 小学生本人調査（３・４年生） | 1,776 票 | 97.0% |
| 小学生本人調査（５・６年生） | 1,753 票 | 96.1% |
| 中学生本人調査 | 2,854 票 | 92.4% |
| 小学生保護者調査 | 2,975 票 | 81.4% |
| 中学生保護者調査 | 2,123 票 | 68.8% |
| 教員調査 | 945 票 | 100.0% |

## （５）報告書内指標化について

報告書内の一部設問（頻度・好感度・認知度等の設問）においては、指標化にて比較を行っている。指標化については以下の通りである。

| 点数 | 項目例 | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 点 | よくしている | とても好き | とてもそう思う | とても満足している |
| 5 点 | ときどきしている | まあ好き | まあそう思う | まあ満足している |
| 0 点 | － | どちらともいえない | － | － |
| -5 点 | あまりしていない | あまり好きでない | あまりそう思わない | あまり<br>満足していない |
| -10 点 | まったくしていない | まったく好きでない | まったく<br>そう思わない | まったく<br>満足していない |

※上記の点数にてスコア化し、重み付けを行い、無回答を除いて、回答者数の平均点を算出している。

## （６）報告書を見る際の注意事項

・表、グラフ中の「ｎ」は各設問に対する回答者数を示す。

・構成比の計算は「ｎ」を基数として、小数点以下第２位を四捨五入して算出している。このため、百分率の合計が 100.0 にならないことがある。

・１つの質問に２つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100.0 を超えることがある。

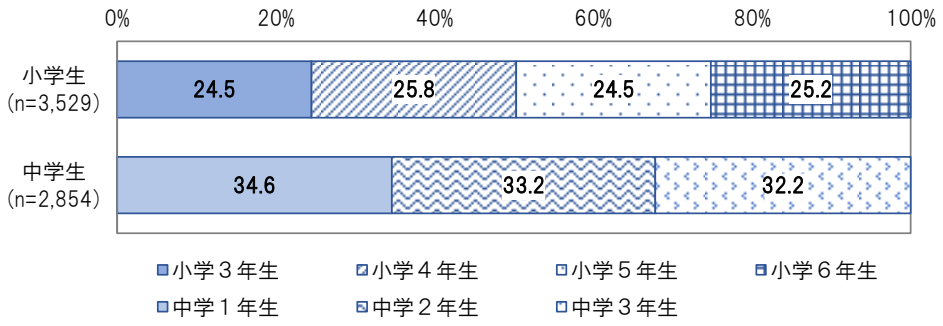
・紙面の都合上、本文、表、グラフ中は調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合がある。

# 2　小中学生本人調査の結果

## （１）回答者の属性

### １）学年

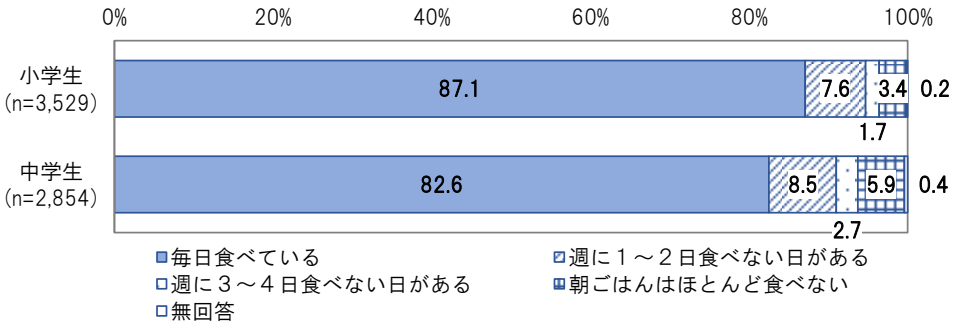
回答者の学年は、小学生・中学生とも、各学年でほぼ同程度の割合となっている。



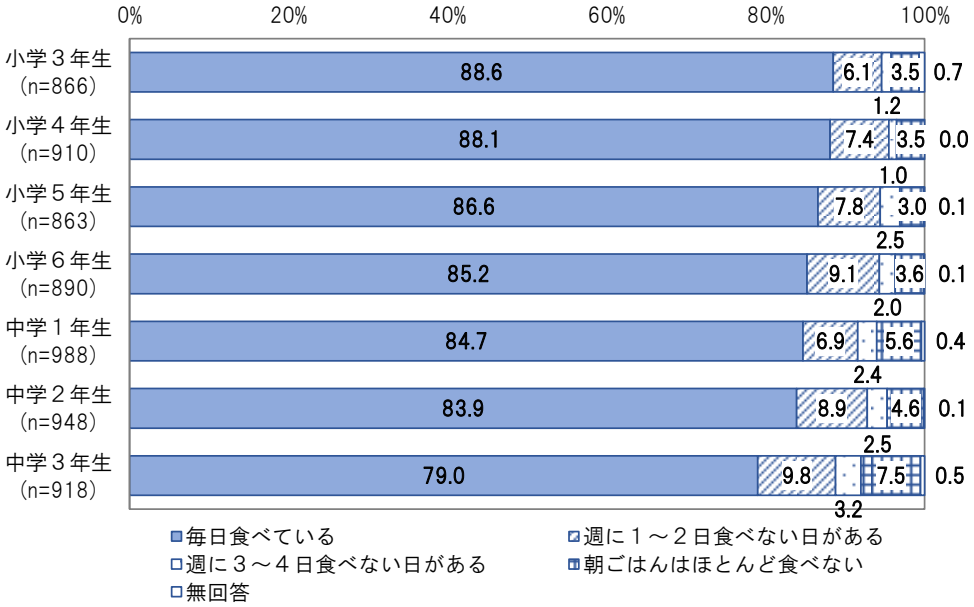
## （２）日常生活について

### １）朝食摂取の状況

朝食摂取の状況は、「毎日食べている」が小学生で 87.1%、中学生で 82.6%と大半を占めている。一方、中学生では「朝ごはんはほとんど食べない」が 5.9%と、「週に３～４日食べない日がある」（2.7%）と合わせると、１割程度の生徒が週の半分以下の朝食の摂取状況となっている。



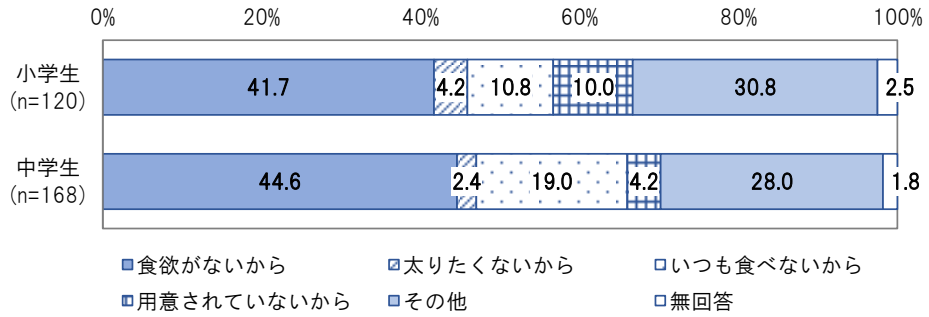

学年別にみると、学年が上がるにつれて「毎日食べている」が減少し、朝食を摂らない児童生徒が増加している。中学３年生では「朝ごはんはほとんど食べない」が 7.5%と１割近くを占めている。



## ２）朝食をほとんど食べない理由

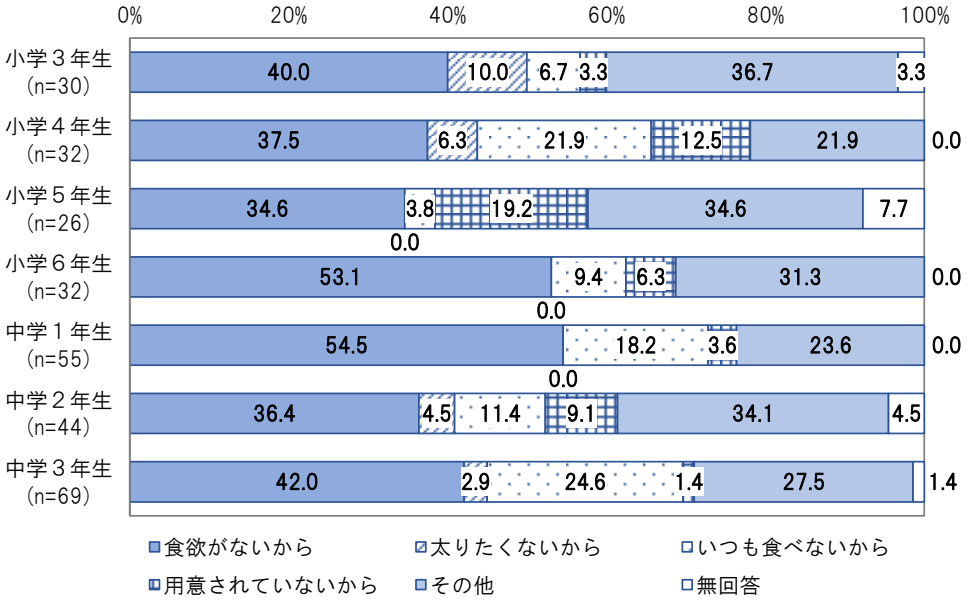
朝食をほとんど食べない児童生徒のその理由は、小学生・中学生とも「食欲がないから」が最も高くなっている。

また、小学生では「用意されていないから」が約１割を占め、中学生に比べて高くなっており、中学生では「いつも食べないから」が２割近くを占め、小学生に比べて高くなっている。




学年別にみると、すべての学年において「食欲がないから」が最も高く、特に小学６年生・中学１年生で半数を超え、その他の学年に比べて高くなっている。

また、小学３年生では「太りたくないから」、小学４年生・小学５年生では「用意されていないから」、小学４年生・中学１年生・中学３年生では「いつも食べないから」が、それぞれその他の学年に比べてやや高くなっている。

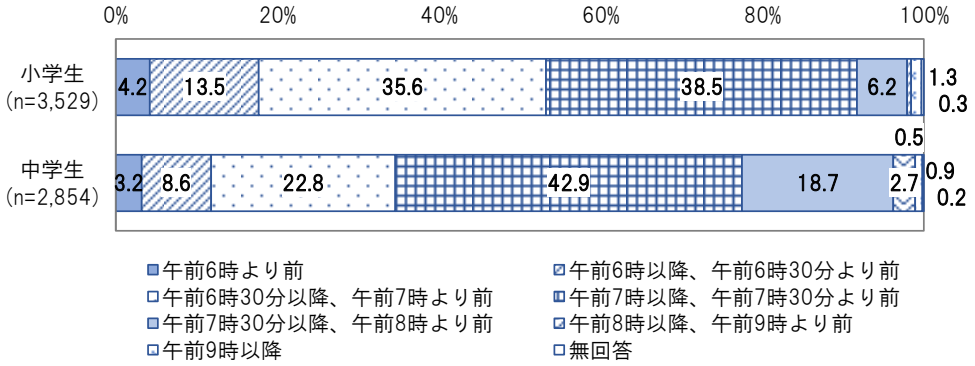


## ３）学校のある日の起床時刻と就寝時刻

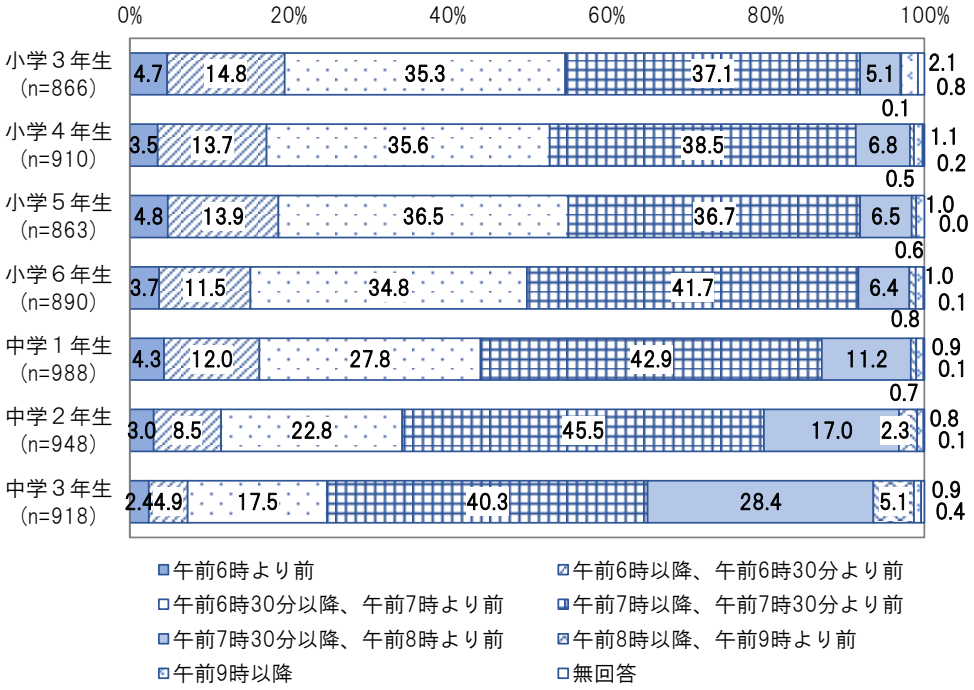
### ①学校のある日の起床時刻

学校のある日の起床時刻は、小学生・中学生とも「午前７時以降、午前７時30分より前」が最も高く、小学生で38.5%、中学生で42.9%となっている。

小学生に比べて、中学生で起床時刻が遅くなっている。



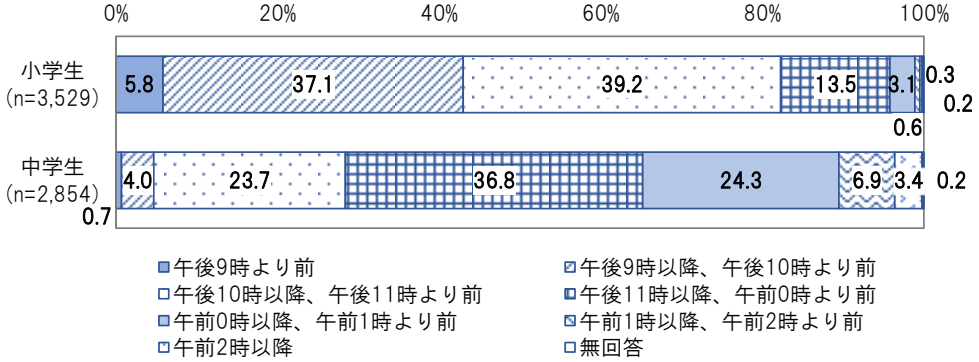

学年別にみると、小学生においては大きな差はみられないのに対し、中学生になると、学年が上がるにつれて遅い起床時刻となっている。



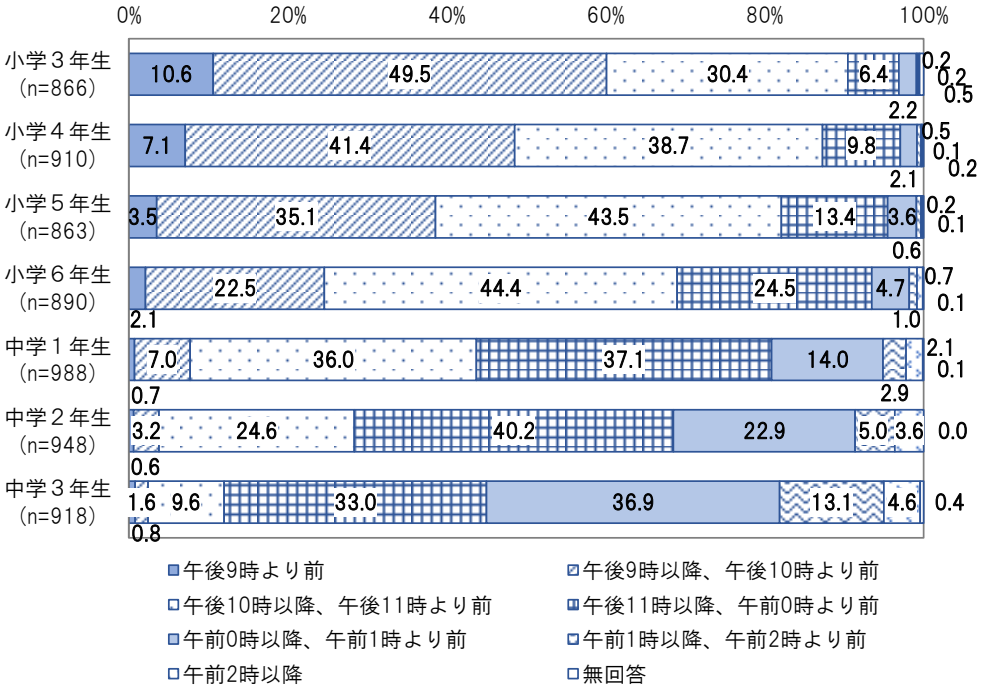
②学校のある日の就寝時刻

学校のある日の就寝時刻は、小学生では「午後 10 時以降、午後 11 時より前」が約４割を占めて最も高く、次いで「午後 9 時以降、午後 10 時より前」となっており、午後 11 時前に就寝している児童が８割以上を占めている。

一方、中学生では、「午後 11 時以降、午前 0 時より前」が３割以上を占めて最も高く、次いで「午前 0 時以降、午前 1 時より前」となっており、午後 11 時以降に就寝する生徒が７割以上、午前 0 時以降の就寝が３割以上を占めている。

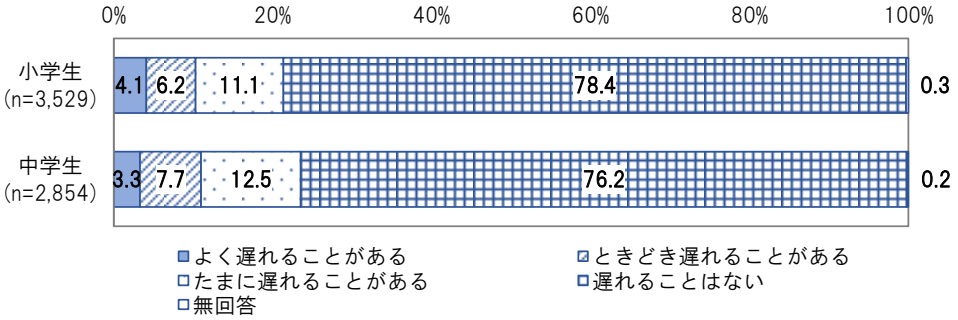



学年別にみると、学年が上がるにつれて遅い就寝時刻となっており、中学３年生では「午前 1 時以降、午前 2 時より前」と「午前 2 時以降」を合わせた、午前 1 時以降に就寝する生徒が２割近くを占めている。



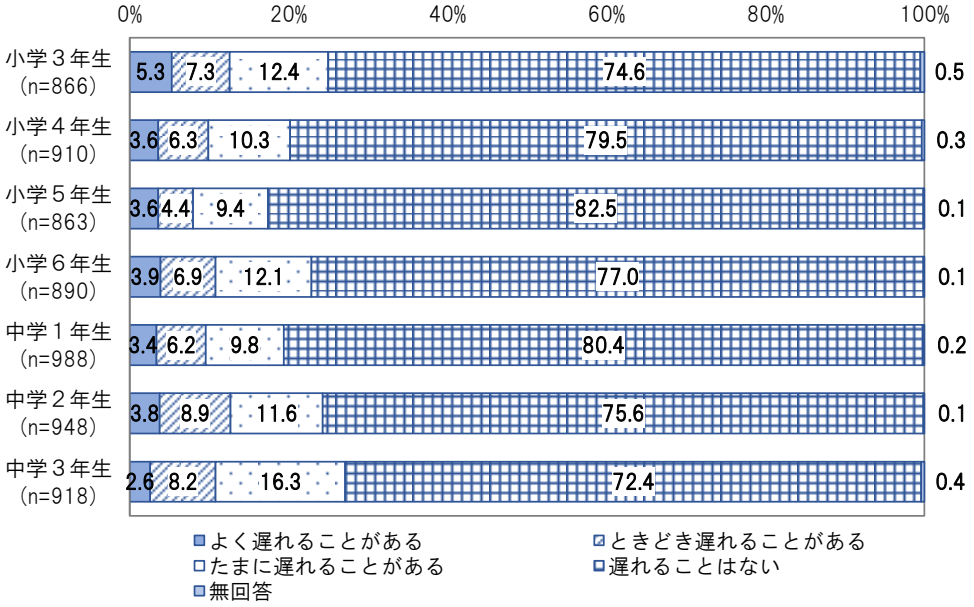
## ４）学校への遅刻の状況

学校への遅刻の状況は、小学生・中学生とも「遅れることはない」が７割以上を占めて最も高くなっている。一方で、「よく遅れることがある」と「ときどき遅れることがある」、「たまに遅れることがある」を合わせた『遅れることがある』児童生徒は、ともに２割程度を占めている。小学生・中学生での大きな差はみられない。



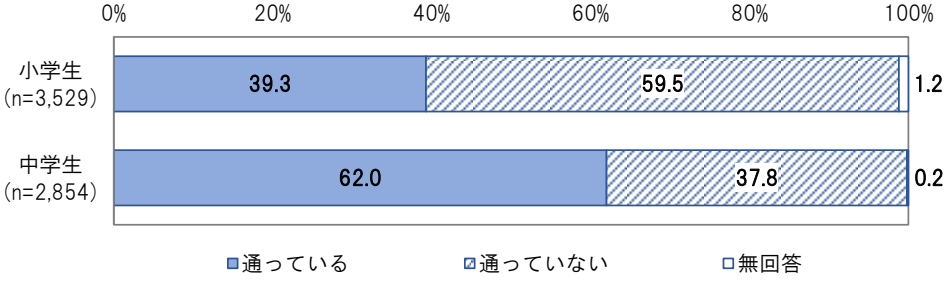

学年別にみると、すべての学年において「遅れることはない」が高く、特に小学５年生・中学１年生では８割を超え、その他の学年に比べて高くなっている。

一方で、『遅れることがある』児童生徒の割合をみると、小学生では３年生と６年生、中学生では学年が上がるにつれて高くなっており、特に中学３年生では 27.1%と３割近くを占める結果となっている。

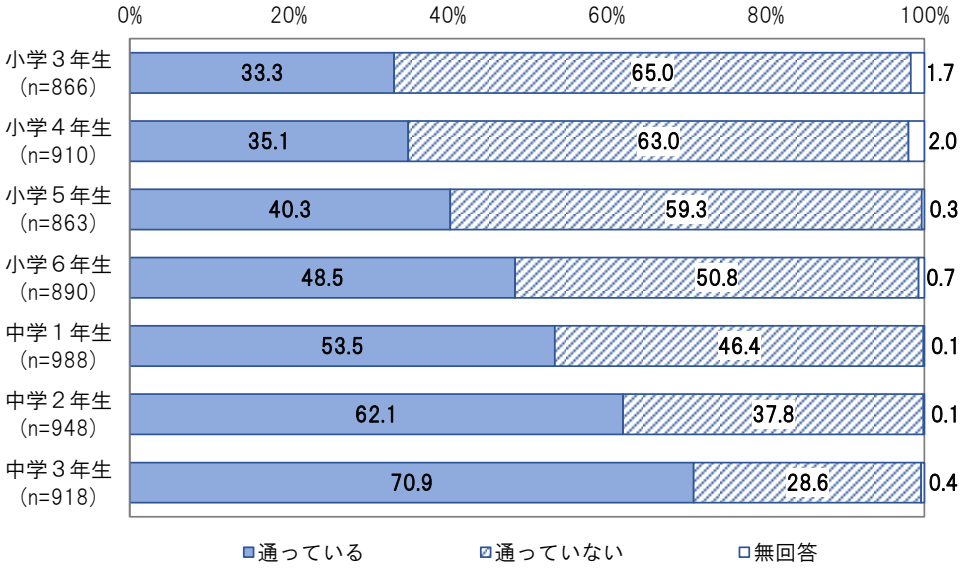


## ５）学習塾

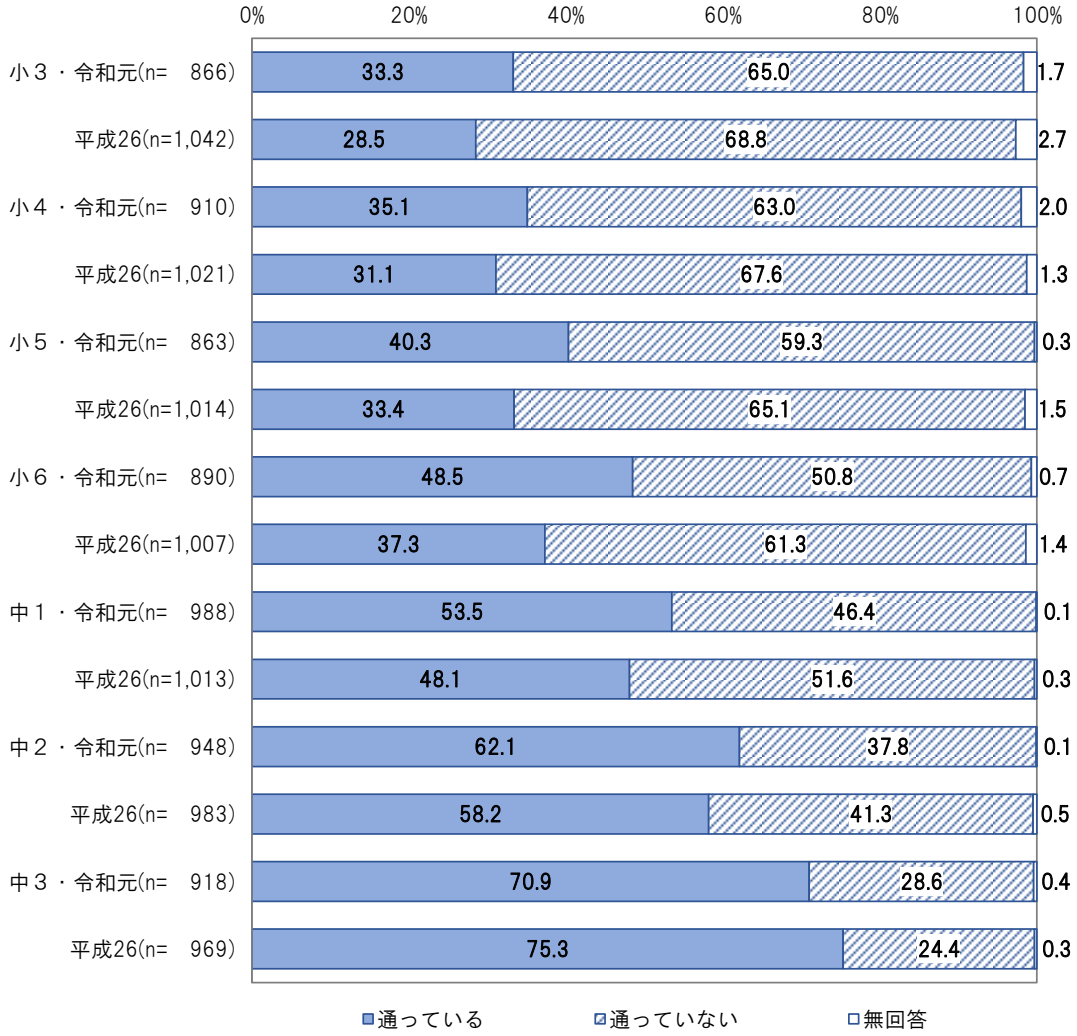
学習塾に「通っている」児童生徒が、小学生では約４割となっているのに対し、中学生では６割以上を占めている。




学年別にみると、学年が上がるにつれて「通っている」児童生徒が増加しており、中学３年生では70.9%と７割を占めている。

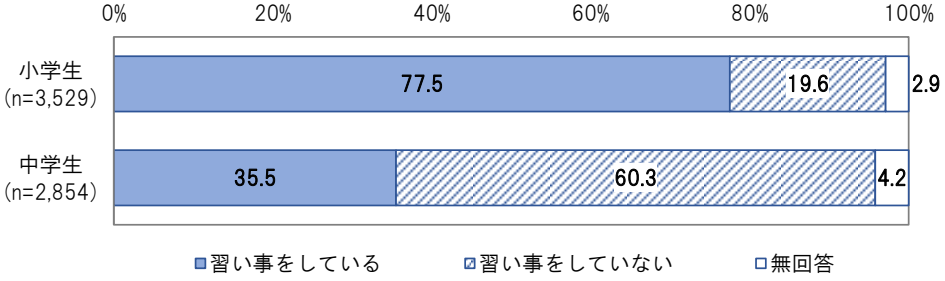


次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、中学３年生以外の学年では「通っている」児童生徒が増加しており、特に小学６年生では 10 ポイント以上の差がみられた。



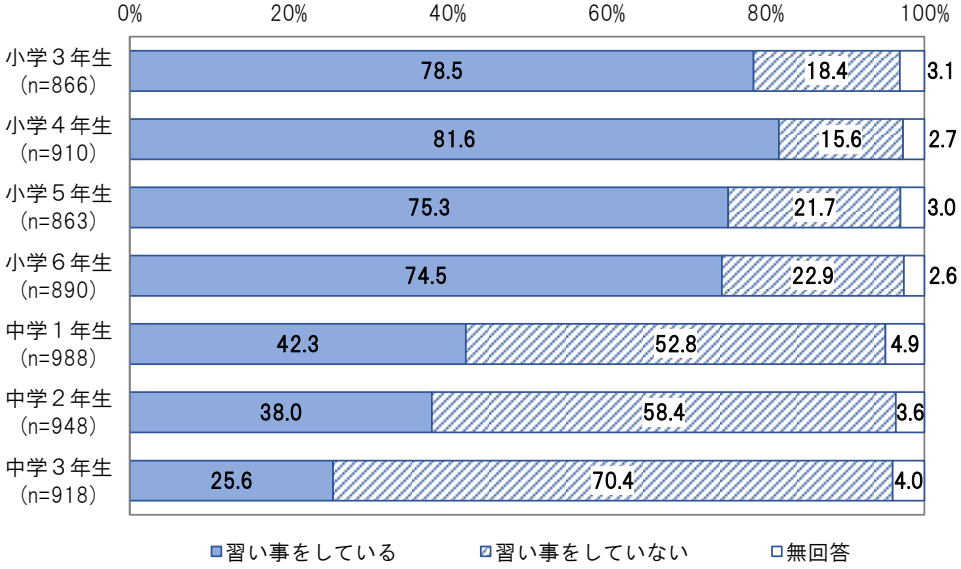
## ６）学習塾以外の習い事

学習塾以外の習い事は、「習い事をしている」児童生徒が、小学生では８割近くとなっているのに対し、中学生では 35.5％と４割未満となっている。




学年別にみると、概ね、学年が上がるにつれて「習い事をしている」児童生徒が減少しており、中学３年生では 25.6％と３割未満にとどまっている。

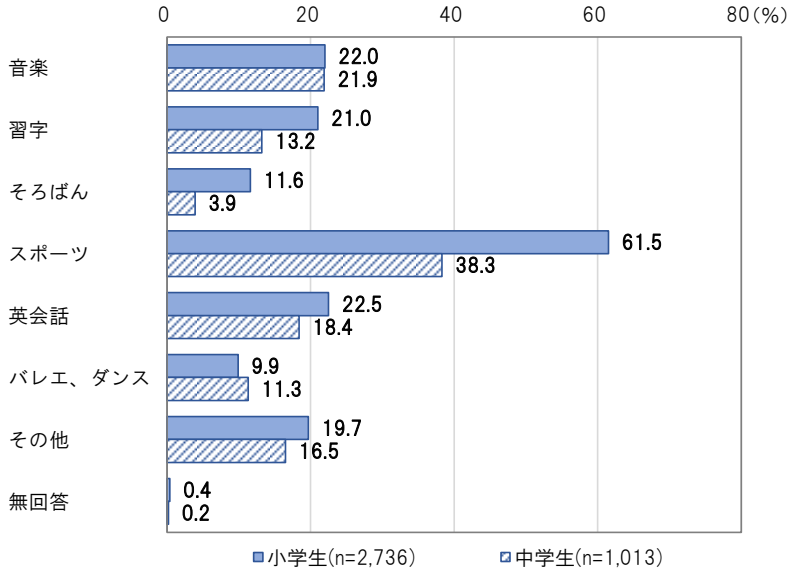
学習塾の利用状況と反対の傾向がみられる。



## 7）習い事の種類

習い事をしている児童生徒の習い事の種類は、小学生・中学生とも「スポーツ」が最も高くなっており、小学生では６割を超える。

次いで、小学生では「英会話」が 22.5%、「音楽」が 22.0%、「習字」が 21.0%となっているのに対し、中学生では「音楽」が 21.9%、「英会話」が 18.4%の順となっている。

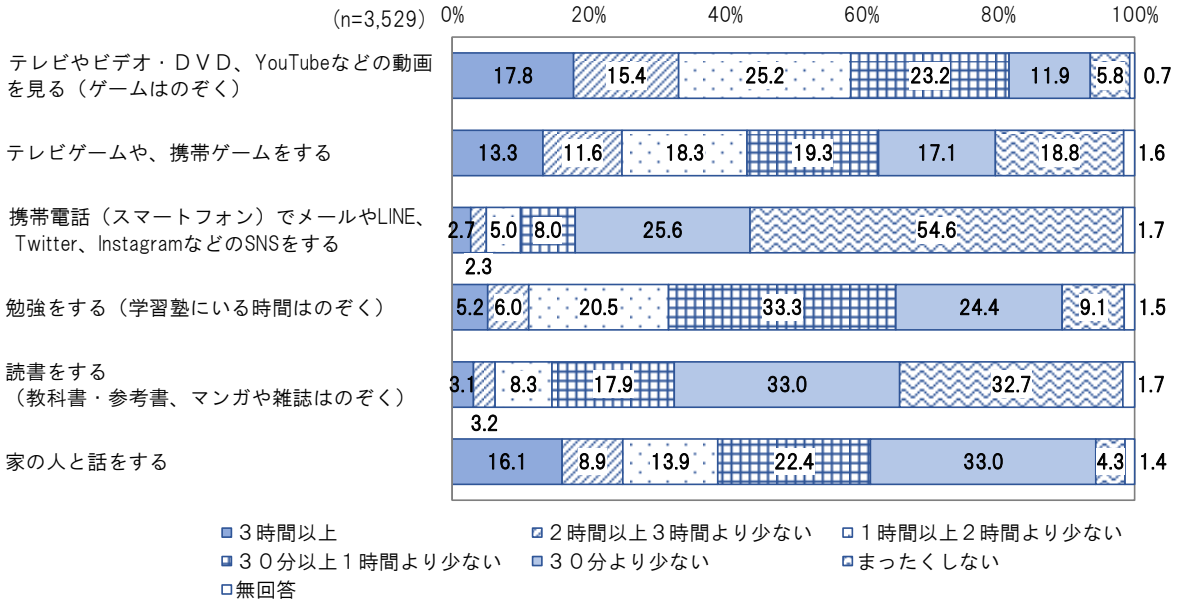


## ８）平日の自宅で過ごす時間

### 【小学生】

小学生の平日の自宅で過ごす時間は、「テレビやビデオ・ＤＶＤ、YouTube などの動画を見る（ゲームはのぞく）」が最も高く、２時間以上見る児童は３割以上を占める。次いで、「テレビゲームや、携帯ゲームをする」や「家の人と話をする」時間が長くなっている。

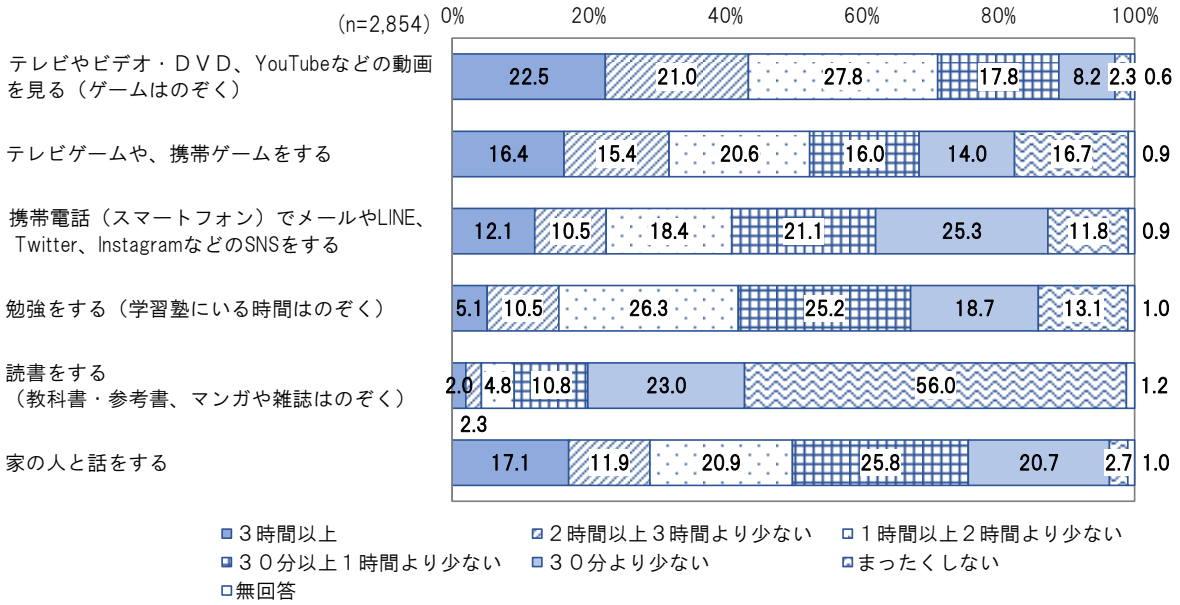
一方で、「家の人と話をする」では、30 分未満の児童も３割以上を占めている。




### 【中学生】

中学生の平日の自宅で過ごす時間は、「テレビやビデオ・ＤＶＤ、YouTube などの動画を見る（ゲームはのぞく）」が最も高く、２時間以上見る生徒は４割以上を占める。次いで、「テレビゲームや、携帯ゲームをする」や「家の人と話をする」時間が長くなっている。

小学生と比べると、「携帯電話（スマートフォン）でメールや LINE、Twitter、Instagram などの SNS をする」時間が増加しており、２時間以上する生徒が２割以上を占める。

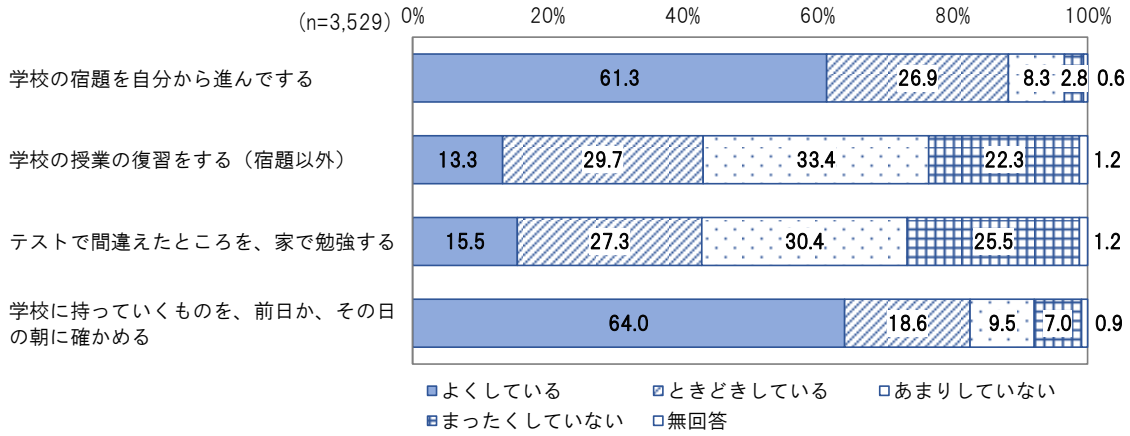


## ９）学校での勉強のために自宅でしていること

【小学生】

小学生の学校での勉強のために自宅でしていることは、“学校の宿題を自分から進んでする”や“学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる”で「よくしている」が６割を超えて高く、「ときどきしている」と合わせると８割以上を占めている。

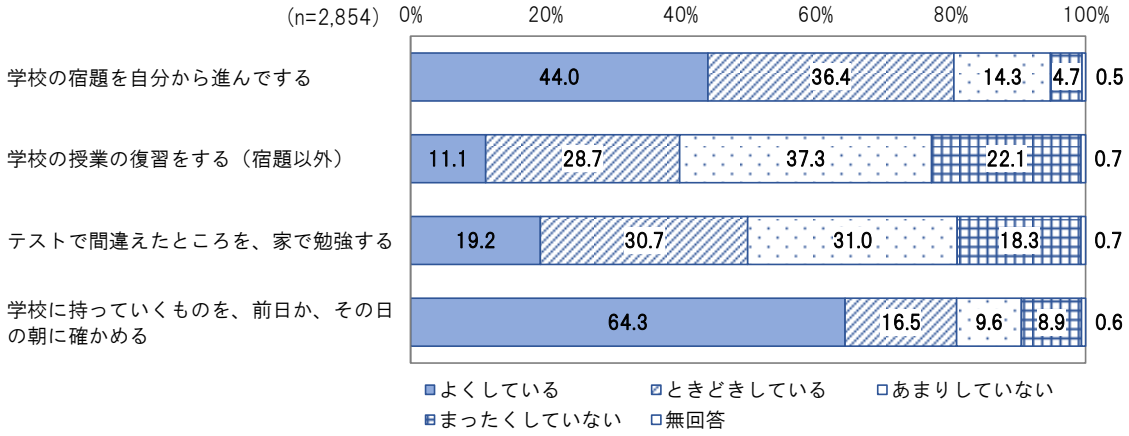
一方で、“学校の授業の復習をする（宿題以外）”や“テストで間違えたところを、家で勉強する”では、「まったくしていない」が２割を超え、「あまりしていない」と合わせると、授業の復習などをしていない児童が半数以上を占めている。




【中学生】

中学生の学校での勉強のために自宅でしていることは、“学校に持っていくものを、前日か、その日の朝に確かめる”で「よくしている」が６割を超えて最も高く、「ときどきしている」と合わせると約８割を占めている。

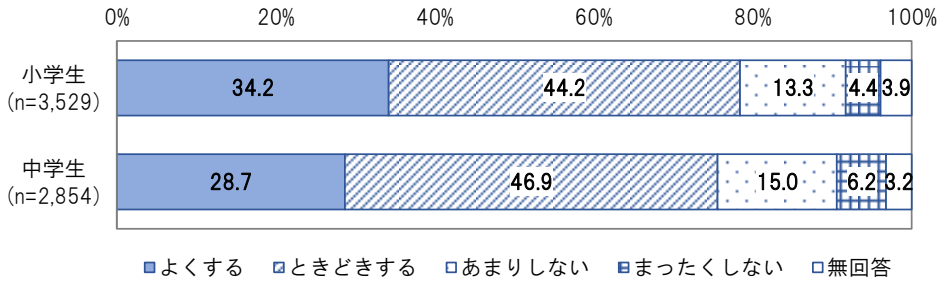
一方で、「まったくしていない」の回答をみると、“学校の授業の復習をする（宿題以外）”では２割以上、“テストで間違えたところを、家で勉強する”では２割近くを占め、「あまりしていない」と合わせると半数以上を占めている。



## 10）家の手伝いについて

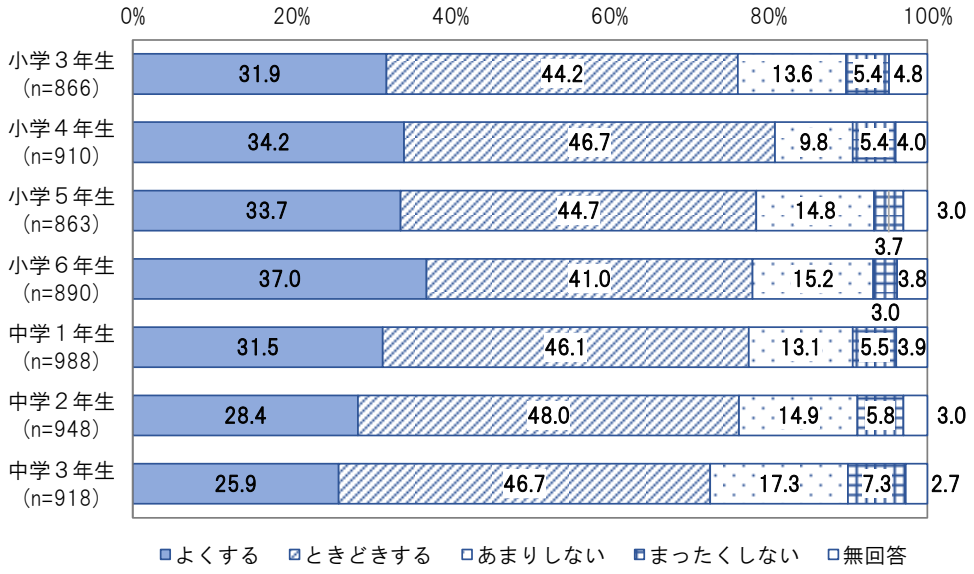
家の手伝いについては、小学生・中学生ともに「ときどきする」が最も高く、「よくする」と合わせると、家の手伝いを『している』児童生徒は８割程度となっている。

また、「あまりしない」と「まったくしない」を合わせた『しない』児童生徒の割合が、小学生に比べて中学生でやや多くなっているものの、大きな差はみられない。




学年別にみると、概ね、学年が上がるにつれて『している』児童生徒が減少傾向となっており、中学３年生では 72.6%と７割程度となっている。

また、反対に、学年が上がるにつれて『しない』児童生徒が増加傾向となっており、中学２年生・中学３年生では２割以上を占める。

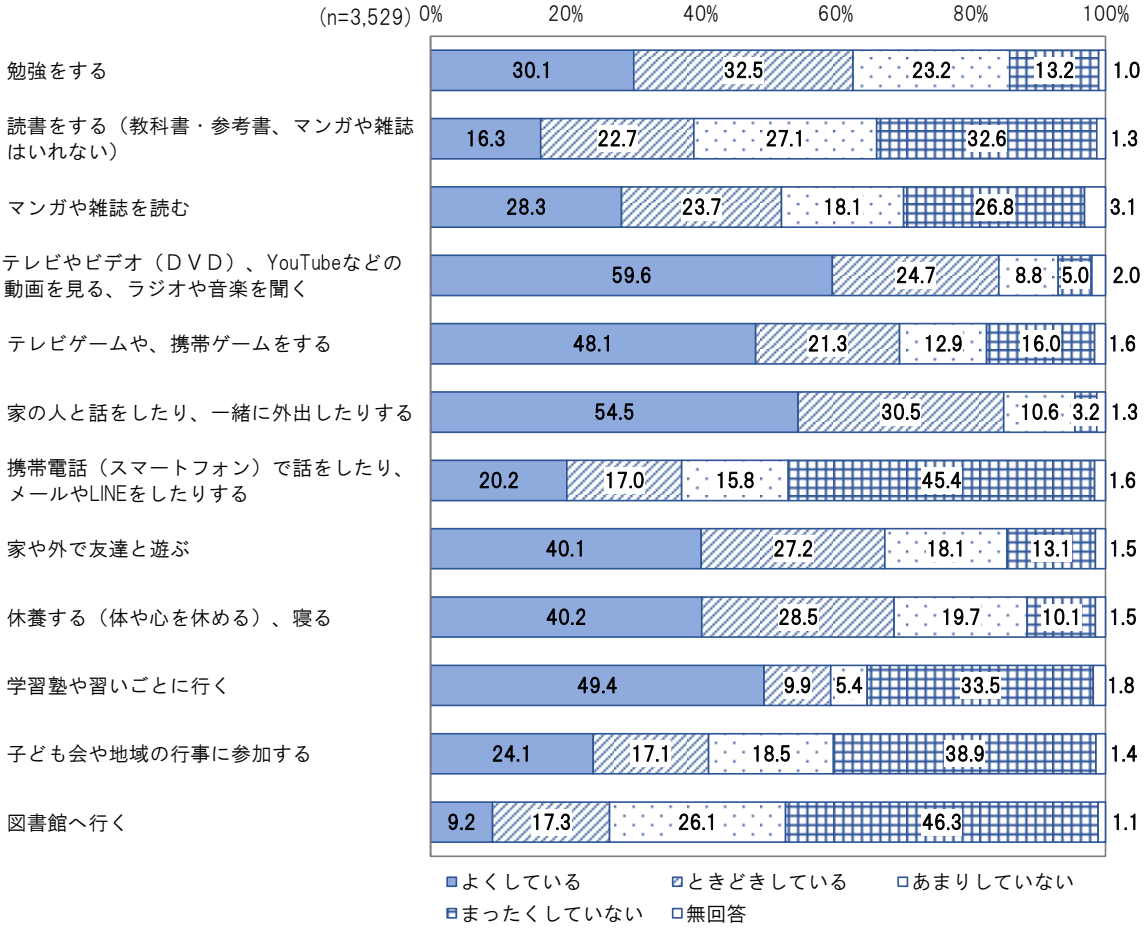


## 11）休日にしていること

【小学生】

小学生の休日にしていることは、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、“家の人と話をしたり、一緒に外出したりする”が 85.0%と最も高く、次いで“テレビやビデオ(ＤＶＤ)、YouTube などの動画を見る、ラジオや音楽を聞く”が 84.3%、“テレビゲームや、携帯ゲームをする”が 69.4%の順となっている。

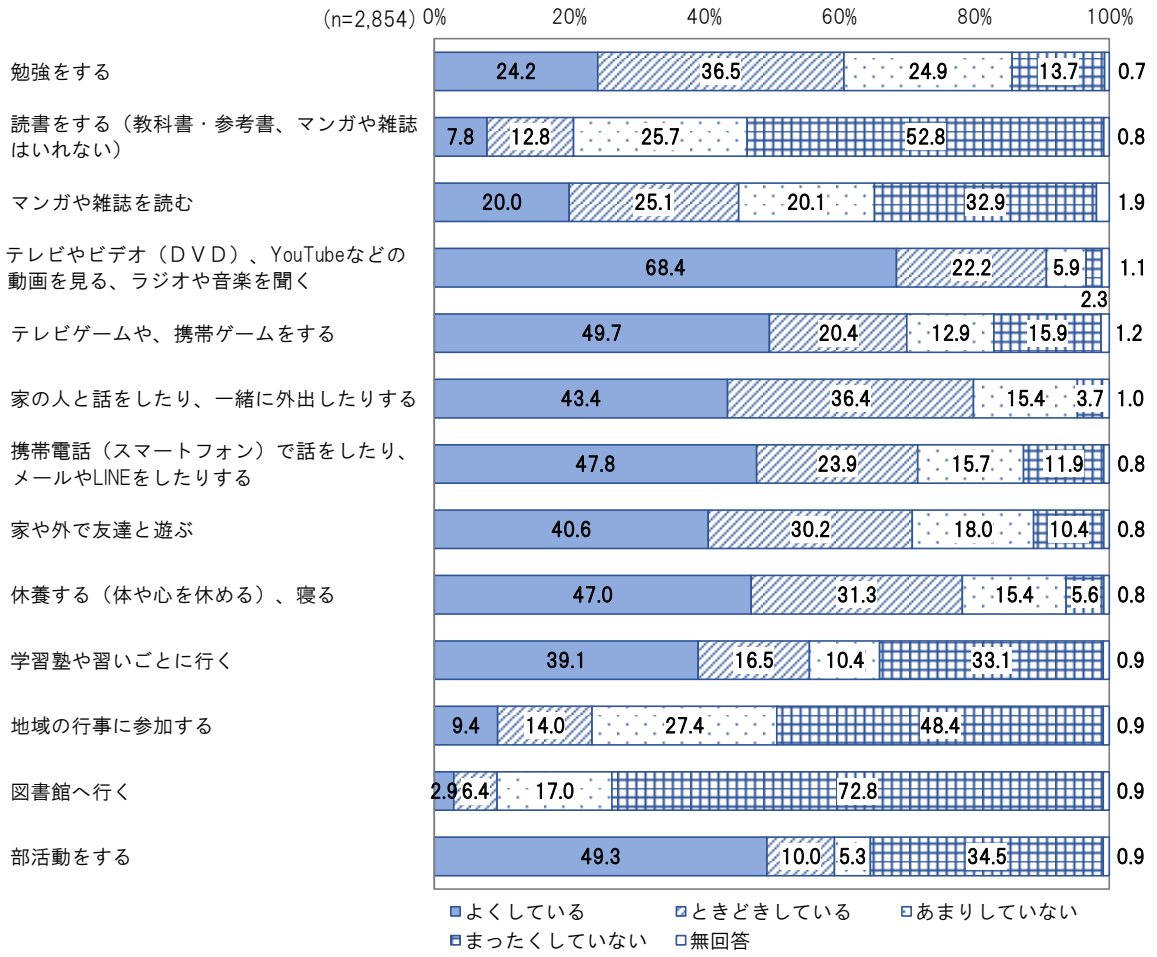
一方で、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた『していない』の割合をみると、“図書館へ行く”が 72.4%と 7 割を超えて最も高く、次いで“携帯電話（スマートフォン）で話をしたり、メールや LINE をしたりする”が 61.2%、“読書をする（教科書・参考書、マンガや雑誌はいれない）”が 59.7%となっている。



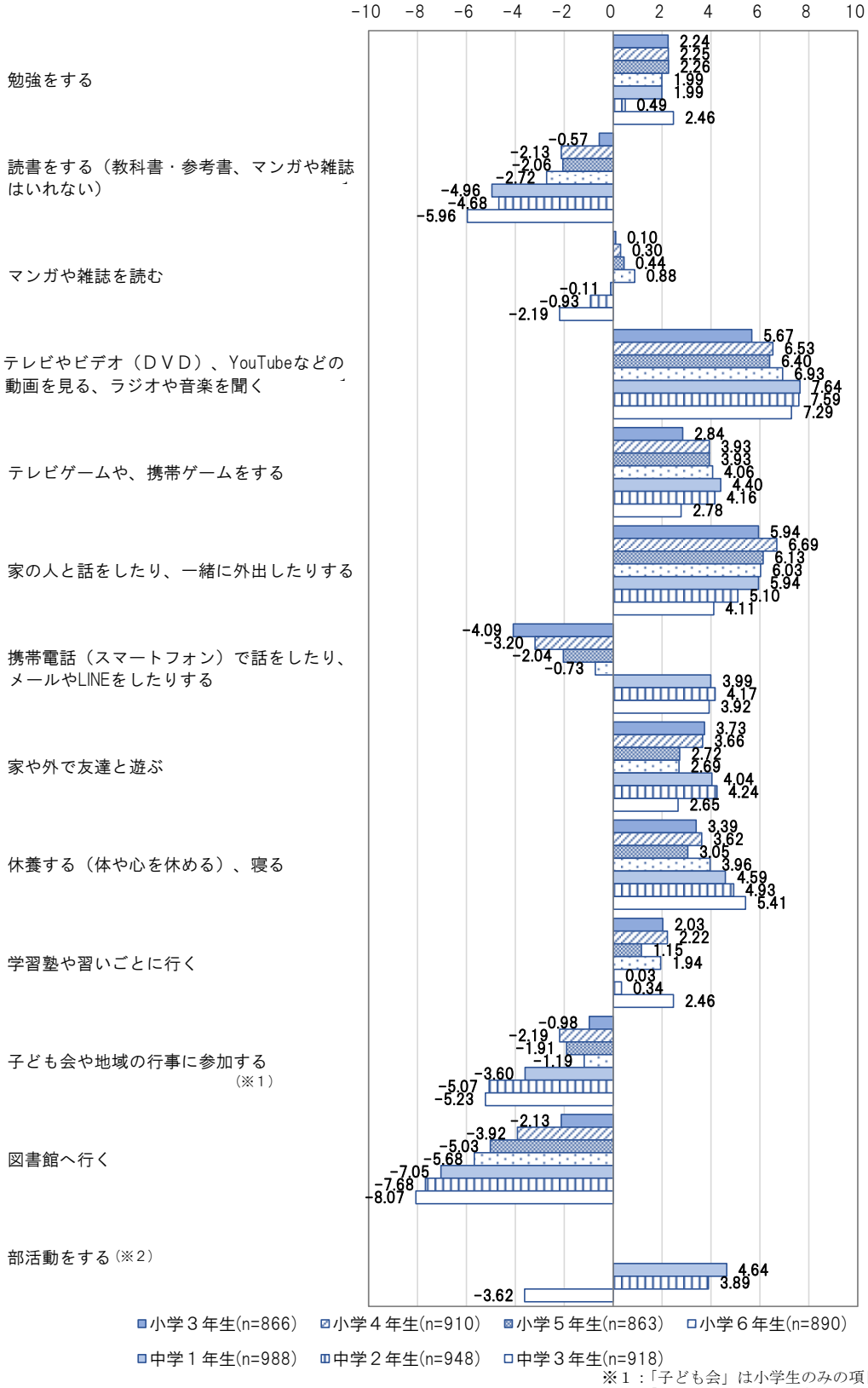
【中学生】

中学生の休日にしていることは、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、“テレビやビデオ（ＤＶＤ）、YouTube などの動画を見る、ラジオや音楽を聞く”が 90.6%と最も高く、次いで“家の人と話をしたり、一緒に外出したりする”が 79.8%、“休養する（体や心を休める）、寝る”が 78.3%の順となっている。

一方で、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた『していない』の割合をみると、“図書館へ行く”が 89.8%と約９割を占めて最も高く、次いで“読書をする（教科書・参考書、マンガや雑誌はいれない）”が 78.5%、“地域の行事に参加する”が 75.8%となっている。



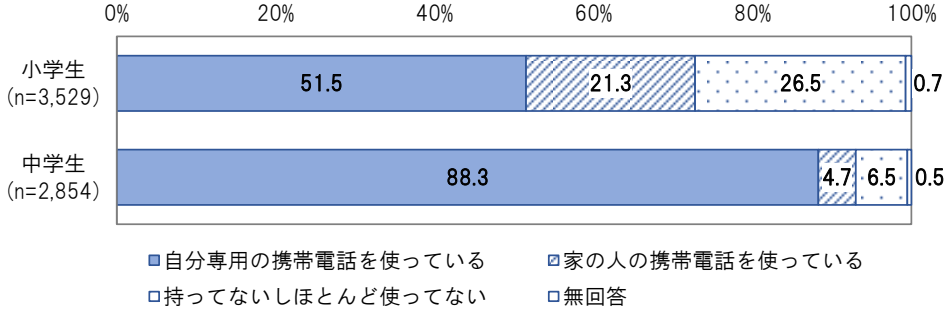
次に、頻度を指標化して学年別に比較すると、学年が上がるにつれて「読書をする」や「地域の行事に参加する」、「図書館へ行く」の点数が減少傾向となっている。反対に、「携帯電話（スマートフォン）で話をしたり、メールやLINEをしたりする」では、小学生で学年が上がるにつれて点数の上昇がみられ、中学生では高い利用頻度となっている。




※１：「子ども会」は小学生のみの項目。
※２：「部活動をする」は中学生のみの項目。

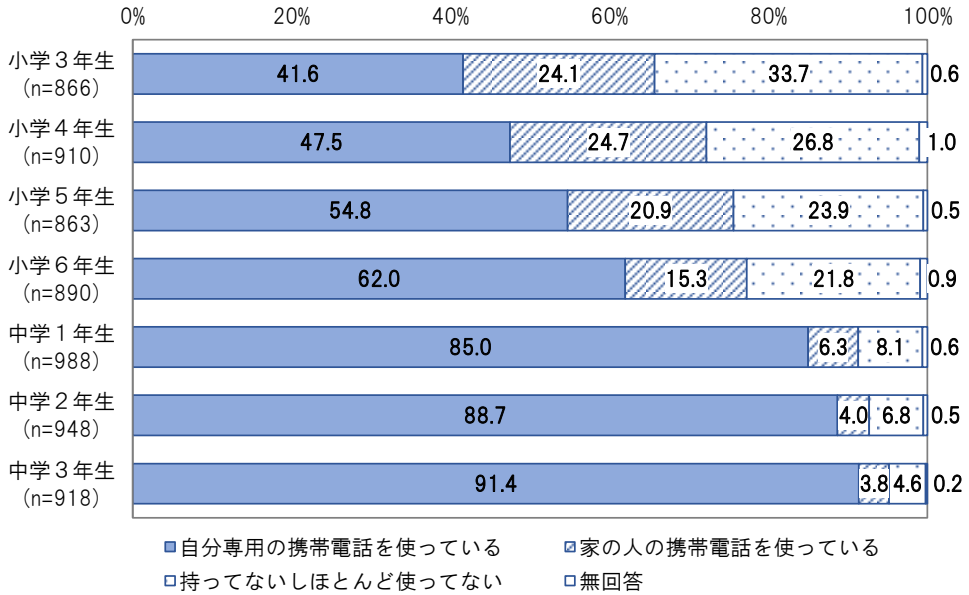
## 12）携帯電話の使用状況

携帯電話の使用状況は、「自分専用の携帯電話を使っている」児童生徒が最も多く、小学生では半数以上、中学生では９割近くを占めている。



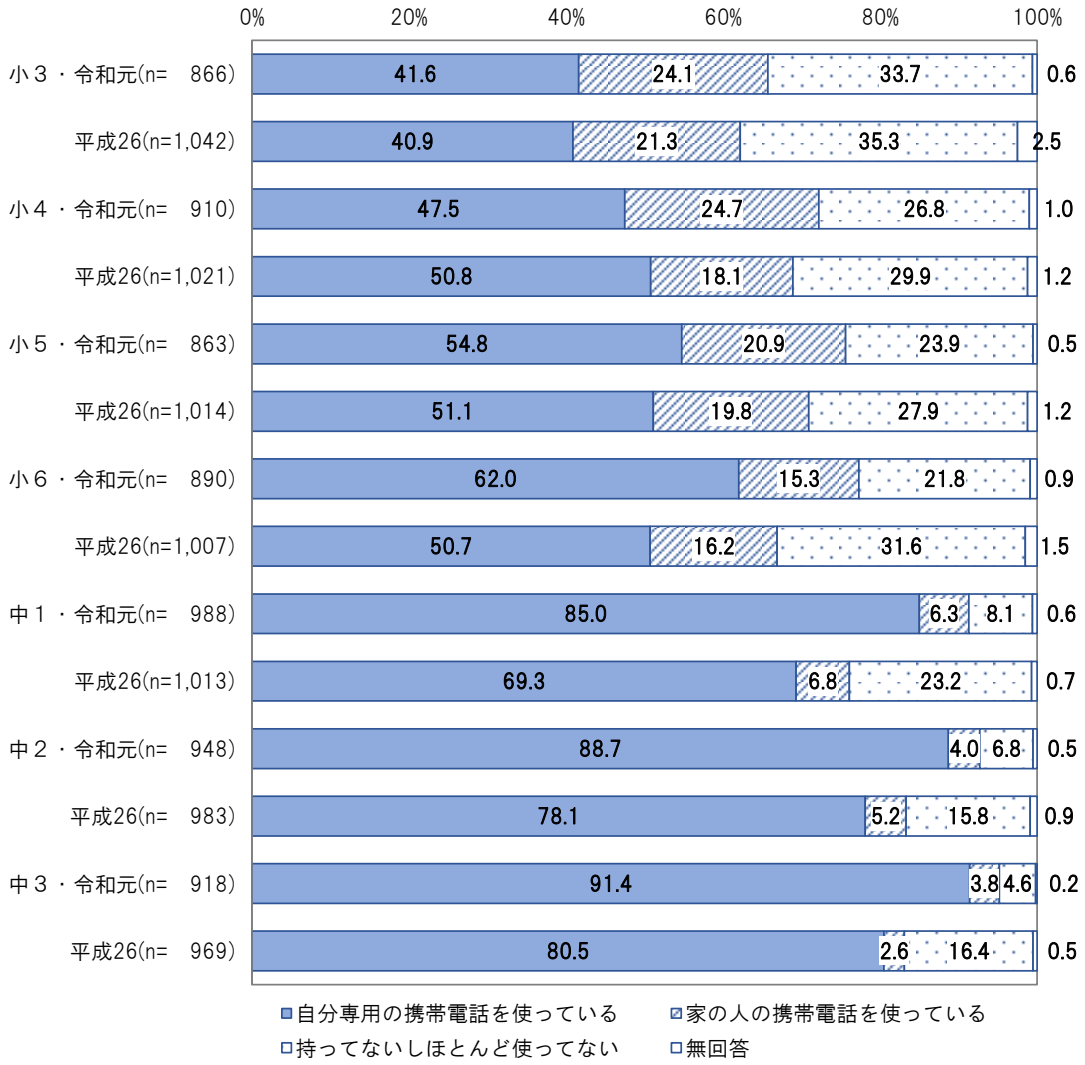

学年別にみると、学年が上がるにつれて「自分専用の携帯電話を使っている」児童生徒が増加傾向となっており、中学３年生では 91.4%と９割以上を占めている。

また、小学生においても、「自分専用の携帯電話を使っている」と「家の人の携帯電話を使っている」を合わせると、携帯電話を使っている児童が６割を超えている。



次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学６年生以上では「自分専用の携帯電話を使っている」割合が非常に高くなっており、10 ポイント以上の差がみられる。

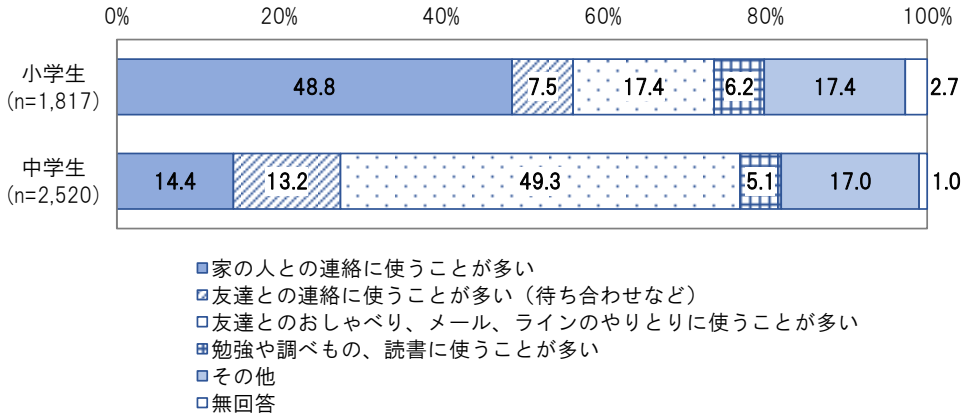
また、それ以外の学年でも「自分専用の携帯電話を使っている」と「家の人の携帯電話を使っている」を合わせた『携帯電話を使っている』割合は増加している。



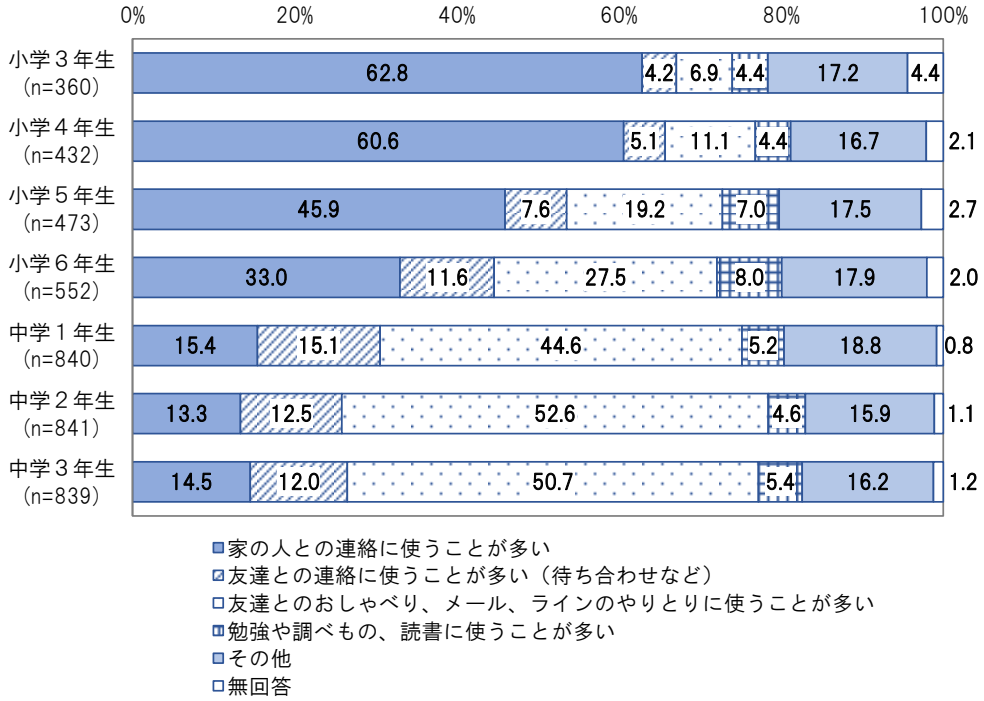
## 13）自分専用の携帯電話について

### ①自分専用の携帯電話の使用目的

自分専用の携帯電話を使用している児童生徒の使用目的は、小学生では「家の人との連絡に使うことが多い」が半数近くを占めて最も高くなっているのに対し、中学生では「友達とのおしゃべり、メール、ラインのやりとりに使うことが多い」が約半数を占めている。



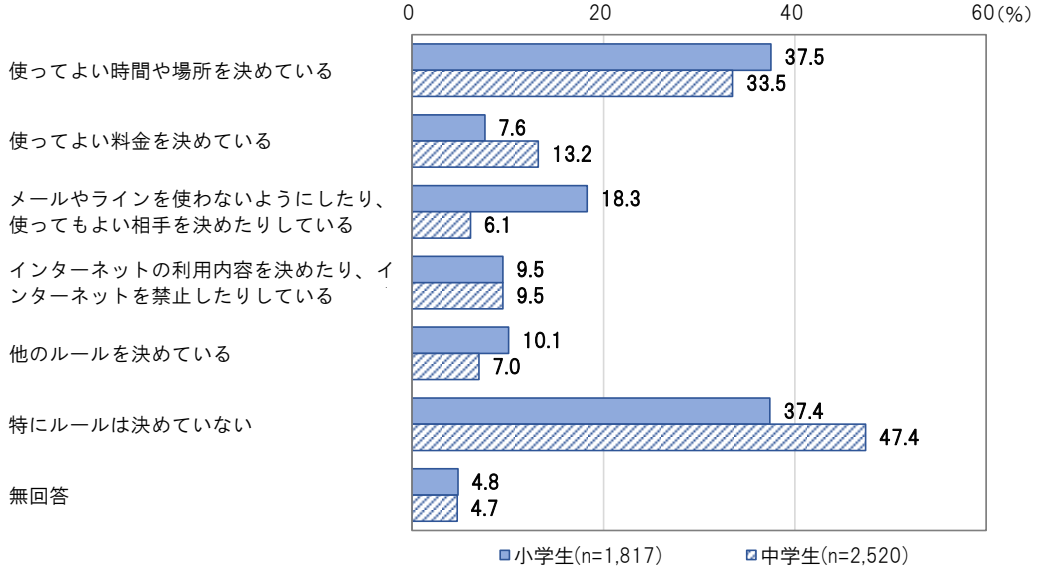

学年別にみると、学年が上がるにつれて「友達とのおしゃべり、メール、ラインのやりとりに使うことが多い」児童生徒が増加傾向となっており、中学２年生・中学３年生では半数以上を占めている。



②携帯電話使用についてのルール

携帯電話使用についてのルールについては、中学生では「特にルールは決めていない」が半数近くを占めて最も高くなっており、小学生においても４割近くを占めている。

具体的なルールでは、小学生・中学生とも「使ってよい時間や場所を決めている」が高くなっている。また、小学生では「メールやラインを使わないようにしたり、使ってもよい相手を決めたりしている」が２割近くを占めて高くなっている。

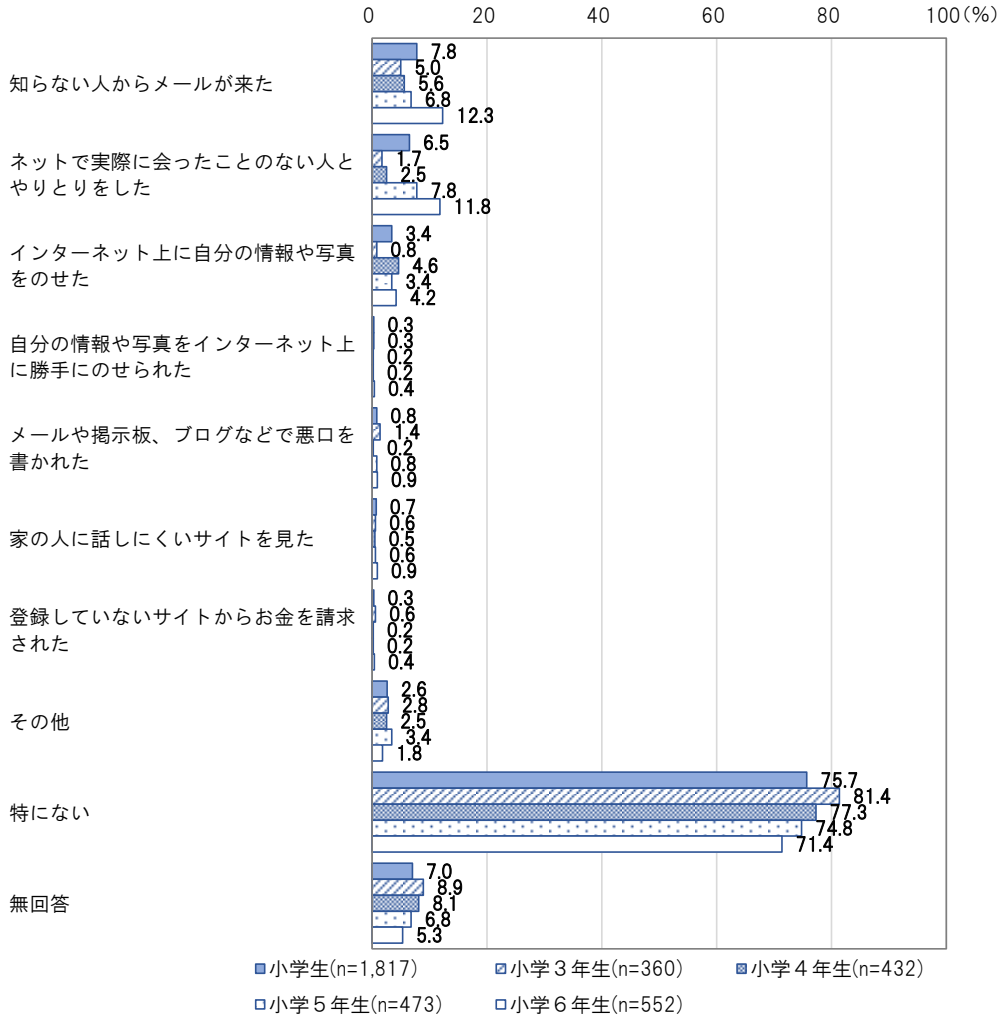


③携帯電話を使用する中でのトラブル

【小学生】

小学生の携帯電話を使用する中でのトラブルは、「特にない」が大半を占めているものの、「知らない人からメールが来た」や「ネットで実際に会ったことのない人とやりとりをした」で１割程度の回答があった。

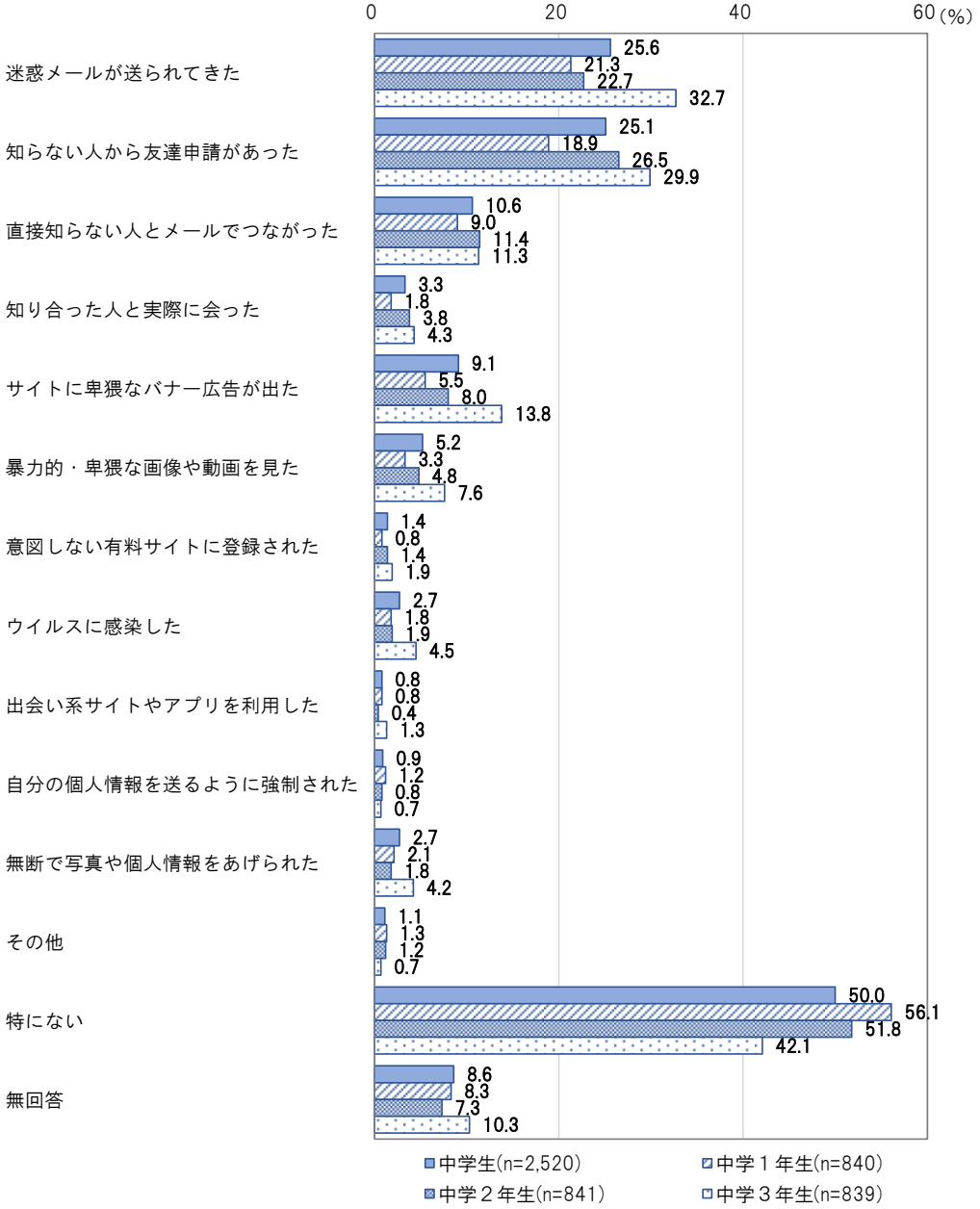
学年別にみると、学年が上がるにつれて「特にない」が減少傾向となっており、小学６年生では７割程度となっている。具体的なトラブルでは、小学６年生では「知らない人からメールが来た」や「ネットで実際に会ったことのない人とやりとりをした」がそれぞれ１割以上を占めている。



【中学生】

中学生の携帯電話を使用する中でのトラブルは、「特にない」が 50.0%と約半数を占めているものの、残り半数の生徒は何かしらのトラブルがあったことが分かる。具体的なトラブルでは、「迷惑メールが送られてきた」が 25.6%と高く、次いで「知らない人から友達申請があった」が 25.1%、「直接知らない人とメールでつながった」が 10.6%の順となっている。

学年別にみると、学年が上がるにつれて「特にない」が減少傾向となっており、中学３年生では４割程度となっている。具体的なトラブルでは、中学３年生では「迷惑メールが送られてきた」や「知らない人から友達申請があった」で３割程度となっており、「直接知らない人とメールでつながった」や「サイトに卑猥なバナー広告が出た」では１割以上を占めている。



## （３）学校での授業や学習について

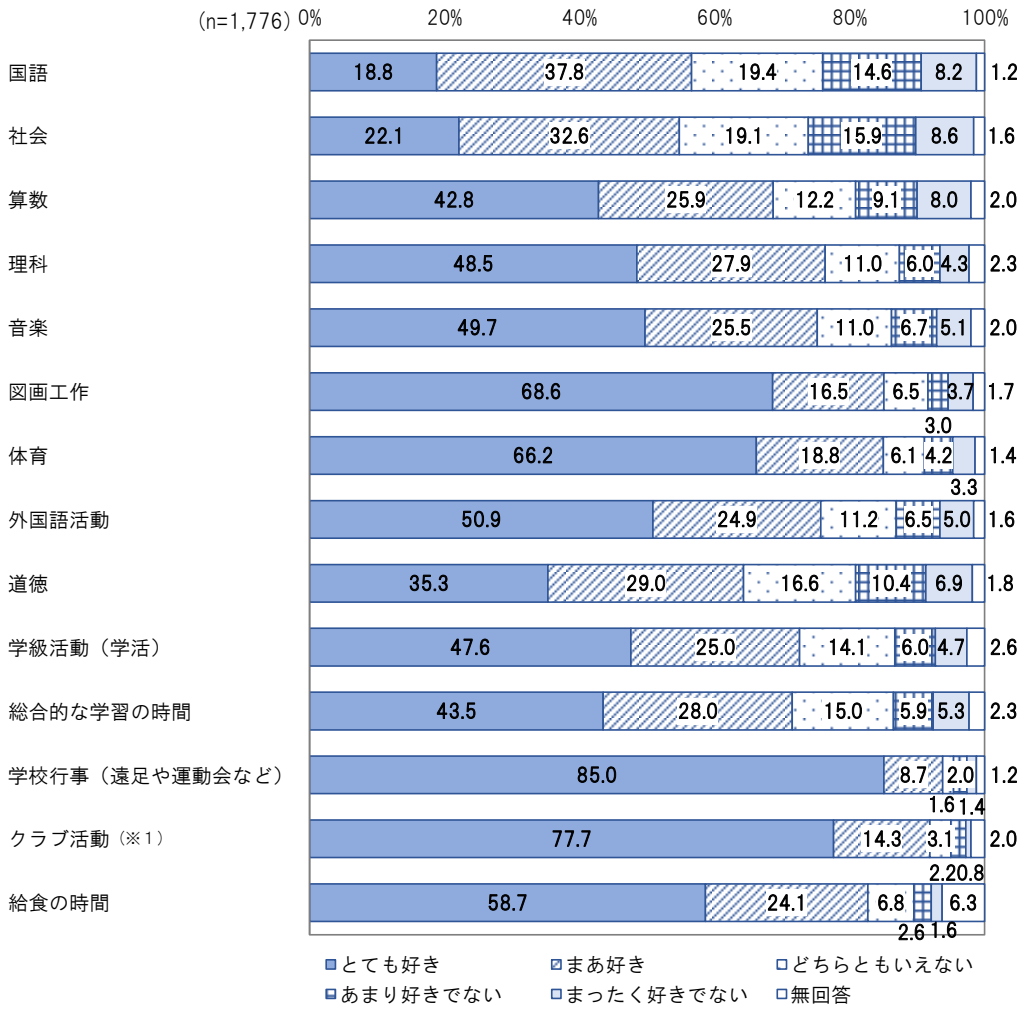
### １）教科や活動の好感度

【小学３・４年生】

小学３・４年生の教科や活動の好感度では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の割合をみると、“学校行事（遠足や運動会など）”が 93.7％と最も高く、次いで“クラブ活動”が 92.0％、“図画工作”が 85.1％、“体育”が 85.0％の順となっている。

“国語”・“社会”・“算数”・“理科”の４教科では、“理科”が 76.4％、“算数”が 68.7％と高くなっている。

一方で、「あまり好きでない」と「まったく好きでない」を合わせた『好きでない』の割合をみると、“国語”や“社会”で２割を超えており、その他の教科や活動に比べてやや高くなっている。



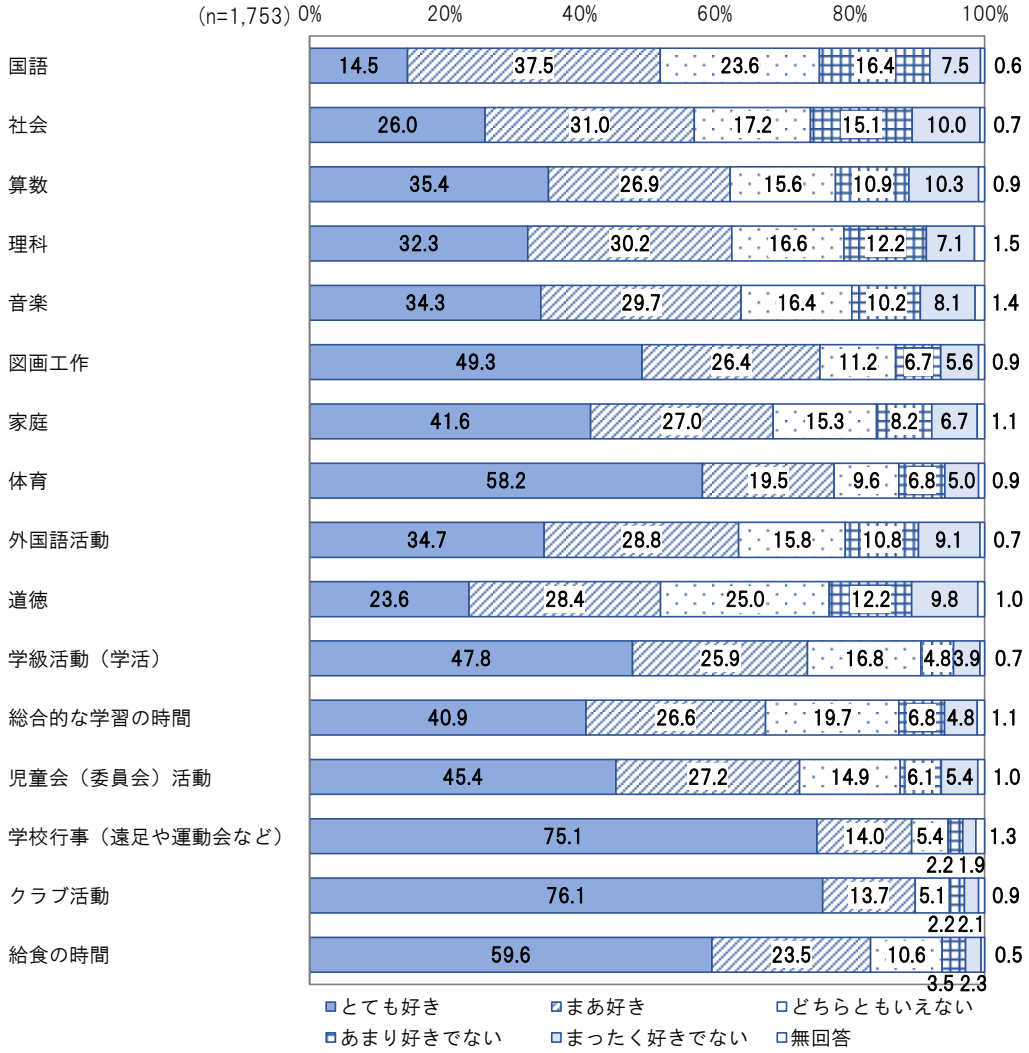

※１：「クラブ活動」は小学４年生のみの項目。

【小学５・６年生】

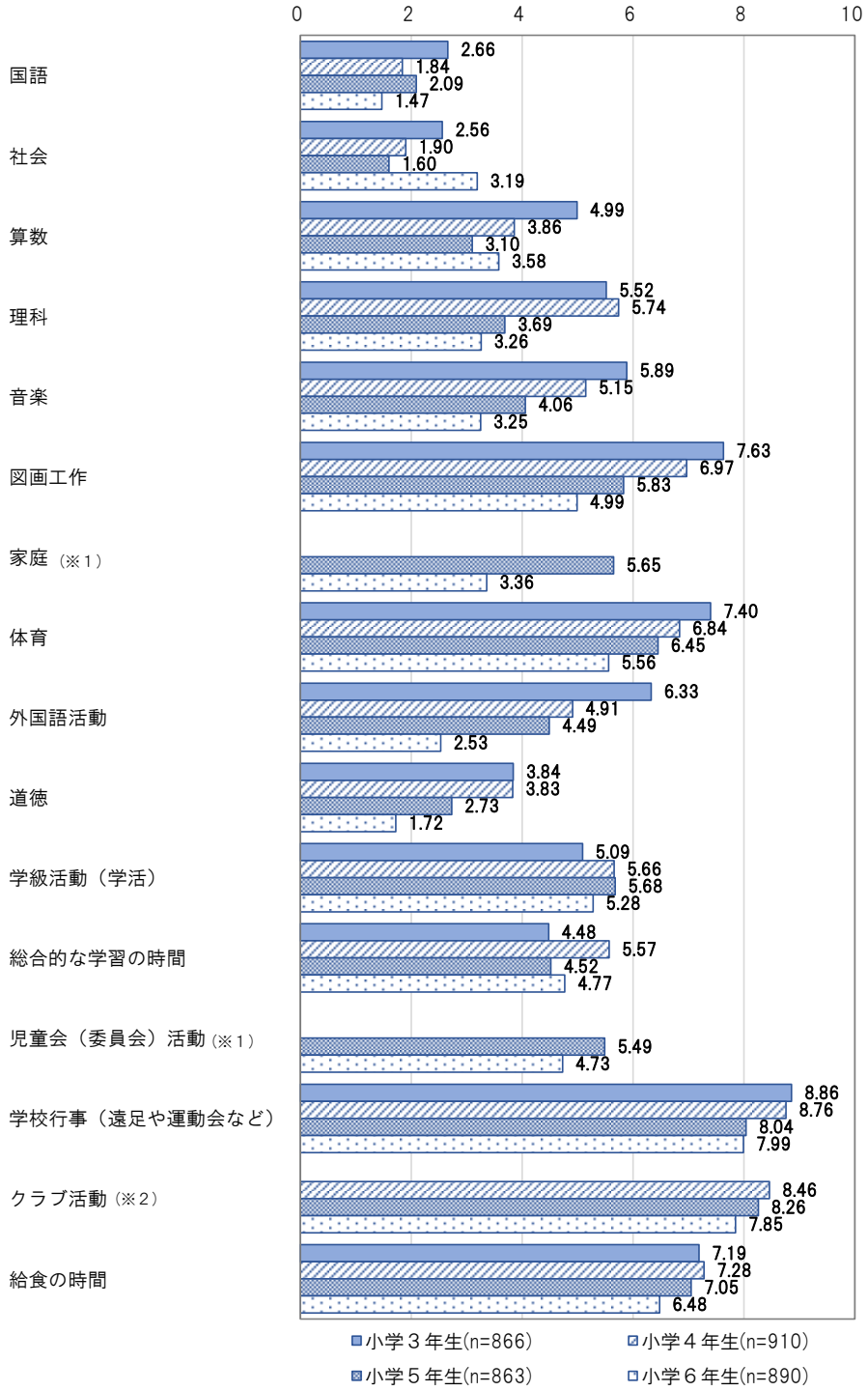
小学５・６年生の教科や活動の好感度では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の割合をみると、“クラブ活動”が 89.8%と最も高く、次いで“学校行事（遠足や運動会など）”が 89.1%、“給食の時間”が 83.1%、“体育”が 77.7%の順となっている。

“国語”・“社会”・“算数”・“理科”の４教科では、“理科”が 62.5%、“算数”が 62.3%と６割を超えている。

一方で、「あまり好きでない」と「まったく好きでない」を合わせた『好きでない』の割合をみると、“国語”や“社会”、“算数”、“道徳”で２割を超えており、その他の教科や活動に比べてやや高くなっている。



次に、教科や活動の好感度を指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて好感度が低下する傾向がみられ、特に「外国語活動」では小学３年生と小学６年生で 3.80 点の差がみられる。その他、「理科」、「音楽」、「図画工作」、「道徳」でも２点以上の開きがみられた。




※１：「家庭」・「児童会（委員会）活動」は小学５・６年生のみの項目。
※２：「クラブ活動」は小学４・５・６年生のみの項目。

次に、指標化した教科や活動の好感度を平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学６年生では「体育」・「外国語活動」・「道徳」・「クラブ活動」を除く教科で上昇がみられ、特に「算数」では１点以上の上昇がみられた。

一方で、「外国語活動」では小学３・４年生で大幅に上昇しているのに対し、小学５・６年生で大幅に低下しており、ともに２点以上の低下となっている。

その他、小学３年生では「算数」で１点以上の上昇がみられた。

| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 国語 | 2.66 | 2.72 | 1.84 | 2.30 | 2.09 | 1.55 | 1.47 | 1.18 |
| 社会 | 2.56 | 2.44 | 1.90 | 2.00 | 1.60 | 0.81 | 3.19 | 2.54 |
| 算数 | **4.99** | **3.82** | 3.86 | 3.68 | 3.10 | 2.83 | **3.58** | **2.50** |
| 理科 | 5.52 | 5.31 | 5.74 | 5.89 | 3.69 | 4.17 | 3.26 | 2.35 |
| 音楽 | 5.89 | 6.33 | 5.15 | 5.71 | 4.06 | 4.31 | 3.25 | 3.06 |
| 図画工作 | 7.63 | 7.52 | 6.97 | 7.25 | 5.83 | 6.13 | 4.99 | 4.79 |
| 家庭 | — | - | — | - | 5.65 | 5.37 | 3.36 | 3.32 |
| 体育 | 7.40 | 7.36 | 6.84 | 6.71 | 6.45 | 6.76 | 5.56 | 5.59 |
| 外国語活動 | **6.33** | **4.15** | **4.91** | **2.52** | 4.49 | 6.70 | 2.53 | 4.58 |
| 道徳 | 3.84 | 4.47 | 3.83 | 3.72 | 2.73 | 3.62 | 1.72 | 2.34 |
| 学級活動（学活） | 5.09 | 5.49 | 5.66 | 4.96 | 5.68 | 4.95 | 5.28 | 4.31 |
| 総合的な学習の時間 | 4.48 | 4.88 | 5.57 | 4.63 | 4.52 | 4.19 | 4.77 | 4.04 |
| 児童会（委員会）活動 | — | - | — | - | 5.49 | 5.01 | 4.73 | 4.20 |
| 学校行事<br>（遠足や運動会など） | 8.86 | 9.02 | 8.76 | 9.13 | 8.04 | 8.25 | 7.99 | 7.83 |
| クラブ活動 | — | — | 8.46 | 8.60 | 8.26 | 8.39 | 7.85 | 8.03 |
| 給食の時間 | 7.19 | 6.94 | 7.28 | 7.13 | 7.05 | 6.57 | 6.48 | 6.00 |

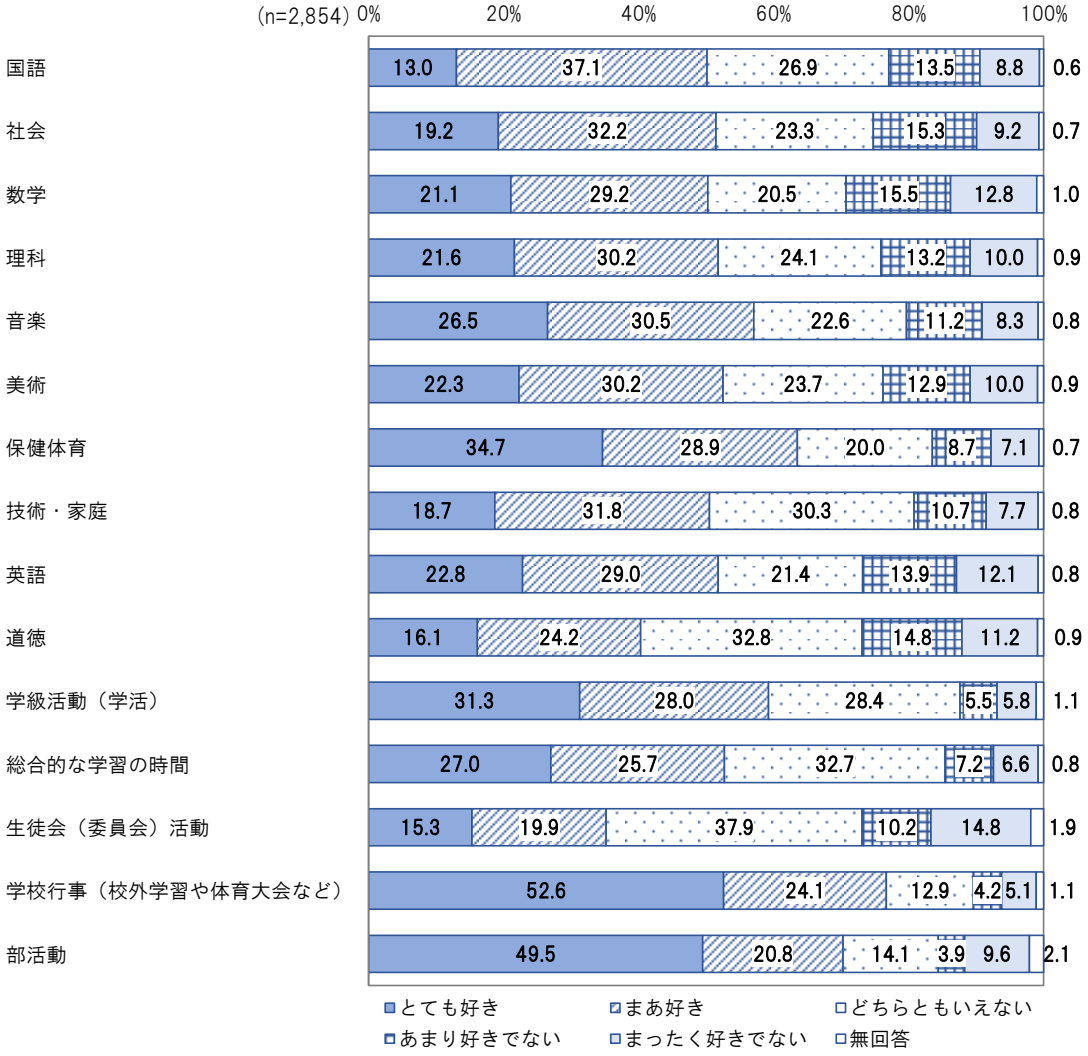
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

【中学生】

中学生の教科や活動の好感度では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の割合をみると、“学校行事（校外学習や体育大会など）”が 76.7%と最も高く、次いで“部活動”が 70.3%、“保健体育”が 63.6%、“学級活動（学活）”が 59.3%の順となっている。

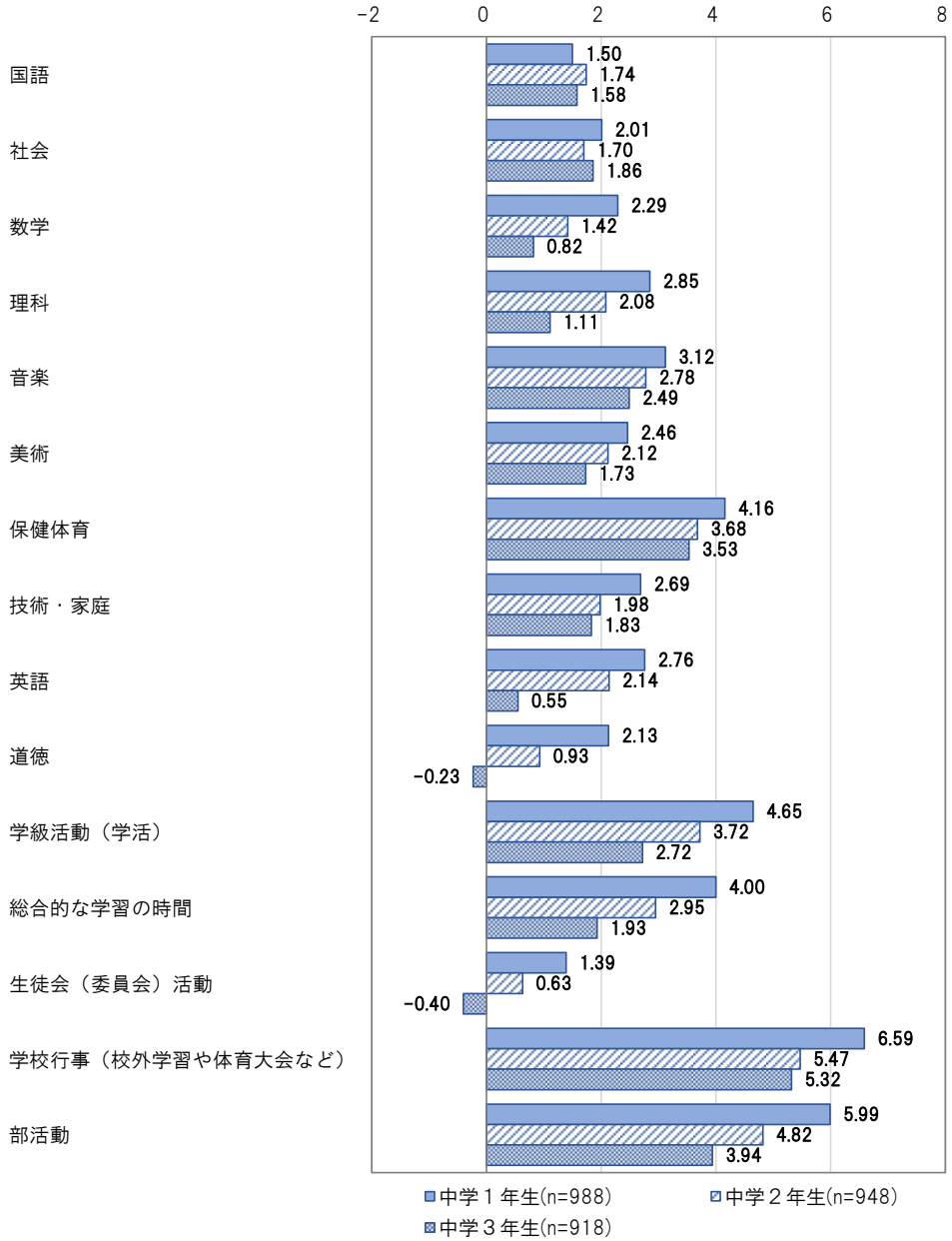
“国語”・“社会”・“数学”・“理科”・“英語”の５教科では、一番高い教科で“英語”及び“理科”が 51.8%、一番低い教科で“国語”が 50.1%となっており、大きな差はみられない。

一方で、「あまり好きでない」と「まったく好きでない」を合わせた『好きでない』の割合をみると、“数学”で 28.3%と３割近くを占め、その他の教科や活動に比べてやや高くなっている。



次に、教科や活動の好感度を指標化して学年別に比較すると、全体的に学年が上がるにつれて好感度が低下する傾向がみられ、特に「英語」や「道徳」、「総合的な学習の時間」、「部活動」では中学１年生と中学３年生で２点以上の差がみられる。

また、「国語」・「社会」・「数学」・「理科」・「英語」の５教科をみると、「国語」・「社会」では学年による大きな差は見られないのに対し、その他の「数学」・「理科」・「英語」では学年での差が大きい。



次に、指標化した教科や活動の好感度を平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、中学１年生・中学２年生では「国語」・「社会」・「数学」・「理科」・「英語」の５教科において、概ね上昇がみられ、特に中学２年生の「数学」・「英語」では大幅な上昇がみられた。

一方で、中学３年生では、低下した教科や活動が多く、特に「道徳」では 1.76 点の低下となっている。

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 国語 | 1.50 | 1.26 | 1.74 | 1.17 | 1.58 | 1.59 |
| 社会 | 2.01 | 1.94 | 1.70 | 2.22 | 1.86 | 2.42 |
| 数学 | 2.29 | 2.10 | 1.42 | 0.16 | 0.82 | 0.81 |
| 理科 | 2.85 | 2.01 | 2.08 | 1.15 | 1.11 | 0.88 |
| 音楽 | 3.12 | 3.14 | 2.78 | 1.45 | 2.49 | 2.83 |
| 美術 | 2.46 | 2.79 | 2.12 | 1.76 | 1.73 | 2.33 |
| 保健体育 | 4.16 | 4.07 | 3.68 | 3.30 | 3.53 | 4.16 |
| 技術・家庭 | 2.69 | 1.96 | 1.98 | 1.82 | 1.83 | 1.81 |
| 英語 | 2.76 | 2.44 | 2.14 | 0.85 | 0.55 | 1.26 |
| 道徳 | 2.13 | 2.60 | 0.93 | 1.37 | −0.23 | 1.53 |
| 学級活動（学活） | 4.65 | 4.11 | 3.72 | 2.57 | 2.72 | 2.95 |
| 総合的な学習の時間 | 4.00 | 2.64 | 2.95 | 1.68 | 1.93 | 1.88 |
| 生徒会（委員会）活動 | 1.39 | 0.66 | 0.63 | −0.57 | −0.40 | −0.22 |
| 学校行事<br>（校外学習や体育大会など） | 6.59 | 6.68 | 5.47 | 5.59 | 5.32 | 6.21 |
| 部活動 | 5.99 | 7.42 | 4.82 | 6.42 | 3.94 | 5.65 |

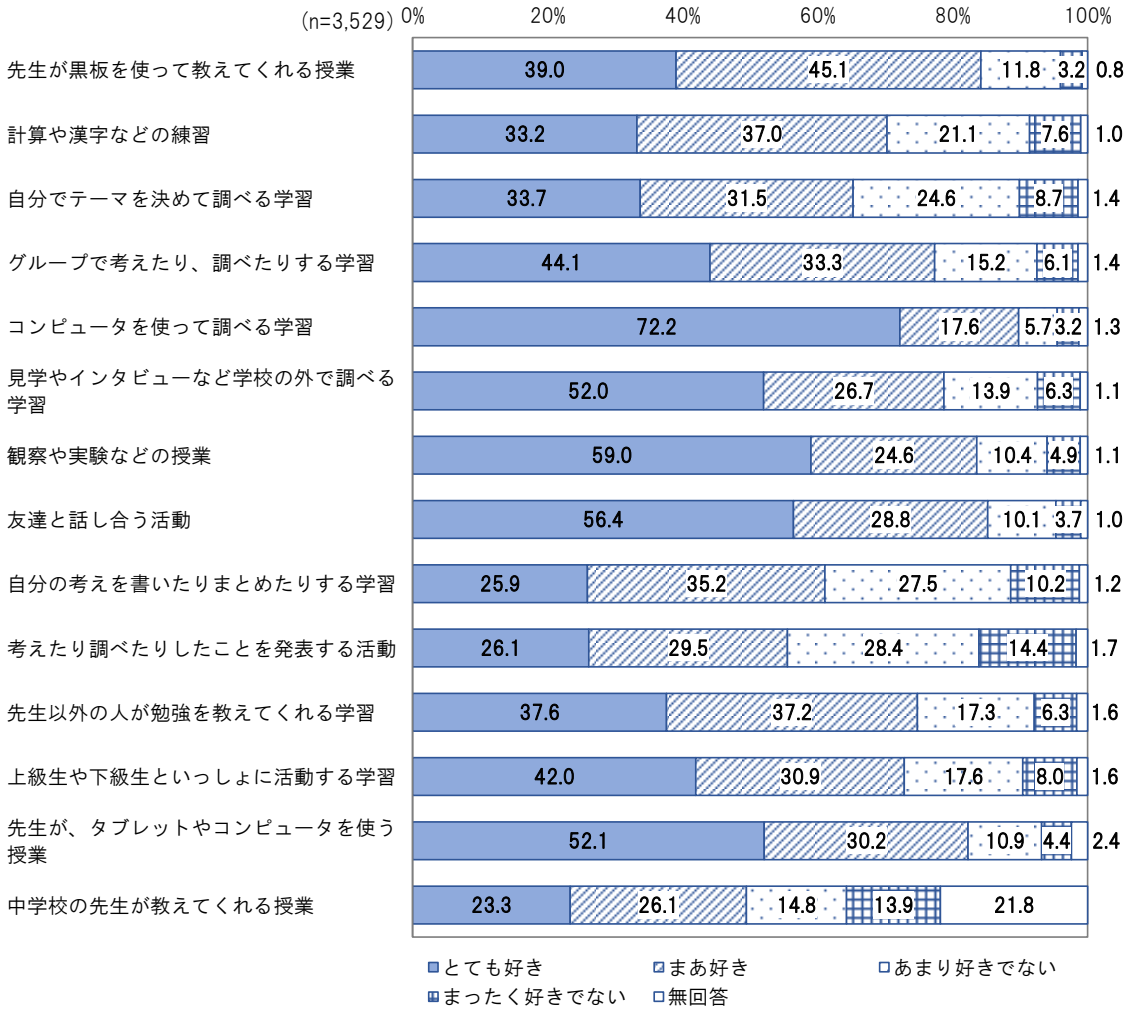
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

## 2）学校での授業や学習の好感度

【小学生】

小学生の学校での授業や学習の好感度では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の割合をみると、“コンピュータを使って調べる学習”が 89.8%と最も高く、次いで“友達と話し合う活動”が 85.2%、“先生が黒板を使って教えてくれる授業”が 84.1%、“観察や実験などの授業”が 83.6%、“先生が、タブレットやコンピュータを使う授業”が 82.3%の順となっている。

一方で、「あまり好きでない」と「まったく好きでない」を合わせた『好きでない』の割合をみると、“自分の考えを書いたりまとめたりする学習”や“考えたり調べたりしたことを発表する活動”で４割程度を占めており、その他の授業や学習に比べてやや高くなっている。



次に、指標化した学校での授業や学習の好感度を平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に上昇しており、特に、全学年で上昇している「自分の考えを書いたりまとめたりする学習」においては、小学３年生では１点近く、小学６年生では２点以上の上昇となっている。

その他の授業や学習においても、半分以上の項目において全学年で好感度が上昇している。

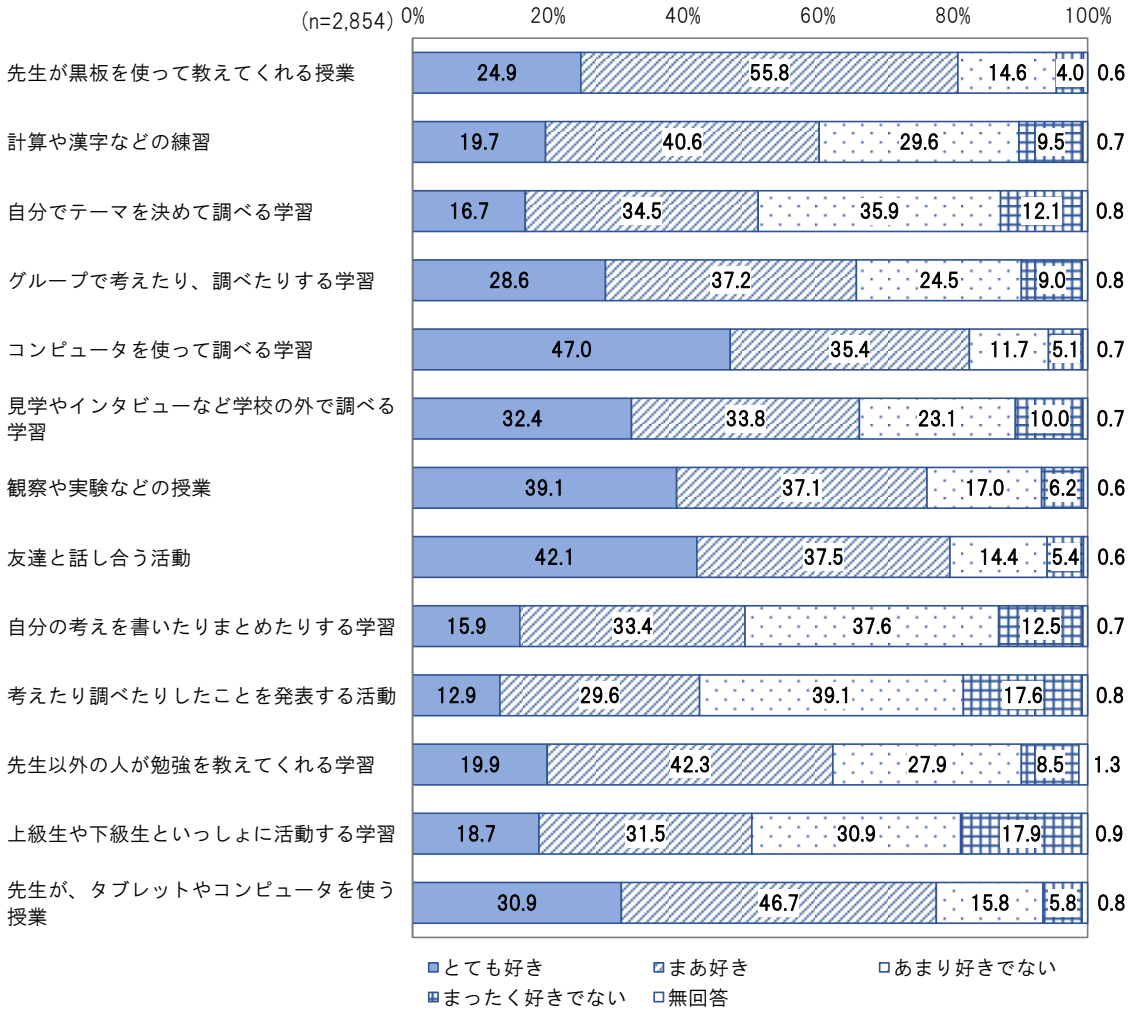
| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 先生が黒板を使って教えてくれる授業 | 5.94 | 5.83 | 5.65 | 5.36 | 4.74 | 4.70 | 4.81 | 3.66 |
| 計算や漢字などの練習 | 4.88 | 3.84 | 3.29 | 3.45 | 2.56 | 2.16 | 2.87 | 1.59 |
| 自分でテーマを決めて調べる学習 | 3.56 | 2.37 | 3.17 | 3.03 | 2.51 | 2.29 | 2.31 | 1.54 |
| グループで考えたり、調べたりする学習 | 4.69 | 4.82 | 5.06 | 4.76 | 4.92 | 4.28 | 4.39 | 3.83 |
| コンピュータを使って調べる学習 | 7.47 | 8.11 | 7.97 | 8.08 | 7.65 | 7.79 | 7.28 | 7.21 |
| 見学やインタビューなど学校の外で調べる学習 | 5.39 | 5.28 | 5.78 | 4.99 | 5.28 | 4.90 | 4.61 | 4.29 |
| 観察や実験などの授業 | 6.63 | 6.27 | 7.31 | 6.82 | 5.58 | 6.27 | 5.20 | 4.76 |
| 友達と話し合う活動 | 6.25 | 6.29 | 6.46 | 6.06 | 6.37 | 6.26 | 6.01 | 5.80 |
| 自分の考えを書いたりまとめたりする学習 | 2.65 | 1.66 | 1.87 | 1.57 | 1.71 | 0.85 | 1.71 | −0.38 |
| 考えたり調べたりしたことを発表する活動 | 2.01 | 1.18 | 1.41 | 0.97 | 0.98 | 0.29 | 0.63 | −0.83 |
| 先生以外の人が勉強を教えてくれる学習 | 5.12 | 4.68 | 4.78 | 4.08 | 3.48 | 4.23 | 3.40 | 3.01 |
| 上級生や下級生といっしょに活動する学習 | 4.92 | 4.15 | 4.48 | 3.69 | 3.62 | 2.55 | 3.48 | 3.09 |
| 先生が、タブレットやコンピュータを使う授業 | 6.55 | 7.00 | 6.13 | 6.68 | 5.18 | 5.98 | 5.68 | 5.00 |
| 中学校の先生が教えてくれる授業 | 2.26 | 3.07 | 1.40 | 2.39 | 2.11 | 3.04 | 2.06 | 1.90 |

※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

【中学生】

中学生の学校での授業や学習の好感度では、「とても好き」と「まあ好き」を合わせた『好き』の割合をみると、“コンピュータを使って調べる学習”が 82.4%と最も高く、次いで“先生が黒板を使って教えてくれる授業”が 80.7%、“友達と話し合う活動”が 79.6%、“先生が、タブレットやコンピュータを使う授業”が 77.6%、“観察や実験などの授業”が 76.2%の順となっている。

一方で、「あまり好きでない」と「まったく好きでない」を合わせた『好きでない』の割合をみると、“自分の考えを書いたりまとめたりする学習”や“考えたり調べたりしたことを発表する活動”で半数以上を占めており、その他の授業や学習に比べてやや高くなっている。



次に、指標化した学校での授業や学習の好感度を平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に好感度は上昇している。

特に、「先生が、タブレットやコンピュータを使う授業」では全学年で２点以上の上昇となっている。また、その他の授業や学習においても、「友達と話し合う活動」を除き、全学年で好感度が上昇している。

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 先生が黒板を使って教えてくれる授業 | 4.74 | 3.89 | 4.18 | 3.02 | 3.57 | 3.38 |
| 計算や漢字などの練習 | 1.94 | 1.27 | 1.47 | 0.31 | 1.30 | 0.93 |
| 自分でテーマを決めて調べる学習 | 1.03 | 0.57 | 0.45 | −1.18 | −0.32 | −1.38 |
| グループで考えたり、調べたりする学習 | 3.48 | 2.92 | 2.62 | 0.76 | 1.69 | 0.95 |
| コンピュータを使って調べる学習 | 6.32 | 5.72 | 5.27 | 4.71 | 4.60 | 3.94 |
| 見学やインタビューなど学校の外で調べる学習 | 3.87 | 2.77 | 2.97 | 1.13 | 1.46 | 0.50 |
| 観察や実験などの授業 | 5.22 | 4.51 | 4.32 | 3.62 | 3.36 | 3.23 |
| 友達と話し合う活動 | 5.82 | 5.55 | 4.81 | 3.85 | 3.83 | 4.27 |
| 自分の考えを書いたりまとめたりする学習 | 0.49 | −0.77 | 0.30 | −2.02 | −0.45 | −1.93 |
| 考えたり調べたりしたことを発表する活動 | −0.24 | −2.01 | −0.92 | −3.21 | −1.73 | −2.96 |
| 先生以外の人が勉強を教えてくれる学習 | 2.62 | 1.65 | 1.86 | 0.37 | 1.12 | 0.56 |
| 上級生や下級生といっしょに活動する学習 | 1.16 | 0.55 | 0.12 | −1.65 | −1.01 | −2.19 |
| 先生が、タブレットやコンピュータを使う授業 | 5.17 | 2.25 | 4.06 | 1.23 | 2.96 | 0.82 |

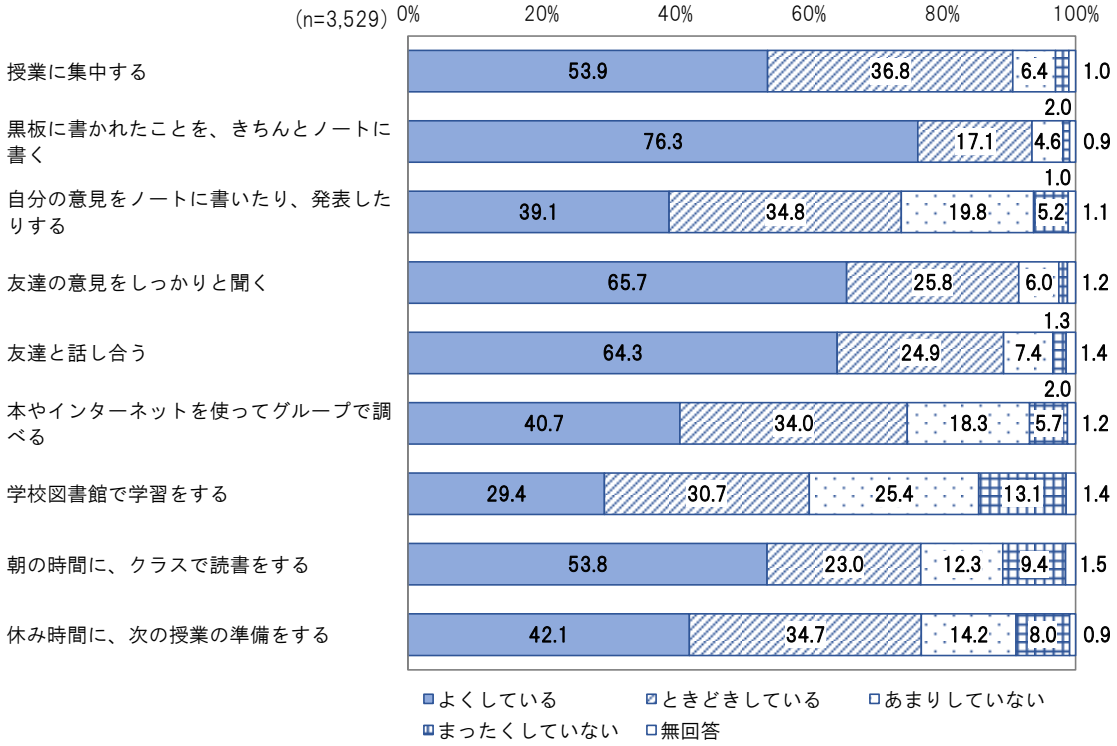
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

## 3）授業中に行っていること

【小学生】

小学生の授業中に行っていることでは、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、“黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く”が 93.4%と最も高く、次いで“友達の意見をしっかりと聞く”が 91.5%、“授業に集中する”が 90.7%の順となっている。

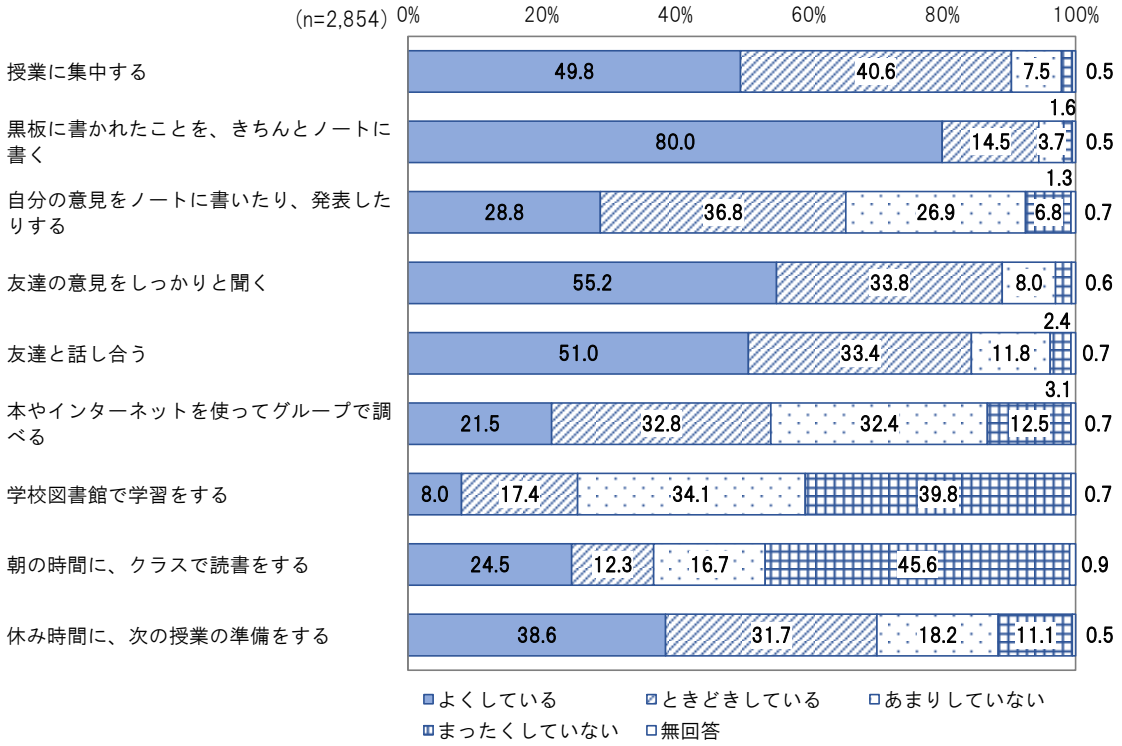
一方で、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた『していない』の割合をみると、“学校図書館で学習をする”で 38.5%と４割近くを占め、その他の項目に比べてやや高くなっている。



【中学生】

中学生の授業中に行っていることでは、「よくしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、“黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く”が 94.5%と最も高く、次いで“授業に集中する”が 90.4%、“友達の意見をしっかりと聞く”が 89.0%の順となっている。

一方で、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた『していない』の割合をみると、“学校図書館で学習をする”で 73.9%と 7 割以上を占め、その他の項目に比べて高くなっている。



次に、指標化した授業中に行っていることを平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、中学生では全体的に上昇しており、特に「自分の意見をノートに書いたり、発表したりする」や「本やインターネットを使ってグループで調べる」では全学年で３点前後の上昇となっている。

また、小学生においても全体的に上昇しているものの、「朝の時間に、クラスで読書をする」では小学３年生・小学５年生において、１点以上の低下がみられた。

| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 授業に集中する | 6.77 | 6.59 | 6.43 | 5.84 | 6.99 | 5.04 | 6.94 | 5.45 |
| 黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く | 8.19 | 8.25 | 8.10 | 7.83 | 8.07 | 7.75 | 8.55 | 8.17 |
| 自分の意見をノートに書いたり、発表したりする | 4.54 | 4.25 | 4.18 | 3.69 | 4.30 | 3.24 | 3.73 | 2.66 |
| 友達の意見をしっかりと聞く | 7.65 | 7.40 | 7.41 | 7.03 | 7.75 | 6.66 | 7.31 | 6.42 |
| 友達と話し合う | 6.99 | 7.12 | 7.17 | 7.17 | 7.45 | 6.50 | 7.22 | 6.39 |
| 本やインターネットを使ってグループで調べる | 3.55 | 2.26 | 5.28 | 4.73 | 3.80 | 4.30 | 4.65 | 4.24 |
| 学校図書館で学習をする | 3.66 | 4.62 | 2.87 | 3.82 | 0.90 | 0.80 | 0.28 | 0.58 |
| 朝の時間に、クラスで読書をする | 5.51 | 6.87 | 5.78 | 6.17 | 4.30 | 5.36 | 4.63 | 4.59 |
| 休み時間に、次の授業の準備をする | 5.27 | 4.41 | 4.43 | 3.82 | 4.53 | 2.45 | 3.71 | 3.16 |

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 授業に集中する | 6.50 | 4.74 | 6.48 | 3.72 | 6.55 | 4.90 |
| 黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く | 8.70 | 7.51 | 8.24 | 7.50 | 8.42 | 7.55 |
| 自分の意見をノートに書いたり、発表したりする | 3.09 | 0.18 | 2.26 | −1.11 | 2.78 | −0.70 |
| 友達の意見をしっかりと聞く | 7.02 | 5.10 | 6.40 | 3.30 | 6.38 | 4.05 |
| 友達と話し合う | 6.75 | 4.92 | 5.50 | 2.69 | 5.42 | 3.09 |
| 本やインターネットを使ってグループで調べる | 1.17 | −1.67 | 0.72 | −2.72 | 0.87 | −3.32 |
| 学校図書館で学習をする | −3.88 | −4.64 | −3.82 | −5.49 | −4.45 | −7.13 |
| 朝の時間に、クラスで読書をする | −1.11 | −1.53 | −1.96 | −3.33 | −4.08 | −6.21 |
| 休み時間に、次の授業の準備をする | 4.99 | 3.10 | 3.66 | 1.47 | 1.55 | 0.65 |

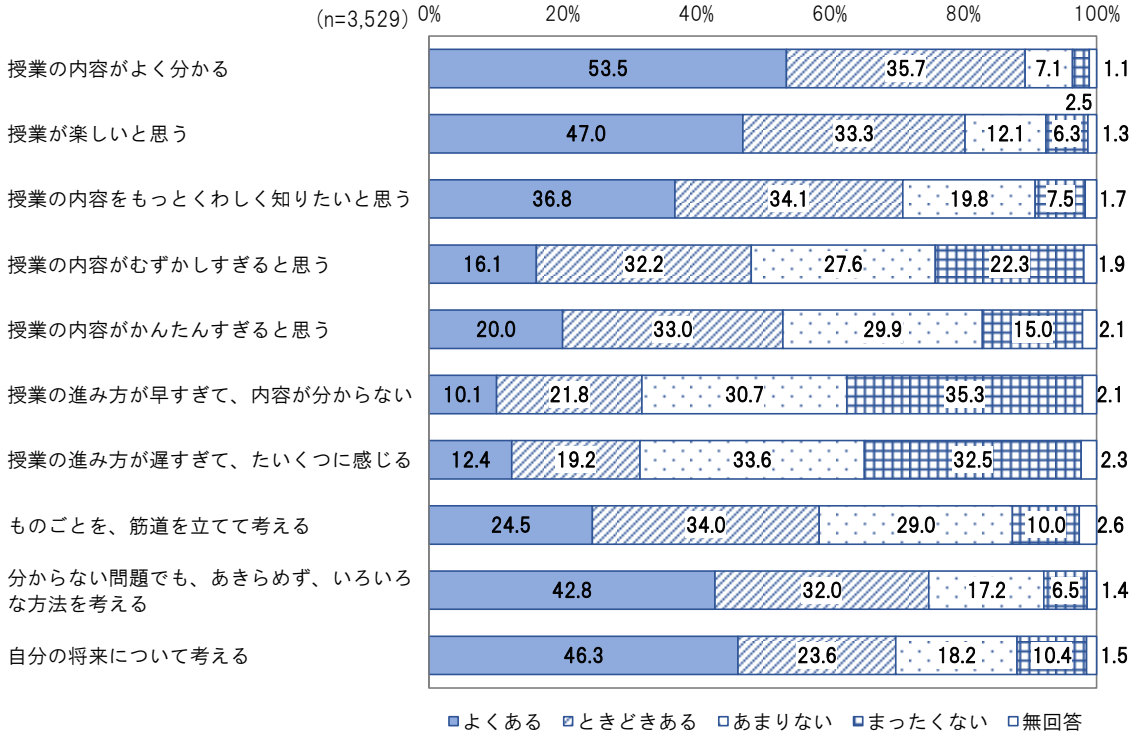
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

## 4）授業中に思ったり考えたりすること

【小学生】

小学生の授業中に思ったり考えたりすることでは、「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』の割合をみると、“授業の内容がよく分かる”が 89.2%と最も高く、次いで“授業が楽しいと思う”が 80.3%、“分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える”が 74.8%、“授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う”が 70.9%の順となっている。

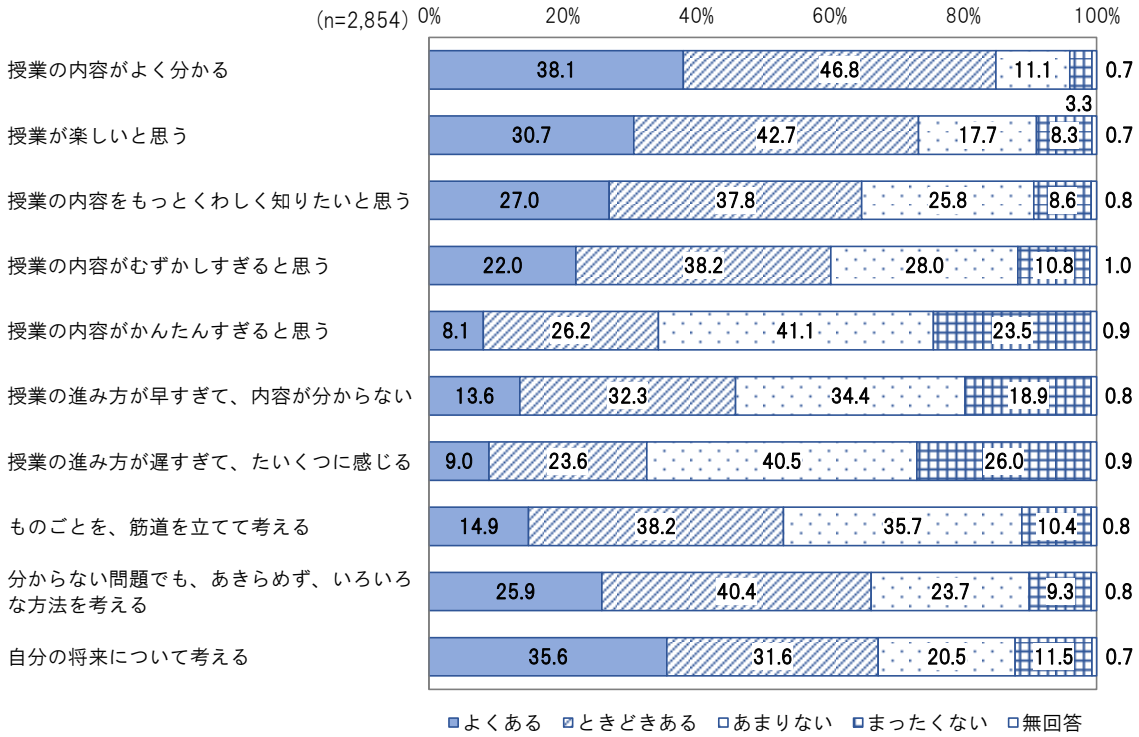
また、授業の内容については、“むずかしすぎる”と“かんたんすぎる”は同程度となっており、進み方でも“早すぎて、内容が分からない”と“遅すぎて、たいくつに感じる”が同程度となっている。



【中学生】

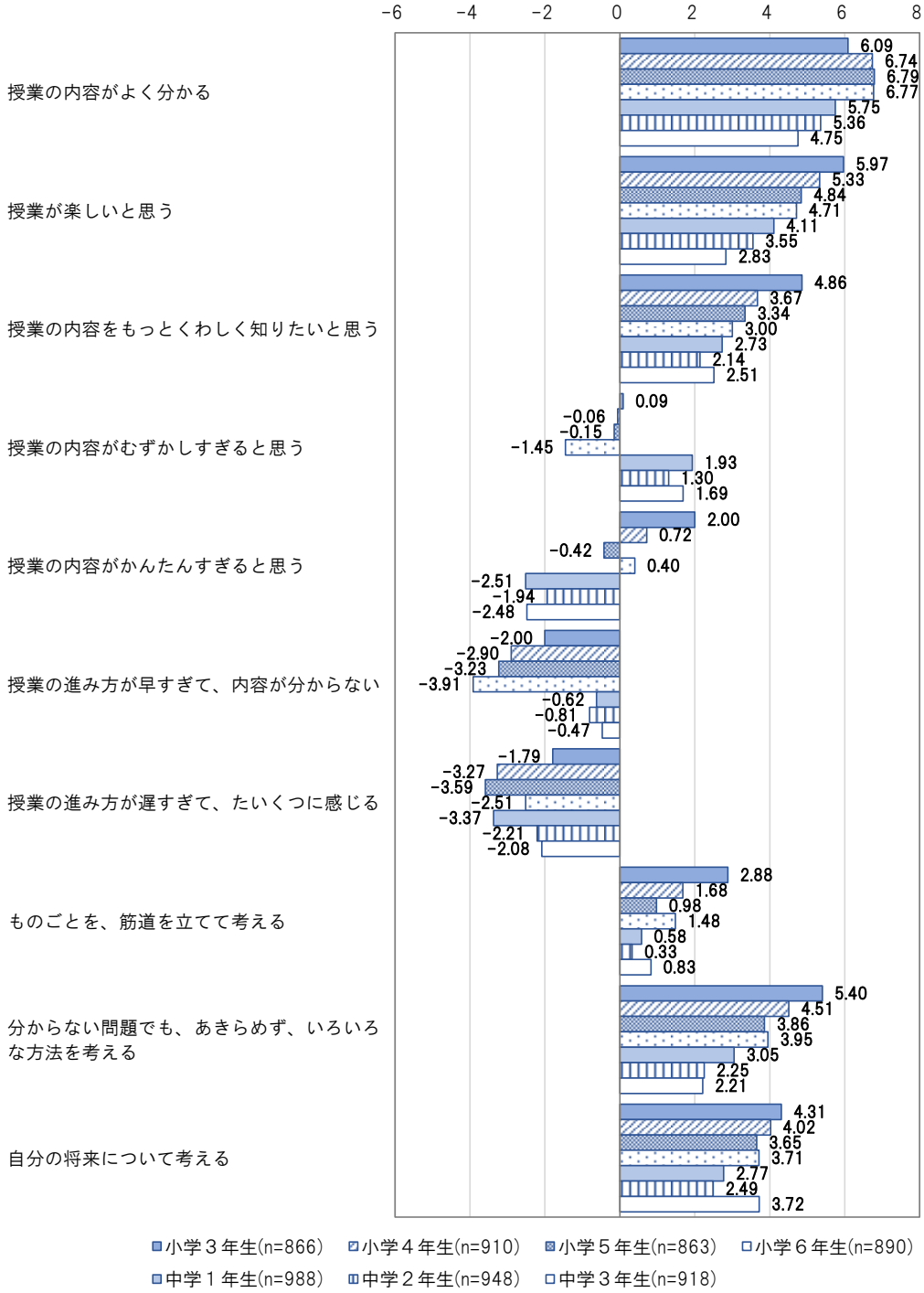
中学生の授業中に思ったり考えたりすることでは、「よくある」と「ときどきある」を合わせた『ある』の割合をみると、“授業の内容がよく分かる”84.9%と最も高く、次いで“授業が楽しいと思う”が73.4%、“自分の将来について考える”が67.2%、“分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える”が66.3%、“授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う”が64.8%の順となっている。

また、授業の内容については、“むずかしすぎる”と回答した生徒が多く、“かんたんすぎる”を25.9ポイント上回っている。同様に、進み方においても“早すぎて、内容が分からない”と回答した生徒が多く、“遅すぎて、たいくつに感じる”を13.3ポイント上回っている。



次に、授業中に思ったり考えたりすることを指標化して学年別に比較すると、概ね、学年が上がるにつれて点数が下がる傾向がみられ、特に「授業が楽しいと思う」や「分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える」では、小学３年生と中学３年生で３点以上の差がみられる。

また、授業の内容については小学生・中学生で大きな差があり、中学生になると「むずかしい」と感じる生徒が増加している。



次に、指標化した授業中に思ったり考えたりすることを平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、中学生では「ものごとを、筋道を立てて考える」や「分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える」において、全学年で１点以上の上昇となっている。

また、授業の内容や進み具合について、平成 26 年度調査で中学２年生の数値が低かった点は上昇傾向となっている。

| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 授業の内容がよく分かる | 6.09 | 6.48 | 6.74 | 6.68 | 6.79 | 6.17 | 6.77 | 6.35 |
| 授業が楽しいと思う | 5.97 | 5.60 | 5.33 | 5.03 | 4.84 | 4.61 | 4.71 | 3.60 |
| 授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う | 4.86 | 3.84 | 3.67 | 3.49 | 3.34 | 3.06 | 3.00 | 2.39 |
| 授業の内容がむずかしすぎると思う | 0.09 | −0.97 | −0.06 | −0.69 | −0.15 | −0.01 | −1.45 | −0.76 |
| 授業の内容がかんたんすぎると思う | 2.00 | 0.14 | 0.72 | 0.25 | −0.42 | −0.24 | 0.40 | −0.41 |
| 授業の進み方が早すぎて、内容が分からない | −2.00 | −2.46 | −2.90 | −2.45 | −3.23 | −2.95 | −3.91 | −3.28 |
| 授業の進み方が遅すぎて、たいくつに感じる | −1.79 | −2.95 | −3.27 | −2.35 | −3.59 | −1.66 | −2.51 | −2.23 |
| ものごとを、筋道を立てて考える | 2.88 | 2.36 | 1.68 | 1.92 | 0.98 | 0.56 | 1.48 | 0.70 |
| 分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える | 5.40 | 5.27 | 4.51 | 4.63 | 3.86 | 3.49 | 3.95 | 3.01 |
| 自分の将来について考える | 4.31 | 3.82 | 4.02 | 3.92 | 3.65 | 2.62 | 3.71 | 3.05 |

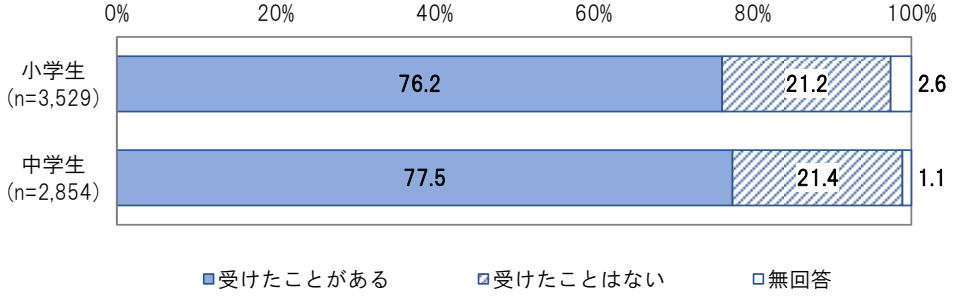
| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 授業の内容がよく分かる | 5.75 | 4.81 | 5.36 | 3.77 | 4.75 | 4.19 |
| 授業が楽しいと思う | 4.11 | 3.22 | 3.55 | 1.90 | 2.83 | 2.26 |
| 授業の内容をもっとくわしく知りたいと思う | 2.73 | 2.39 | 2.14 | 1.41 | 2.51 | 2.30 |
| 授業の内容がむずかしすぎると思う | 1.93 | 1.64 | 1.30 | 2.07 | 1.69 | 1.77 |
| 授業の内容がかんたんすぎると思う | −2.51 | −2.34 | −1.94 | −3.22 | −2.48 | −2.94 |
| 授業の進み方が早すぎて、内容が分からない | −0.62 | −0.92 | −0.81 | 0.23 | −0.47 | −0.15 |
| 授業の進み方が遅すぎて、たいくつに感じる | −3.37 | −2.82 | −2.21 | −2.63 | −2.08 | −2.58 |
| ものごとを、筋道を立てて考える | 0.58 | −0.52 | 0.33 | −1.34 | 0.83 | −0.80 |
| 分からない問題でも、あきらめず、いろいろな方法を考える | 3.05 | 1.55 | 2.25 | 0.40 | 2.21 | 0.90 |
| 自分の将来について考える | 2.77 | 2.58 | 2.49 | 1.42 | 3.72 | 2.71 |

※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。

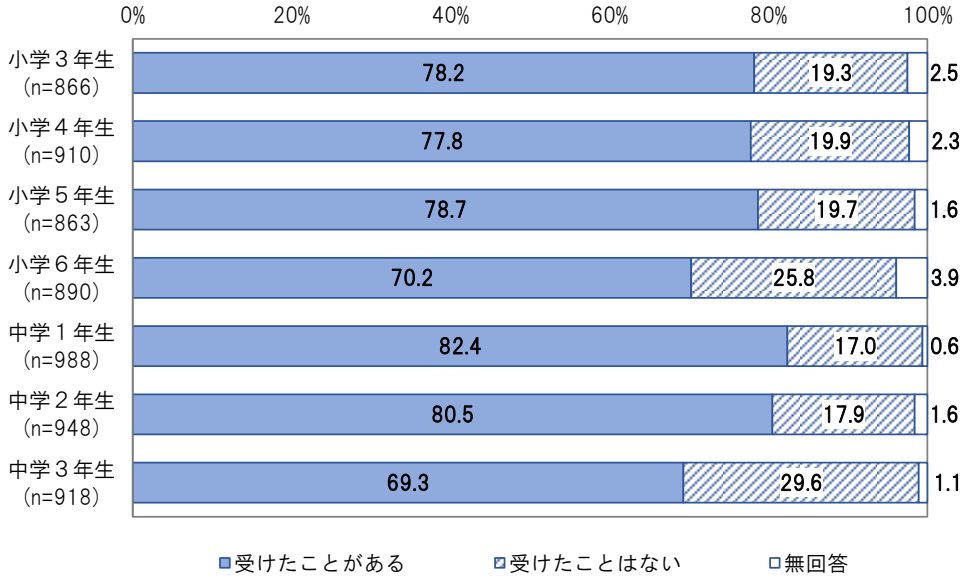
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

## 5）タブレットを使った授業

タブレットを使った授業については、小学生・中学生とも「受けたことがある」が７割以上を占め、「受けたことはない」は２割程度となっている。




学年別にみると、小学６年生・中学３年生で「受けたことがある」がやや低く、中学３年生では「受けたことはない」が約３割を占めている。

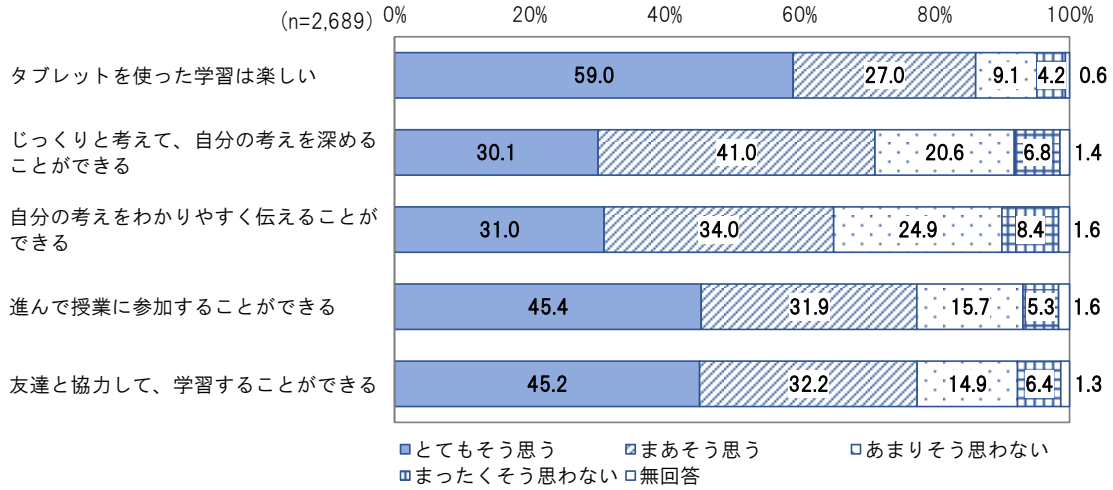


## 6）タブレットを使った授業を受けて思うこと

【小学生】

タブレットを使った授業を受けたことがある児童の、授業を受けて思うことは、すべての項目で「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が６割を超え、特に“タブレットを使った学習は楽しい”では８割を超えている。概ね、タブレットを使った授業は好意的に受け入れられている。

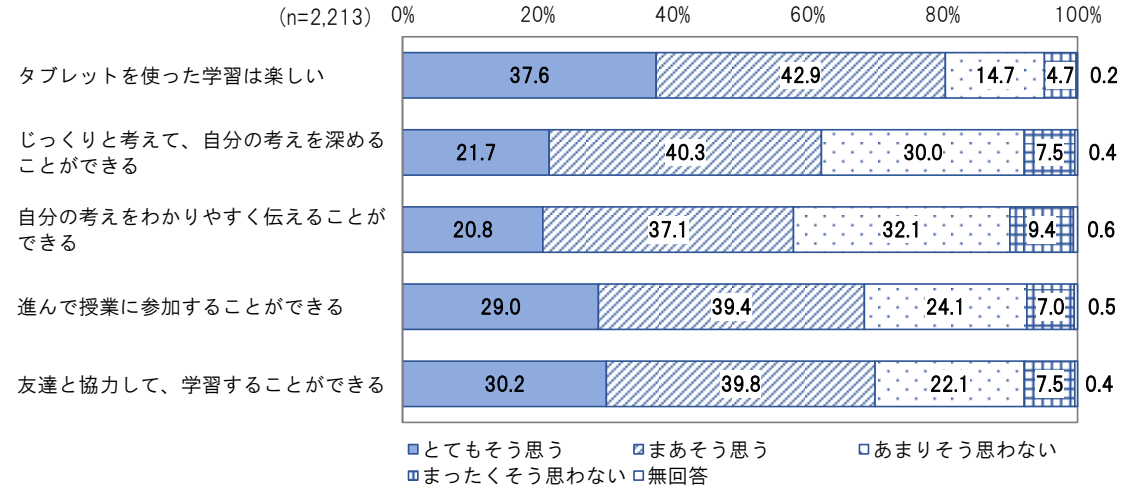
一方で、“自分の考えをわかりやすく伝えることができる”では、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』が３割を超え、他の項目に比べるとやや高くなっている。




【中学生】

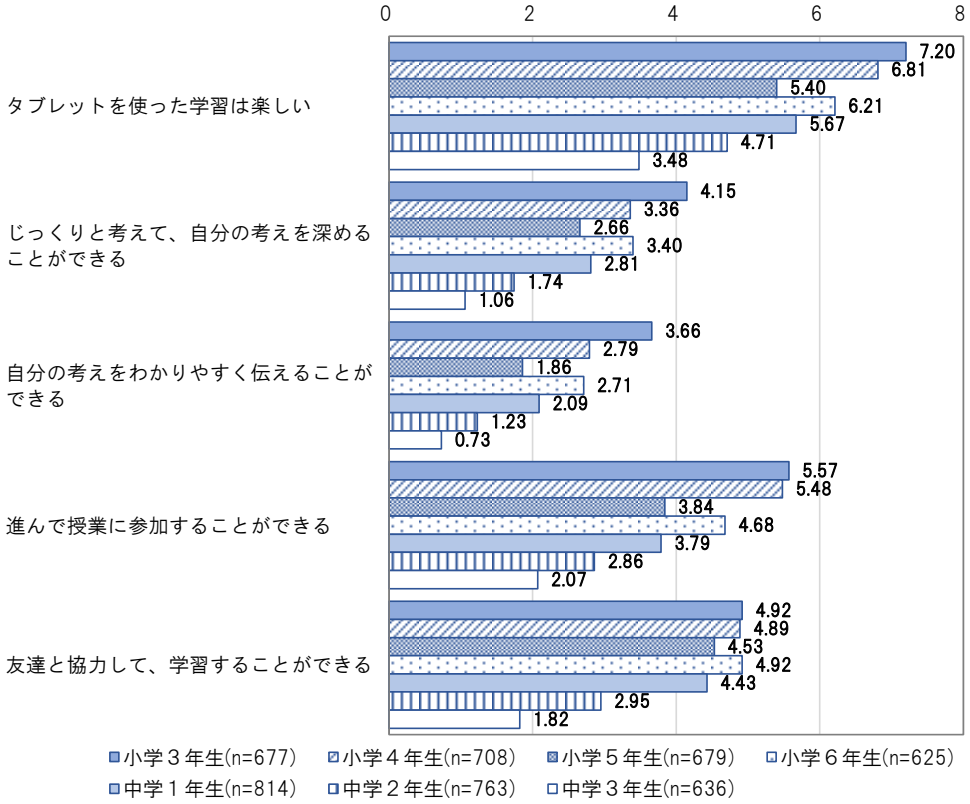
タブレットを使った授業を受けたことがある生徒の、授業を受けて思うことは、小学生と同様に、すべての項目で『そう思う』の割合が半数を超え、特に“タブレットを使った学習は楽しい”では約８割を占める。小学生と比較すると割合は低いものの、概ね、タブレットを使った授業は好意的に受け入れられている。

一方で、“自分の考えをわかりやすく伝えることができる”では、『そう思わない』が４割を超え、他の項目に比べるとやや高くなっている。



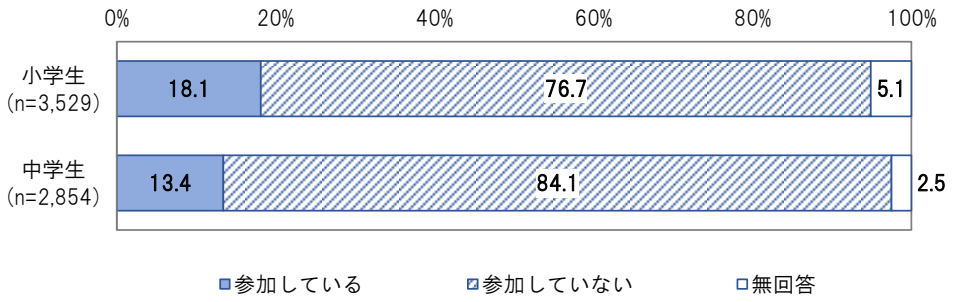
次に、タブレットを使った授業を受けて思うことを指標化して学年別に比較すると、概ね、学年が上がるにつれて点数が下がる傾向がみられ、中学３年生での評価が低くなっている。

小学３年生と中学３年生での点数の差をみると、「タブレットを使った学習は楽しい」が 3.72 点と最も大きく、次いで「進んで授業に参加することができる」が 3.50 点、「友達と協力して、学習することができる」が 3.10 点、「じっくりと考えて、自分の考えを深めることができる」が 3.09 点となっている。



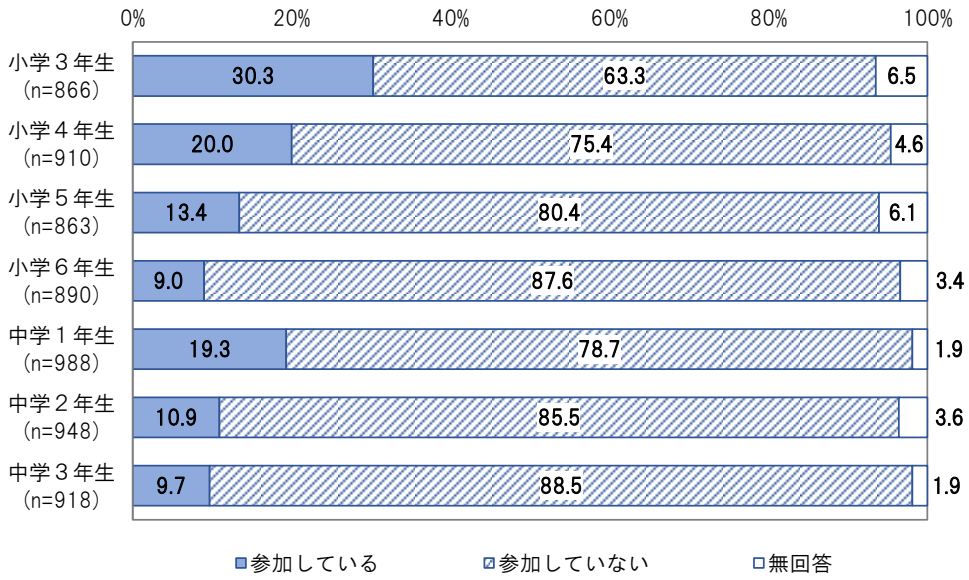
## 7）マイスタディへの参加

マイスタディへの参加は、小学生・中学生とも「参加していない」が大半を占め、参加率は、小学生では 18.1%、中学生では 13.4%となっている。




学年別にみると、小学生では３年生、中学生では１年生で「参加している」が高く、特に小学３年生では約３割の参加率となっている。

また、小学生・中学生ともに、学年が上がるにつれて参加率が減少する傾向がみられる。

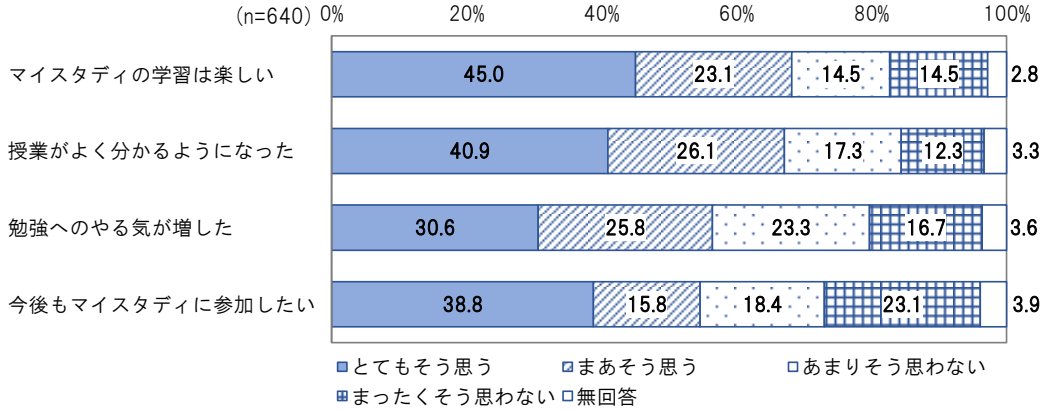


## 8）マイスタディに参加して思うこと

【小学生】

マイスタディに参加したことがある児童の、参加して思うことは、すべての項目で「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が半数を超え、特に“マイスタディの学習は楽しい”では７割近くを占めている。

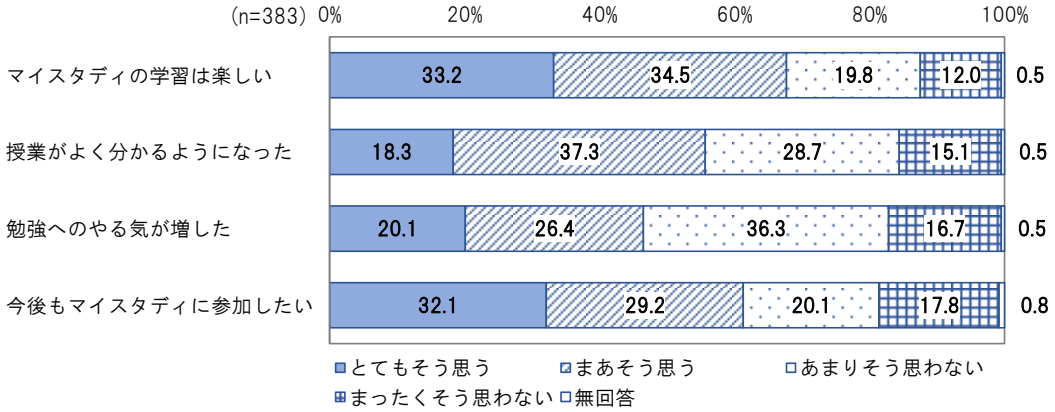
一方で、“今後もマイスタディに参加したい”では、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』が４割を超えている。




【中学生】

マイスタディに参加したことがある生徒の、参加して思うことは、“勉強へのやる気が増した”では『そう思わない』が半数を超えて、『そう思わない』が『そう思う』を上回っているものの、その他の項目では『そう思う』が『そう思わない』を上回っている。

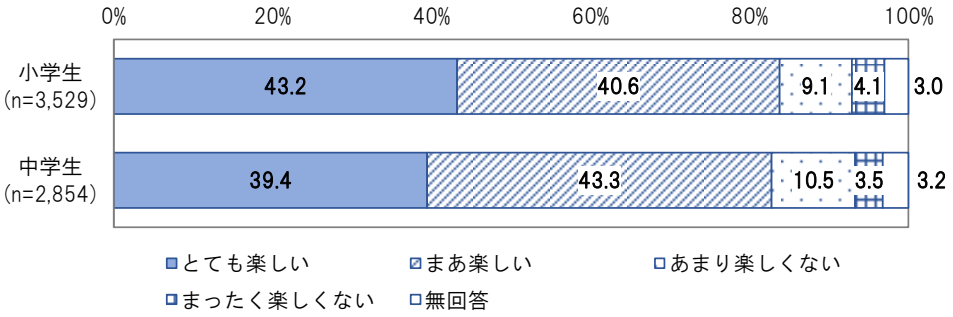
特に、“マイスタディの学習は楽しい”では『そう思う』が７割近くを占め、“今後もマイスタディに参加したい”においても６割以上を占めており、小学生に比べて参加者数は少ないが、参加している生徒には好意的に受け入れられている。



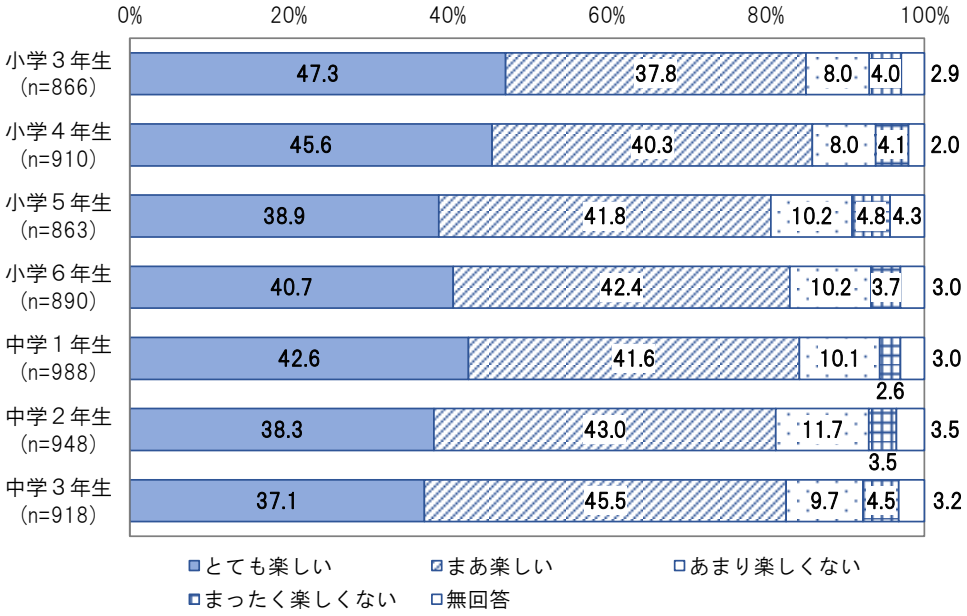
## （４）学校生活について

### １）学校に通うこと

学校に通うことについては、小学生では「とても楽しい」が 43.2％と最も高く、中学生では「まあ楽しい」が 43.3％と最も高くなっている。ともに「とても楽しい」と「まあ楽しい」を合わせた『楽しい』と回答した児童生徒が８割を超えている。




学年別にみると、『楽しい』と回答した割合をみると、すべての学年で８割を超えているものの、「とても楽しい」と回答した児童生徒の割合をみると、概ね学年が上がるにつれて低くなっており、小学生３年生では半数近くを占めているのに対し、中学３年生では 37.1％と、10.2 ポイントの差がみられる。

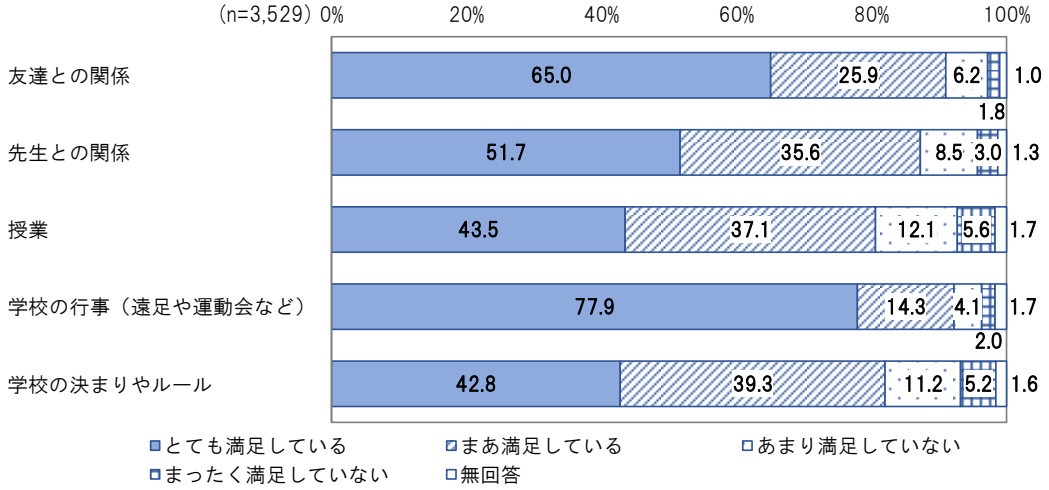


## 2）学校生活の満足度

【小学生】

小学生の学校生活の満足度は、すべての項目で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』の割合が８割以上を占め、特に“学校の行事（遠足や運動会など）”では 92.2%、“友達との関係”では 90.9%と、ともに９割以上を占めている。

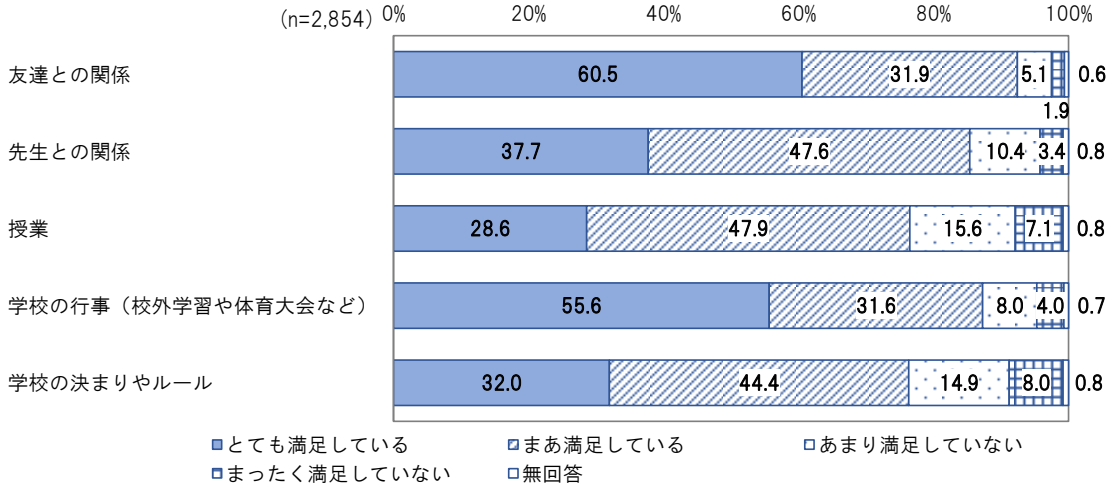
一方で、“授業”や“学校の決まりやルール”では、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」を合わせた『満足していない』が２割近くを占めている。




【中学生】

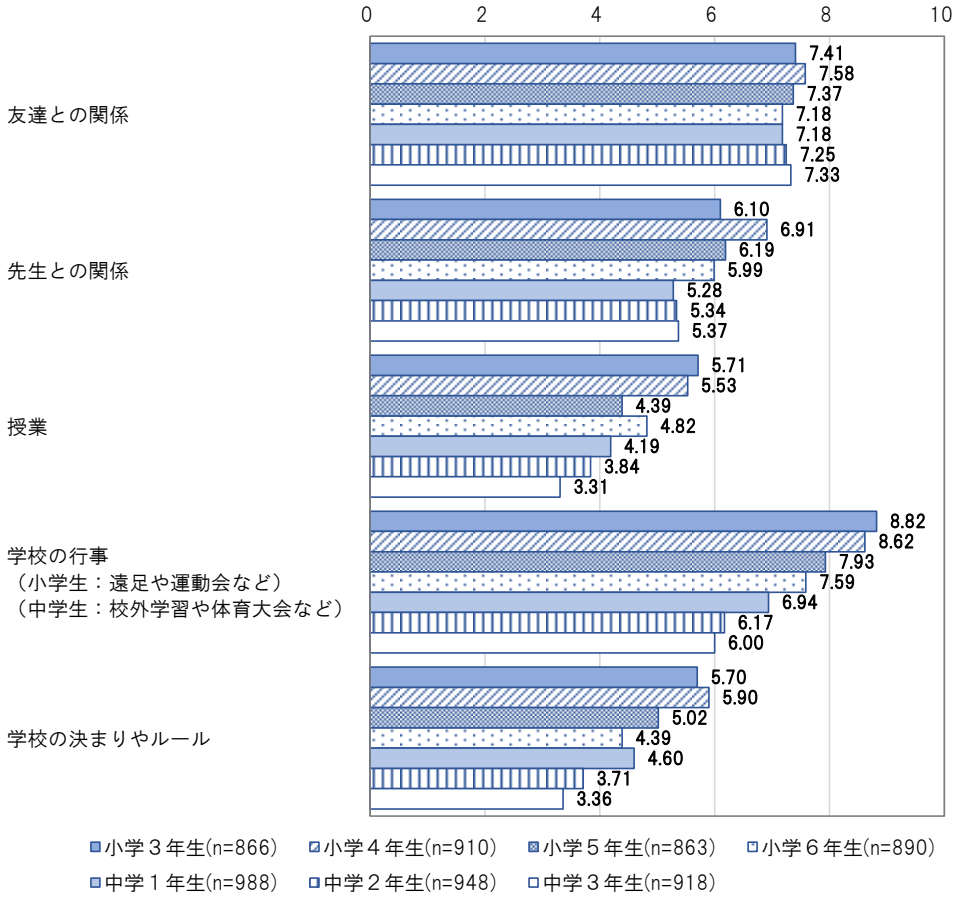
中学生の学校生活の満足度は、すべての項目で「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』の割合が７割以上を占め、特に“友達との関係”では 92.4%と９割以上を占め、その他の項目に比べて高くなっている。

一方で、“授業”や“学校の決まりやルール”では、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」を合わせた『満足していない』が２割以上を占めている。



次に、学校生活の満足度を指標化して学年別に比較すると、「友達との関係」では、学年での大きな差はみられないのに対し、「先生との関係」では小学生と中学生で差がみられる。

また、それ以外の「授業」や「学校の行事」、「学校の決まりやルール」では、概ね、学年が上がるにつれて点数が下がる傾向がみられ、特に「学校の行事」では、小学３年生と中学３年生で３点近くの差がみられる。

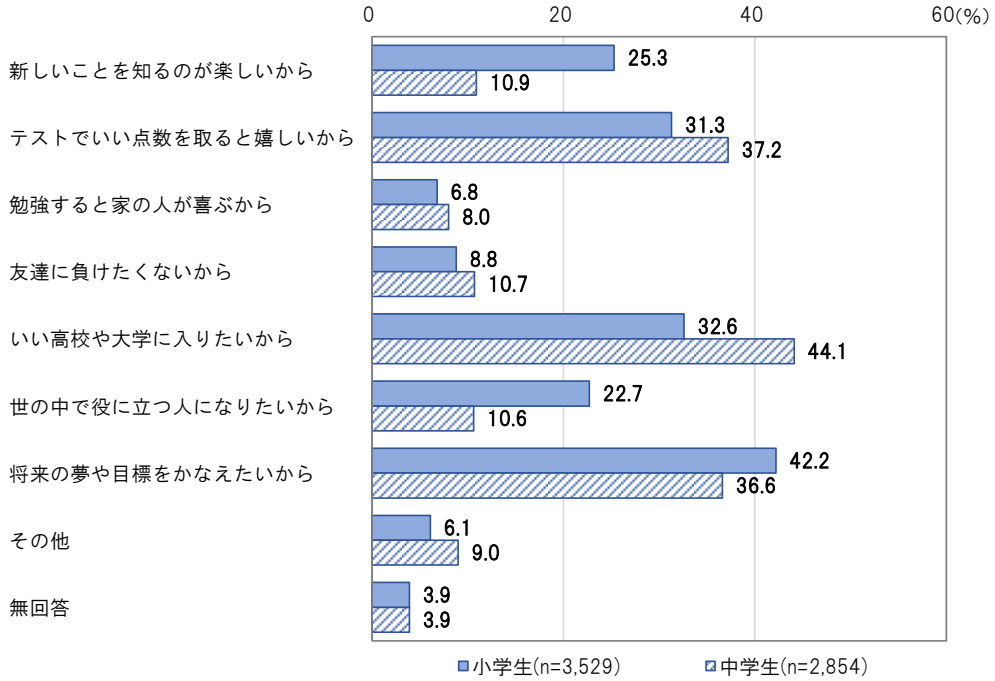


### 3）勉強する理由

勉強する理由は、小学生では「将来の夢や目標をかなえたいから」が 42.2%と４割以上を占めて最も高く、次いで「いい高校や大学に入りたいから」が 32.6%、「テストでいい点数を取ると嬉しいから」が 31.3%の順となっている。

中学生では「いい高校や大学に入りたいから」が 44.1%と４割以上を占めて最も高く、次いで「テストでいい点数を取ると嬉しいから」が 37.2%、「将来の夢や目標をかなえたいから」が 36.6%の順となっている。

また、小学生では「新しいことを知るのが楽しいから」や「世の中で役に立つ人になりたいから」が中学生に比べて 10 ポイント以上高く、中学生では「いい高校や大学に入りたいから」が小学生に比べて大幅に高くなっている。

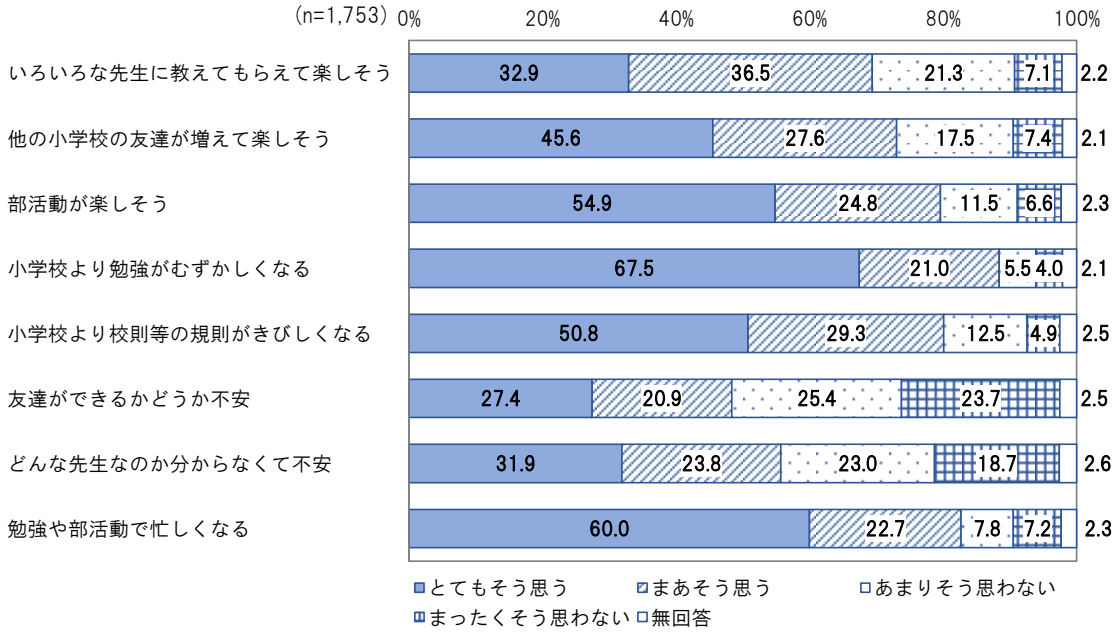


## ４）中学校の生活に対する期待・不安、中学校で感じること

### ①中学校の生活に対する期待・不安（小学５・６年生のみ）

小学５・６年生の中学校の生活に対する期待・不安では、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“小学校より勉強がむずかしくなる”が 88.5%と最も高く、次いで“勉強や部活動で忙しくなる”が 82.7%、“小学校より校則等の規則がきびしくなる”が 80.1%の順となっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“友達ができるかどうか不安”や“どんな先生なのか分からなくて不安”で４割を超えており、不安は低い傾向となっている。




次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学６年生で「部活動が楽しそう」が 1.50 点の上昇となっている。また、「友達ができるかどうか不安」や「どんな先生なのか分からなくて不安」で、多少点数が上昇していることから、平成 26 年度調査と比べると、不安に感じている児童が若干増えているが、全体的には大きな変化はみられない。

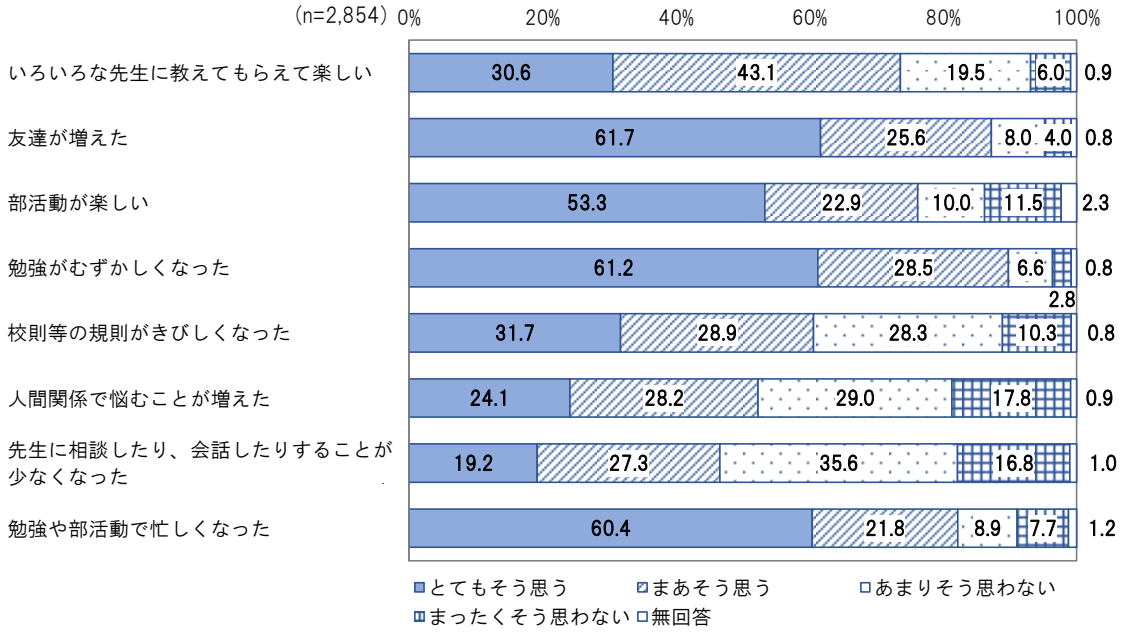
| | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| いろいろな先生に教えてもらえて楽しそう | 3.47 | 4.28 | 3.35 | 3.25 |
| 他の小学校の友達が増えて楽しそう | 4.38 | 4.88 | 4.46 | 4.50 |
| 部活動が楽しそう | 5.50 | 4.81 | 5.75 | 4.36 |
| 小学校より勉強がむずかしくなる | 7.14 | 7.71 | 7.40 | 7.62 |
| 小学校より校則等の規則がきびしくなる | 5.43 | 6.22 | 5.69 | 5.61 |
| 友達ができるかどうか不安 | 0.00 | -0.15 | 0.29 | 0.03 |
| どんな先生なのか分からなくて不安 | 1.22 | 0.95 | 1.57 | 0.70 |
| 勉強や部活動で忙しくなる（※1） | 5.94 | ― | 6.39 | ― |

※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。
※１：「勉強や部活動で忙しくなる」は令和元年度のみの項目。

### ②小学校と比べて中学校で感じること（中学生のみ）

小学校と比べて中学校で感じることでは、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“勉強がむずかしくなった”が 89.7%と最も高く、次いで“友達が増えた”が 87.3%、“勉強や部活動で忙しくなった”が 82.2%の順となっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“先生に相談したり、会話したりすることが少なくなった”では半数以上、“人間関係で悩むことが増えた”では４割以上となっている。




次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全学年で「部活動が楽しい」や「先生に相談したり、会話したりすることが少なくなった」で１点以上の上昇がみられた。

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| いろいろな先生に教えてもらえて楽しい | 4.20 | 3.75 | 3.34 | 2.00 | 3.46 | 2.92 |
| 友達が増えた | 6.94 | 6.77 | 6.22 | 5.84 | 6.94 | 6.68 |
| 部活動が楽しい（※1） | 5.78 | 4.51 | 4.82 | 2.60 | 4.17 | 2.78 |
| 勉強がむずかしくなった | 7.10 | 6.34 | 6.91 | 6.73 | 6.96 | 7.18 |
| 校則等の規則がきびしくなった | 2.92 | 3.03 | 2.74 | 2.06 | 0.84 | 0.72 |
| 先生に相談したり、会話したりすることが少なくなった | 0.40 | −1.36 | −0.63 | −1.91 | −0.33 | −2.43 |
| 勉強や部活動で忙しくなった（※2） | 6.25 | ― | 6.05 | ― | 5.63 | ― |

※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。
※１：平成 26 年度調査では「部活動に打ち込み、生活が充実した」として質問。
※２：「勉強や部活動で忙しくなった」は令和元年度のみの項目。

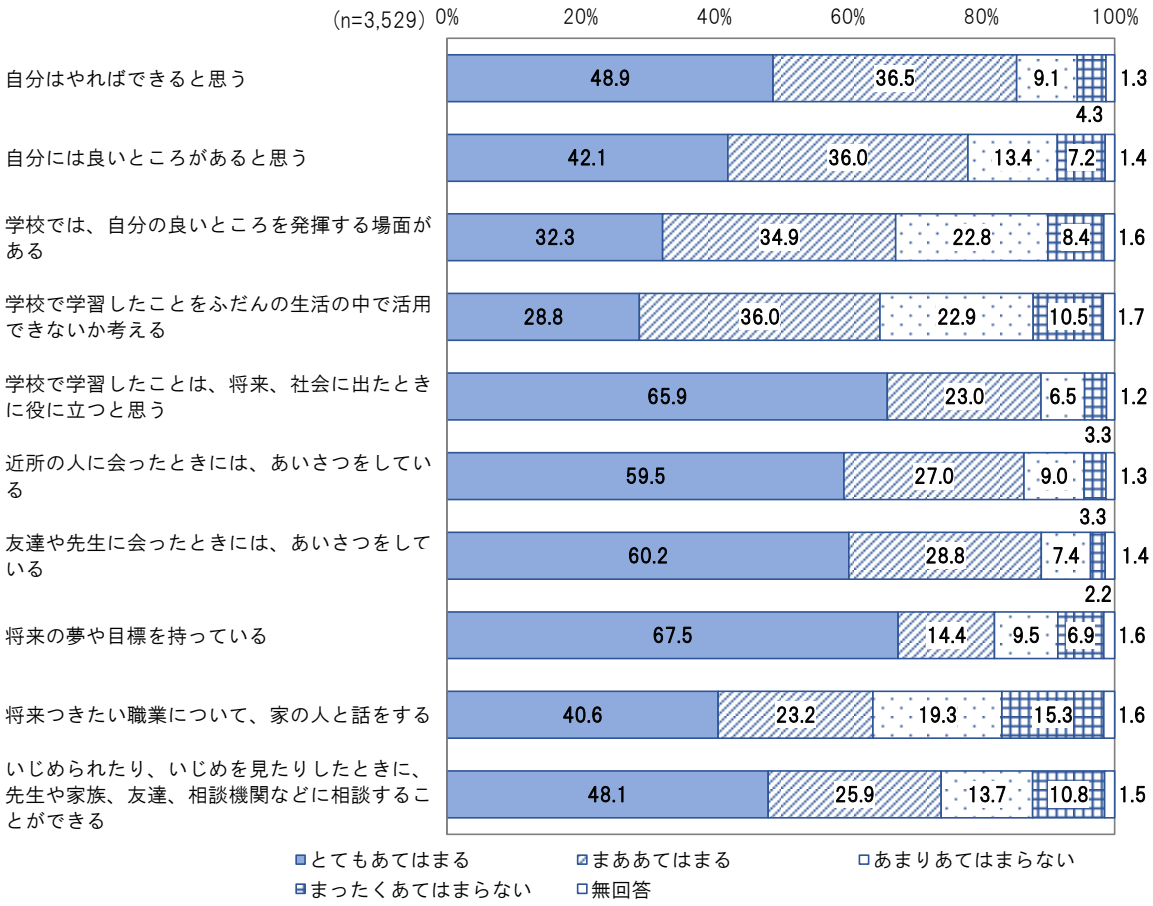
## （５）生活の中で感じていることや将来のことについて

### １）自分にあてはまること

【小学生】

小学生の自分にあてはまることでは、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“友達や先生に会ったときには、あいさつをしている”が 89.0%と最も高く、次いで“学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う”が 88.9%、“近所の人に会ったときには、あいさつをしている”が 86.5%、“自分はやればできると思う”が 85.4%の順となっている。

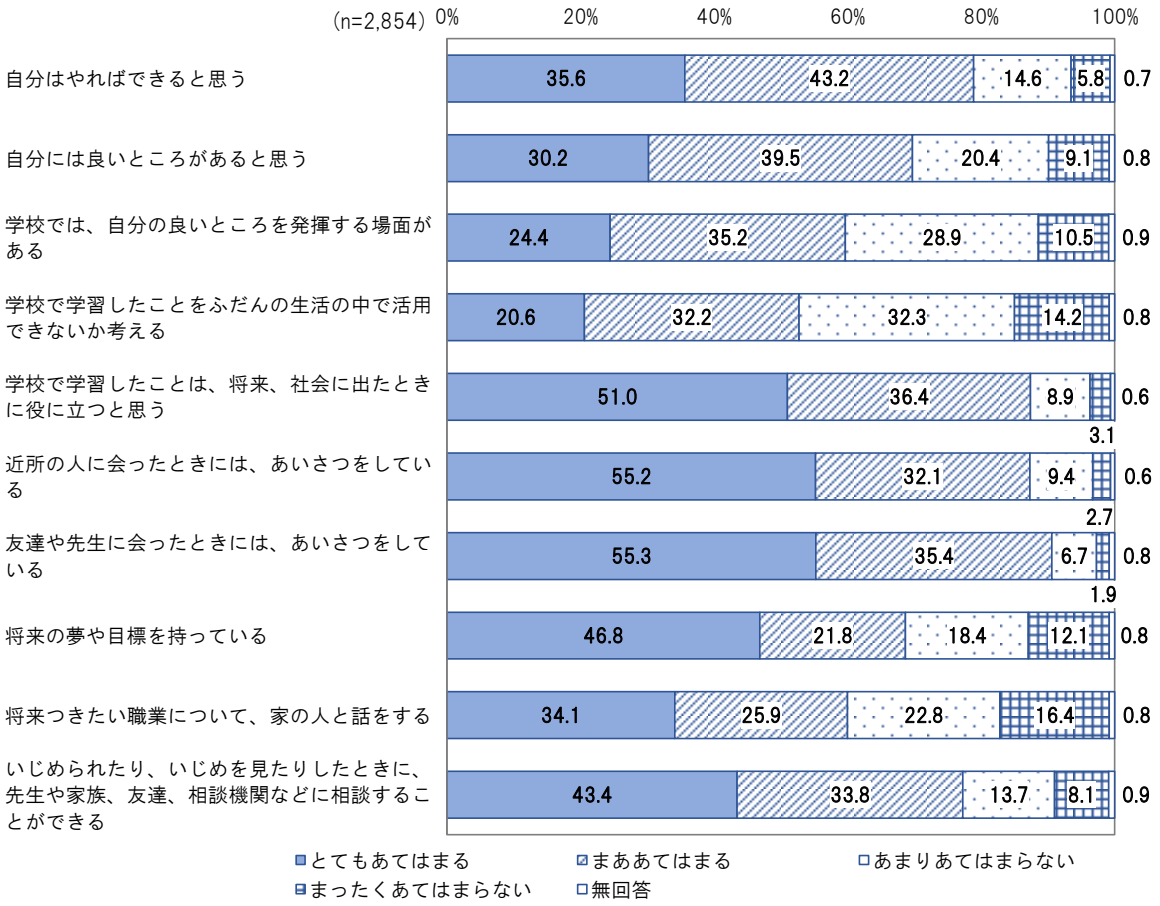
一方で、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“将来つきたい職業について、家の人と話をする”や“学校で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える”、“学校では、自分の良いところを発揮する場面がある”で３割を超え、やや高くなっている。



【中学生】

中学生の自分にあてはまることでは、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“友達や先生に会ったときには、あいさつをしている”が 90.7%と最も高く、次いで“学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う”が 87.4%、“近所の人に会ったときには、あいさつをしている”が 87.3%、“自分はやればできると思う”が 78.8%の順となっており、小学生と同様の傾向となっている。

一方で、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“学校で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える”では４割以上、“学校では、自分の良いところを発揮する場面がある”や“将来つきたい職業について、家の人と話をする”では約４割を占め、やや高くなっている。



次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に上昇がみられ、「自分には良いところがあると思う」や「学校では、自分の良いところを発揮する場面がある」、では全学年での上昇がみられた。

平成 26 年度調査で中学２年生の数値が低かったが、今回調査では全体的に上昇傾向となっている。

また、小学３年生・小学４年生で「学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」で１点以上の上昇がみられた。

| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 自分はやればできると思う | 6.47 | 6.37 | 6.35 | 5.66 | 5.53 | 4.72 | **5.28** | **4.12** |
| 自分には良いところがあると思う | 5.05 | 4.71 | **5.14** | 4.14 | **4.19** | **3.17** | **4.33** | **2.70** |
| 学校では、自分の良いところを発揮する場面がある | 3.30 | 2.67 | 3.45 | 2.53 | 2.59 | 1.78 | 2.84 | 1.90 |
| 学校で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える | 3.07 | 3.24 | 3.07 | 2.80 | 1.99 | 1.58 | 1.98 | 1.19 |
| 学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | **6.71** | **5.25** | **7.15** | **5.24** | 7.44 | — | 7.35 | — |
| 近所の人に会ったときには、あいさつをしている | 6.23 | 6.81 | 6.76 | 6.61 | 6.35 | 6.50 | 7.05 | 6.55 |
| 友達や先生に会ったときには、あいさつをしている | 6.68 | 6.76 | 7.16 | 6.51 | 6.71 | 6.71 | 7.33 | 6.73 |
| 将来の夢や目標を持っている | 7.01 | 6.81 | 6.81 | 6.87 | 6.07 | 5.83 | 5.72 | 5.64 |
| 将来つきたい職業について、家の人と話をする | 2.80 | 2.74 | 3.38 | 3.44 | 2.46 | 2.14 | 2.43 | 2.29 |
| いじめられたり、いじめを見たりしたときに、先生や家族、友達、相談機関などに相談することができる（※1） | 3.99 | — | 4.27 | — | 4.28 | — | 5.06 | — |

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 自分はやればできると思う | 4.68 | 3.79 | **4.24** | **2.73** | 4.38 | 3.61 |
| 自分には良いところがあると思う | **3.36** | **2.06** | **2.56** | **1.04** | **3.35** | **2.07** |
| 学校では、自分の良いところを発揮する場面がある | **1.88** | **0.58** | **1.50** | **-0.22** | **1.77** | **0.48** |
| 学校で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考える | 1.05 | 0.29 | **0.41** | **-1.16** | **0.45** | **-0.67** |
| 学校で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う | **6.79** | **5.05** | **6.18** | **3.73** | **5.59** | **3.33** |
| 近所の人に会ったときには、あいさつをしている | 6.73 | 6.15 | **6.43** | **4.97** | 6.08 | 5.57 |
| 友達や先生に会ったときには、あいさつをしている | **7.26** | **6.14** | **6.93** | **5.04** | 6.28 | 5.48 |
| 将来の夢や目標を持っている | 4.23 | 4.34 | 3.25 | 2.55 | 3.53 | 3.06 |
| 将来つきたい職業について、家の人と話をする | 1.75 | 1.55 | **1.70** | **0.30** | 2.40 | 2.24 |
| いじめられたり、いじめを見たりしたときに、先生や家族、友達、相談機関などに相談することができる（※1） | 4.86 | — | 4.61 | — | 4.25 | — |

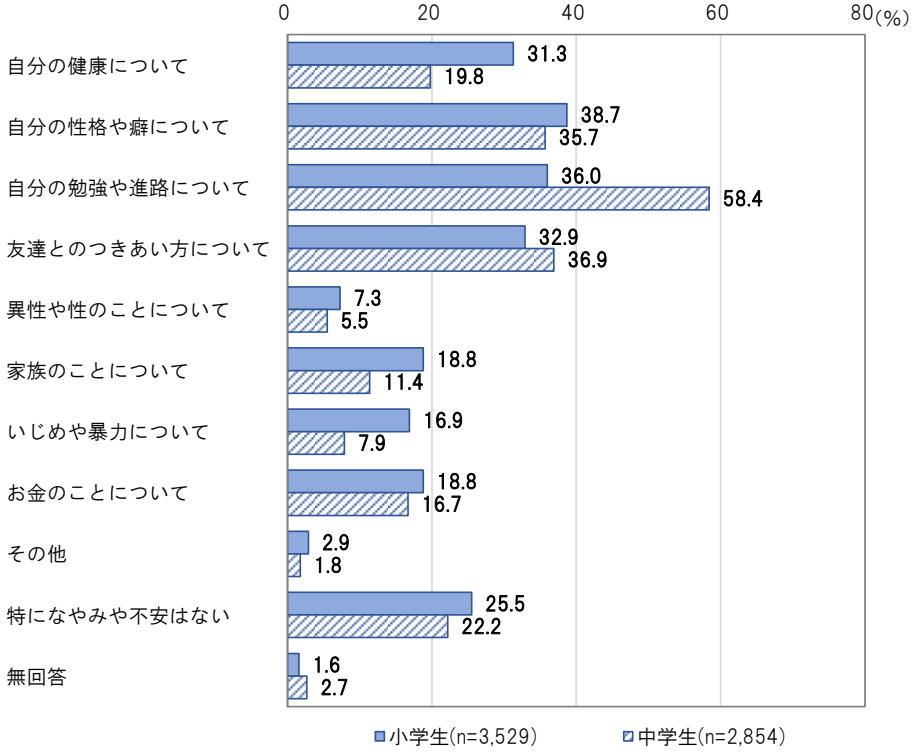
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。
※１：「いじめられたり、いじめを見たりしたときに、先生や家族、友達、相談機関などに相談することができる」は令和元年度のみの項目。

## 2）悩んだり不安になったりしたこと

悩んだり不安になったりしたことは、小学生では「自分の性格や癖について」が 38.7%と 4 割近くを占めて最も高く、次いで「自分の勉強や進路について」が 36.0%、「友達とのつきあい方について」が 32.9%、「自分の健康について」が 31.3%の順となっている。

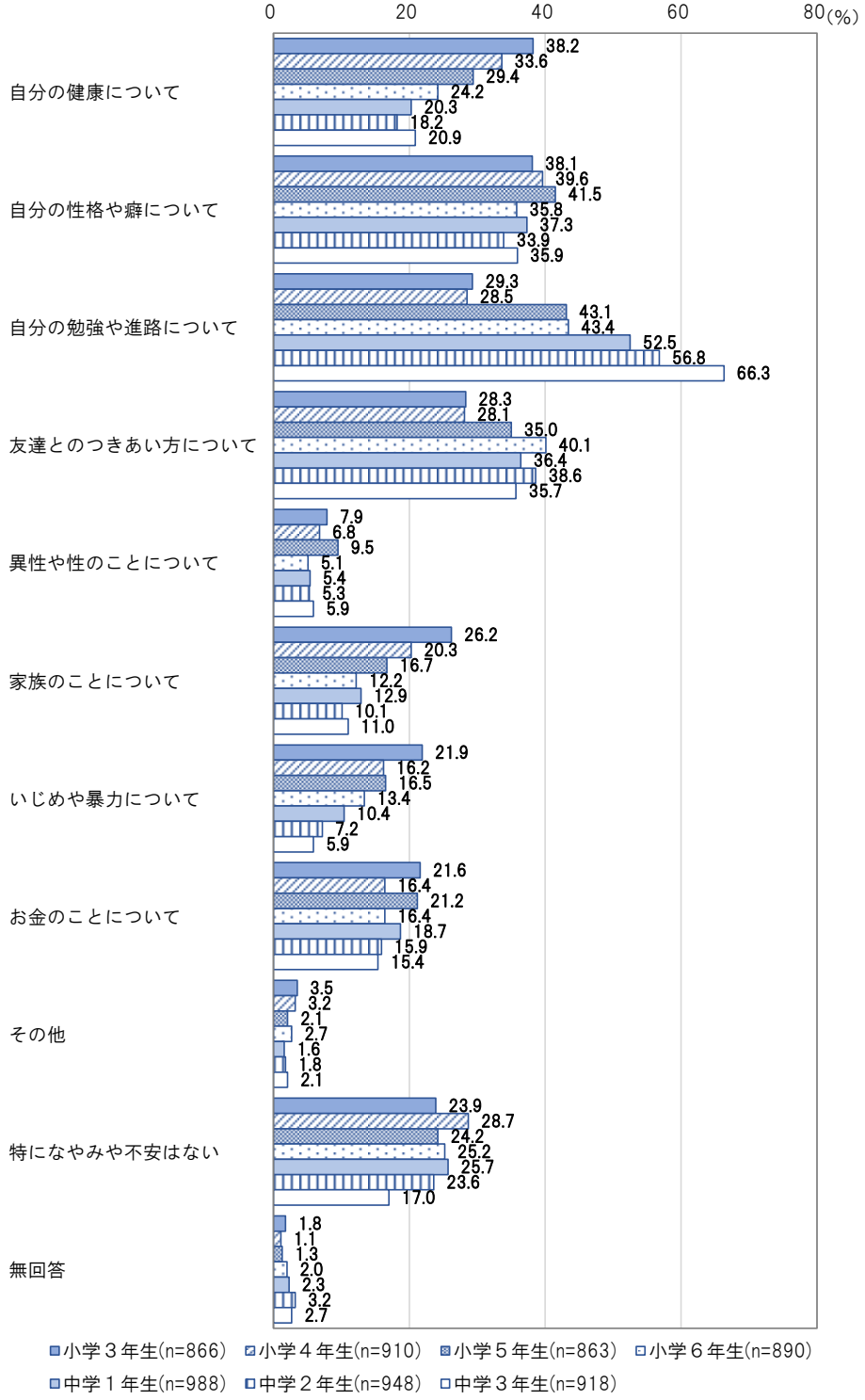
中学生では「自分の勉強や進路について」が 58.4%と 6 割近くを占め、その他の項目と比較しても突出して高くなっている。次いで「友達とのつきあい方について」が 36.9%、「自分の性格や癖について」が 35.7%の順となっている。

また、「自分の勉強や進路について」や「友達とのつきあい方について」以外の項目では、中学生に比べて小学生で高い割合となっている。



学年別にみると、「自分の勉強や進路について」では学年が上がるにつれて割合が上がる傾向にあり、小学３年生と中学３年生では 37.0 ポイントの差がみられる。

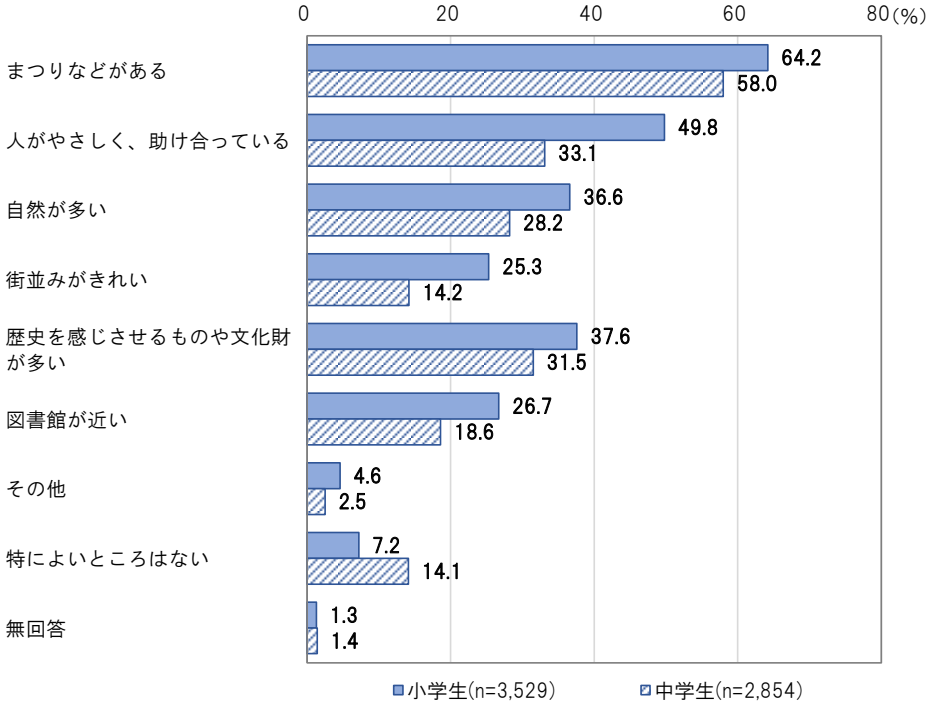
反対に、「自分の健康について」や「家族のことについて」、「いじめや暴力について」では学年が上がるにつれて割合が下がる傾向がみられた。



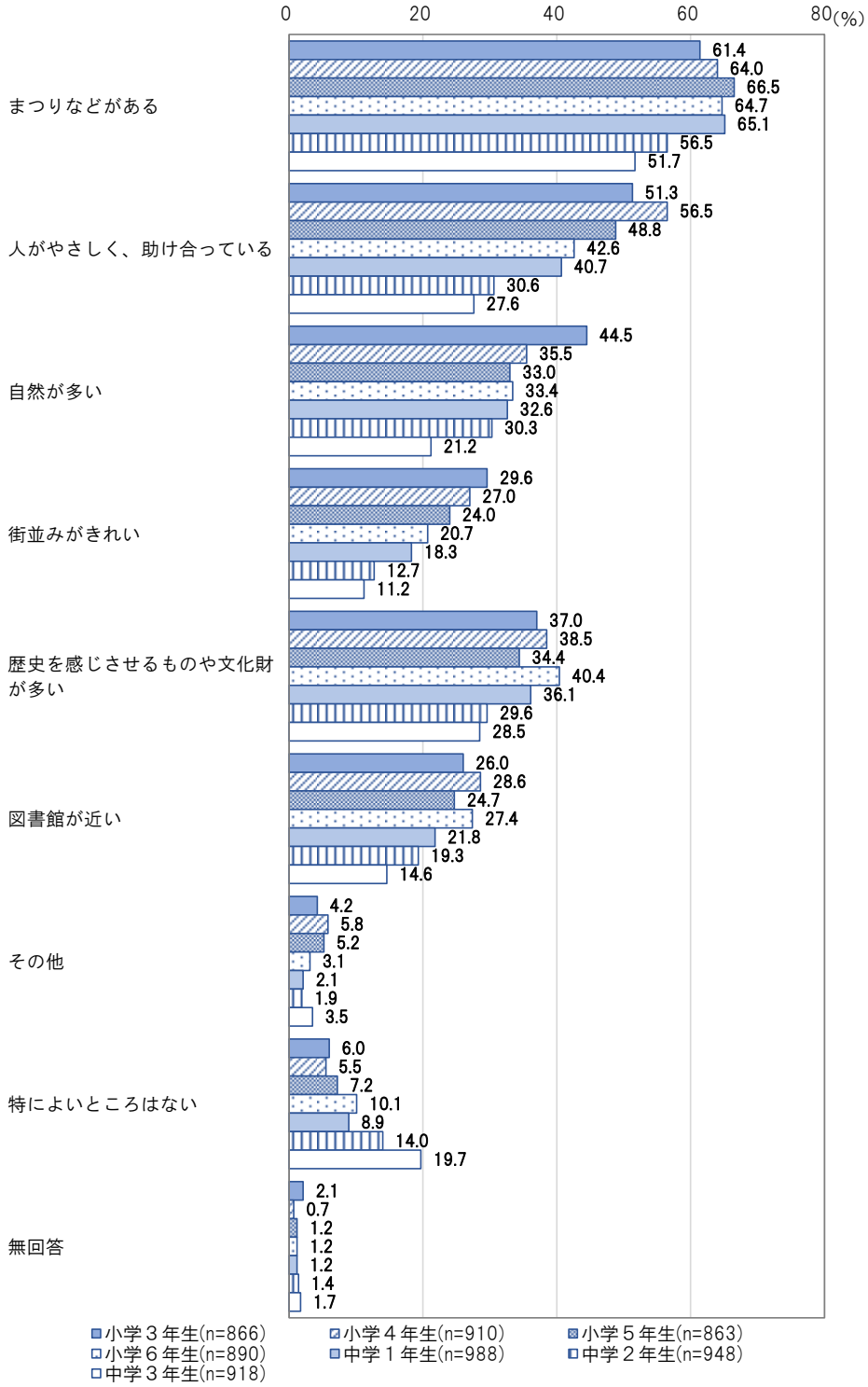
### 3）住んでいる町（校区）や堺市の良いところ

住んでいる町（校区）や堺市の良いところは、小学生・中学生ともに「まつりなどがある」が最も高く、次いで「人がやさしく、助け合っている」、「歴史を感じさせるものや文化財が多い」、「自然が多い」の順となっている。

また、すべての項目で小学生の回答割合が中学生の回答割合を上回っており、特に「人がやさしく、助け合っている」や「街並みがきれい」では 10 ポイント以上の差がみられる。



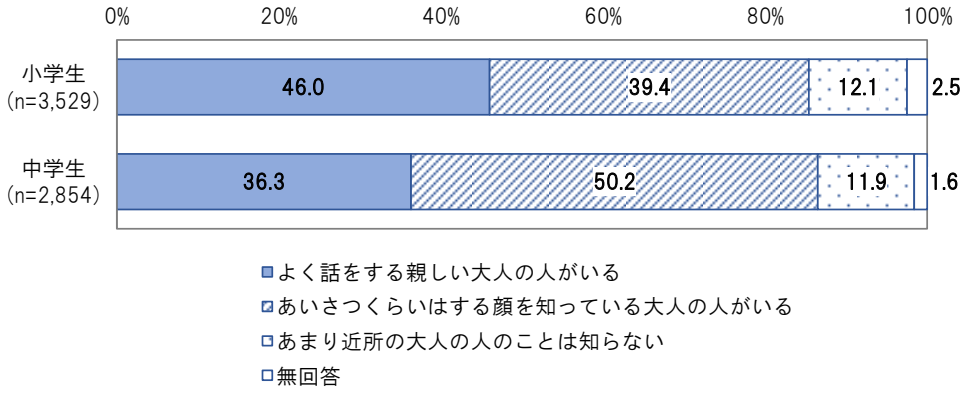
学年別にみると、学年が上がるにつれて割合が下がる傾向にあり、特に、「人がやさしく、助け合っている」や「自然が多い」では、小学３年生と中学３年生で 20 ポイント以上の差がみられる。



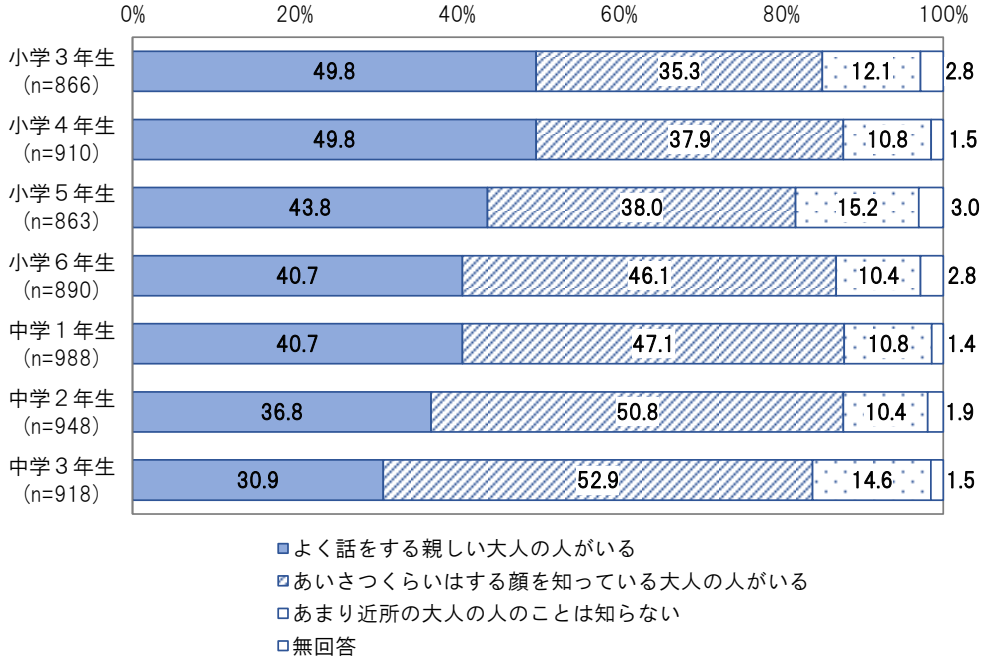
## ４）近所の大人について

近所の大人については、小学生では「よく話をする親しい大人の人がいる」が４割を超えて最も高くなっているのに対し、中学生では「あいさつくらいはする顔を知っている大人の人がいる」が約半数を占めている。

また、「あまり近所の大人の人のことは知らない」が、小学生・中学生ともに１割以上を占めている。




学年別にみると、学年が上がるにつれて、「よく話をする親しい大人の人がいる」の割合が減少し、「あいさつくらいはする顔を知っている大人の人がいる」の割合が増加しており、学年が上がるにつれて、近所の大人とのつきあいが減る傾向がみられた。

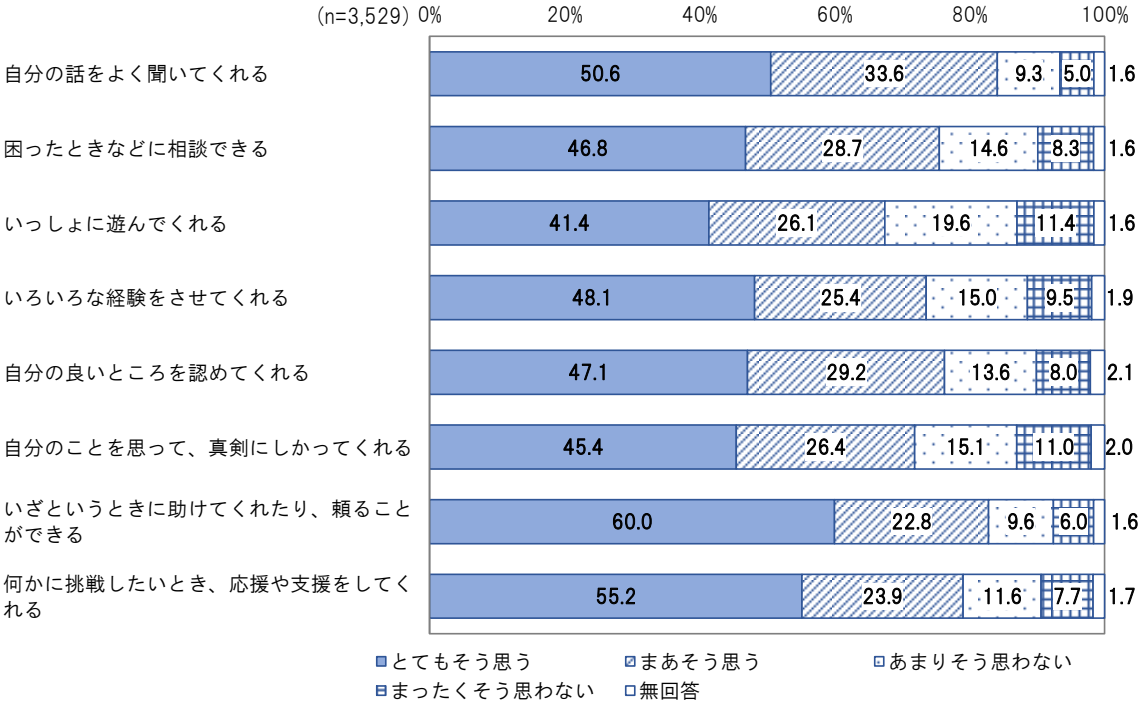


## 5）周りの大人に対して思っていること

【小学生】

小学生の周りの大人に対して思っていることは、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“自分の話をよく聞いてくれる”が 84.2%と最も高く、次いで“いざというときに助けてくれたり、頼ることができる”が 82.8%、“何かに挑戦したいとき、応援や支援をしてくれる”が 79.1%の順となっている。

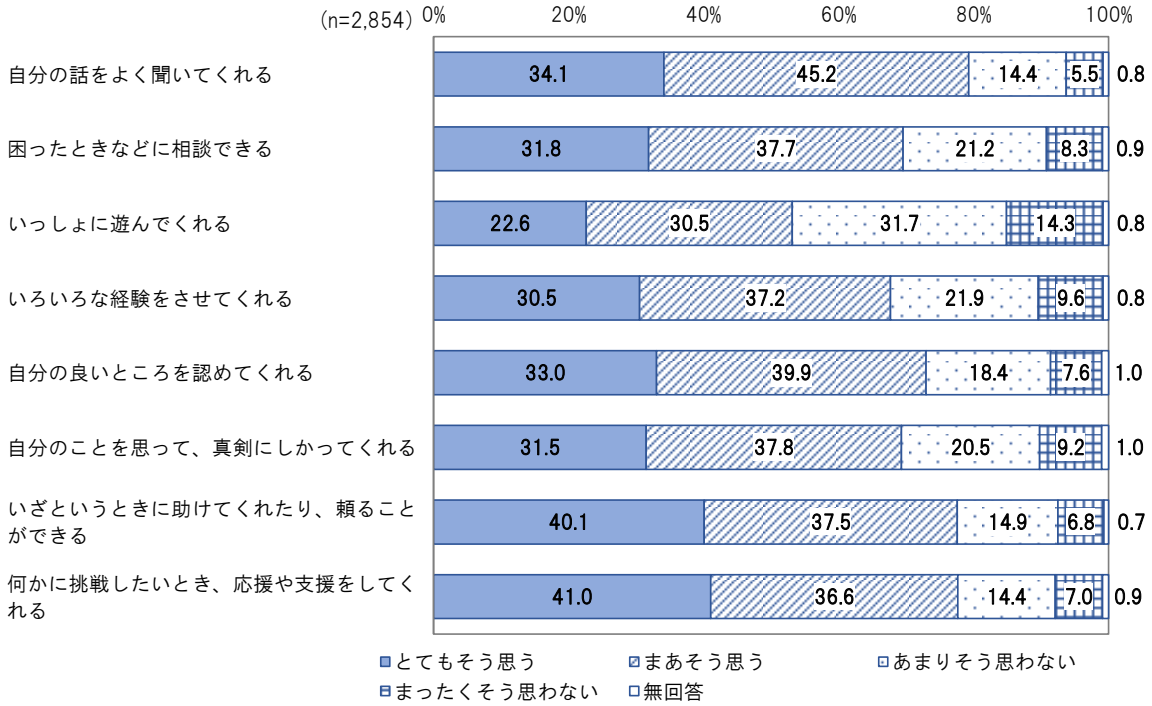
一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“いっしょに遊んでくれる”で３割を超え、やや高くなっている。



【中学生】

中学生の周りの大人に対して思っていることは、「とてもそう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“自分の話をよく聞いてくれる”が 79.3%と最も高く、次いで“いざというときに助けてくれたり、頼ることができる”及び“何かに挑戦したいとき、応援や支援をしてくれる”が 77.6%、“自分の良いところを認めてくれる”が 72.9%の順となっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合をみると、“いっしょに遊んでくれる”で４割以上、“いろいろな経験をさせてくれる”で３割以上を占め、やや高くなっている。



次に、指標化した周りの大人に対して思っていることを平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に上昇がみられ、特に小学６年生以上では大幅な上昇がみられた。

また、小学６年生・中学２年生では、すべての項目で上昇がみられ、特に「困ったときなどに相談できる」で大幅な上昇がみられた。

| | 小学３年生 | | 小学４年生 | | 小学５年生 | | 小学６年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 自分の話をよく聞いてくれる | 6.24 | 6.20 | 6.27 | 6.20 | 5.28 | 5.01 | 5.68 | 4.60 |
| 困ったときなどに相談できる | 5.19 | 4.74 | 5.03 | 4.66 | 3.79 | 3.23 | 4.48 | 2.48 |
| いっしょに遊んでくれる | 4.30 | 3.93 | 4.08 | 3.65 | 2.55 | 1.79 | 2.59 | 0.94 |
| いろいろな経験をさせてくれる | 5.06 | 4.60 | 4.79 | 5.15 | 3.74 | 3.22 | 4.25 | 2.95 |
| 自分の良いところを認めてくれる | 4.92 | 4.59 | 5.33 | 4.76 | 4.05 | 3.55 | 4.86 | 3.62 |
| 自分のことを思って、真剣にしかってくれる | 4.40 | 3.95 | 4.58 | 4.32 | 3.31 | 2.94 | 4.06 | 2.91 |
| いざというときに助けてくれたり、頼ることができる（※1） | 6.00 | 7.08 | 6.55 | 7.22 | 5.90 | 6.51 | 6.16 | 6.11 |

| | 中学１年生 | | 中学２年生 | | 中学３年生 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 | 令和元 | 平成 26 |
| 自分の話をよく聞いてくれる | 4.76 | 3.68 | 4.64 | 2.80 | 3.87 | 2.83 |
| 困ったときなどに相談できる | 3.48 | 2.12 | 3.30 | 0.66 | 2.80 | 1.07 |
| いっしょに遊んでくれる | 1.28 | 0.26 | 0.80 | −1.28 | 0.21 | −1.27 |
| いろいろな経験をさせてくれる | 3.31 | 2.30 | 2.80 | 0.89 | 2.51 | 0.89 |
| 自分の良いところを認めてくれる | 3.99 | 3.06 | 3.88 | 1.75 | 3.04 | 2.10 |
| 自分のことを思って、真剣にしかってくれる | 3.40 | 2.68 | 3.40 | 1.65 | 2.56 | 1.72 |
| いざというときに助けてくれたり、頼ることができる（※1） | 4.91 | 5.42 | 4.65 | 4.06 | 3.87 | 3.95 |

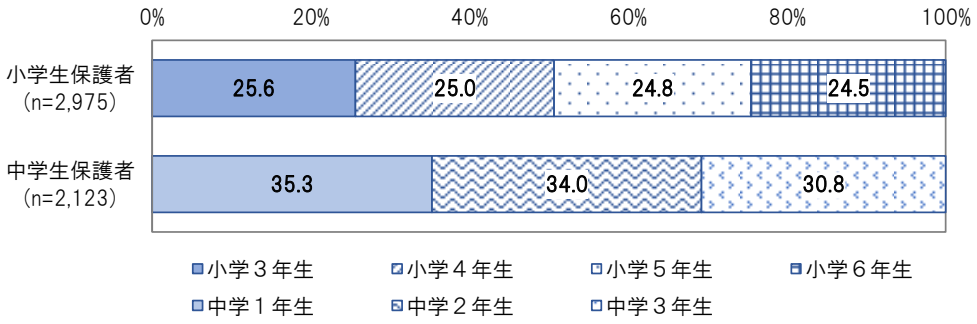
※：１点以上の差がみられる部分に色付け／上昇：太字＋濃い網掛け、低下：薄い網掛け。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。
※１：平成 26 年度調査では「自分の生活や安全を守ってくれる」として質問。

# 3　小中学生保護者調査の結果

## （１）回答者の属性

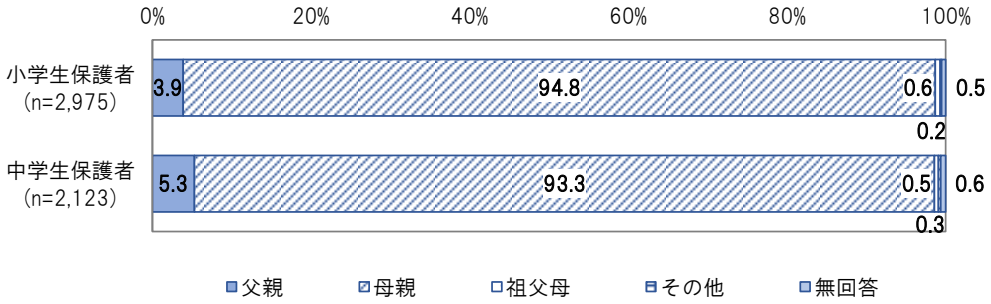
### １）子どもの学年

子どもの学年は、小学生保護者・中学生保護者とも、各学年でほぼ同程度の割合となっている。




### ２）回答者の続柄

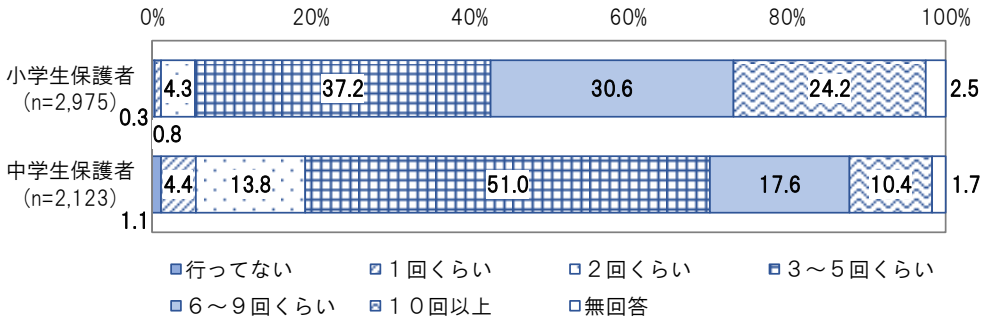
回答者の続柄は、小学生保護者・中学生保護者とも、「母親」が大半を占めている。



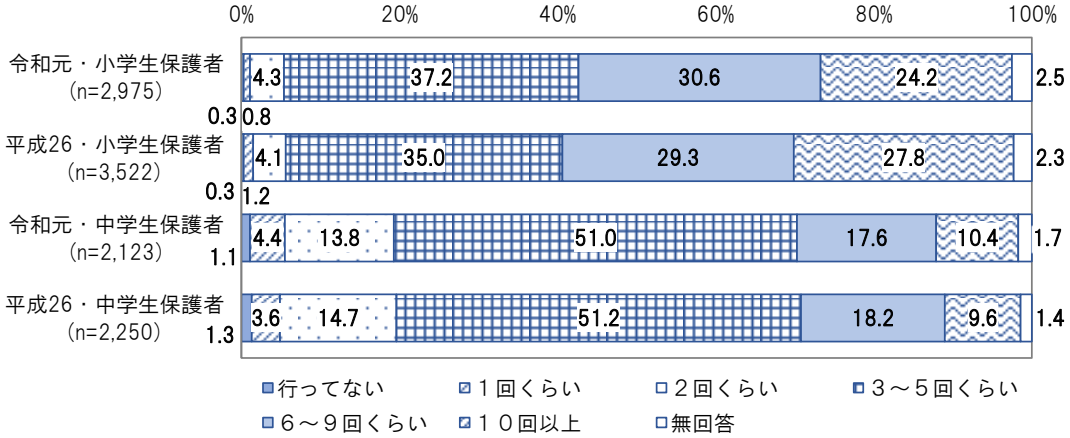
## （２）学校との関わりについて

### １）１年間で学校へ行った回数

この１年間に学校へ行った回数は、小学生保護者・中学生保護者とも「３～５回くらい」が最も高く、次いで「６～９回くらい」の順となっているものの、小学生保護者では「10 回以上」が 24.2%と２割以上を占めており、中学生保護者に比べて学校への訪問頻度が高くなっている。

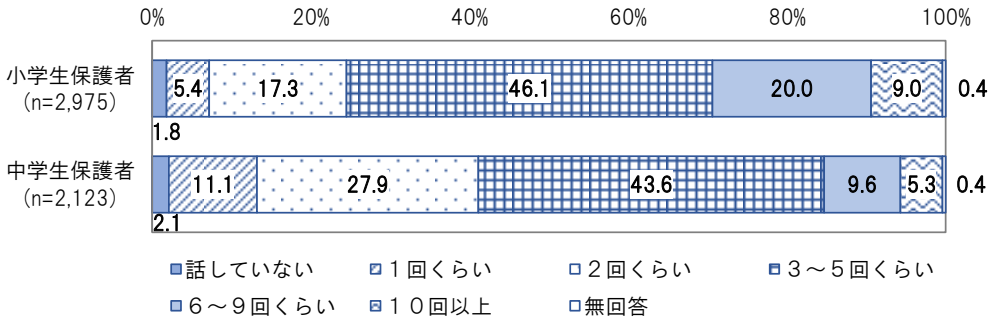



次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学生保護者では「10 回以上」がやや減少しているものの、小学生保護者・中学生保護者とも大きな変化はみられない。

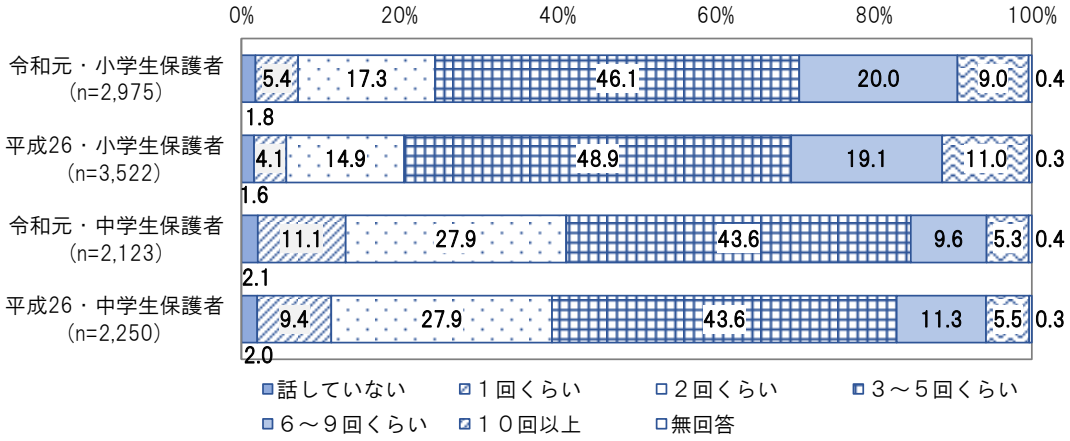


## ２）１年間で担任教員と話した回数

この１年間で担任教員と話した回数は、小学生保護者・中学生保護者とも「３～５回くらい」が最も高く、次いで、小学生保護者では「６～９回くらい」となっているのに対し、中学生保護者では「２回くらい」となっている。また、小学生保護者では「10 回以上」が 9.0％と約１割を占めており、中学生保護者に比べて担当教員との会話頻度が高くなっている。



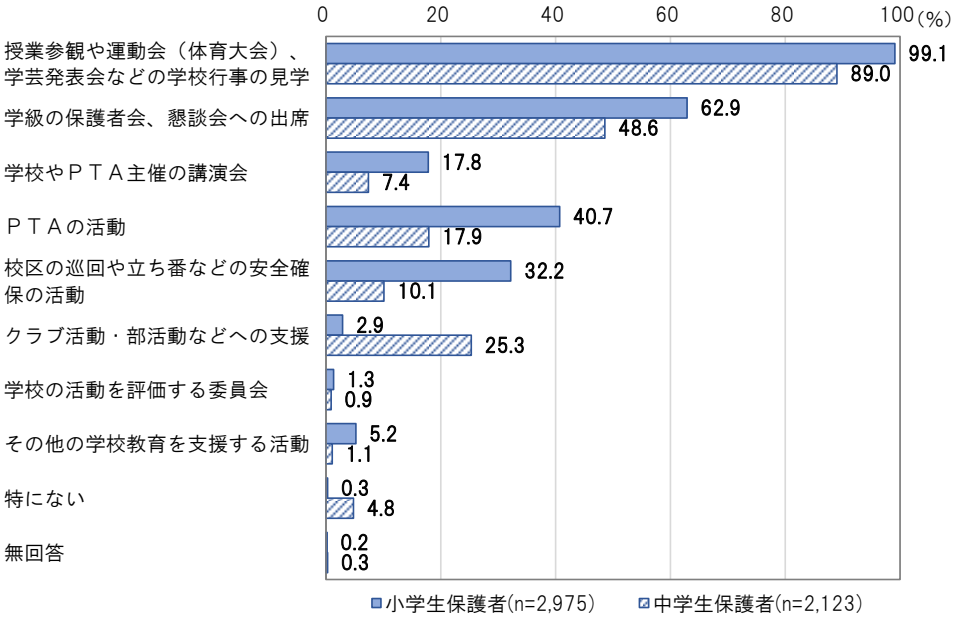

次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学生保護者・中学生保護者とも『３回以上』がやや減少傾向となっているものの、小学生保護者・中学生保護者とも大きな変化はみられない。



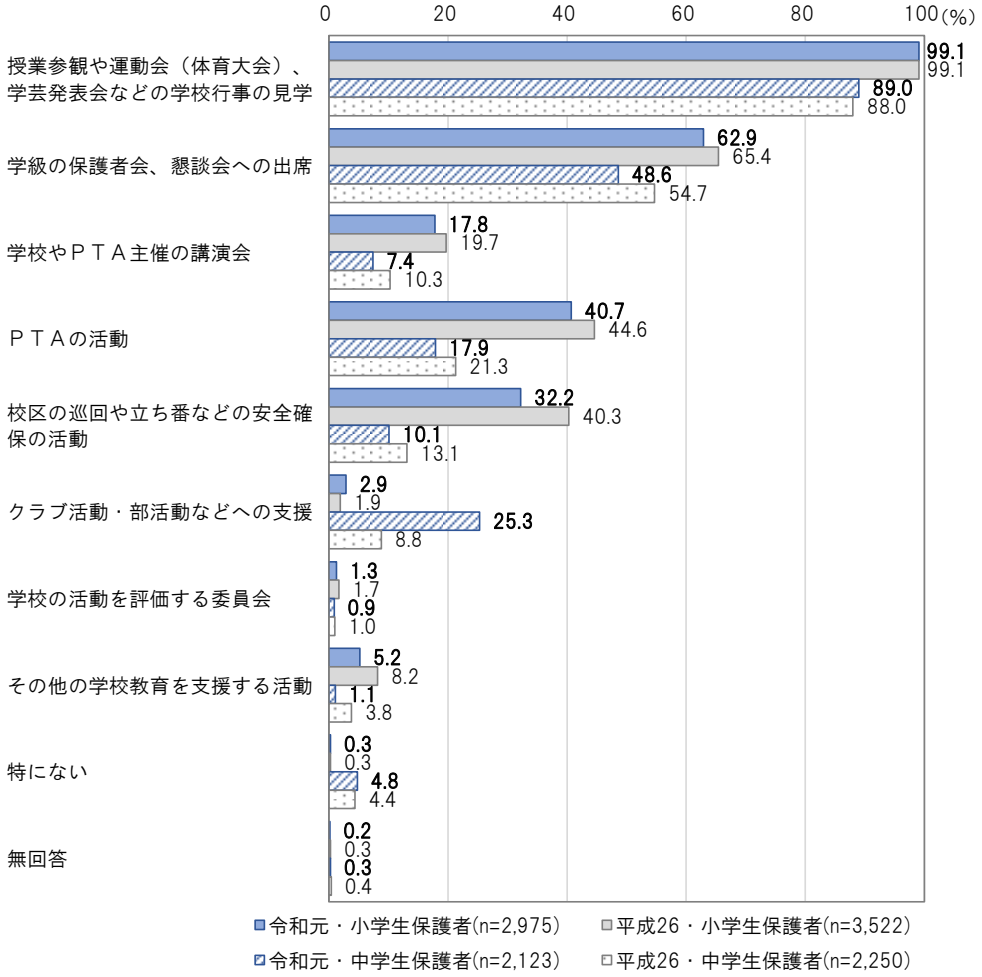
### 3）今までに出席や参加した行事・活動

今までに出席や参加した行事・活動は、小学生保護者・中学生保護者とも「授業参観や運動会（体育大会）、学芸発表会などの学校行事の見学」が最も高く、次いで「学級の保護者会、懇談会への出席」が高くなっている。

また、ほぼすべての項目で小学生保護者が中学生保護者よりも高い割合となっており、特に、「ＰＴＡの活動」や「校区の巡回や立ち番などの安全確保の活動」で 20 ポイント以上の差がみられる。一方で、中学生保護者では「クラブ活動・部活動などへの支援」で小学生保護者に比べて 20 ポイント以上の差がみられる。



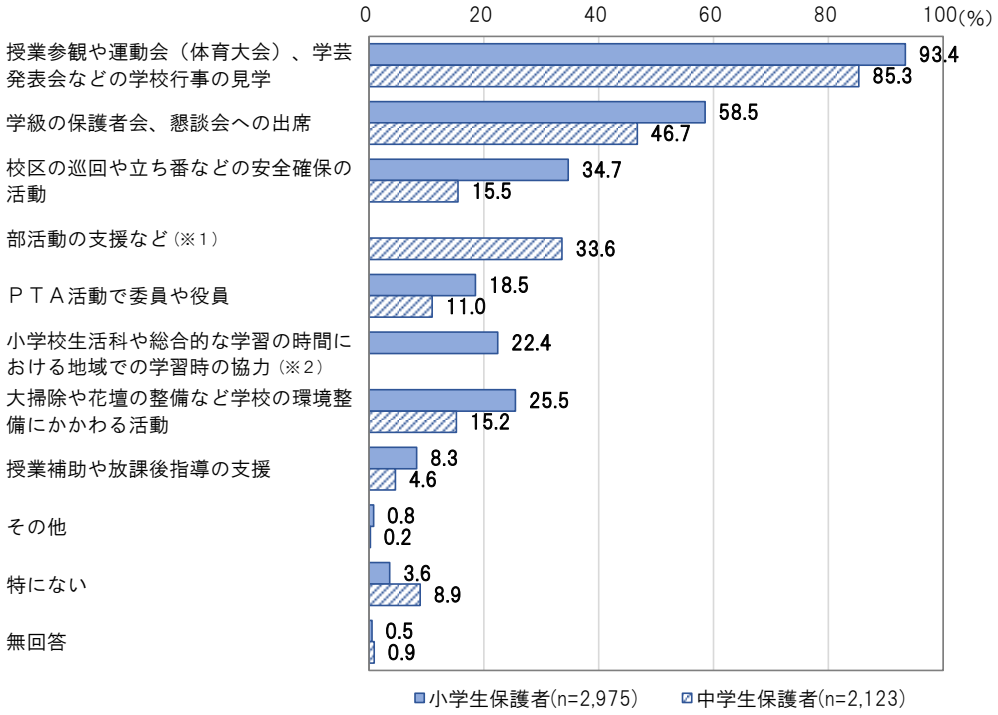
次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学生保護者・中学生保護者ともほとんどの項目で出席・参加率が下がっているものの、中学生保護者の「クラブ活動・部活動などへの支援」で大幅な増加傾向がみられる。



## ４）今後、協力したり、参加したりしてもよいと思う行事・活動

今後、協力したり、参加したりしてもよいと思う行事・活動は、小学生保護者・中学生保護者とも「授業参観や運動会（体育大会)、学芸発表会などの学校行事の見学」が最も高く、次いで「学級の保護者会、懇談会への出席」が高くなっている。

また、ほぼすべての項目で小学生保護者が中学生保護者よりも高い割合となっており、特に、「学級の保護者会、懇談会への出席」や「校区の巡回や立ち番などの安全確保の活動」で 10 ポイント以上の差がみられる。




※１：「部活動の支援など」は中学生保護者のみの項目。
※２：「小学校生活科や総合的な学習の時間における地域での学習時の協力」は小学生保護者のみの項目。

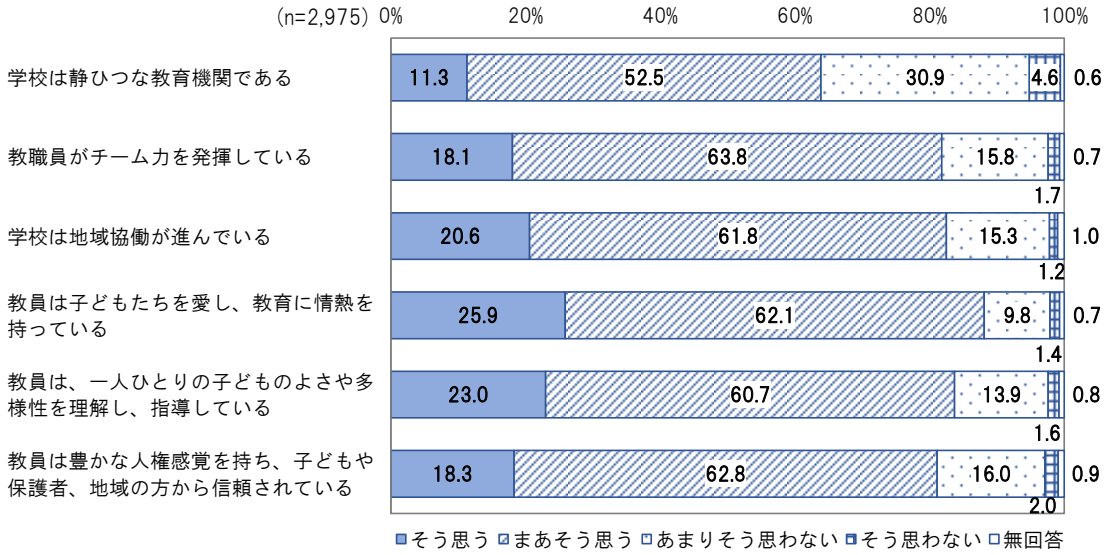
## （３）学校教育について

### １）学校・教員について感じること

【小学生保護者】

小学生保護者の学校・教員について感じることは、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』の割合をみると、“教員は子どもたちを愛し、教育に情熱を持っている”が 88.0%と９割近くを占めて最も高く、次いで“教員は、一人ひとりの子どものよさや多様性を理解し、指導している”が 83.7%、“学校は地域協働が進んでいる”が 82.4%、“教職員がチーム力を発揮している”が 81.9%、“教員は豊かな人権感覚を持ち、子どもや保護者、地域の方から信頼されている”が 81.1%の順となっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』の割合をみると、“学校は静ひつな教育機関である”が 35.5%と３割を超え、その他の項目と比べて高くなっている。

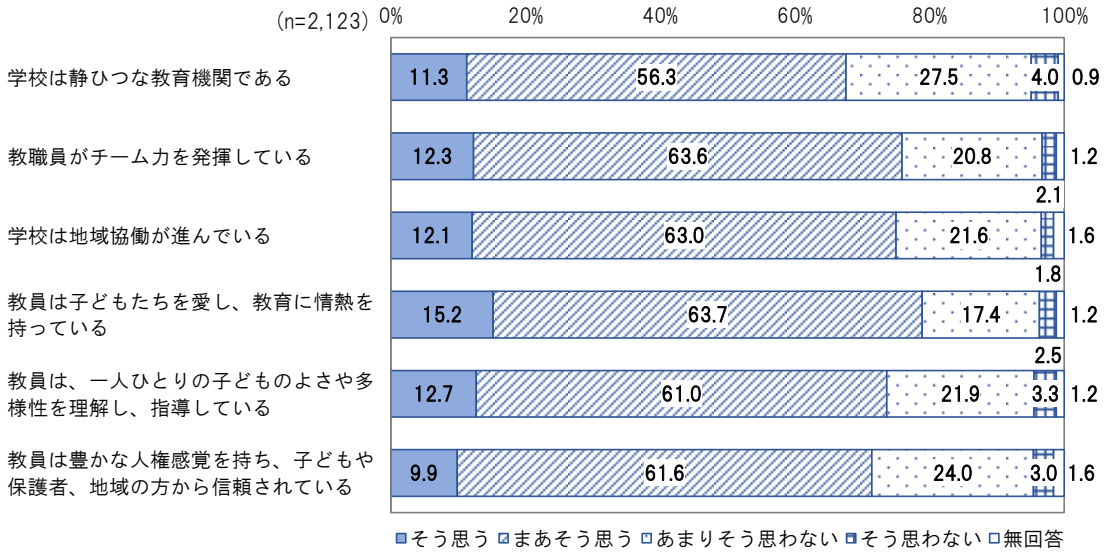


【中学生保護者】

中学生保護者の学校・教員について感じることは、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』の割合をみると、“教員は子どもたちを愛し、教育に情熱を持っている”が 78.9%と８割近くを占めて最も高く、次いで“教職員がチーム力を発揮している”が 75.9%、“学校は地域協働が進んでいる”が 75.1%の順となっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』の割合をみると、“学校は静ひつな教育機関である”や“教員は豊かな人権感覚を持ち、子どもや保護者、地域の方から信頼されている”で３程度を占め、その他の項目と比べてやや高くなっている。

また、小学生保護者の回答と比べると、ほとんどの項目で『思う』の割合が低くなっている。

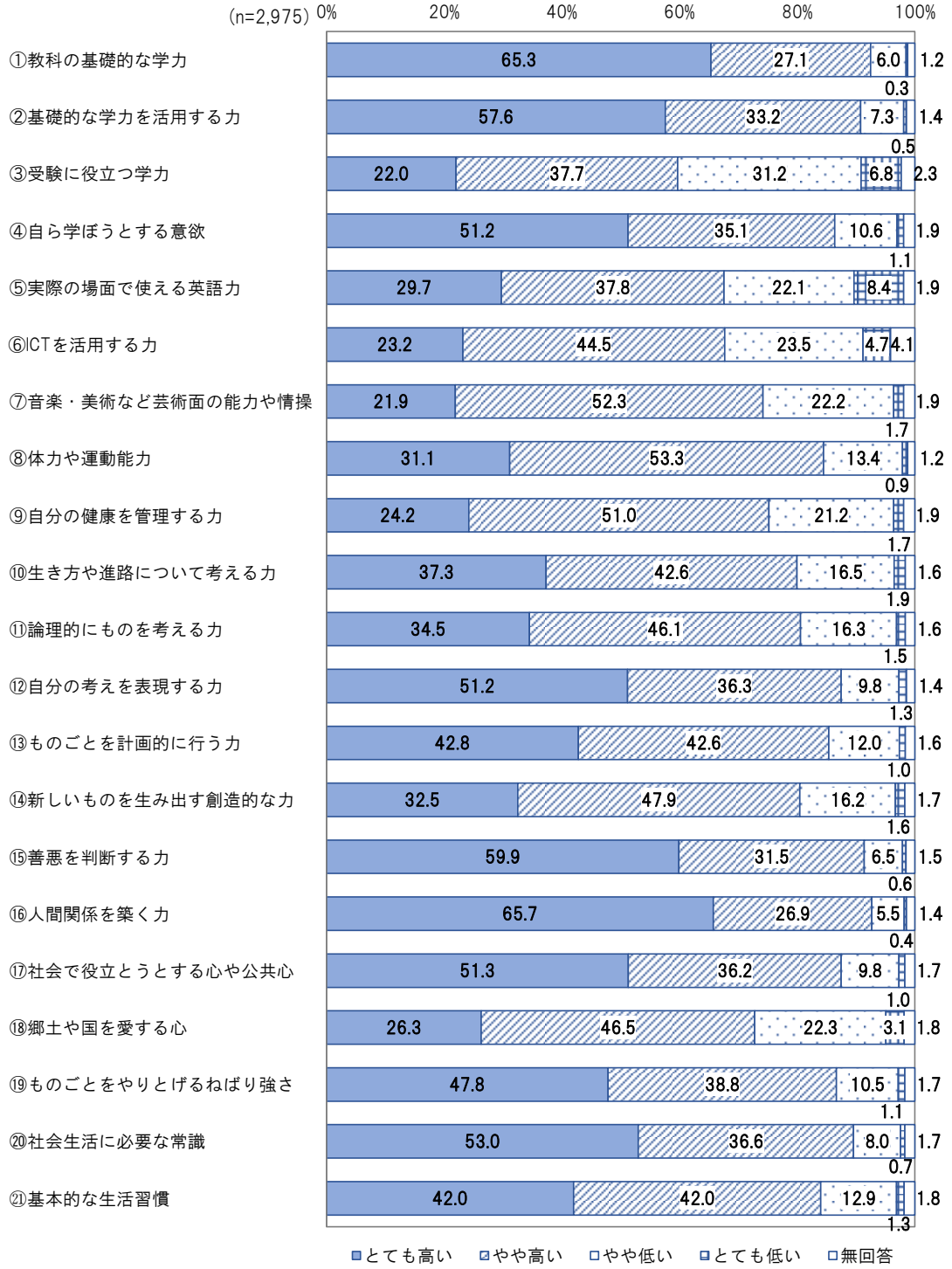


## 2）学校教育及び学校教育以外の場（家庭や地域など）で身につける必要性のある能力や態度

### ①学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度

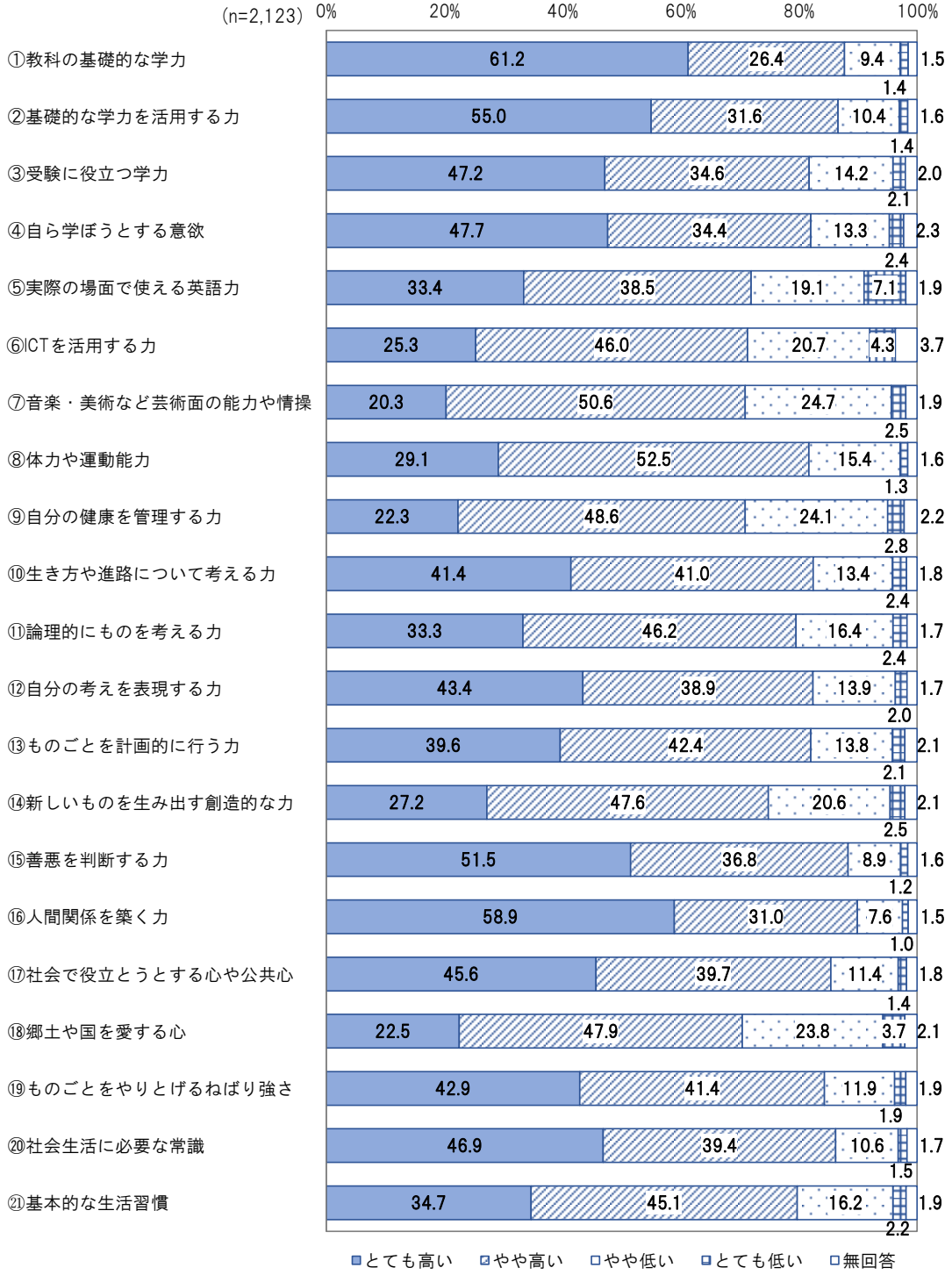
【小学生保護者】

小学生保護者が考える学校教育の中で子どもが身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“⑯人間関係を築く力”が 92.6%と最も高く、次いで“①教科の基礎的な学力”が 92.4%、“⑮善悪を判断する力”が 91.4%、“②基礎的な学力を活用する力”が 90.8%の順となっている。



【中学生保護者】

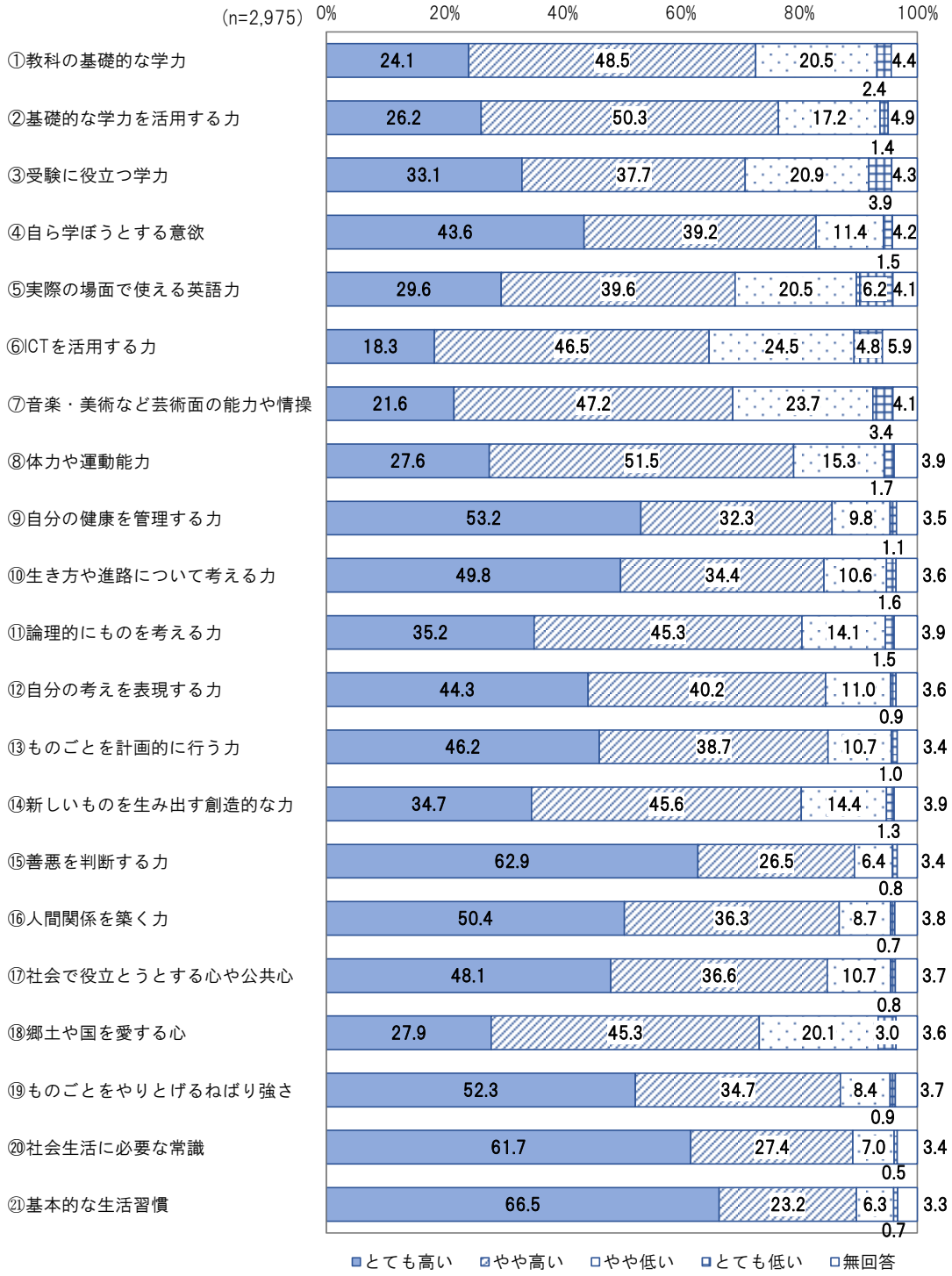
中学生保護者が考える学校教育の中で子どもが身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“⑯人間関係を築く力”が 89.9%と最も高く、次いで“⑮善悪を判断する力”が 88.3%、“①教科の基礎的な学力”が 87.6%、“②基礎的な学力を活用する力”が 86.6%の順となっている。



## ②学校教育以外の場（家庭や地域など）の中で身につける必要性のある能力や態度

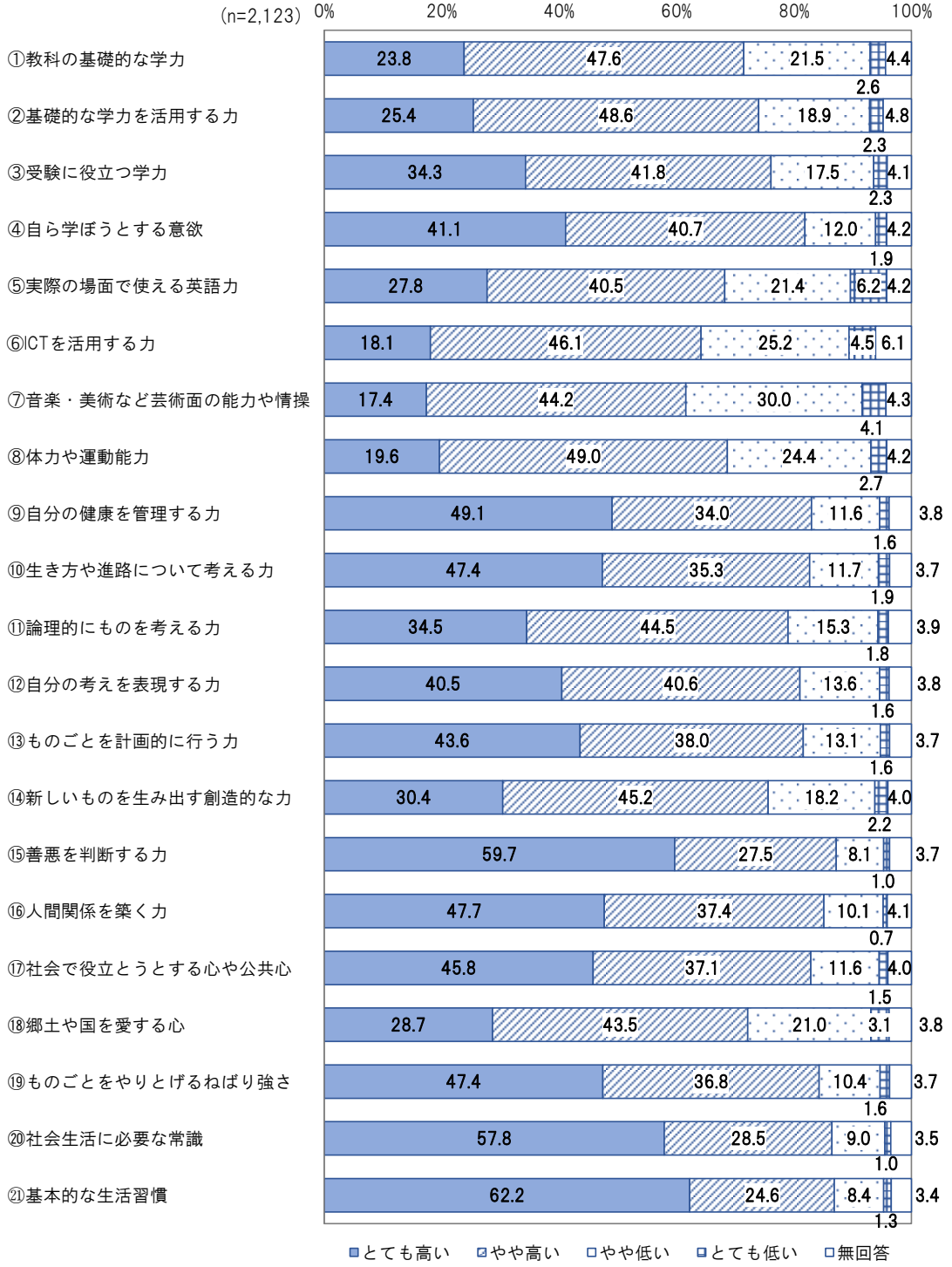
### 【小学生保護者】

小学生保護者が考える学校教育以外の場（家庭や地域など）の中で子どもが身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“㉑基本的な生活習慣”が 89.7%と最も高く、次いで“⑮善悪を判断する力”が 89.4%、“⑳社会生活に必要な常識”が 89.1%、“⑲ものごとをやりとげるねばり強さ”が 87.0%の順となっている。



【中学生保護者】

中学生保護者が考える学校教育以外の場（家庭や地域など）の中で子どもが身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“⑮善悪を判断する力”が 87.2%と最も高く、次いで“㉑基本的な生活習慣”が 86.8%、“⑳社会生活に必要な常識”が 86.3%、“⑯人間関係を築く力”が 85.1%の順となっている。



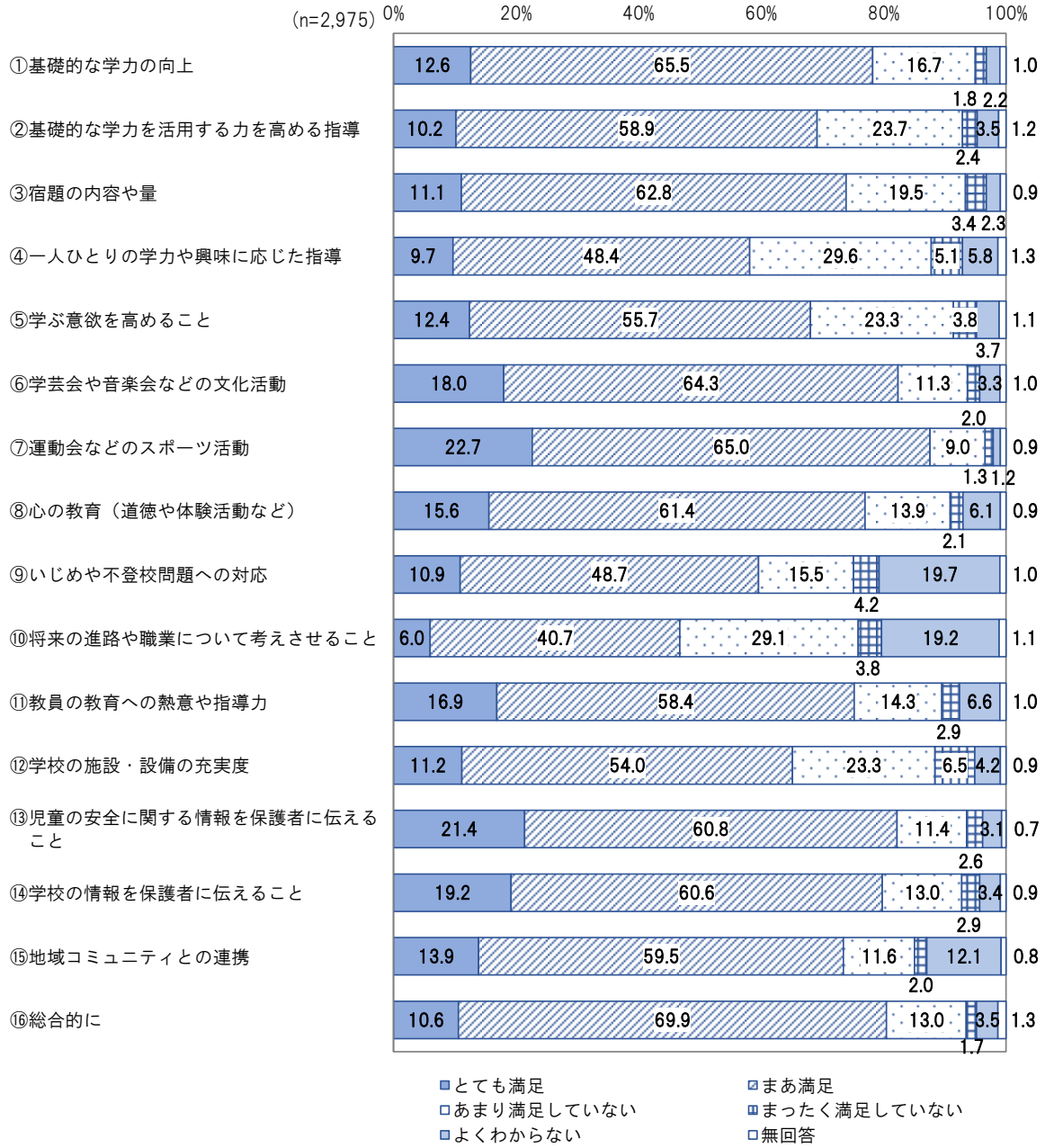
## 3）学校の指導や取組に対する満足度・重要度

### ①学校の指導や取組に対する満足度

【小学生保護者】

小学生保護者の学校の指導や取組に対する満足度は、「とても満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“⑦運動会などのスポーツ活動”が 87.7%と最も高く、次いで“⑥学芸会や音楽会などの文化活動”が 82.3%、“⑬児童の安全に関する情報を保護者に伝えること”が 82.2%の順となっており、総合満足度（⑯）では『満足』が約８割を占める。

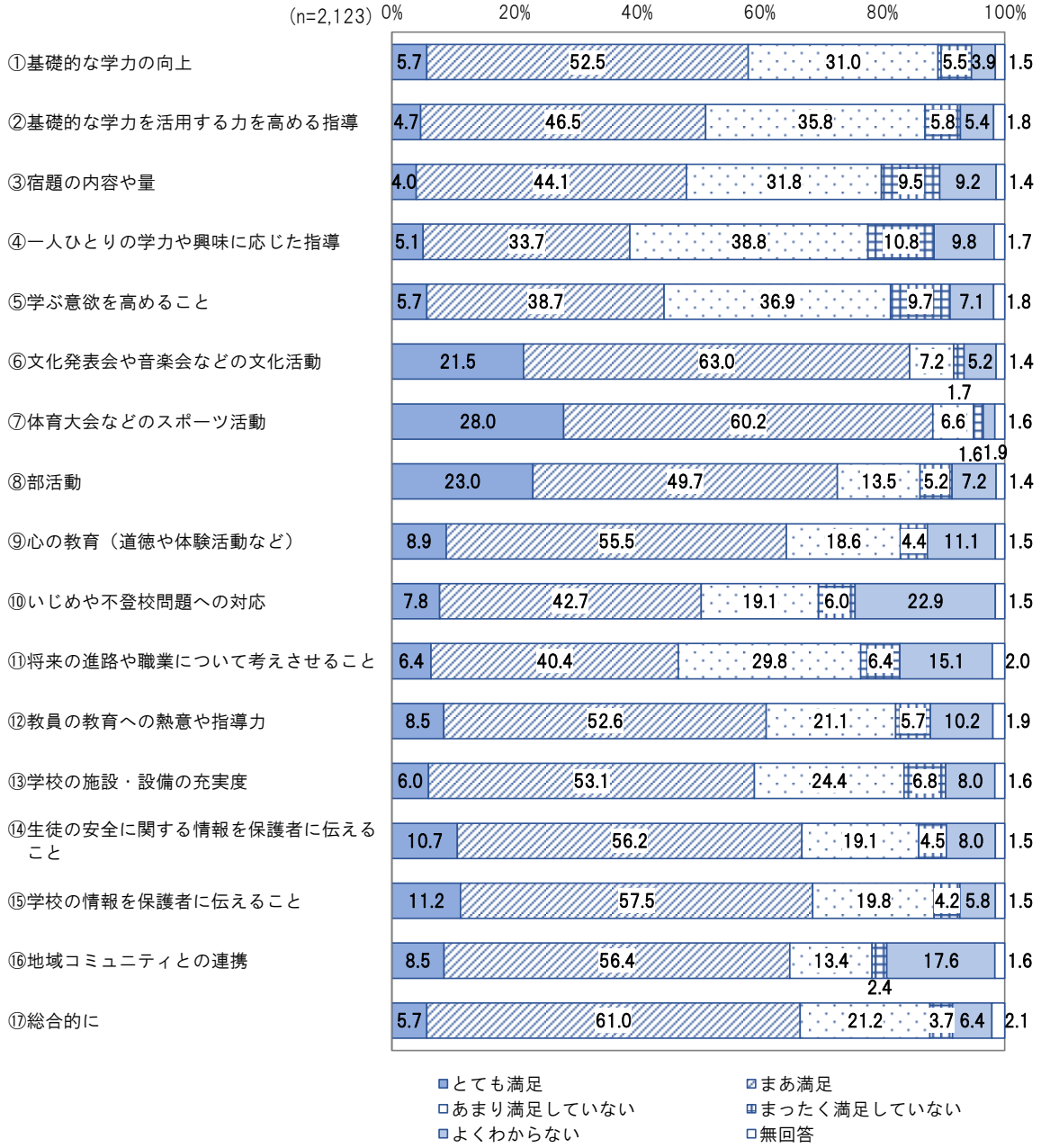
一方で、“④一人ひとりの学力や興味に応じた指導”や“⑩将来の進路や職業について考えさせること”では、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」を合わせた『満足していない』が３割を超え、その他の項目に比べてやや高くなっている。



【中学生保護者】

中学生保護者の学校の指導や取組に対する満足度は、「とても満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“⑦体育大会などのスポーツ活動”が 88.2%と最も高く、次いで“⑥文化発表会や音楽会などの文化活動”が 84.5%、“⑧部活動”が 72.7%の順となっており、総合満足度（⑯）では『満足』が６割以上を占める。

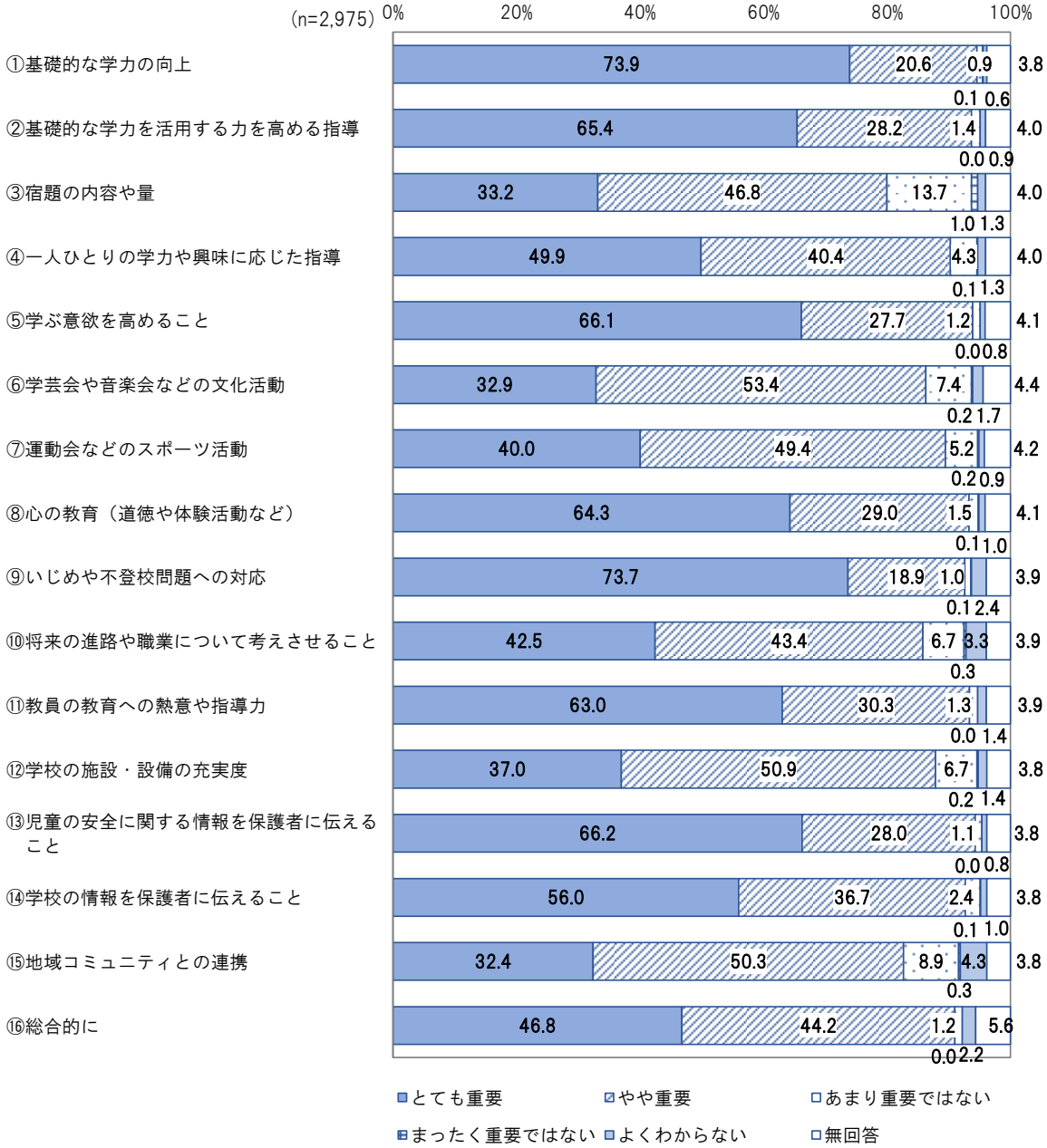
一方で、“④一人ひとりの学力や興味に応じた指導”や“⑤学ぶ意欲を高めること”では、「あまり満足していない」と「まったく満足していない」を合わせた『満足していない』が４割以上を占め、その他の項目に比べてやや高くなっている。



## ②学校の指導や取組に対する重要度

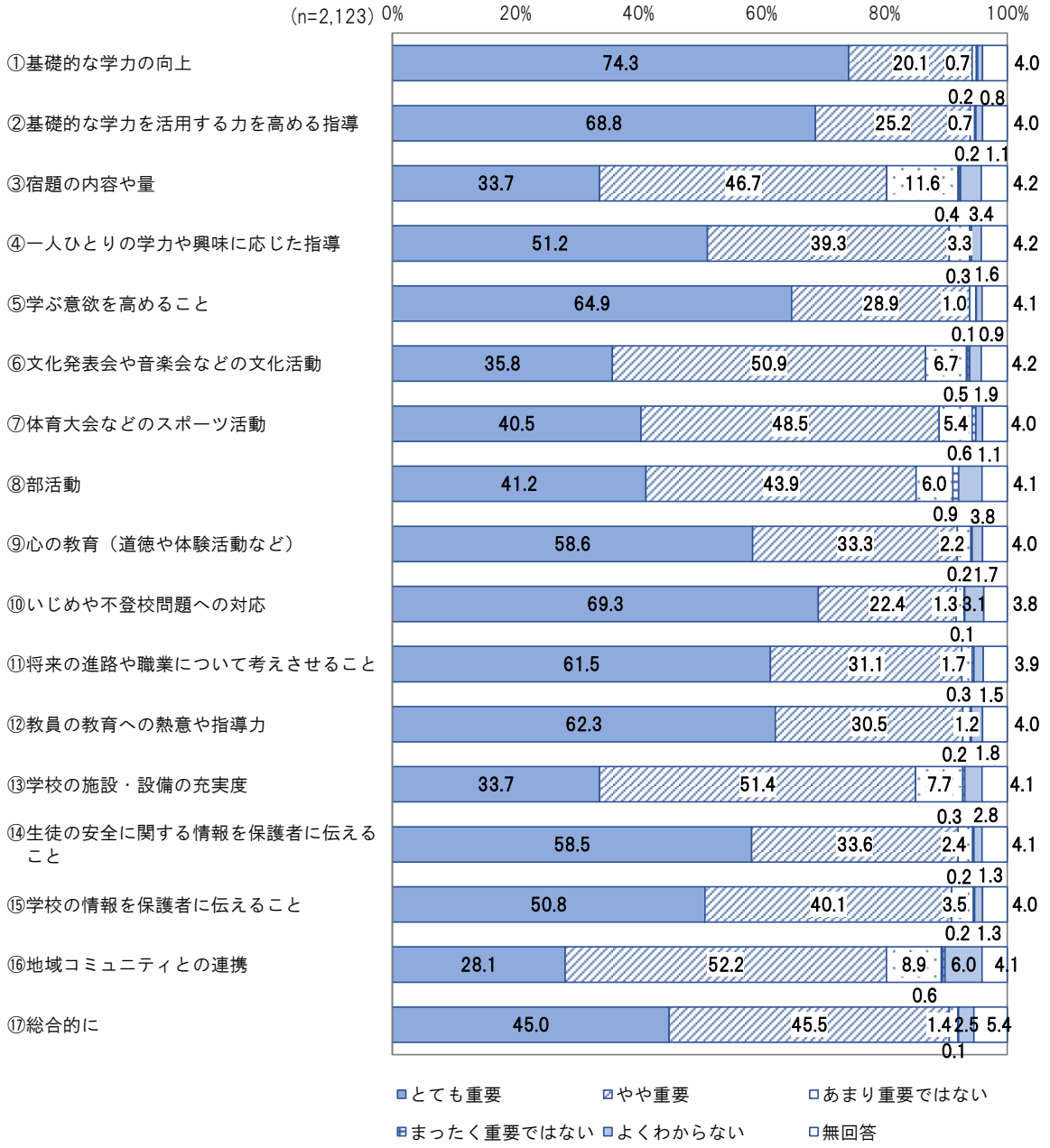
### 【小学生保護者】

小学生保護者の学校の指導や取組に対する重要度は、「とても重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“①基礎的な学力の向上”が 94.5%と最も高く、次いで“⑬児童の安全に関する情報を保護者に伝えること”が 94.2%、“⑤学ぶ意欲を高めること”が 93.8%、“②基礎的な学力を活用する力を高める指導”が 93.6%の順となっている。



【中学生保護者】

中学生保護者の学校の指導や取組に対する重要度は、「とても重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“①基礎的な学力の向上”が 94.4%と最も高く、次いで“②基礎的な学力を活用する力を高める指導”が 94.0%、“⑤学ぶ意欲を高めること”が 93.8%、“⑫教員の教育への熱意や指導力”が 92.8%、“⑪将来の進路や職業について考えさせること”が 92.6%の順となっている。



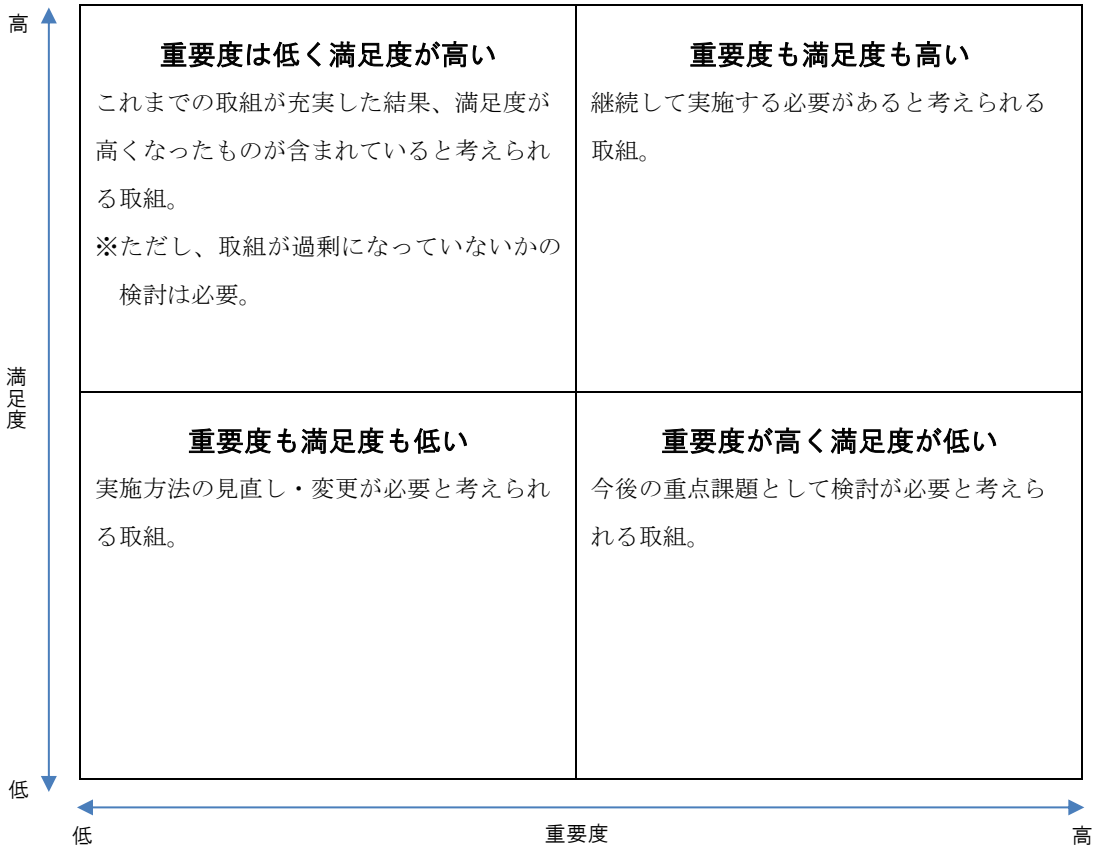
③学校の指導や取組に対する重要度と満足度のポートフォリオ分析

ポートフォリオ分析とは、顧客満足度調査等で用いられる分析手法の一つです。

本調査では、堺市が実施する学校の指導や取組について、「満足度」と「重要度」それぞれ点数化して２次元グラフに配置することにより、優先的に改善が求められる取り組みを検討するための一つの基礎資料とします。

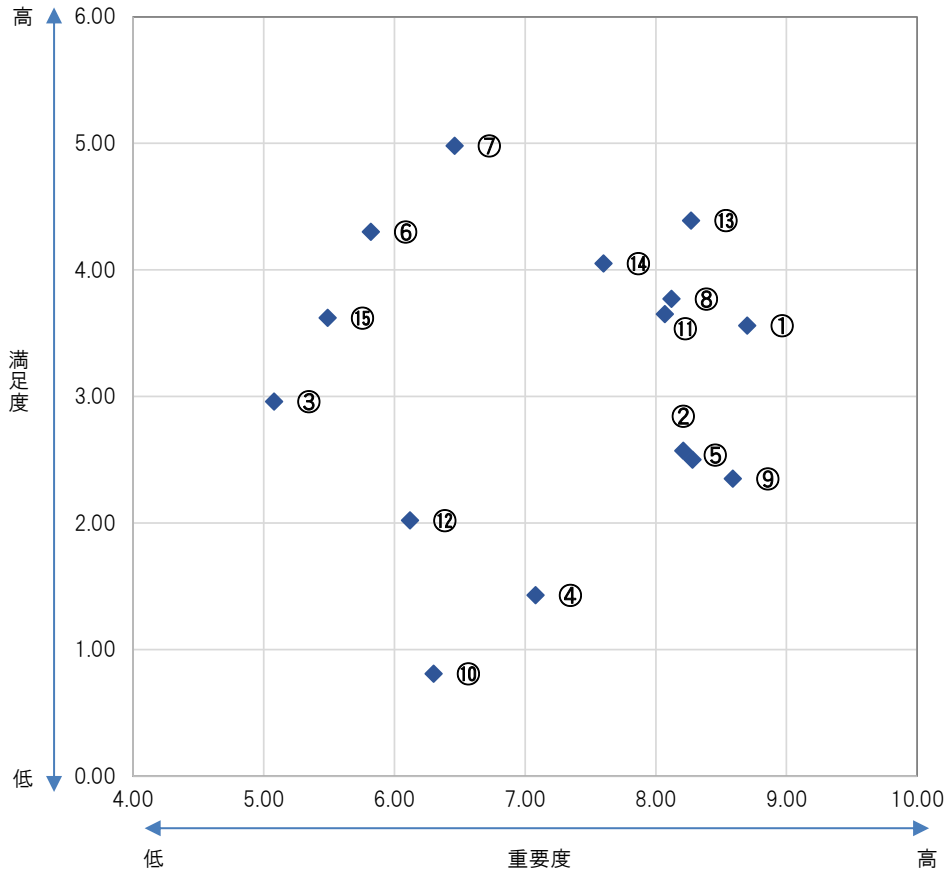
４象限マップのエリアはそれぞれ、下記のように定義づけられます。

※以降の調査項目も同様となります。



【小学生保護者】

小学生保護者では、「②基礎的な学力を活用する力を高める指導」、「⑤学ぶ意欲を高めること」、「⑨いじめや不登校問題への対応」が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。特に、「⑨いじめや不登校問題への対応」は重点項目となると考えられる。

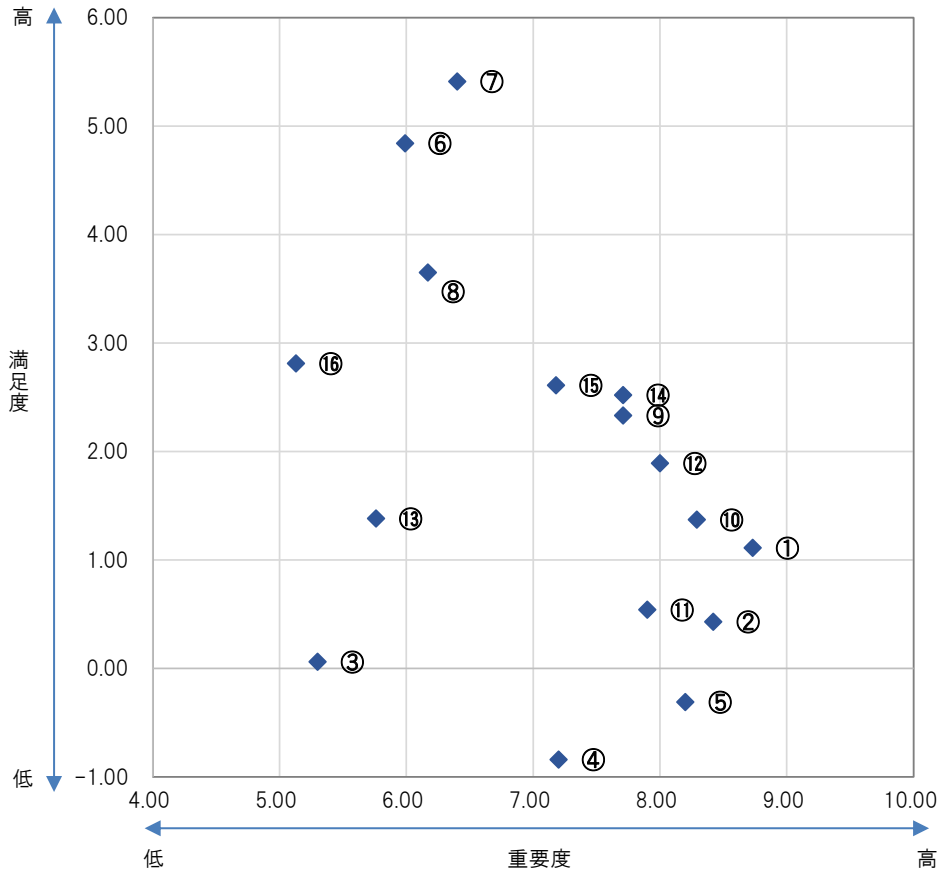



| | 重要度 | 満足度 |
|---|---|---|
| ①基礎的な学力の向上 | 8.70 | 3.56 |
| ②基礎的な学力を活用する力を高める指導 | 8.21 | 2.57 |
| ③宿題の内容や量 | 5.08 | 2.96 |
| ④一人ひとりの学力や興味に応じた指導 | 7.08 | 1.43 |
| ⑤学ぶ意欲を高めること | 8.28 | 2.50 |
| ⑥学芸会や音楽会などの文化活動 | 5.82 | 4.30 |
| ⑦運動会などのスポーツ活動 | 6.46 | 4.98 |
| ⑧心の教育（道徳や体験活動など） | 8.12 | 3.77 |
| ⑨いじめや不登校問題への対応 | 8.59 | 2.35 |
| ⑩将来の進路や職業について考えさせること | 6.30 | 0.81 |
| ⑪教員の教育への熱意や指導力 | 8.07 | 3.65 |
| ⑫学校の施設・設備の充実度 | 6.12 | 2.02 |
| ⑬児童の安全に関する情報を保護者に伝えること | 8.27 | 4.39 |
| ⑭学校の情報を保護者に伝えること | 7.60 | 4.05 |
| ⑮地域コミュニティとの連携 | 5.49 | 3.62 |

【中学生保護者】

中学生保護者では、「①基礎的な学力の向上」、「②基礎的な学力を活用する力を高める指導」、「④一人ひとりの学力や興味に応じた指導」、「⑤学ぶ意欲を高めること」、「⑩いじめや不登校問題への対応」、「⑪将来の進路や職業について考えさせること」が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。

小学生保護者と同様の傾向となっているものの、「⑪将来の進路や職業について考えさせること」で重要度が高くなっている。

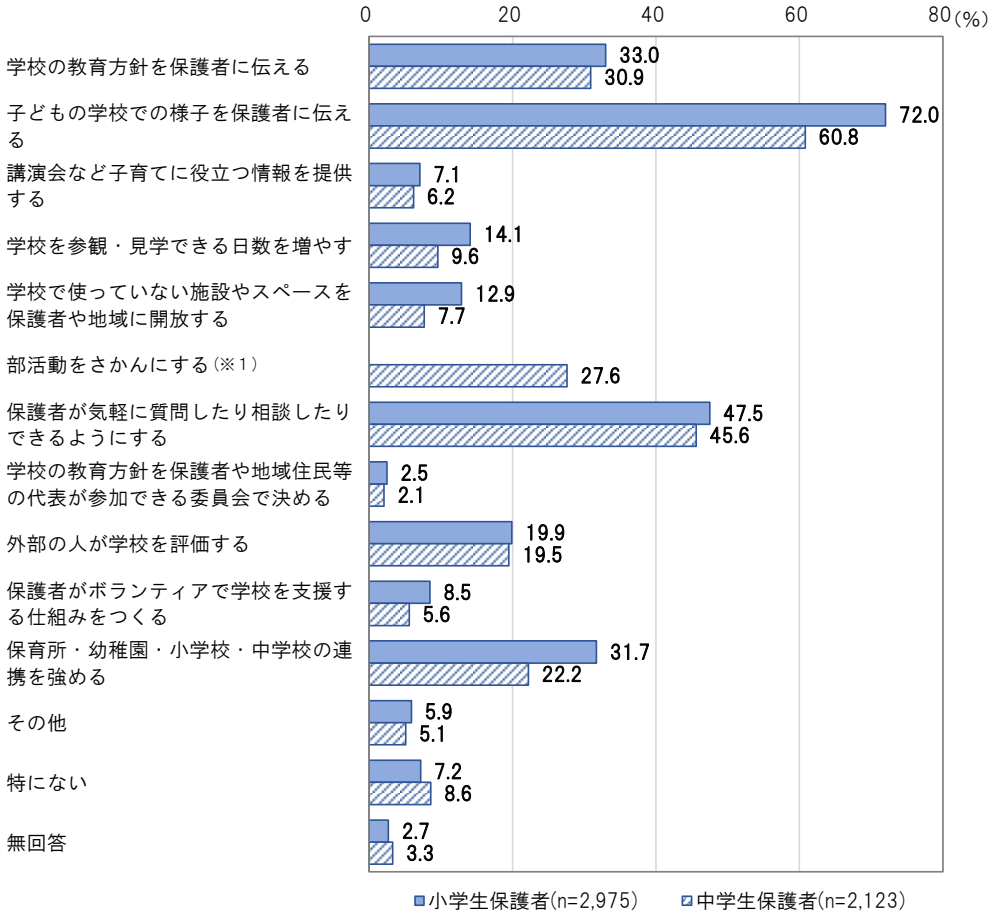



| | 重要度 | 満足度 |
|---|---|---|
| ①基礎的な学力の向上 | 8.73 | 1.11 |
| ②基礎的な学力を活用する力を高める指導 | 8.42 | 0.43 |
| ③宿題の内容や量 | 5.30 | 0.06 |
| ④一人ひとりの学力や興味に応じた指導 | 7.20 | -0.84 |
| ⑤学ぶ意欲を高めること | 8.20 | -0.31 |
| ⑥文化発表会や音楽会などの文化活動 | 5.99 | 4.84 |
| ⑦体育大会などのスポーツ活動 | 6.40 | 5.41 |
| ⑧部活動 | 6.17 | 3.65 |
| ⑨心の教育（道徳や体験活動など） | 7.71 | 2.33 |
| ⑩いじめや不登校問題への対応 | 8.29 | 1.37 |
| ⑪将来の進路や職業について考えさせること | 7.90 | 0.54 |
| ⑫教員の教育への熱意や指導力 | 8.00 | 1.89 |
| ⑬学校の施設・設備の充実度 | 5.76 | 1.38 |
| ⑭生徒の安全に関する情報を保護者に伝えること | 7.71 | 2.52 |
| ⑮学校の情報を保護者に伝えること | 7.18 | 2.61 |
| ⑯地域コミュニティとの連携 | 5.13 | 2.81 |

## ４）学校や教育制度に望むこと

学校や教育制度に望むことは、小学生保護者・中学生保護者とも「子どもの学校での様子を保護者に伝える」が最も高く、次いで「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」が高くなっている。

また、ほぼすべての項目で小学生保護者が中学生保護者よりも高い割合となっており、特に、「子どもの学校での様子を保護者に伝える」や「保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携を強める」で約 10 ポイントの差がみられる。



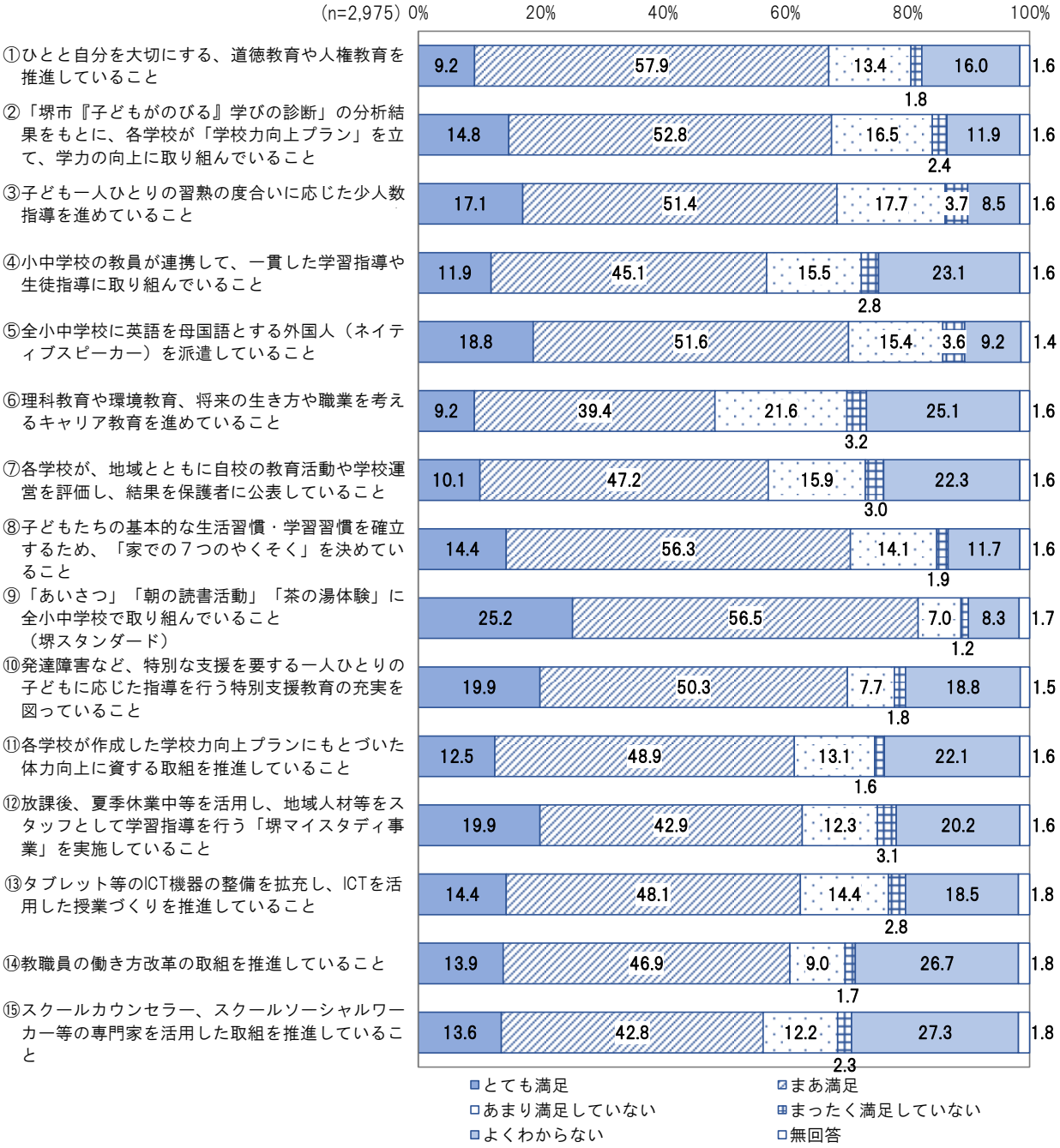

※１：「部活動をさかんにする」は中学生保護者のみの項目。

## ５）教育委員会や学校の取組の満足度・重要度

### ①教育委員会や学校の取組の満足度

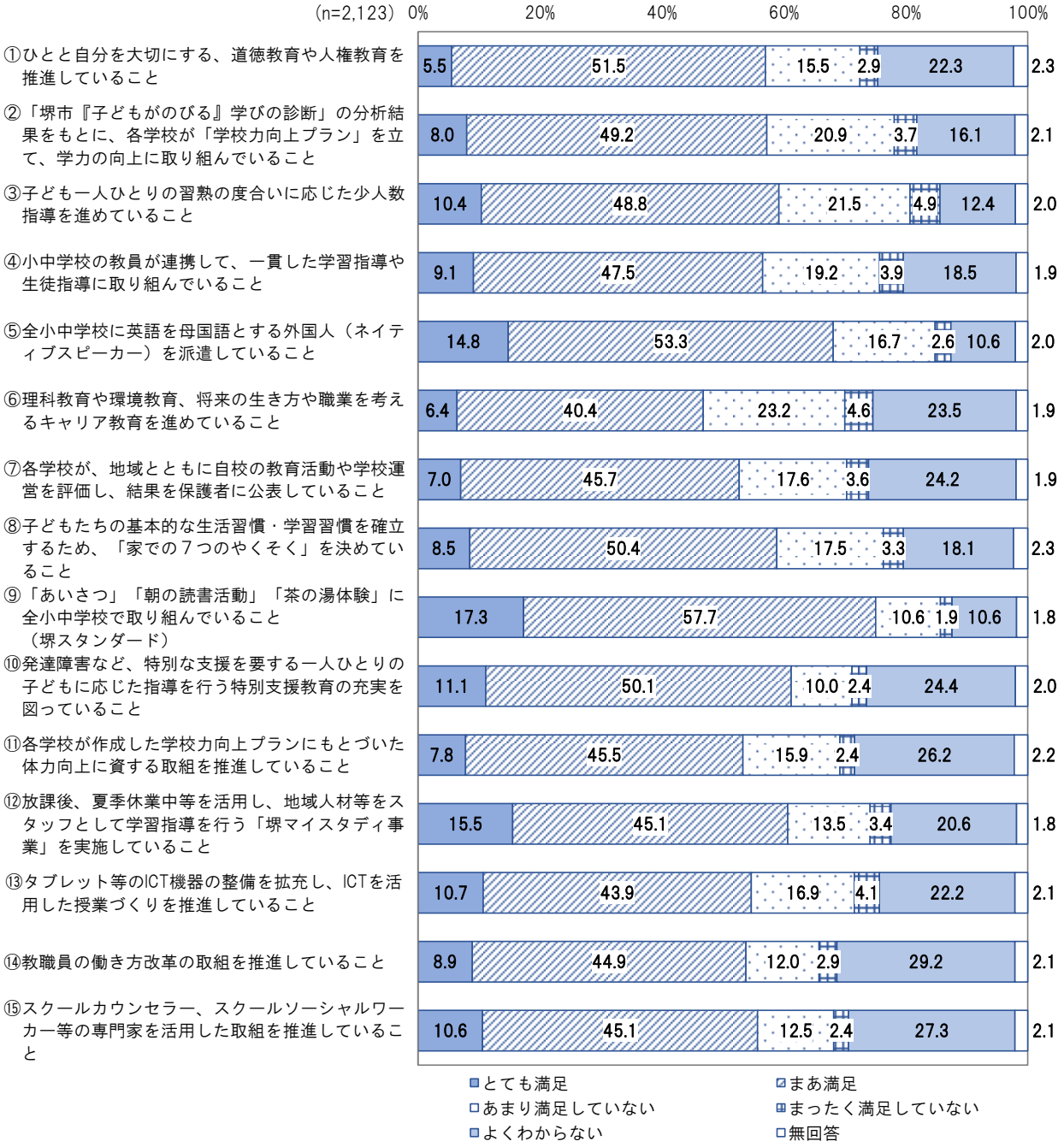
【小学生保護者】

小学生保護者の教育委員会や学校の取組の満足度は、「とても満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組んでいること（堺スタンダード）”が 81.7%と最も高く、次いで、“⑧子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣を確立するため、「家での７つのやくそく」を決めていること”が 70.7%、“全小中学校に英語を母国語とする外国人（ネイティブスピーカー）を派遣していること”が 70.4%、“⑩発達障害など、特別な支援を要する一人ひとりの子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること”が 70.2%の順となっている。



【中学生保護者】

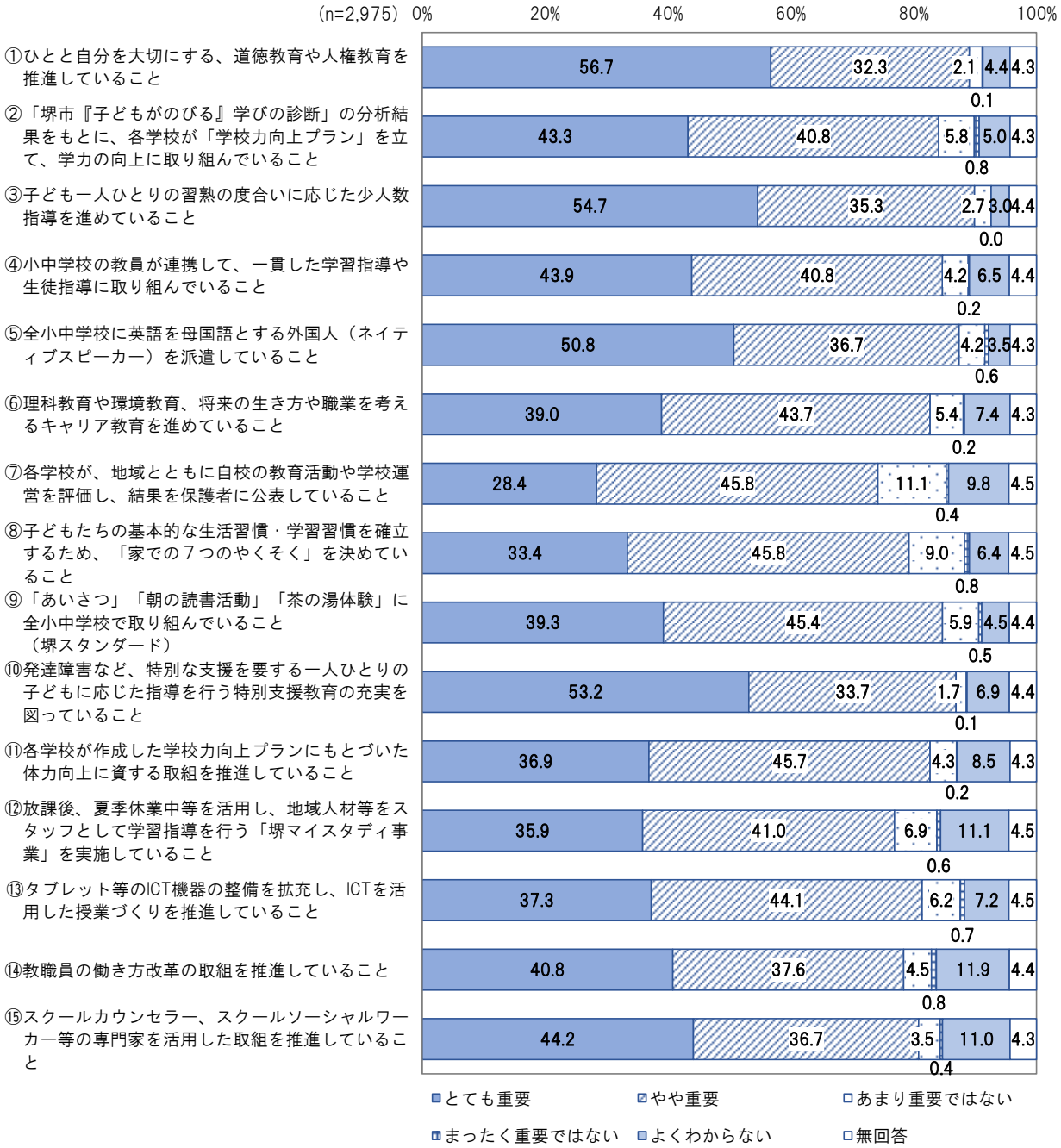
中学生保護者の教育委員会や学校の取組の満足度は、「とても満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に全小中学校で取り組んでいること（堺スタンダード）”が 75.0%と最も高く、次いで、“⑤全小中学校に英語を母国語とする外国人（ネイティブスピーカー）を派遣していること”が 68.1%、“⑩発達障害など、特別な支援を要する一人ひとりの子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること”が 61.2%、“⑫放課後、夏季休業中等を活用し、地域人材等をスタッフとして学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること”が 60.6%、の順となっている。



## ②教育委員会や学校の取組の重要度

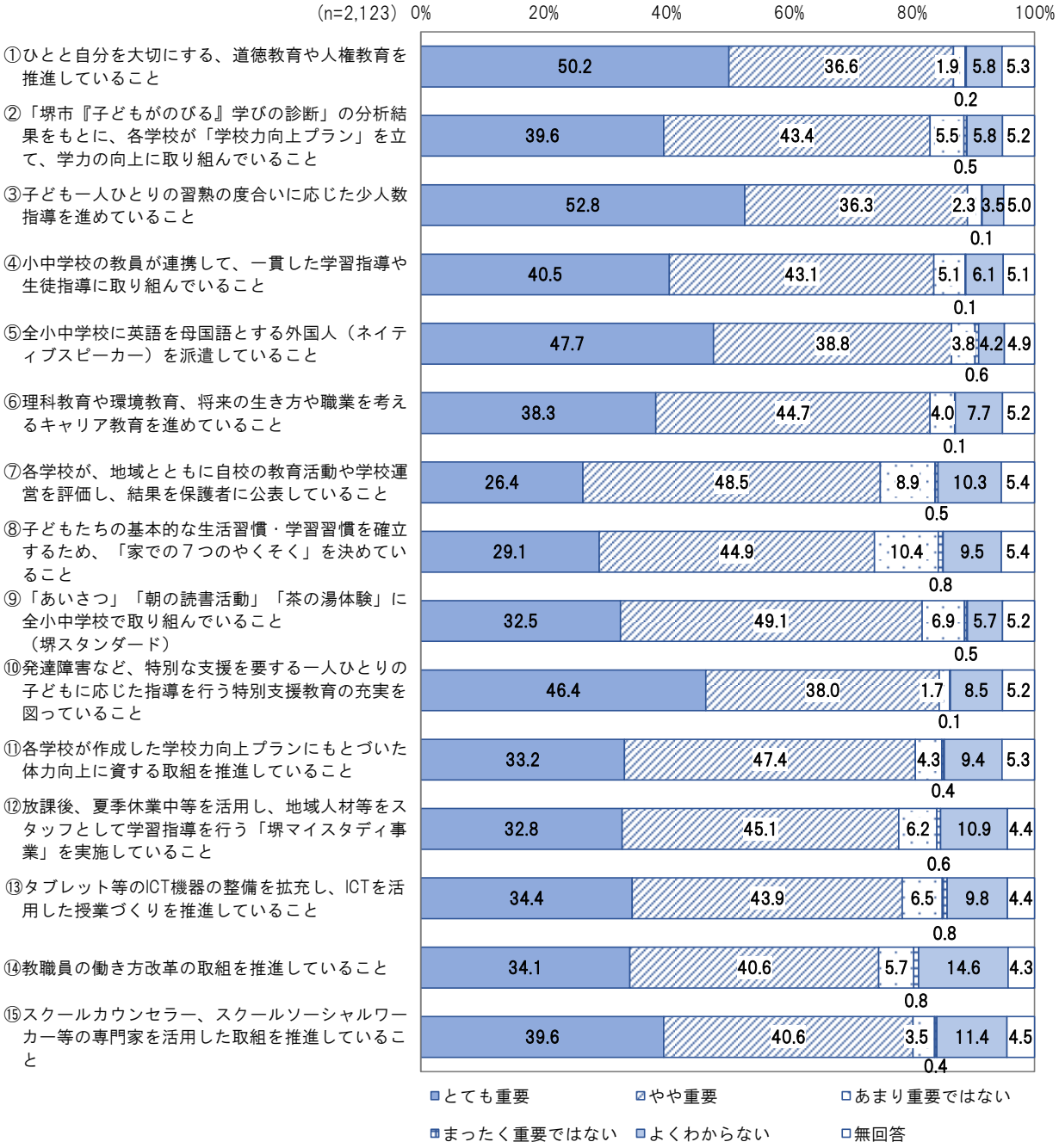
### 【小学生保護者】

小学生保護者の教育委員会や学校の取組の重要度は、「とても重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること”が 90.0%と最も高く、次いで、“①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること”が 89.0%、“⑤全小中学校に英語を母国語とする外国人（ネイティブスピーカー）を派遣していること”が 87.5%、“⑩発達障害など、特別な支援を要する一人ひとりの子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること”が 86.9%の順となっている。



【中学生保護者】

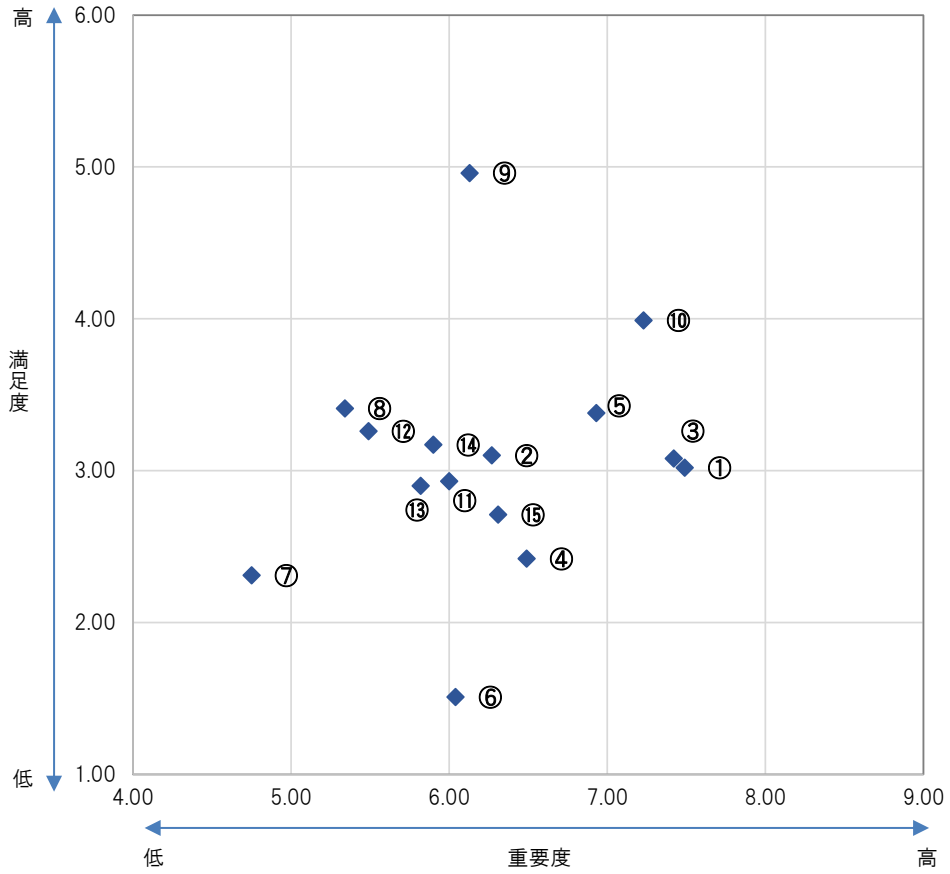
中学生保護者の教育委員会や学校の取組の重要度は、「とても重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること”が 89.1%と最も高く、次いで、“①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること”が 86.8%、“⑤全小中学校に英語を母国語とする外国人（ネイティブスピーカー）を派遣していること”が 86.5%、“⑩発達障害など、特別な支援を要する一人ひとりの子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること”が 84.4%の順となっている。小学生保護者とほぼ同様の結果となっている。



③教育委員会や学校の取組の重要度と満足度のポートフォリオ分析

【小学生保護者】

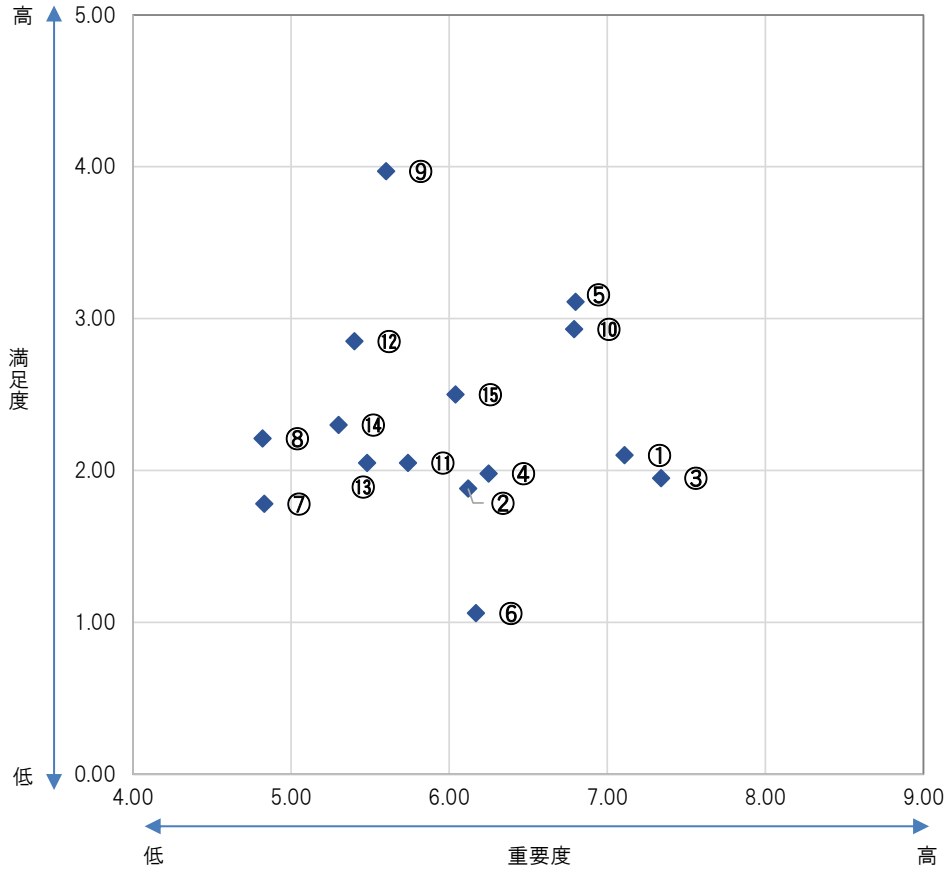
小学生保護者では、「①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」、「③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること」、「④小中学校の教員が連携して、一貫した学習指導や生徒指導に取り組んでいること」、「⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」、「⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進していること」が重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。




| | 重要度 | 満足度 |
|---|---|---|
| ①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること | 7.49 | 3.02 |
| ②各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること | 6.27 | 3.10 |
| ③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること | 7.42 | 3.08 |
| ④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること | 6.49 | 2.42 |
| ⑤全小中学校に英語を母国語とする外国人(ﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰ)を派遣していること | 6.93 | 3.38 |
| ⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること | 6.04 | 1.51 |
| ⑦各学校が教育活動や学校運営を評価し、保護者に公表していること | 4.75 | 2.31 |
| ⑧生活・学習習慣の確立のため「家での７つのやくそく」を決めていること | 5.34 | 3.41 |
| ⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に取り組んでいること | 6.13 | 4.96 |
| ⑩特別な支援を要する子どもに応じた特別支援教育の充実を図っていること | 7.23 | 3.99 |
| ⑪学校力向上プランにもとづいた体力向上に資する取組を推進していること | 6.00 | 2.93 |
| ⑫地域人材等ｶﾞ学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること | 5.49 | 3.26 |
| ⑬ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること | 5.82 | 2.90 |
| ⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること | 5.90 | 3.17 |
| ⑮スクールカウンセラー等の専門家を活用した取組を推進していること | 6.31 | 2.71 |

【中学生保護者】

中学生保護者では、「①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」、「②「堺市『子どもがのびる』学びの診断」の分析結果をもとに、各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること」、「③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること」、「④小中学校の教員が連携して、一貫した学習指導や生徒指導に取り組んでいること」、「⑥理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」が重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。



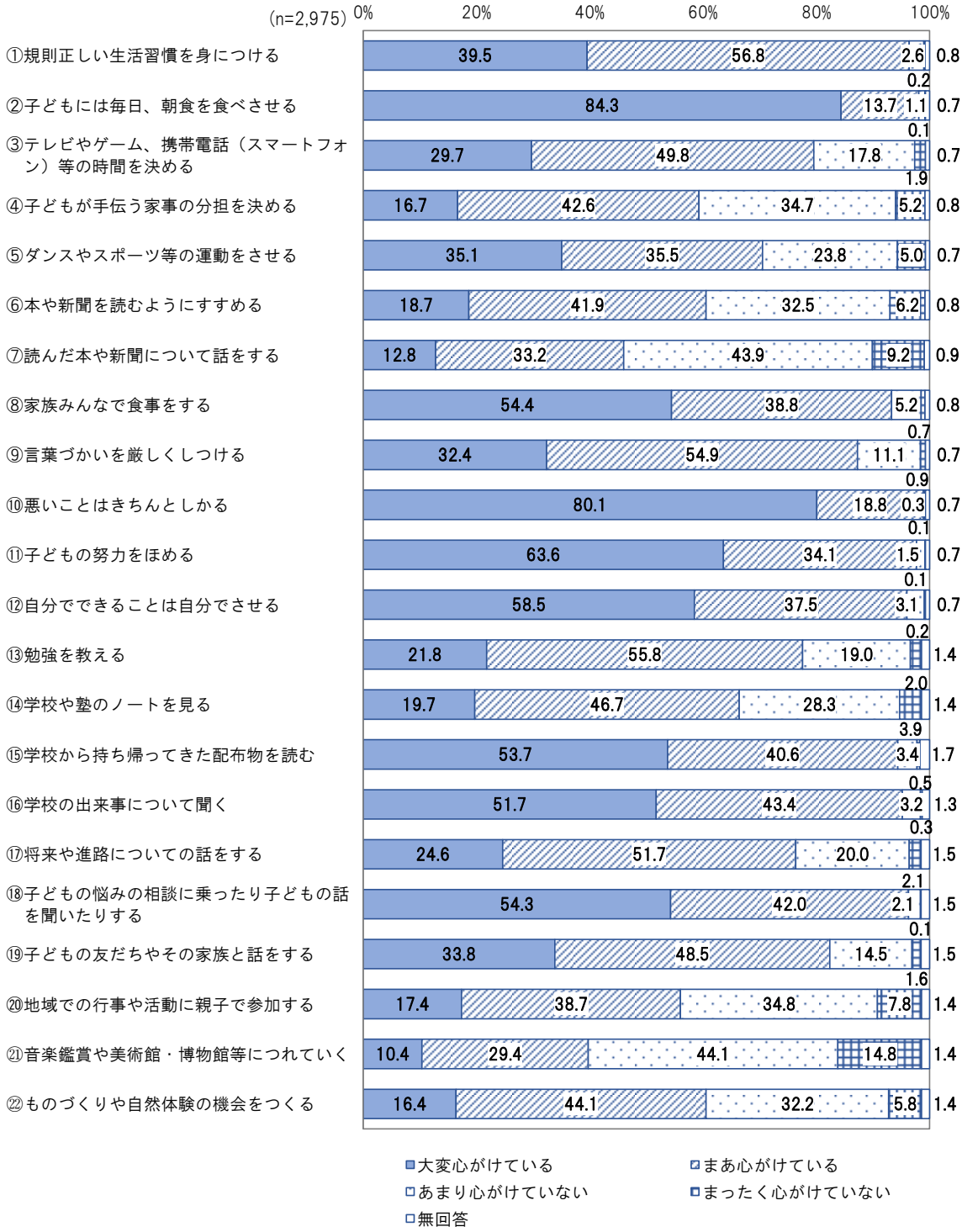

| | 重要度 | 満足度 |
|---|---|---|
| ①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること | 7.11 | 2.10 |
| ②各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること | 6.12 | 1.88 |
| ③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること | 7.34 | 1.95 |
| ④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること | 6.25 | 1.98 |
| ⑤全小中学校に英語を母国語とする外国人(ﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰ)を派遣していること | 6.80 | 3.11 |
| ⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること | 6.17 | 1.06 |
| ⑦各学校が教育活動や学校運営を評価し、保護者に公表していること | 4.83 | 1.78 |
| ⑧生活・学習習慣の確立のため「家での７つのやくそく」を決めていること | 4.82 | 2.21 |
| ⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に取り組んでいること | 5.60 | 3.97 |
| ⑩特別な支援を要する子どもに応じた特別支援教育の充実を図っていること | 6.79 | 2.93 |
| ⑪学校力向上プランにもとづいた体力向上に資する取組を推進していること | 5.74 | 2.05 |
| ⑫地域人材等ｶ学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること | 5.40 | 2.85 |
| ⑬ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること | 5.48 | 2.05 |
| ⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること | 5.30 | 2.30 |
| ⑮スクールカウンセラー等の専門家を活用した取組を推進していること | 6.04 | 2.50 |

## （４）家庭教育や学校外での子どもの様子について

### １）子どもとの関わりの中で家庭でしていること

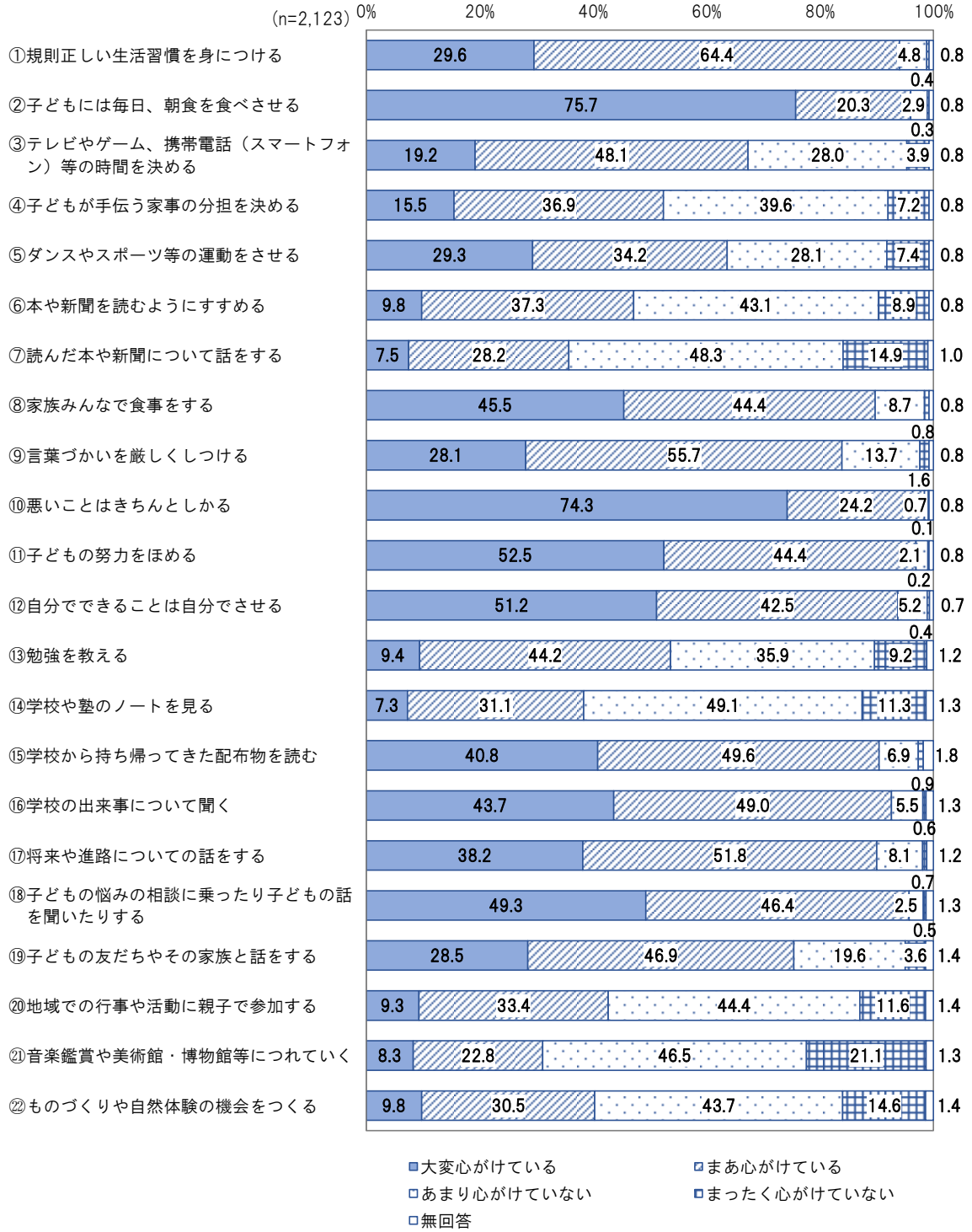
【小学生保護者】

小学生保護者の子どもとの関わりの中で家庭でしていることは、「大変心がけている」と「まあ心がけている」を合わせた『心がけている』の割合をみると、“⑩悪いことはきちんとしかる”が 98.9%と最も高く、次いで“②子どもには毎日、朝食を食べさせる”が 98.0%、“⑪子どもの努力をほめる”が 97.7%、“①規則正しい生活習慣を身につける”及び“⑱子どもの悩みの相談に乗ったり子どもの話を聞いたりする”が 96.3%の順となっている。



【中学生保護者】

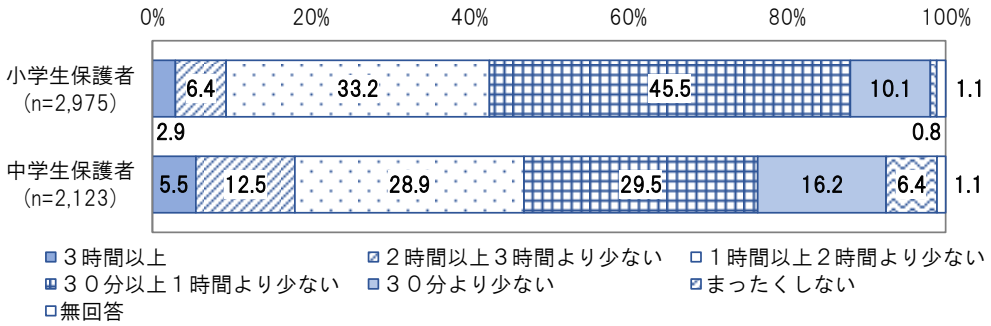
中学生保護者の子どもとの関わりの中で家庭でしていることは、「大変心がけている」と「まあ心がけている」を合わせた『心がけている』の割合をみると、“⑩悪いことはきちんとしかる”が 98.5%と最も高く、次いで“⑪子どもの努力をほめる”が 96.9%、“②子どもには毎日、朝食を食べさせる”が 96.0%、“⑱子どもの悩みの相談に乗ったり子どもの話を聞いたりする”が 95.7%、“①規則正しい生活習慣を身につける”が 94.0%の順となっている。



## ２）子どもの１日あたりの家庭学習の時間

１日あたりの家庭学習の時間は、小学生保護者・中学生保護者とも「３０分以上１時間より少ない」が最も高く、次いで「１時間以上２時間より少ない」となっているものの、その割合は小学生保護者において中学生保護者よりも高い割合となっている。

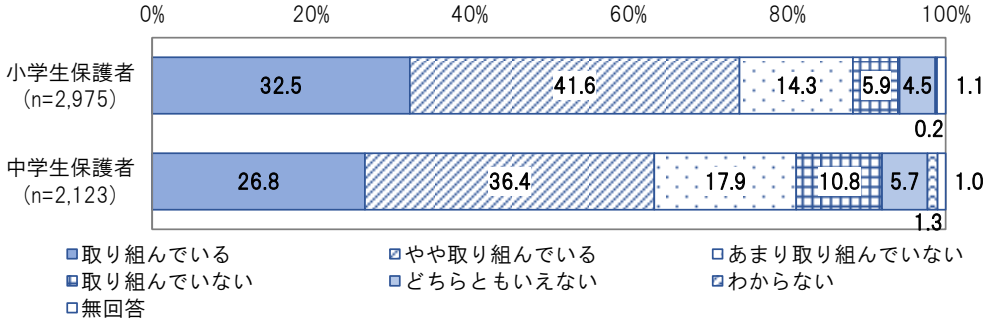
一方で、中学生保護者ではそれ以外の区分で小学生保護者よりも高い割合となっている。小学生保護者では「３０分より少ない」と「まったくしない」を合わせた割合が１割程度であったのに対し、中学生保護者では２割以上を占める結果となっており、家庭学習の時間が長い子どもと短い子どもの差が大きくなっている。




## ３）子どもの家庭学習への取組状況

子どもの家庭学習への取組状況は、小学生保護者・中学生保護者とも「やや取り組んでいる」が最も高く、「取り組んでいる」と合わせると、『取り組んでいる』児童生徒が、小学生保護者では７割以上、中学生保護者では６割以上を占めている。

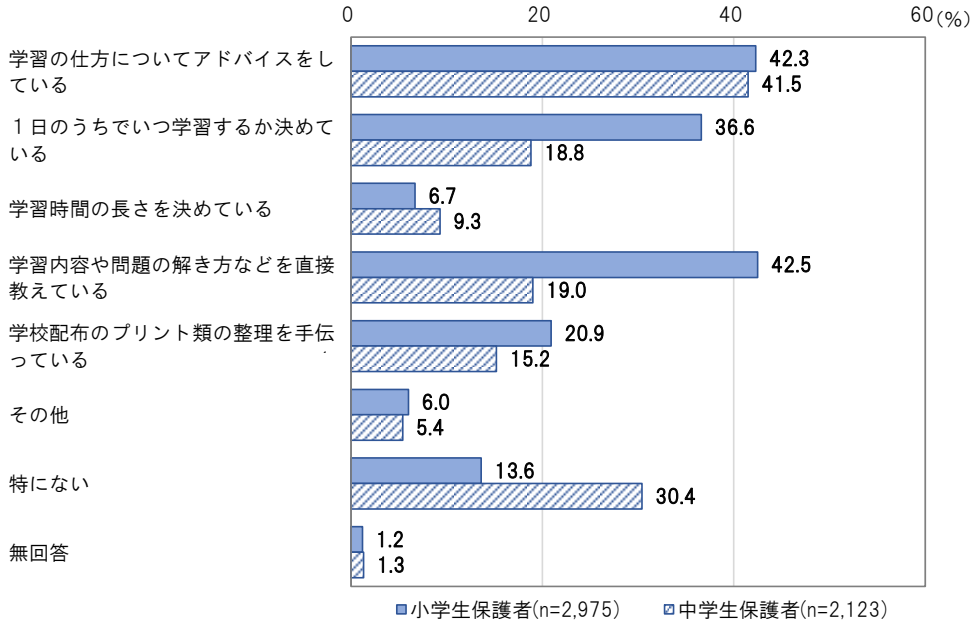
一方で、中学生保護者では「あまり取り組んでいない」と「取り組んでいない」を合わせた『取り組んでいない』が３割近くを占め、小学生保護者に比べてやや高い割合となっている。



## 4）子どもの家庭学習へのサポートの状況

子どもの家庭学習へのサポートの状況は、「学習の仕方についてアドバイスをしている」では小学生保護者・中学生保護者とも高い割合となっているものの、ほぼすべての項目で小学生保護者において中学生保護者よりも高く、特に「学習内容や問題の解き方などを直接教えている」や「１日のうちでいつ学習するか決めている」で 20 ポイント程度の差がみられる。

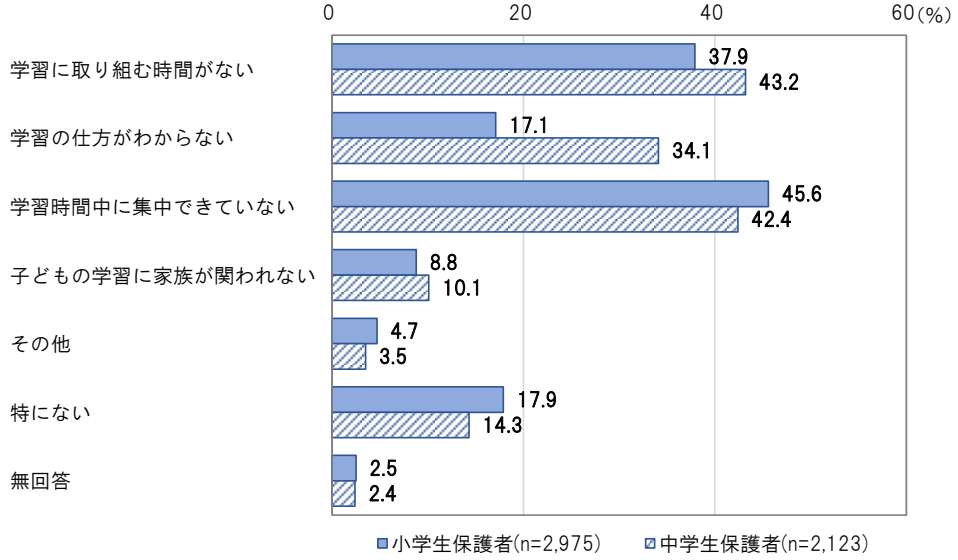
中学生保護者では「特にない」が３割となっており、小学生保護者の２倍以上を占める結果となっている。




## 5）子どもの家庭学習に対する課題

子どもの家庭学習に対する課題は、小学生保護者・中学生保護者とも「学習に取り組む時間がない」や「学習時間中に集中できない」の割合が高くなっている。

また、中学生保護者では「学習の仕方がわからない」が３割を超え、小学生保護者の約２倍の割合を占める結果となっている。

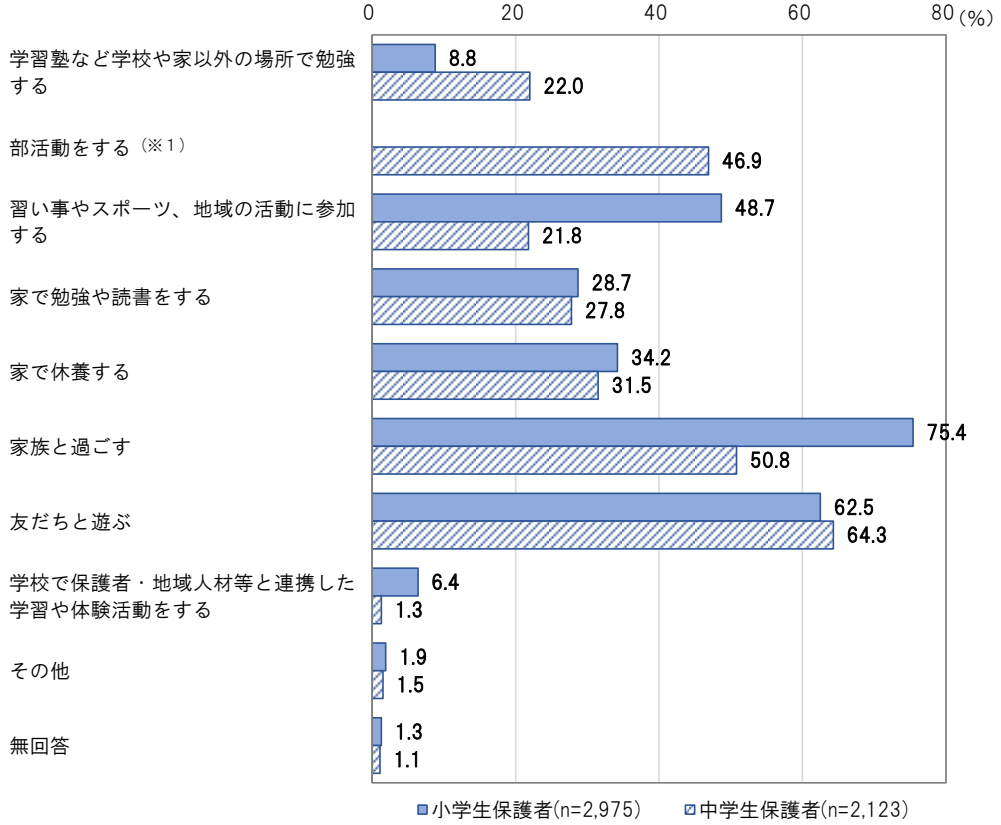


## 6）子どもにしてほしい学校のない日（休日）の過ごし方

子どもにしてほしい学校のない日（休日）の過ごし方は、小学生保護者では「家族と過ごす」が 75.4%と最も高く、次いで「友だちと遊ぶ」が 62.5%、「習い事やスポーツ、地域の活動に参加する」が 48.7%の順となっている。また、中学生保護者では、「友だちと遊ぶ」が 64.3%と最も高く、次いで「家族と過ごす」が 64.3%、「部活動をする」が 46.9%の順となっている。

家族や友達と過ごしてほしいと望む保護者が多い結果となっている。

また、中学生保護者では「学習塾など学校や家以外の場所で勉強する」が２割を超え、小学生保護者の２倍以上を占める結果となっている。

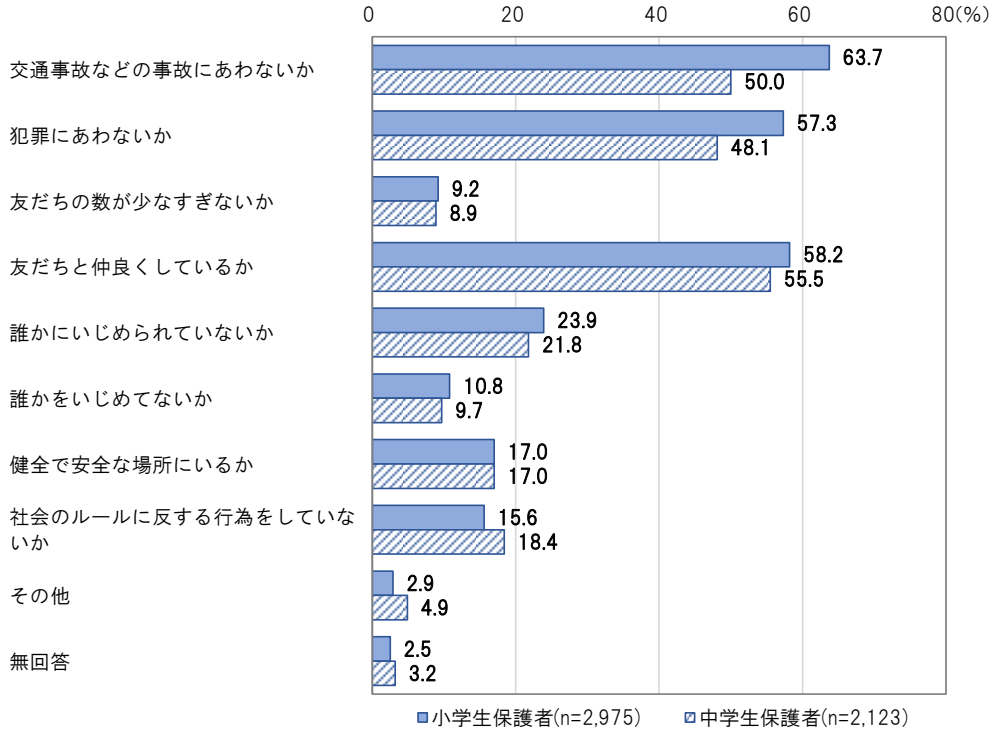



※１：「部活動をさかんにする」は中学生保護者のみの項目。

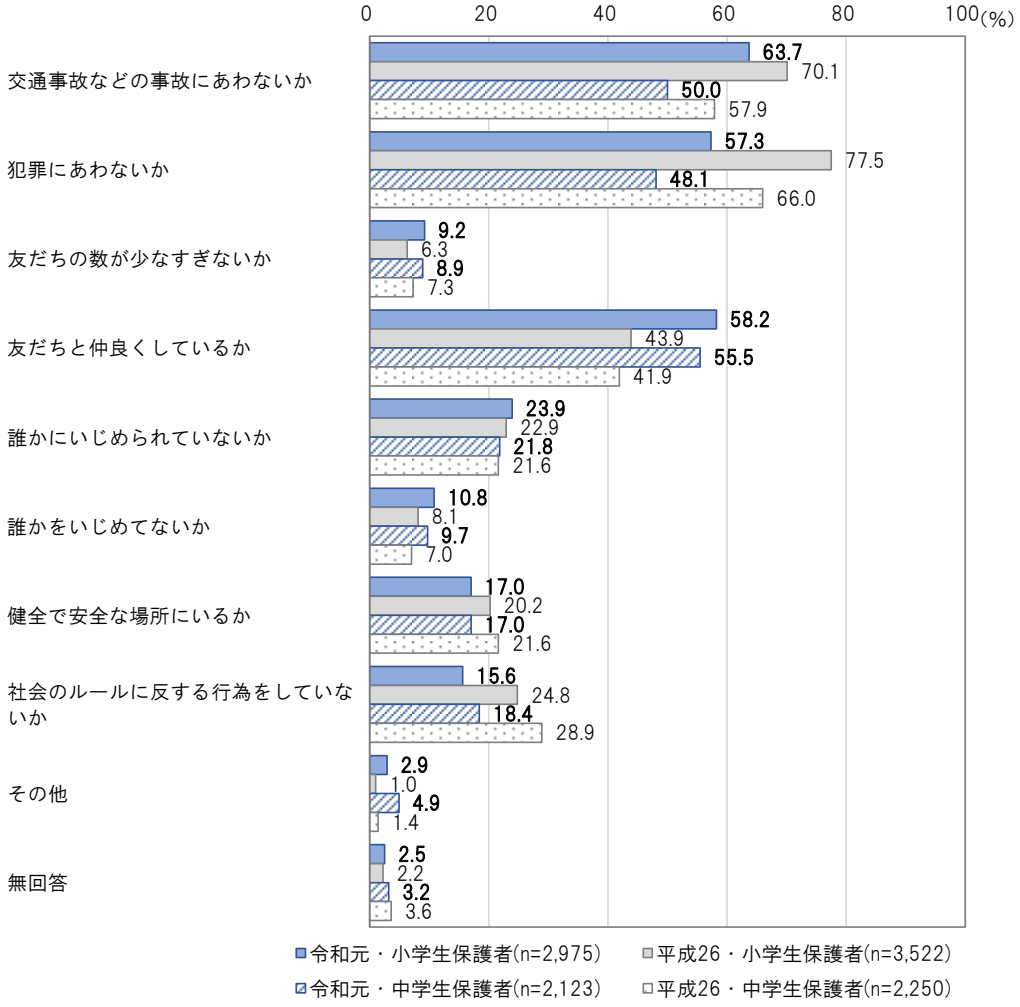
## 7）子どもの生活の中で心配していること

子どもの生活の中で心配していることは、小学生保護者・中学生保護者とも「交通事故などの事故にあわないか」や「犯罪にあわないか」、「友だちと仲良くしているか」の割合が高くなっている。

ほぼすべての項目で、小学生保護者において中学生保護者よりも高い割合となっており、特に「交通事故などの事故にあわないか」や「犯罪にあわないか」では 10 ポイント程度上回っている。

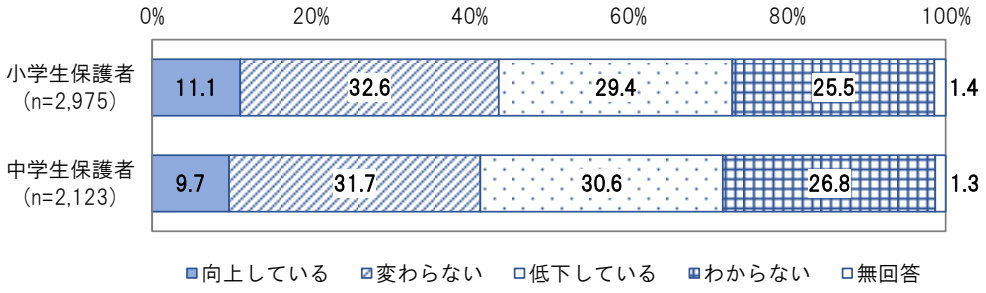


次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学生保護者・中学生保護者とも「友だちの数が少なすぎないか」や「友だちと仲良くしているか」、「誰かにいじめられていないか」、「誰かをいじめてないか」で上昇しており、特に「友だちと仲良くしているか」では 10 ポイント以上の差がみられ、友達関係やいじめなどを心配する保護者が増加していることがわかる。



## 8）近年の家庭の教育力に対する評価

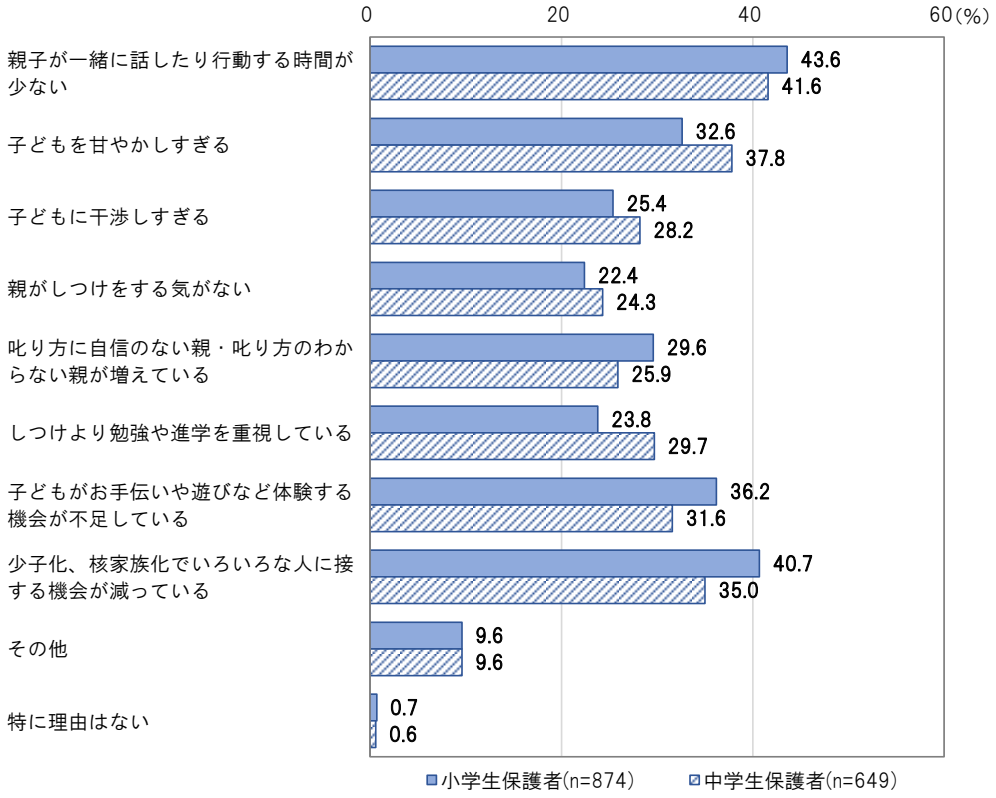
近年の家庭の教育力については、小学生保護者・中学生保護者とも「変わらない」が３割を超えて最も高くなっている。次いで「低下している」が約３割を占め、「向上している」はわずか１割程度となっており、小学生保護者・中学生保護者での大きな差はみられない。




## 9）家庭の教育力が低下している原因

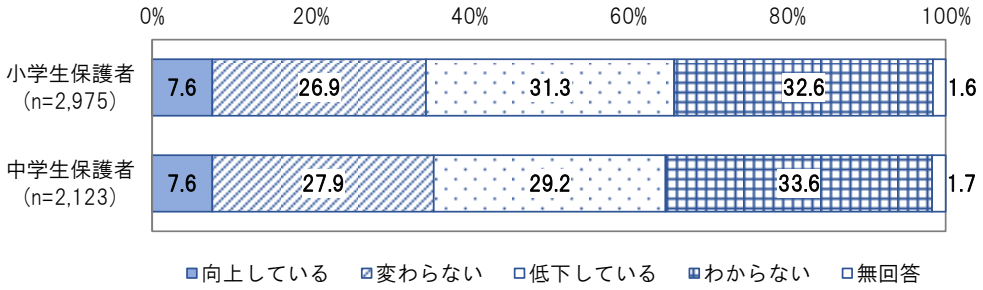
低下していると回答した保護者が考える家庭の教育力が低下している原因は、小学生保護者・中学生保護者とも「親子が一緒に話したり行動する時間が少ない」が最も高くなっている。

また、小学生保護者では「子どもがお手伝いや遊びなど体験する機会が不足している」や「少子化、核家族化でいろいろな人に接する機会が減っている」で中学生保護者に比べてやや高いのに対し、中学生保護者では「子どもを甘やかしすぎている」や「しつけより勉強や進学を重視している」で小学生保護者に比べてやや高くなっている。



## 10）近年の地域の教育力に対する評価

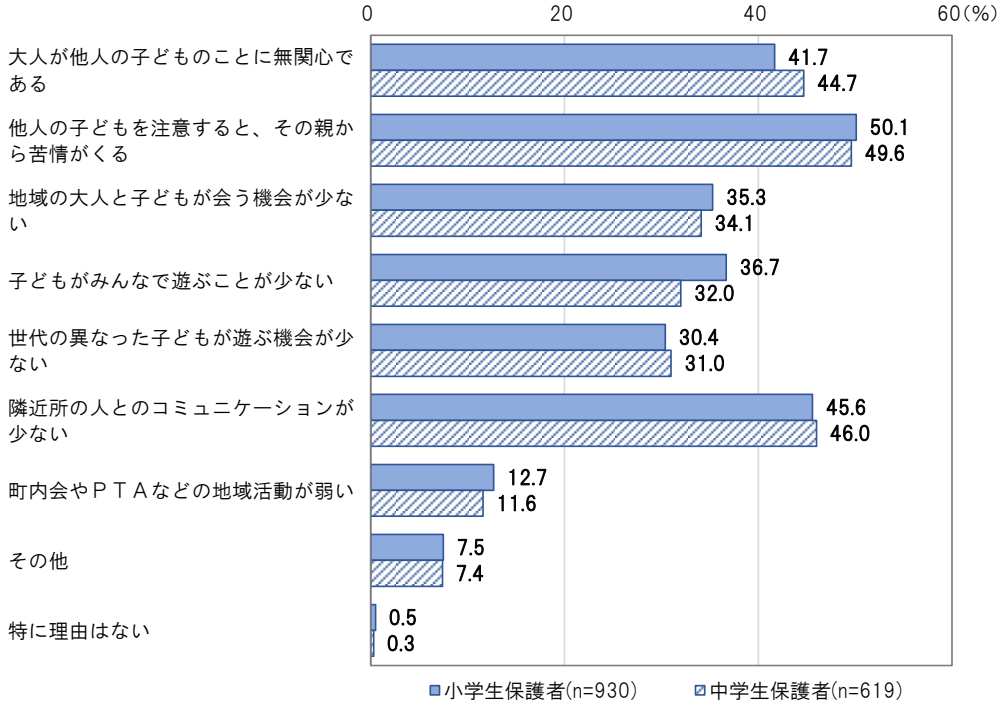
近年の地域の教育力については、「わからない」を除くと、小学生保護者・中学生保護者とも「低下している」が３割程度を占めて最も高く、次いで「変わらない」となっており、「向上している」はわずか１割未満となっている。




## 11）地域の教育力が低下している原因

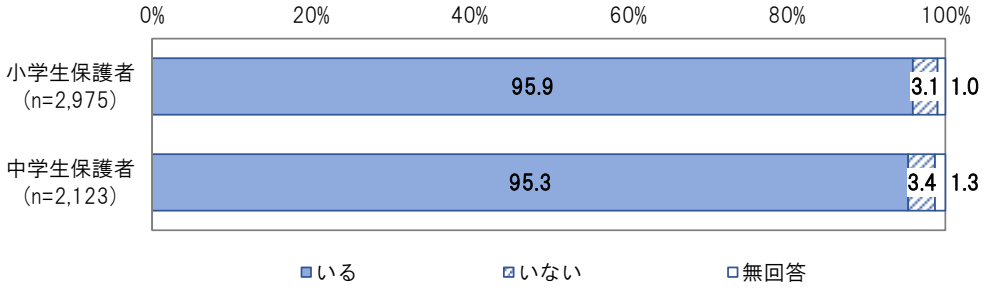
低下していると回答した保護者が考える地域の教育力が低下している原因は、小学生保護者・中学生保護者とも「他人の子どもを注意すると、その親から苦情がくる」が約半数を占めて最も高く、次いで「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」、「大人が他人の子どもに無関心である」の順となっている。

また、小学生保護者では「子どもがみんなで遊ぶことが少ない」で中学生保護者に比べてやや高くなっているものの、大きな差はみられない。



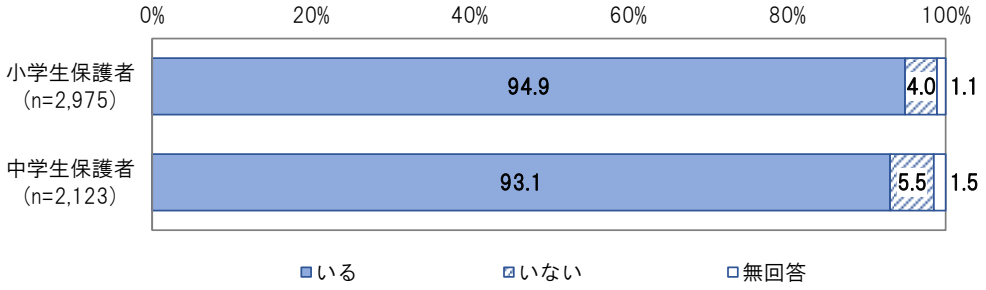
## 12）ちょっとした心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無

ちょっとした心配事や愚痴を聞いてくれる人の有無は、小学生保護者・中学生保護者とも「いる」が大半を占めており、大きな差はみられない。



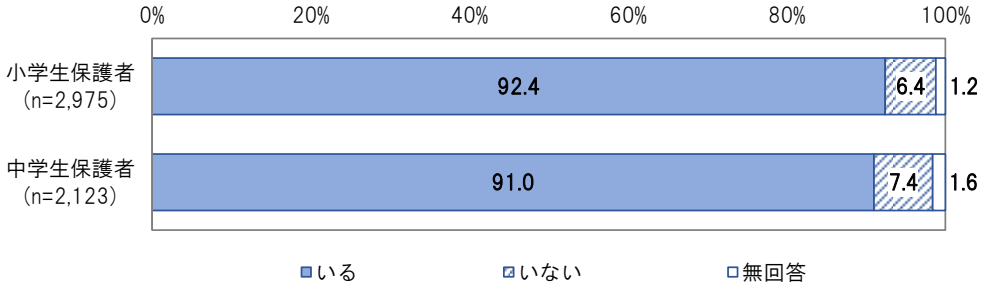

## 13）いざというときに助け合える人や頼ることができる人の有無

いざというときに助け合える人や頼ることができる人の有無は、小学生保護者・中学生保護者とも「いる」が大半を占めている。「いない」が小学生保護者に比べて、中学生保護者でやや高くなっているものの、大きな差はみられない。




## 14）挑戦したいときに応援や支援をしてくれる人の有無

挑戦したいときに応援や支援をしてくれる人の有無は、小学生保護者・中学生保護者とも「いる」が大半を占めている。「いない」が小学生保護者に比べて、中学生保護者でやや高くなっているものの、大きな差はみられない。



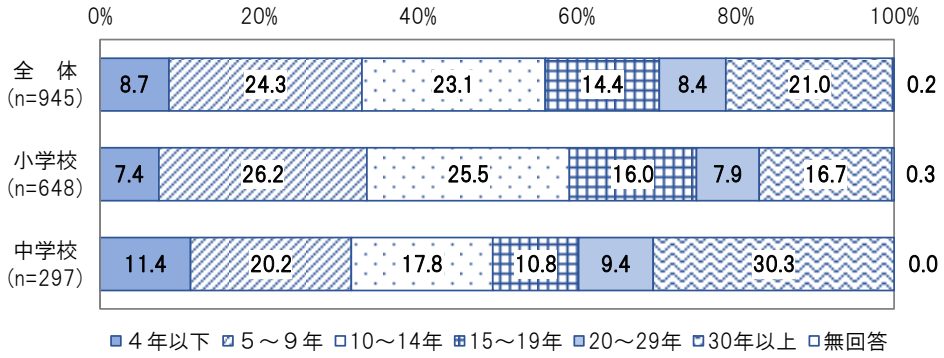
# 4　教員調査の結果

## （１）回答者の属性

### １）教職経験年数

教員の教職経験年数は、「５～９年」が 24.3%と最も高く、次いで「10～14 年」(23.1%)、「30 年以上」(21.0%) となっている。

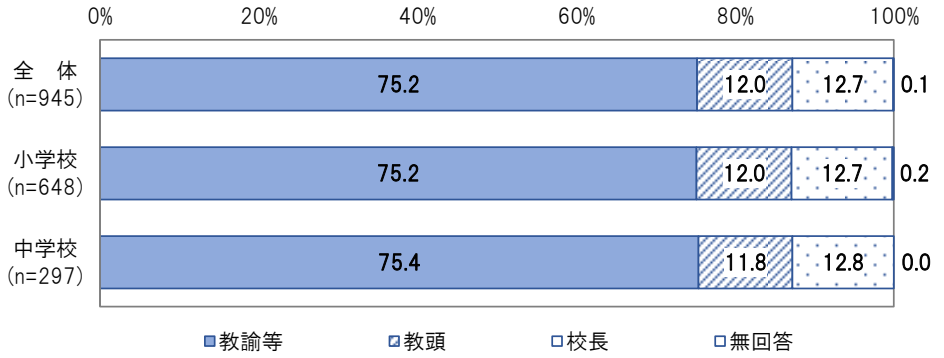
小中学校別にみると、小学校では「５～９年」及び「10～14 年」がほぼ同程度に多いのに対し、中学校では「30 年以上」が３割を超えて多くなっている。




### ２）職名

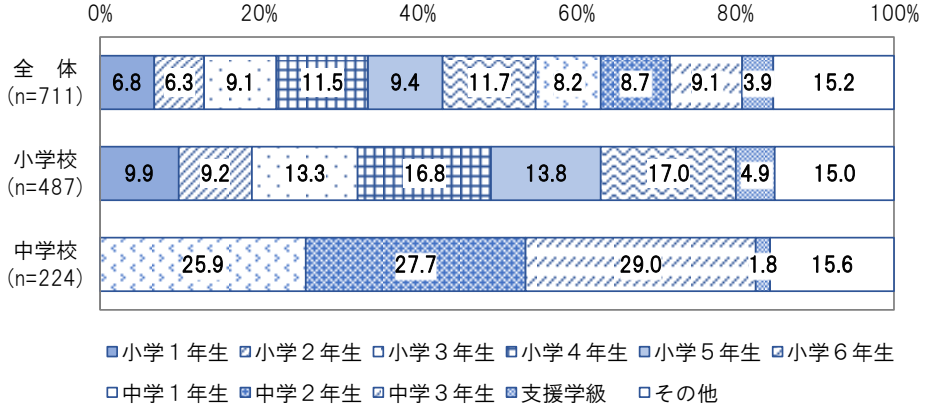
教員の職名は、「教諭等」が 75.2%と最も高く、「教頭」が 12.0%、「校長」が 12.7%となっている。

小中学校別においても、ほぼ同様の状況となっている。



### 3）担当学年（教諭等）

教諭等と回答した教員の担当学年は、各学年でほぼ同程度の割合となっており、「支援学級」が 3.9%、「その他（複数の学年を担当する場合を含む）」が 15.2%となっている。

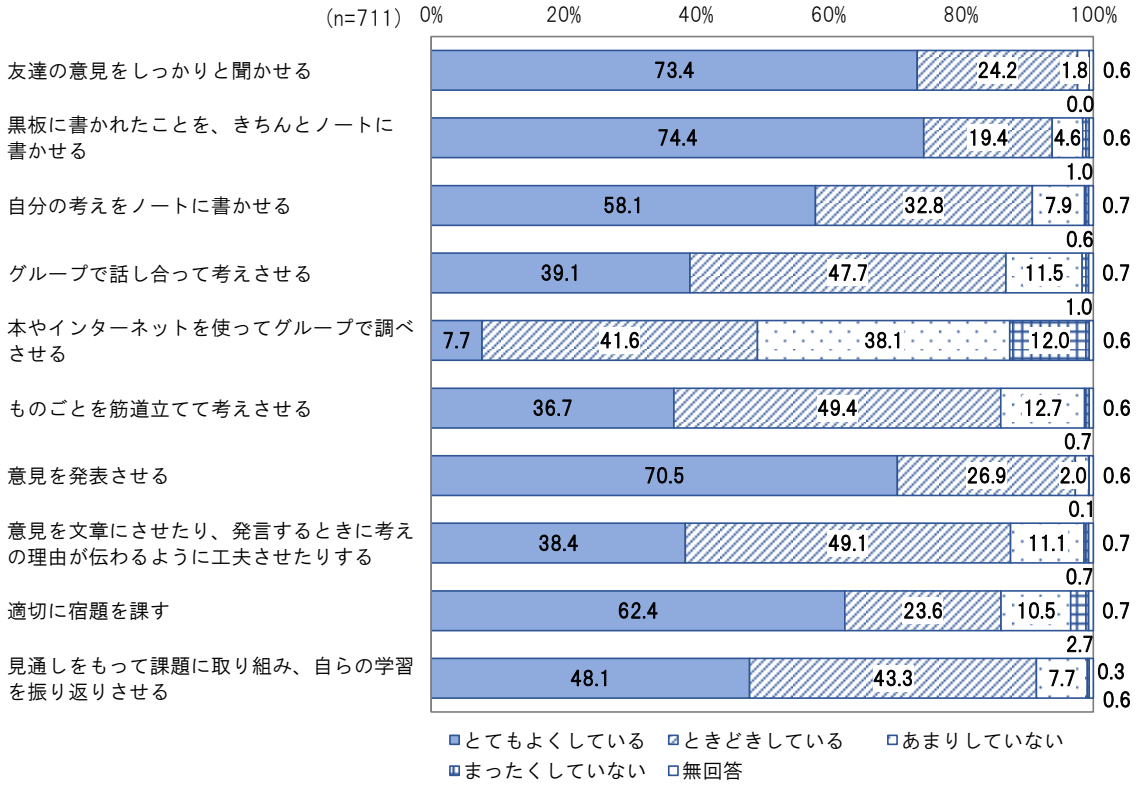


## （２）学習指導などの状況について

### １）学習指導の中で児童生徒にさせていること（教諭等）

教諭等が、普段の学習指導の中で児童生徒にさせていることは、「とてもよくしている」と「ときどきしている」を合わせた『している』の割合をみると、“友達の意見をしっかりと聞かせる”が 97.6%、“意見を発表させる”が 97.4%と高く、次いで“黒板に書かれたことを、きちんとノートに書かせる”が 93.8%、“見通しをもって課題に取り組み、自らの学習を振り返りさせる”が 91.4%の順で高くなっている。

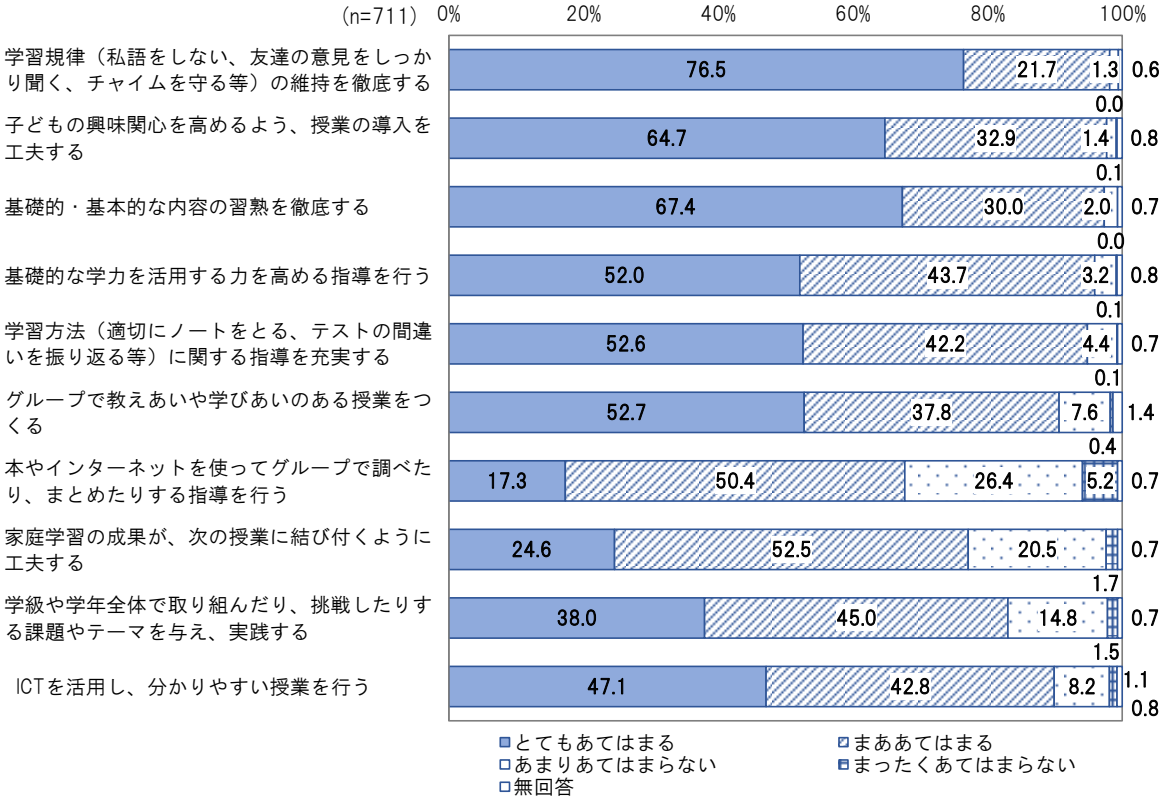
一方で、「あまりしていない」と「まったくしていない」を合わせた『していない』の割合をみると、“本やインターネットを使ってグループで調べさせる”が 50.1%と約半数を占める結果となっている。



## 2）今後の学習指導の中で力を入れたいこと（教諭等）

教諭等が、今後の学習指導の中で力を入れたいことは、「とてもあてはまる」と「まああてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合をみると、“学習規律（私語をしない、友達の意見をしっかり聞く、チャイムを守る等）の維持を徹底する”が 98.2%と最も高く、次いで“子どもの興味関心を高めるよう、授業の導入を工夫する”が 97.6%、“基礎的・基本的な内容の習熟を徹底する”が 97.4%の順で高くなっている。

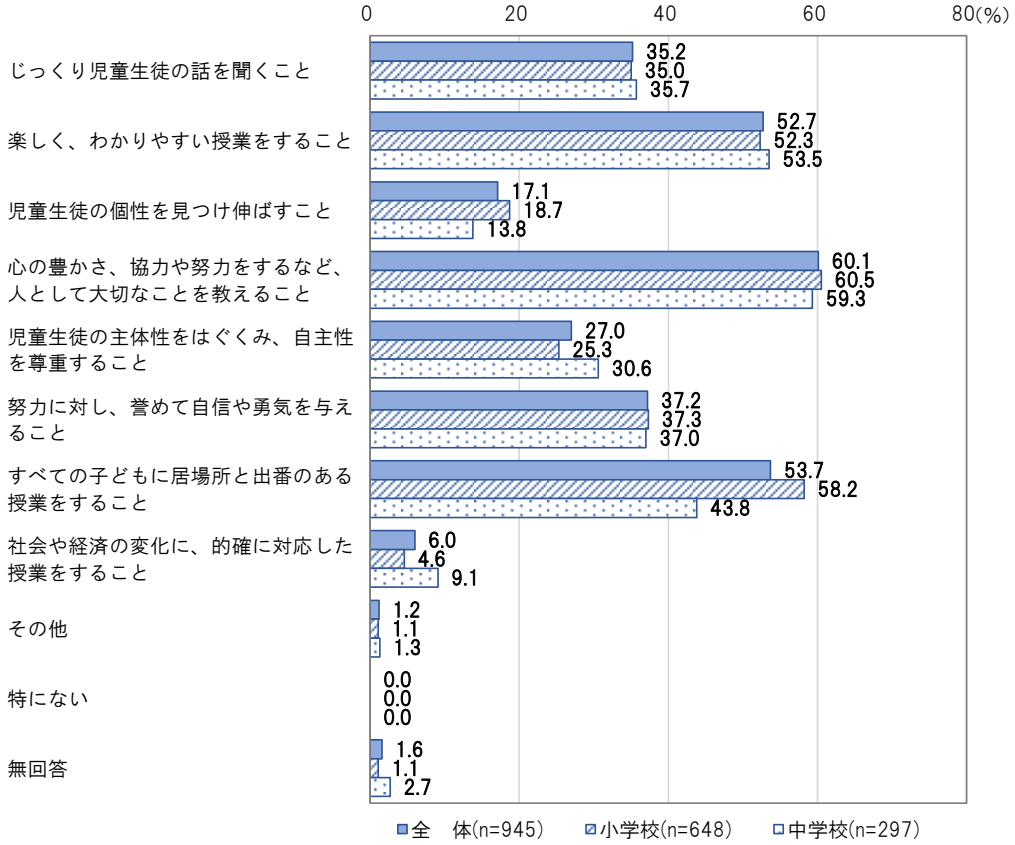
一方で、「あまりあてはまらない」と「まったくあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合をみると、“本やインターネットを使ってグループで調べたり、まとめたりする指導を行う”が 31.6%と３割以上を占めて高く、次いで“家庭学習の成果が、次の授業に結び付くように工夫する”が 22.2%、“学級や学年全体で取り組んだり、挑戦したりする課題やテーマを与え、実践する”が１割以上の順となっており、その他の項目に比べてやや高くなっている。



### 3）児童生徒に対して一層力を入れようと考えていること

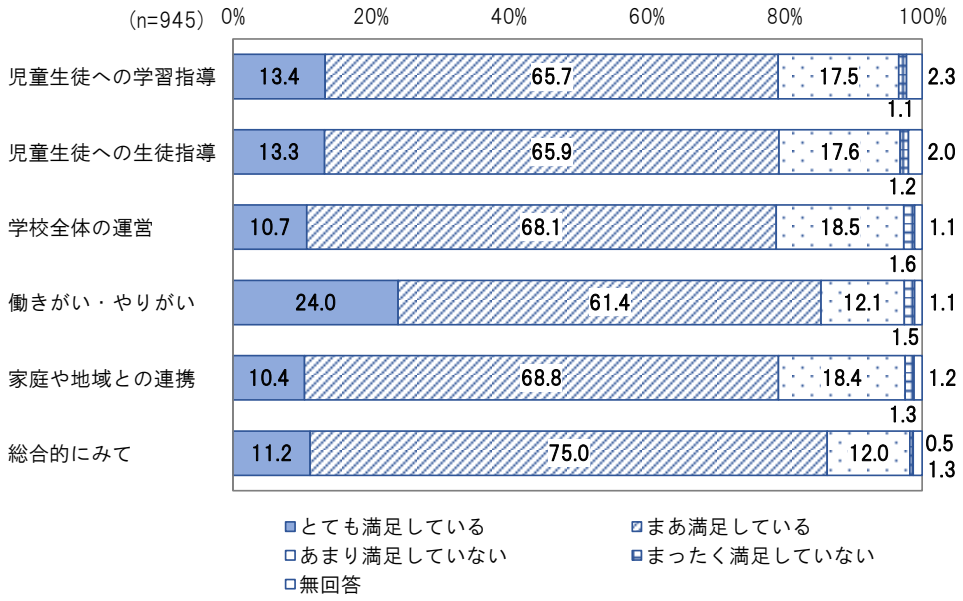
児童生徒に対して一層力を入れようと考えていることは、「心の豊かさ、協力や努力をするなど、人として大切なことを教えること」が 60.1%と最も高く、次いで「すべての子どもに居場所と出番のある授業をすること」が 53.7%、「楽しく、わかりやすい授業をすること」が 52.7%の順となっている。

また、小中学校別では、ほぼ同様の傾向となっているものの、「すべての子どもに居場所と出番のある授業をすること」においては、小学校教員が中学校教員に比べて 14.4 ポイント上回り、大きな差がみられた。

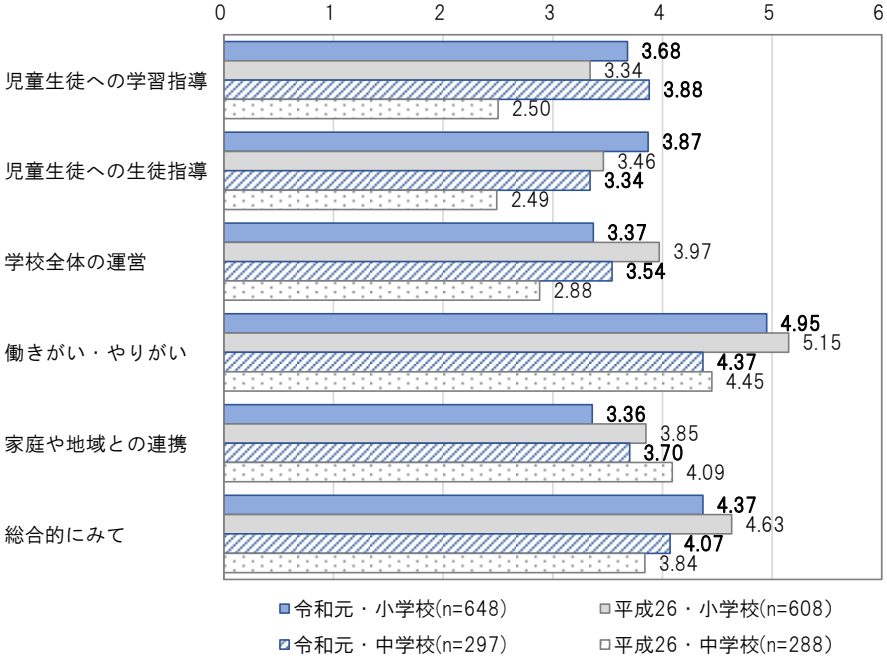


## ４）学校内での業務の満足度

学校内での業務の満足度では、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた『満足している』の割合をみると、すべての項目で８割程度を占めており、特に“働きがい・やりがい”及び“総合的にみて”で高くなっている。




次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学校教員では「児童生徒への学習指導」及び「児童生徒への生徒指導」以外の項目では満足度が下がっているのに対し、中学校教員では、多くの項目で満足度が上昇しており、特に「児童生徒への学習指導」や「児童生徒への生徒指導」、「学校全体の運営」では、平成 26 年度調査に比べて大幅な上昇がみられた。

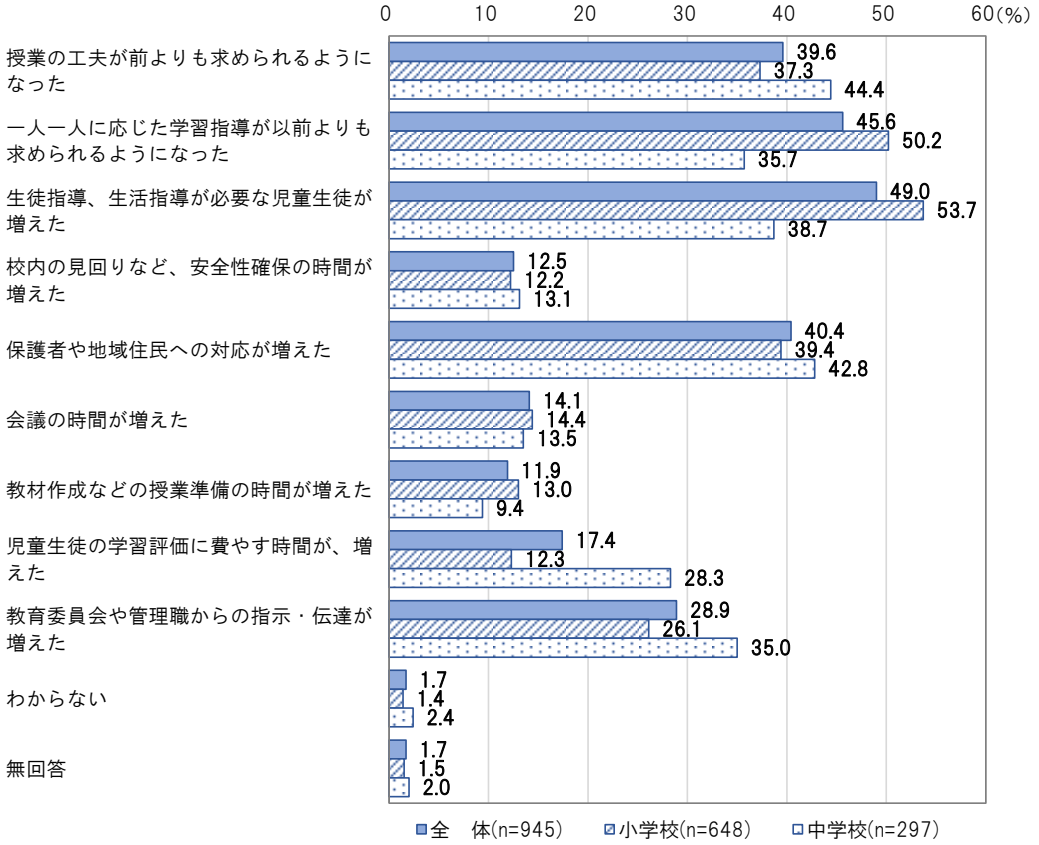



※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

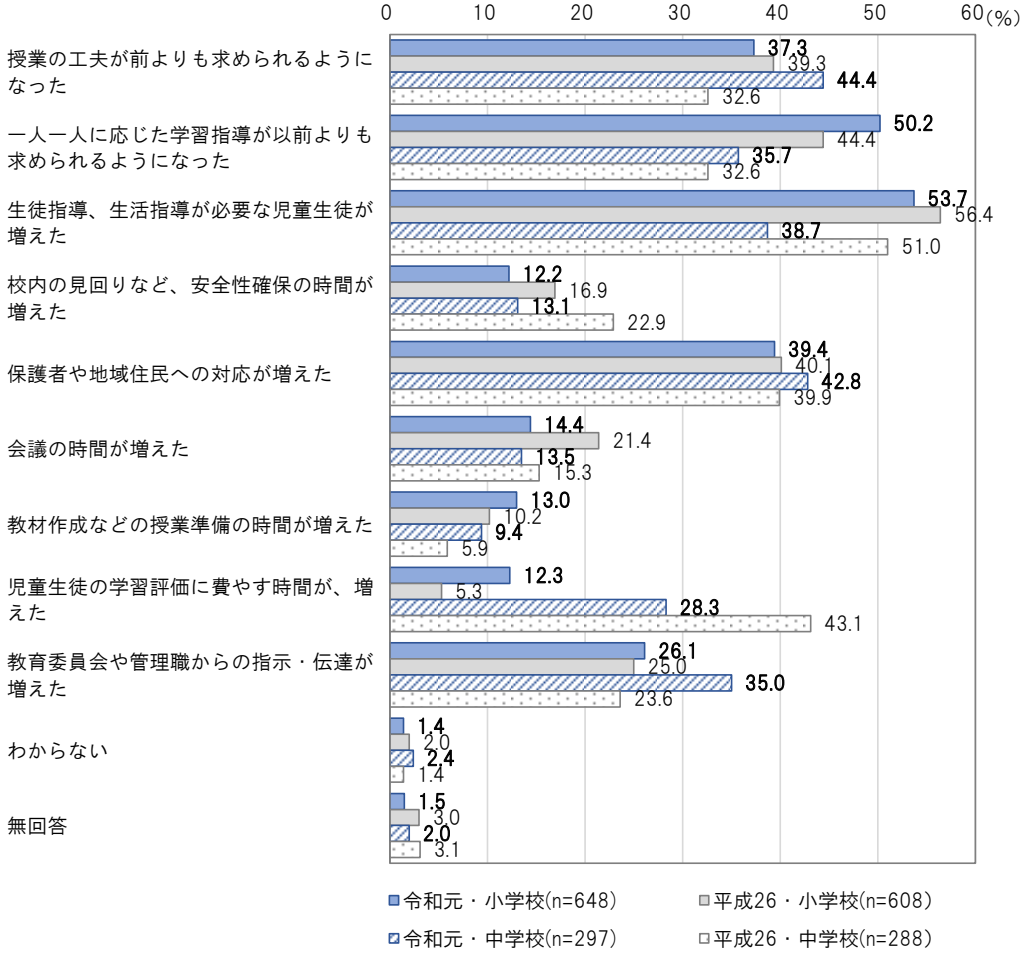
## 5）勤務していて変化を感じること

勤務していて変化を感じることは、「生徒指導、生活指導が必要な児童生徒が増えた」が49.0%と最も高く、次いで「一人一人に応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」が45.6%、「保護者や地域住民への対応が増えた」が40.4%の順となっている。

また、小中学校別では、小学校教員では「生徒指導、生活指導が必要な児童生徒が増えた」及び「一人一人に応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」が半数を超えて高くなっており、中学校教員では「児童生徒の学習評価に費やす時間が、増えた」や「教育委員会や管理職からの指示・伝達が増えた」が小学校教員に比べて大幅に高くなっている。



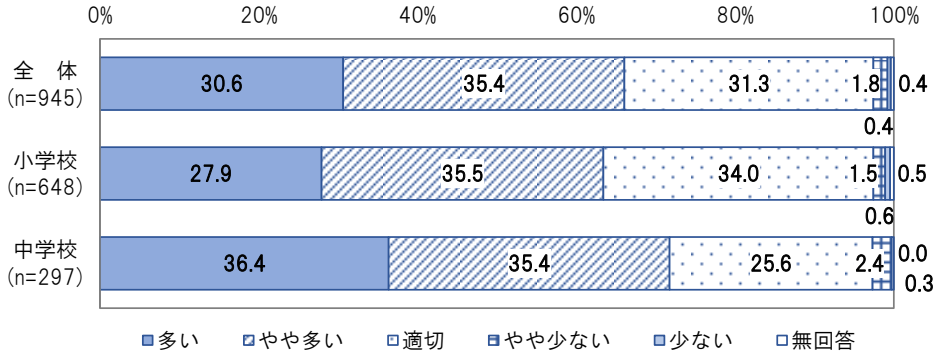
次に、平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、小学校教員では「一人一人に応じた学習指導が以前よりも求められるようになった」や「児童生徒の学習評価に費やす時間が、増えた」、中学校教員では、「授業の工夫が前よりも求められるようになった」や「教育委員会や管理職からの指示・伝達が増えた」で、平成 26 年度調査に比べて大幅な上昇がみられた。



## ６）学校内での業務量

学校内での業務量は、「やや多い」が 35.4％と最も高く、「多い」（30.6％）と合わせると、６割以上の教員が学校内の業務量を『多い』と回答しており、「適切」は 31.3％と３割程度に留まっている。

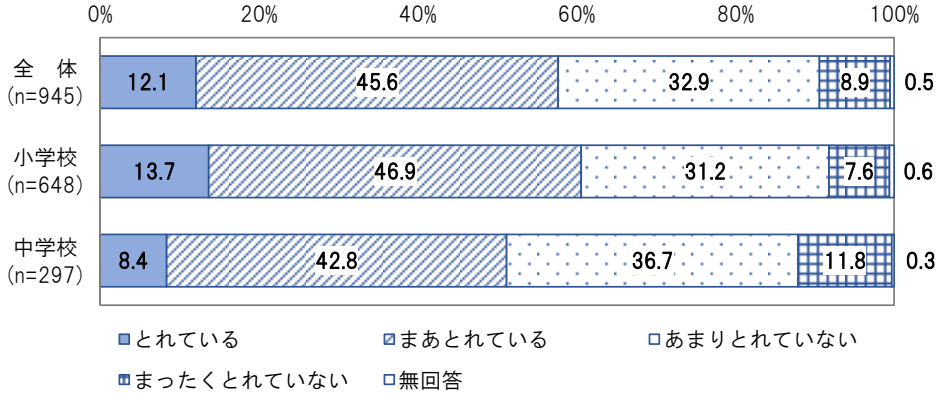
また、小中学校別では、小学校教員に比べて中学校教員で『多い』の割合が高く、７割を超えている。




## ７）仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスの状況

仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスの状況は、「まあとれている」が 45.6％と最も高く、「とれている」（12.1％）と合わせると、６割近くの教員が仕事と生活（趣味・家庭生活・余暇など）のバランスは『とれている』と回答している一方で、『とれていない』（「あまりとれていない」＋「まったくとれていない」）が約４割を占めている。

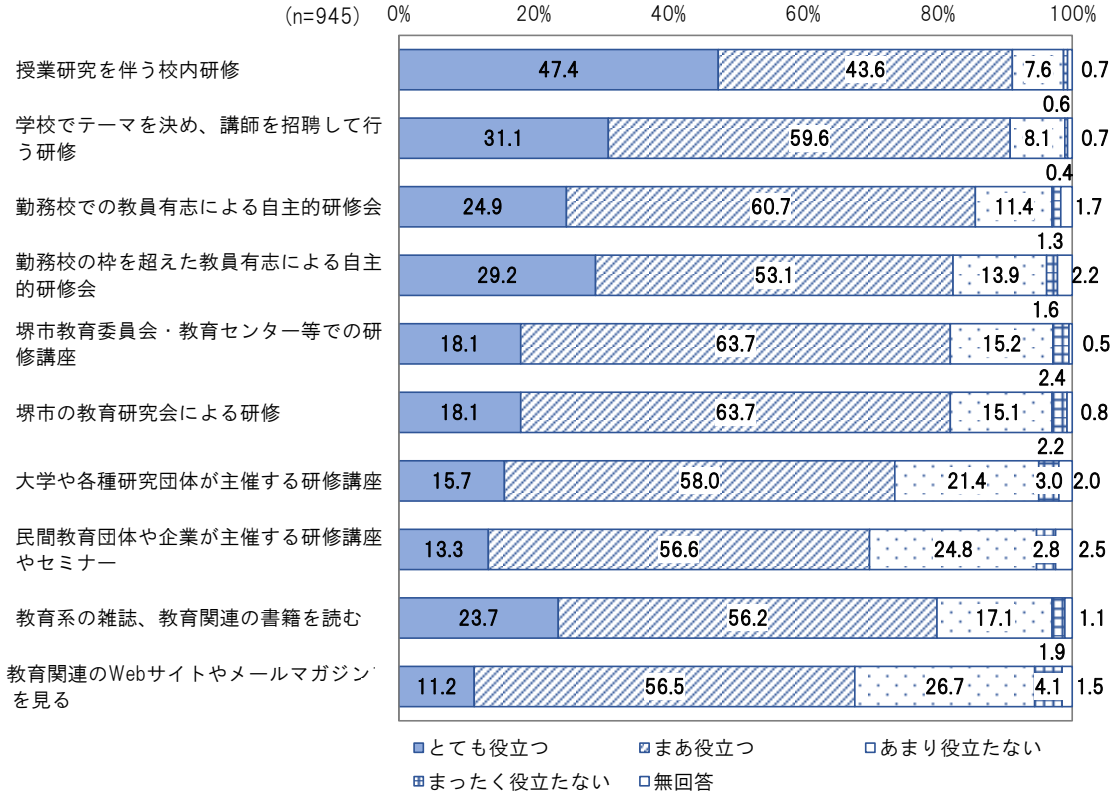
また、小中学校別では、小学校教員に比べて中学校教員で『とれていない』の割合が高く、半数近くを占めている。



## 8）「教育力向上」に役立った研修

「教育力向上」に役立った研修は、「とても役立つ」と「まあ役立つ」を合わせた『役立つ』の割合をみると、“授業研究を伴う校内研修”が 91.0%、“学校でテーマを決め、講師を招聘して行う研修”が 90.7%とともに９割を占めて高く、次いで“勤務校での教員有志による自主的研修会”が 85.6%、“勤務校の枠を超えた教員有志による自主的研修会”が 82.3%の順となっている。

一方で、「あまり役立たない」と「まったく役立たない」を合わせた『役立たない』の割合をみると、“教育関連の Web サイトやメールマガジンを見る”が 30.8%と約３割を占めて高く、次いで“民間教育団体や企業が主催する研修講座やセミナー”が 27.6%、“大学や各種研究団体が主催する研修講座”が 24.4%の順となっており、その他の項目に比べてやや高くなっている。

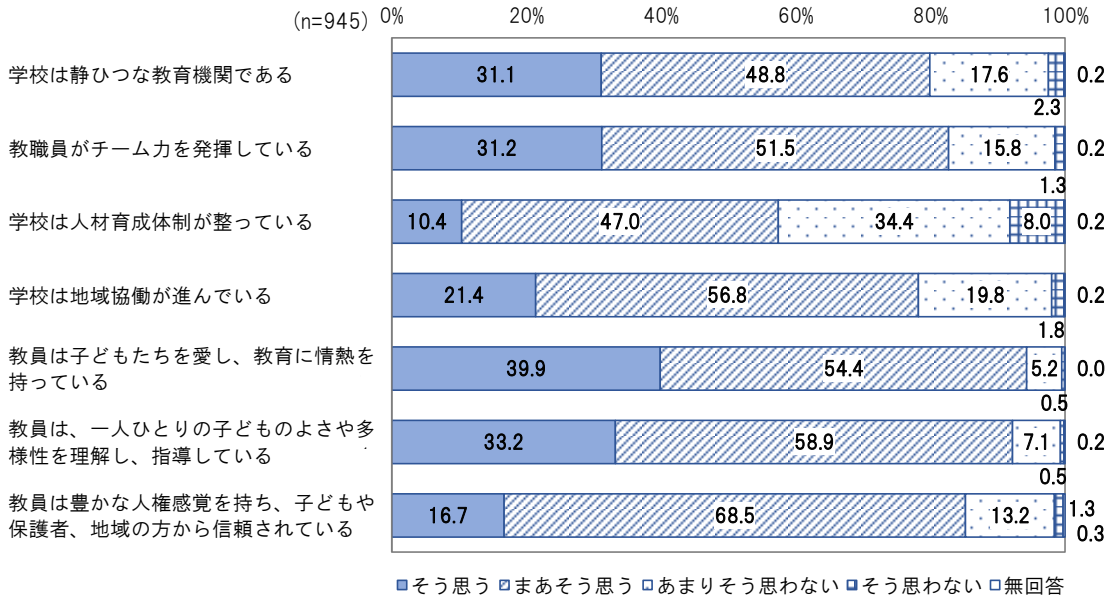


## （３）学校教育について

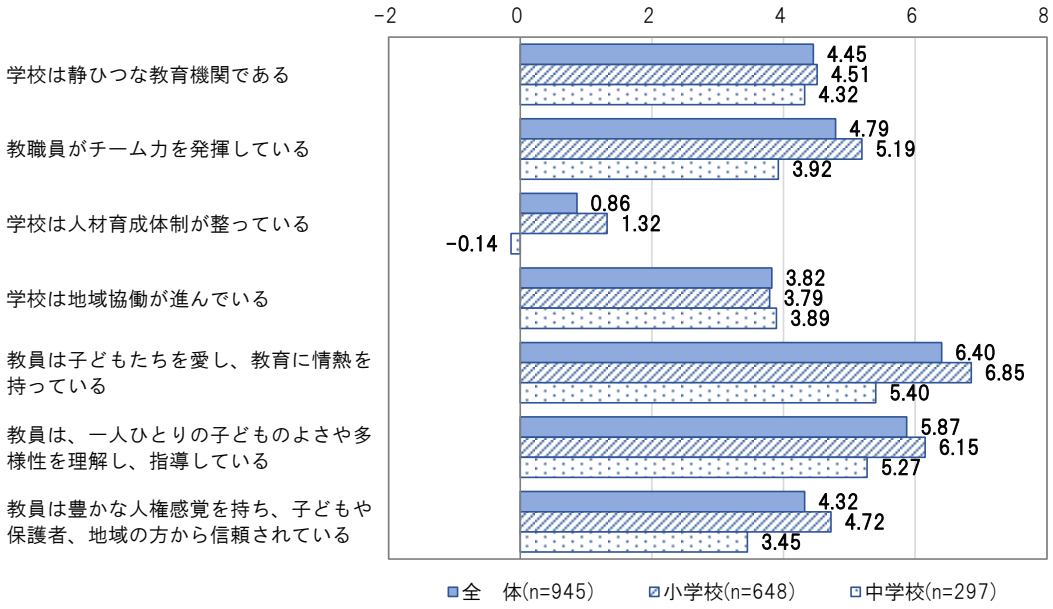
### １）勤務する学校やその教員について感じること

勤務する学校やその教員について感じることは、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『思う』の割合をみると、“教員は子どもたちを愛し、教育に情熱を持っている”が 94.3%、“教員は、一人ひとりの子どものよさや多様性を理解し、指導している”が 92.1%と９割を超えて高く、次いで“教員は豊かな人権感覚を持ち、子どもや保護者、地域の方から信頼されている”が 85.2%、“教職員がチーム力を発揮している”が 82.7%の順で高くなっている。

一方で、「あまりそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『思わない』の割合をみると、“学校は人材育成体制が整っている”が 42.4%と４割を超えて、その他の項目と比べても突出して高くなっている。



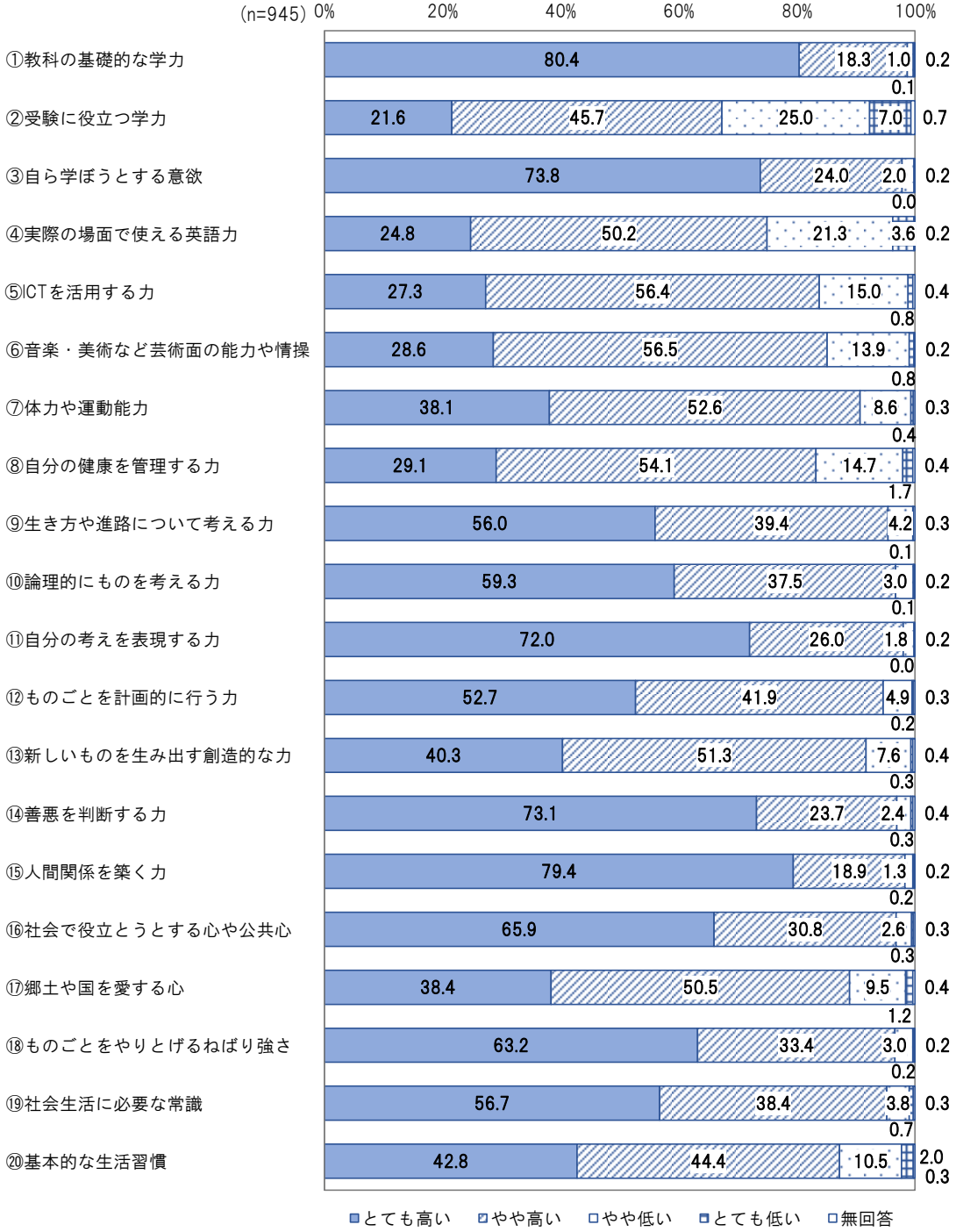

次に、指標化して小中学校別に比較すると、ほぼすべての項目で小学校教員において中学校教員よりも高い点数となっており、特に「学校は人材育成体制が整っている」や「教員は子どもたちを愛し、教育に情熱を持っている」で、他の項目に比べて大きな開きがみられた。



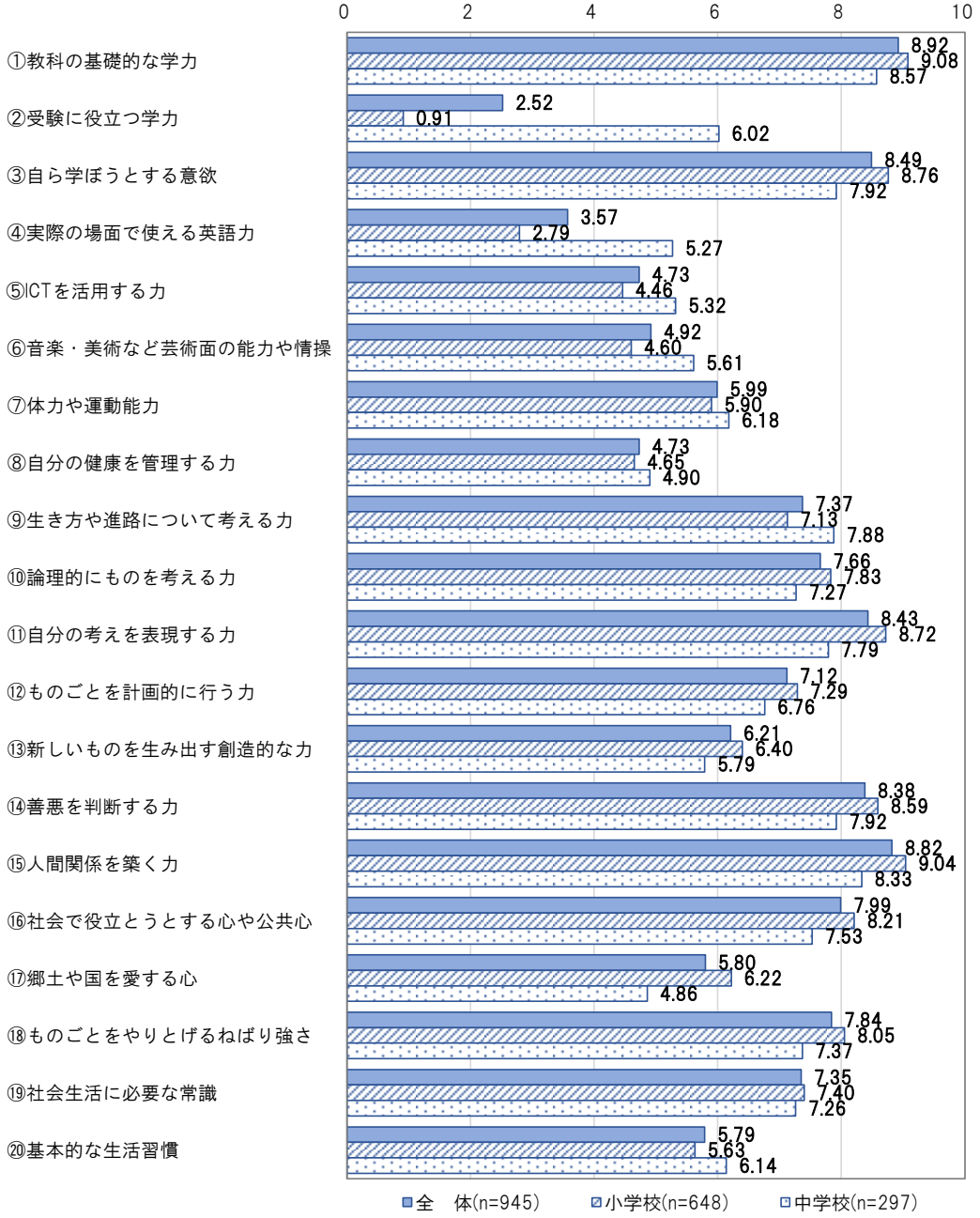
## 2）学校教育及び学校教育以外の場（家庭や地域など）で身につける必要性のある能力や態度

### ①学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度

子どもが学校教育の中で身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“①教科の基礎的な学力”が 98.7%と最も高く、次いで、“⑮人間関係を築く力”が 98.3%、“⑪自分の考えを表現する力”が 98.0%、“③自ら学ぼうとする意欲”が 97.8%の順となっている。

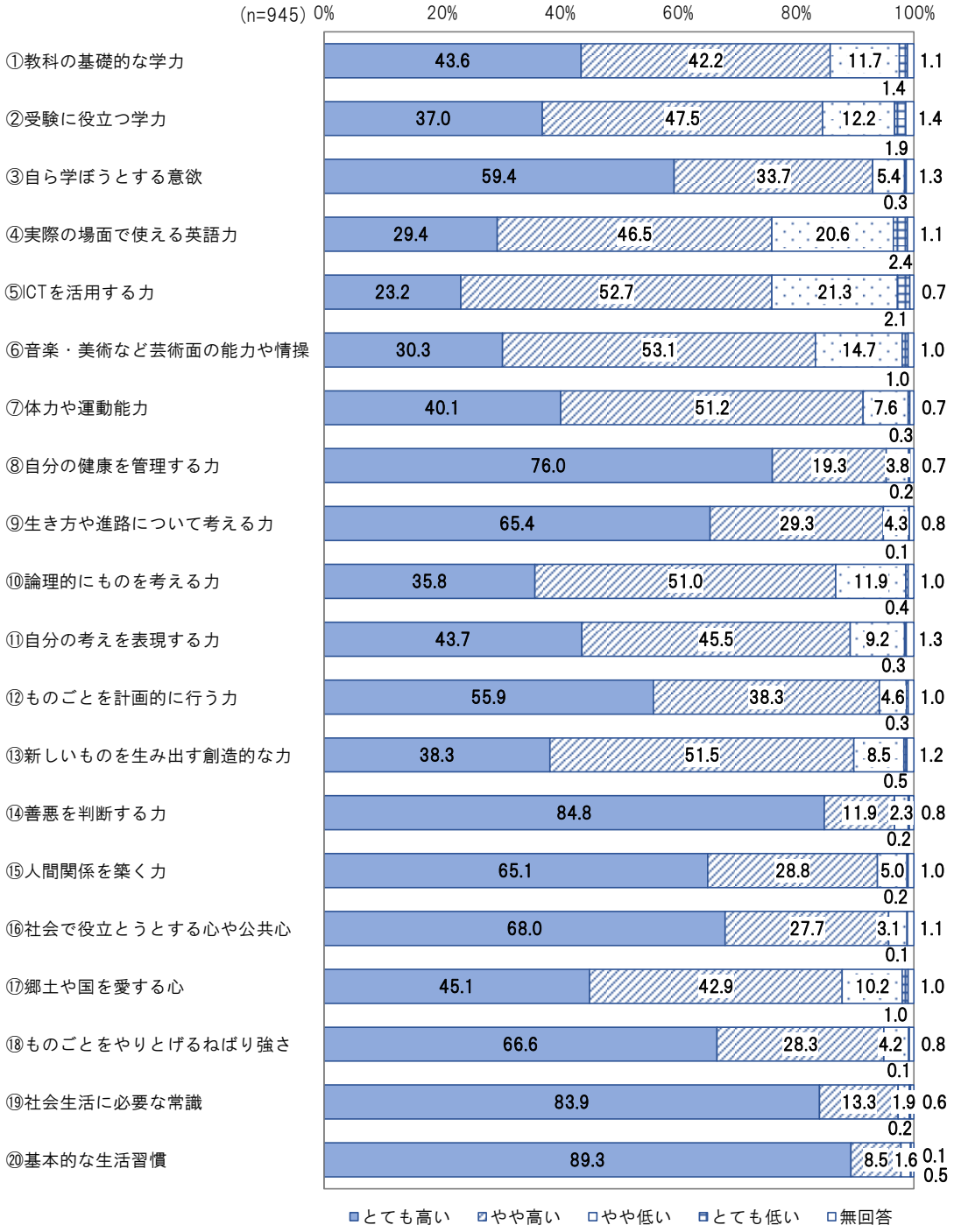


次に、指標化して小中学校別に比較すると、小学校教員では「⑰郷土や国を愛する心」や「⑪自分の考えを表現する力」、「③自ら学ぼうとする意欲」などが中学校教員より高く、中学校教員では「②受験に役立つ学力」や「④実際の場面で使える英語力」、「⑥音楽・美術など芸術面の能力や情操」などが小学校教員よりも高くなっている。特に、「②受験に役立つ学力」では５点以上の開きがみられた。



### ②学校教育以外の場（家庭や地域など）の中で身につける必要性のある能力や態度

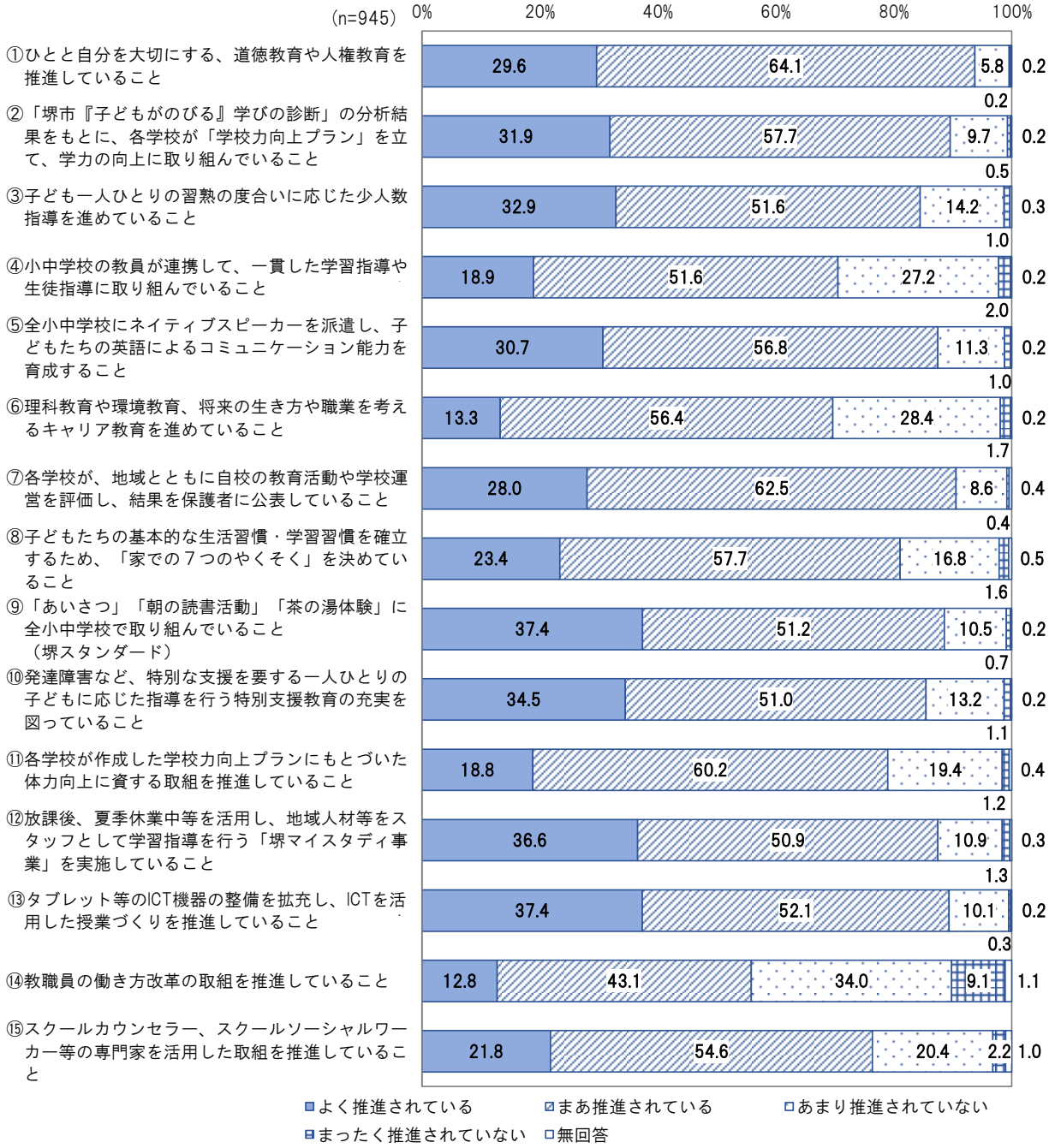
子どもが学校教育以外の場（家庭や地域など）の中で身につける必要性のある能力や態度は、「とても高い」と「やや高い」を合わせた『高い』の割合をみると、“⑳基本的な生活習慣”が97.8%と最も高く、次いで、“⑲社会生活に必要な常識”が97.2%、“⑭善悪を判断する力”が96.7%の順となっている。



## 3）教育委員会や学校の取組の進捗度・重要度

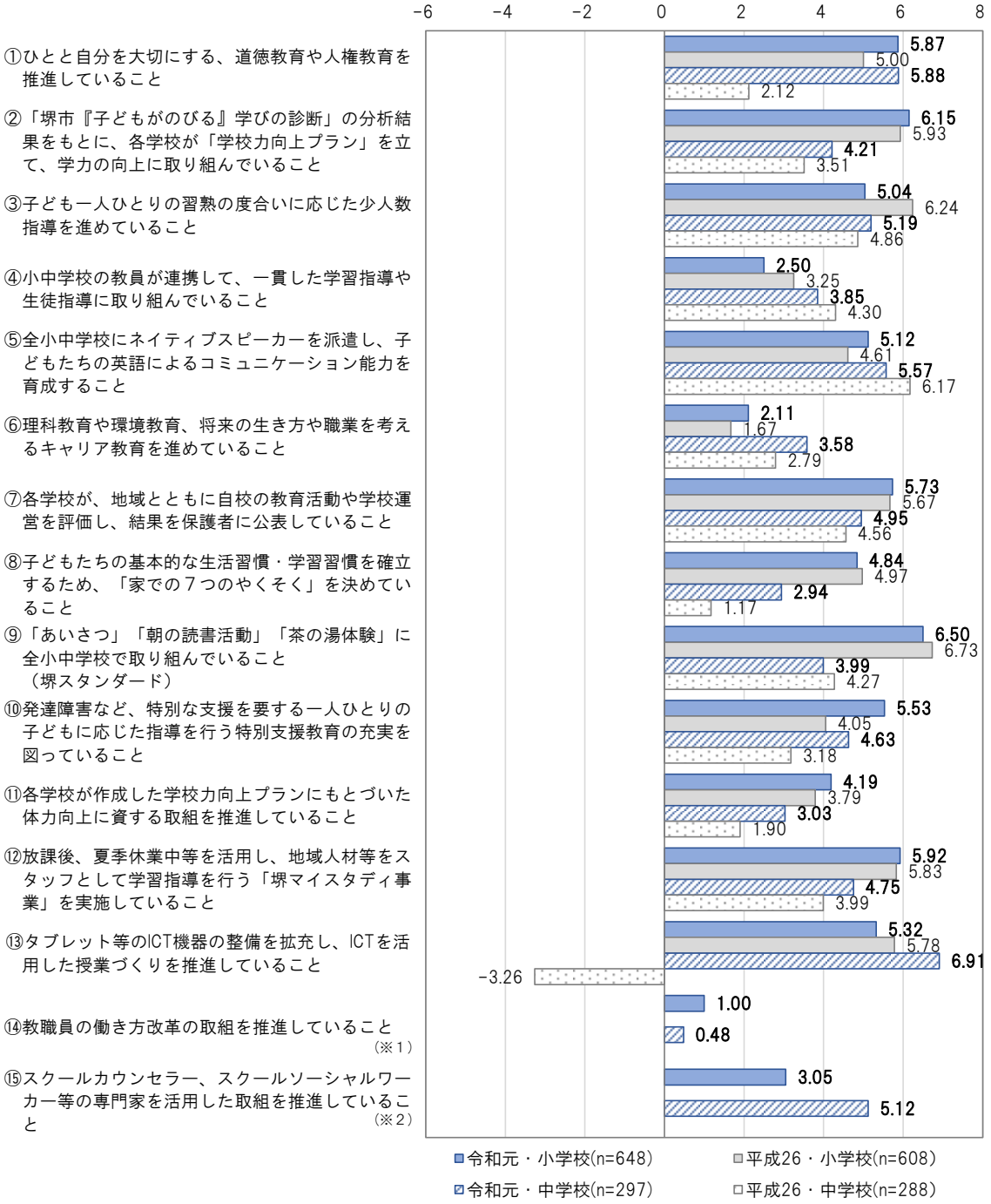
### ①教育委員会や学校の取組の進捗度

教育委員会や学校の取組の進捗度は、「よく推進されている」と「まあ推進されている」を合わせた『推進されている』の割合をみると、“①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること”が 93.7%と最も高く、次いで、“⑦各学校が、地域とともに自校の教育活動や学校運営を評価し、結果を保護者に公表していること”が 90.5%、“②「堺市『子どもがのびる』学びの診断」の分析結果をもとに、各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること”が 89.6%、“⑬タブレット等の ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること”が 89.5%の順となっている。



次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に点数が上昇しているものの、小学校教員・中学校教員ともに「④小中学校の教員が連携して、一貫した学習指導や生徒指導に取り組んでいること」では低下がみられた。

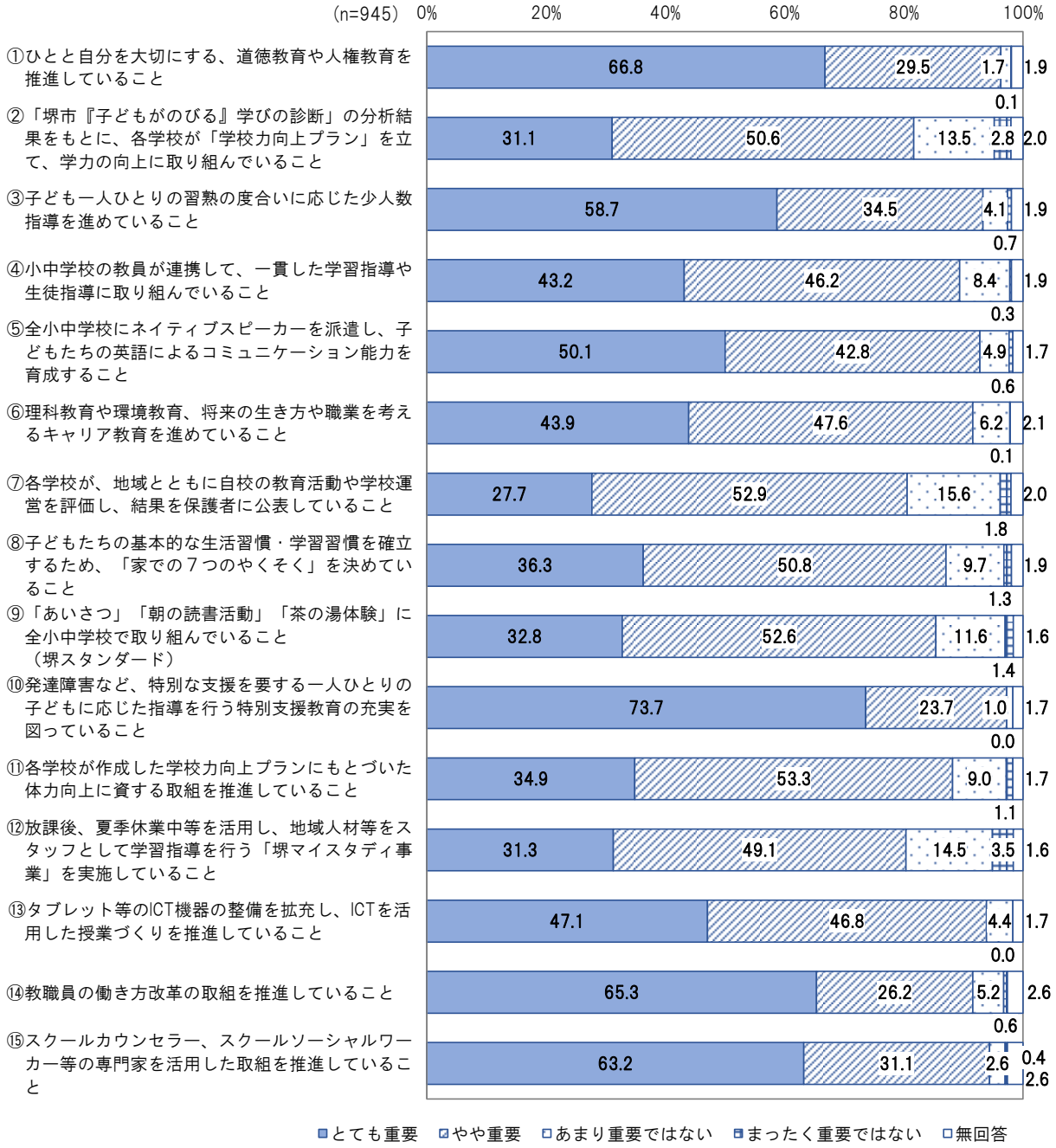
また、中学校教員においては、「⑬タブレット等の ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること」で 10.17 点、「①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」で 3.76 点と、大きな上昇がみられた。




※１：「⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること」は令和元年度のみの項目。
※２：「⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進していること」は令和元年度のみの項目。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

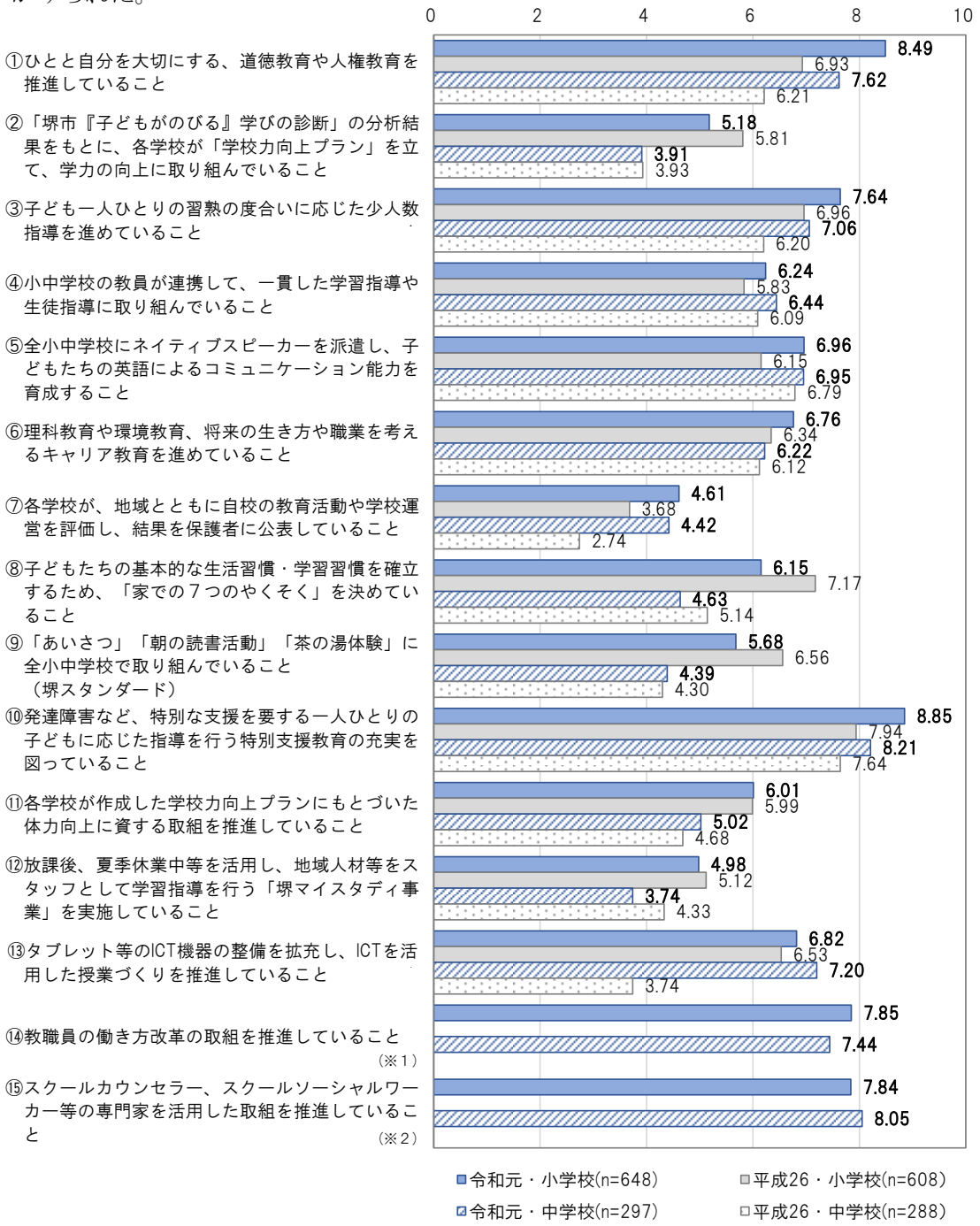
## ②教育委員会や学校の取組の重要度

教育委員会や学校の取組の重要度は、「とても重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“⑩発達障害など、特別な支援を要する一人ひとりの子どもに応じた指導を行う特別支援教育の充実を図っていること”が 97.4%と最も高く、次いで、“①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること”が 96.3%、“⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進していること”が 94.3%の順となっている。



次に、指標化して平成 26 年度調査（平成 27 年３月）と比較すると、全体的に点数が上昇しているものの、小学校教員・中学校教員ともに「⑧子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣を確立するため、「家での７つのやくそく」を決めていること」ではやや低下がみられた。

また、小学校教員においては「①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること」で 1.56 点、中学校教員においては、「⑬タブレット等の ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること」で 3.46 点、「⑦各学校が、地域とともに自校の教育活動や学校運営を評価し、結果を保護者に公表していること」で 1.68 点と、大きな上昇がみられた。



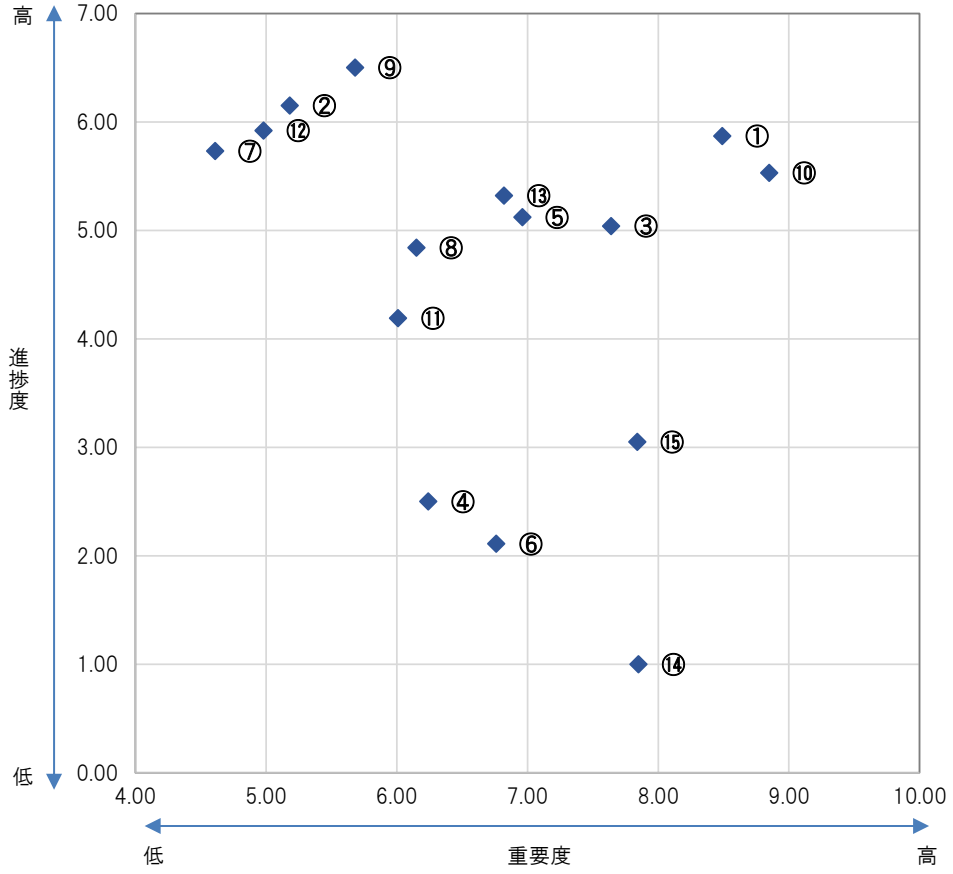

※１：「⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること」は令和元年度のみの項目。
※２：「⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進していること」は令和元年度のみの項目。
※平成 26 年度調査では無回答を「０点」としてスコア化して指標化していたため、令和元年度調査の指標化に合わせ、再度算出している。

③教育委員会や学校の取組の重要度と進捗度のポートフォリオ分析

【小学校教員】

小学校教員では、「④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること」、「⑥理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」、「⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること」、「⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進していること」が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。

小学生保護者（89 ページ）と比較すると、④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること、⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること、⑮スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家を活用した取組を推進してこと」の重要度が高く、満足度が低いという点で評価が共通している。

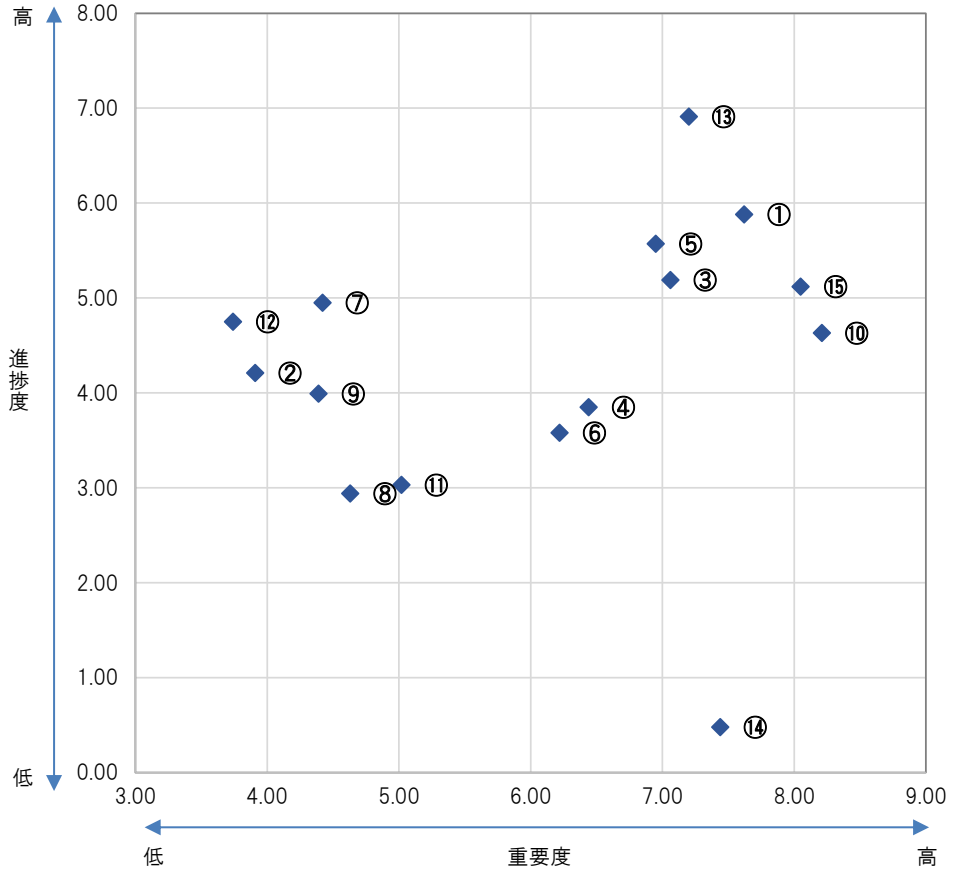


| | 重要度 | 進捗度 |
|---|---|---|
| ①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること | 8.49 | 5.87 |
| ②各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること | 5.18 | 6.15 |
| ③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること | 7.64 | 5.04 |
| ④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること | 6.24 | 2.50 |
| ⑤ﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰを派遣し、英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を育成すること | 6.96 | 5.12 |
| ⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること | 6.76 | 2.11 |
| ⑦各学校が教育活動や学校運営を評価し、保護者に公表していること | 4.61 | 5.73 |
| ⑧生活・学習習慣の確立のため「家での７つのやくそく」を決めていること | 6.15 | 4.84 |
| ⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に取り組んでいること | 5.68 | 6.50 |
| ⑩特別な支援を要する子どもに応じた特別支援教育の充実を図っていること | 8.85 | 5.53 |
| ⑪学校力向上プランにもとづいた体力向上に資する取組を推進していること | 6.01 | 4.19 |
| ⑫地域人材等ｶﾞ学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること | 4.98 | 5.92 |
| ⑬ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること | 6.82 | 5.32 |
| ⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること | 7.85 | 1.00 |
| ⑮スクールカウンセラー等の専門家を活用した取組を推進していること | 7.84 | 3.05 |

【中学校教員】

中学校教員では、「④小中学校の教員が連携して、一貫した学習指導や生徒指導に取り組んでいること」、「⑥理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」、「⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること」が、重要度が高い一方で満足度が低いため、今後の課題として検討が必要であると考えられる。

中学生保護者（90 ページ）と比較すると、「④小中学校の教員が連携して、一貫した学習指導や生徒指導に取り組んでいること」、「⑥理科教育や環境教育、将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること」の重要度が高く、満足度が低いという点で評価が共通している。



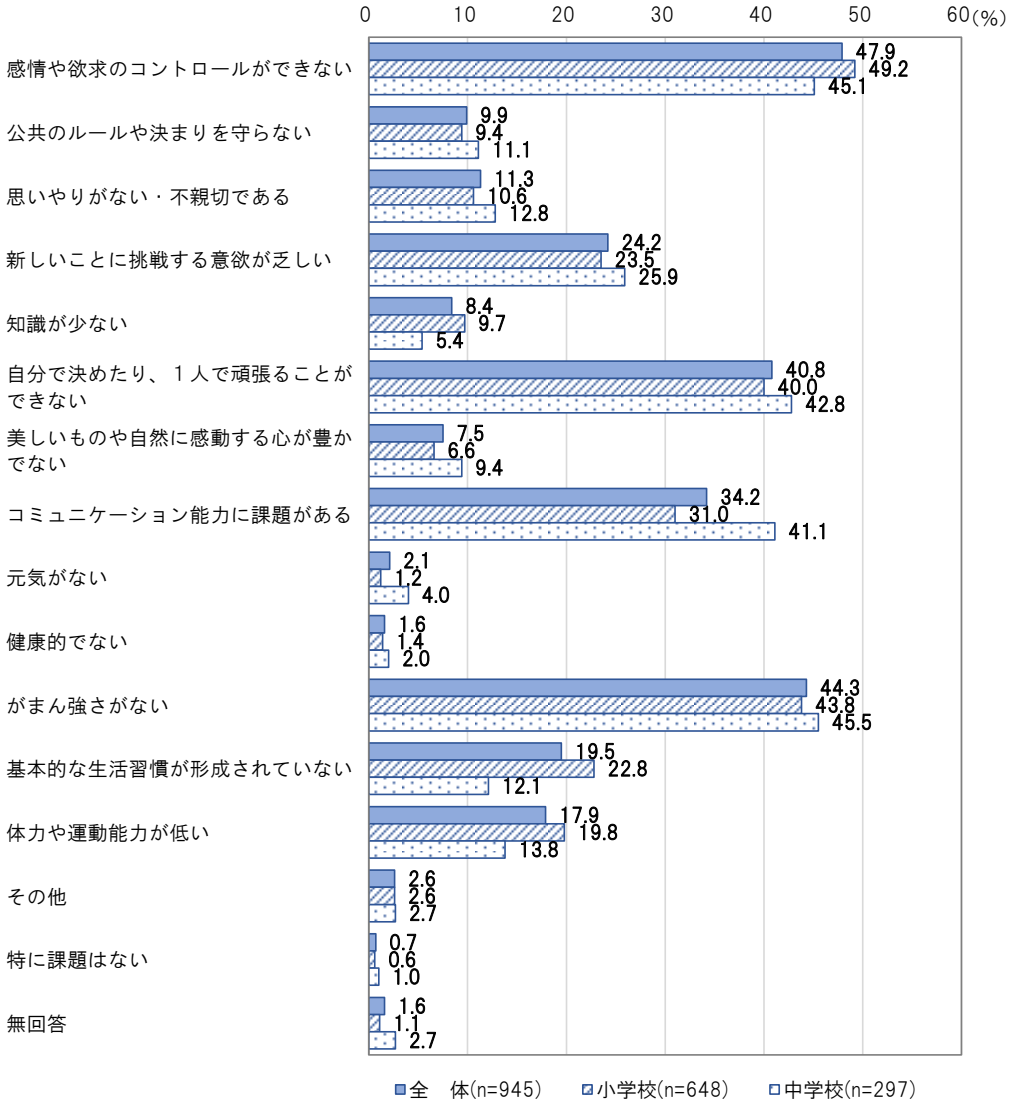

| | 重要度 | 進捗度 |
|---|---|---|
| ①ひとと自分を大切にする、道徳教育や人権教育を推進していること | 7.62 | 5.88 |
| ②各学校が「学校力向上プラン」を立て、学力の向上に取り組んでいること | 3.91 | 4.21 |
| ③子ども一人ひとりの習熟の度合いに応じた少人数指導を進めていること | 7.06 | 5.19 |
| ④小中学校の教員が連携して、学習指導や生徒指導に取り組んでいること | 6.44 | 3.85 |
| ⑤ﾈｲﾃｨﾌﾞｽﾋﾟｰｶｰを派遣し、英語によるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力を育成すること | 6.95 | 5.57 |
| ⑥理科教育や将来の生き方や職業を考えるキャリア教育を進めていること | 6.22 | 3.58 |
| ⑦各学校が教育活動や学校運営を評価し、保護者に公表していること | 4.42 | 4.95 |
| ⑧生活・学習習慣の確立のため「家での７つのやくそく」を決めていること | 4.63 | 2.94 |
| ⑨「あいさつ」「朝の読書活動」「茶の湯体験」に取り組んでいること | 4.39 | 3.99 |
| ⑩特別な支援を要する子どもに応じた特別支援教育の充実を図っていること | 8.21 | 4.63 |
| ⑪学校力向上プランにもとづいた体力向上に資する取組を推進していること | 5.02 | 3.03 |
| ⑫地域人材等ｶ学習指導を行う「堺マイスタディ事業」を実施していること | 3.74 | 4.75 |
| ⑬ICT 機器の整備を拡充し、ICT を活用した授業づくりを推進していること | 7.20 | 6.91 |
| ⑭教職員の働き方改革の取組を推進していること | 7.44 | 0.48 |
| ⑮スクールカウンセラー等の専門家を活用した取組を推進していること | 8.05 | 5.12 |

## （４）子ども・家庭・地域について

### １）今の子どもに対する課題

今の子どもに対する課題は、「感情や欲求のコントロールができない」が 47.9%と最も高く、次いで「がまん強さがない」が 44.3%、「自分で決めたり、１人で頑張ることができない」が 40.8%、「コミュニケーション能力に課題がある」が 34.2%の順となっている。

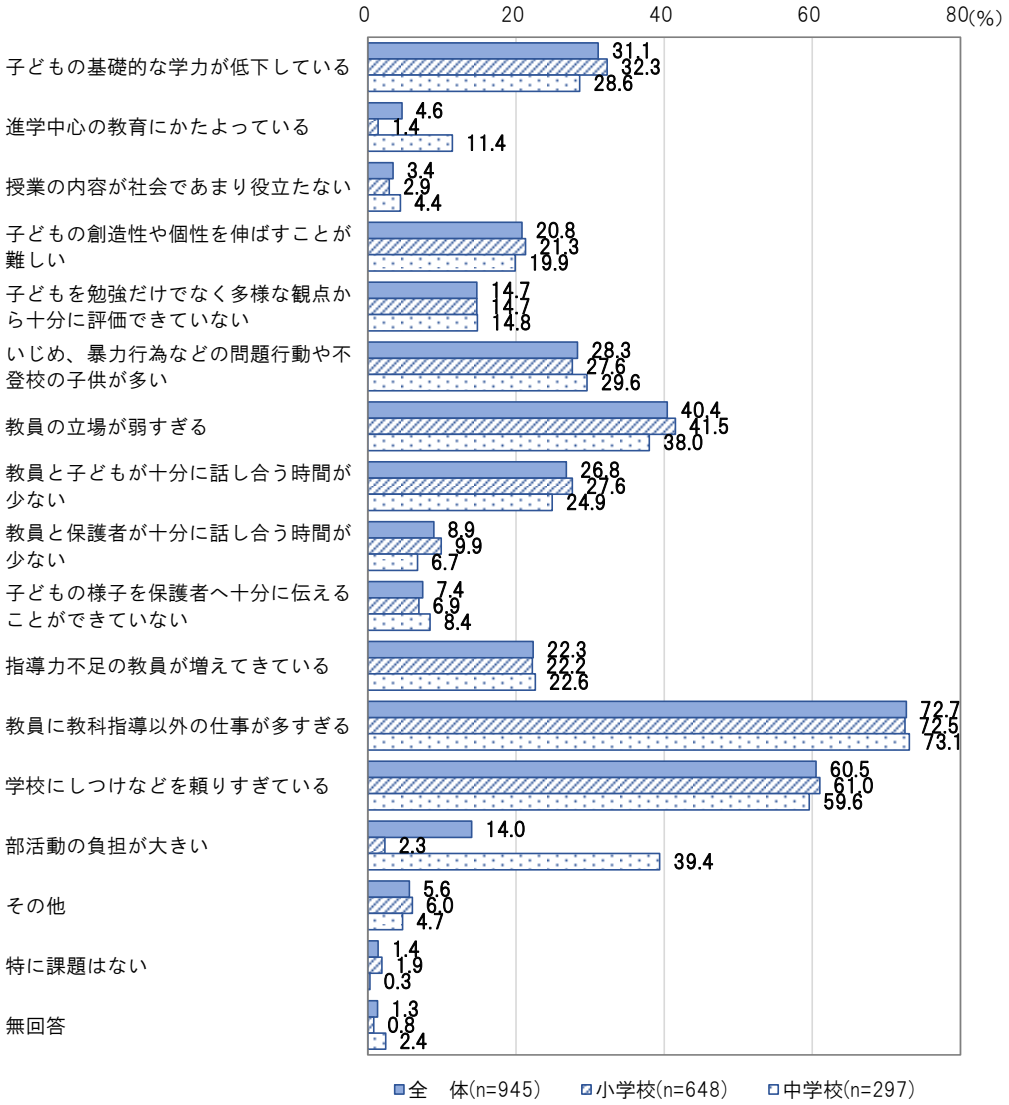
また、小中学校別では、ほぼ同様の傾向となっているものの、小学校教員では「基本的な生活習慣が形成されていない」、中学校教員では「コミュニケーション能力に課題がある」が、それぞれ 10 ポイント以上上回り、大きな差がみられた。



## 2）現在の学校に対する課題

現在の学校に対する課題は、「教員に教科指導以外の仕事が多すぎる」が 72.7%と最も高く、次いで「学校にしつけなどを頼りすぎている」が 60.5%、「教員の立場が弱すぎる」が 40.4%、「子どもの基礎的な学力が低下している」が 31.1%の順となっている。

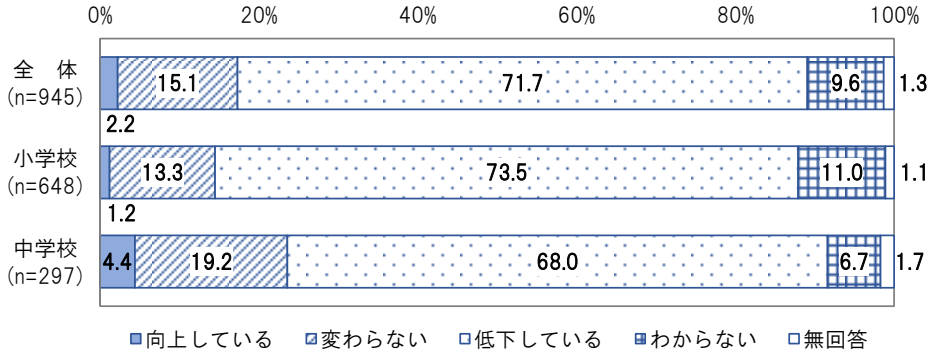
また、小中学校別では、ほぼ同様の傾向となっているものの、中学校教員では「進学中心の教育にかたよっている」や「部活動の負担が大きい」などで小学校教員を大きく上回っており、大きな差がみられた。



### 3）近年の家庭の教育力に対する評価

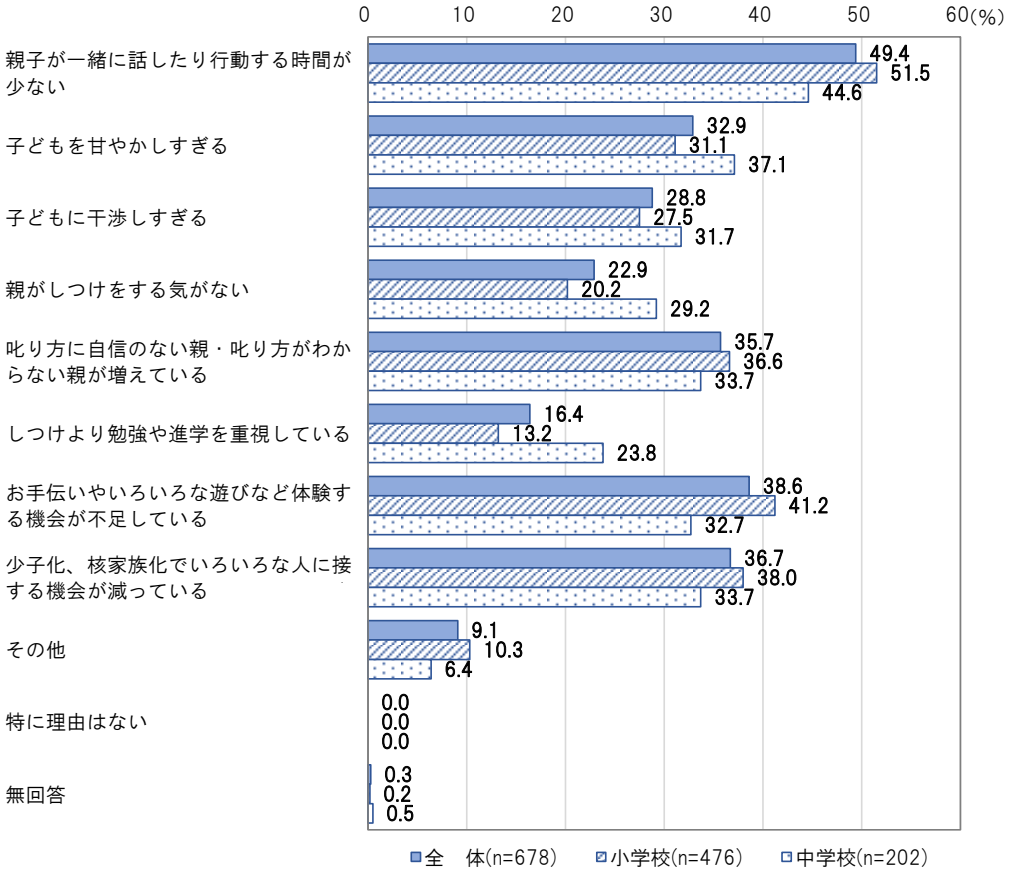
近年の家庭の教育力については、「低下している」が 71.7%と大半を占め、次いで「変わらない」が 15.1%となっており、「向上している」はわずか 2.2%となっている。

また、小中学校別では、小学校教員では「低下している」が中学校教員を大きく上回る結果となっている。




### 4）家庭の教育力が低下している原因

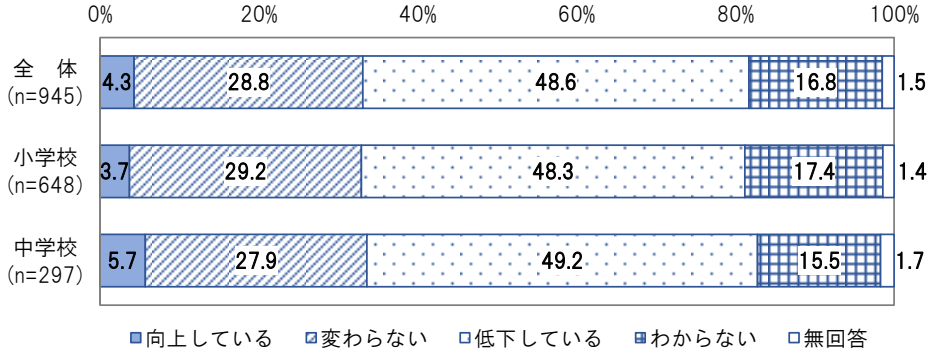
低下していると回答した教員が考える家庭の教育力が低下している原因は、「親子が一緒に話したり行動する時間が少ない」が 49.4%と最も高く、次いで「お手伝いやいろいろな遊びなど体験する機会が不足している」が 38.6%、「少子化、核家族化でいろいろな人に接する機会が減っている」が 36.7%の順となっている。



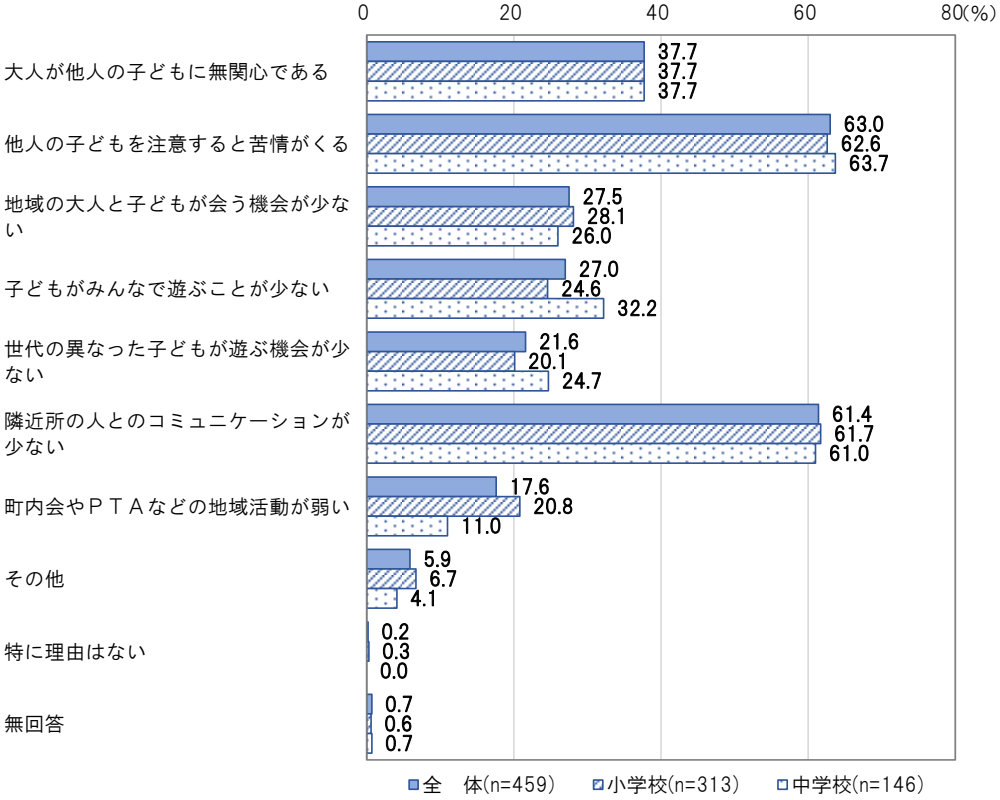
## 5）近年の地域の教育力に対する評価

近年の地域の教育力については、「低下している」が 48.6%と半数近くを占め最も高く、次いで「変わらない」が 28.8%となっており、「向上している」はわずか 4.3%となっている。

また、小中学校別では、大きな差はみられない。




## 6）地域の教育力が低下している原因

低下していると回答した教員が考える地域の教育力が低下している原因は、「他人の子どもを注意すると苦情がくる」が 63.0%と最も高く、次いで「隣近所の人とのコミュニケーションが少ない」が 61.4%、「大人が他人の子どもに無関心である」が 37.7%の順となっている。

また、小中学校別では、小学校教員で「町内会やＰＴＡなどの地域活動が弱い」で中学校教員に比べてやや高く、中学校教員では「子どもがみんなで遊ぶことが少ない」で小学校教員に比べてやや高くなっているものの、大きな差はみられない。